

青森県埋蔵文化財調査報告書 第204集

三内丸山遺跡 V

平成7年度

青森県教育委員会



第817号土坑（第4次調査）



土坑墓列確認状況（第4次調査）



第817号土坑出土石鏃

三内丸山遺跡Ⅴ正誤表

訂正箇所	正	誤
例言 8 57ページ 41図163	遺構内外の堆積土の注記は (外面) (内面)	遺構内外の堆積土を注記は (内面) (外面)
59ページ 43図	36掘立	29掘立
81ページ 58図	35掘立	30掘立
138ページ 写真18 (右上及び左2段目)	第35号掘立柱建物跡	第30号掘立柱建物跡
報告書抄録 副書名	第1次～4次調査報告書	第1～4次調査報告書
奥付	第1次～4次調査報告書	第1～4次調査報告書

青森県埋蔵文化財調査報告書 第204集

三内丸山遺跡 V

—第1次～4次調査報告書—

平成7年度

青森県教育委員会

序

青森県は、青森市三内丸山遺跡を貴重な歴史遺産として保存し、広く活用をはかるための整備を推進しております。

本書は、三内丸山遺跡の集落の全体像を解明するために平成7年度に実施した試掘調査の成果をまとめたものです。

調査の結果、土坑墓域が先年の調査で検出した最西端から210m東方まで延長することが確認されました。また、遺物包含層の確認や貯蔵穴のひろがりの確認等の成果がありました。

調査の成果は、三内丸山遺跡の整備、学術研究に活用する所存ですが、今後の埋蔵文化財の保護と研究に役立てていただければ幸いです。

最後になりましたが、調査の実施及び本書作成にご尽力いただいた関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

平成8年3月

青森県教育委員会

教育長 松 森 永 祐

例 言

1 本報告書は、平成7年度に国庫補助を得て実施した三内丸山遺跡の第1次～4次調査の報告書である。「三内丸山遺跡」は、従来三内丸山(1)、三内丸山(2)遺跡、小三内遺跡及び近野遺跡(一部)として登録されてきた遺跡が、平成4年度から6年度までの調査によって同一遺跡を構成するものと判明したため、使用されることになった遺跡名である。今後、このまとまりをもとに、遺跡の調査研究、整備活用が進められることになっており、今年度の調査から、調査区毎に第1次、第2次調査……と呼称していくこととした。

しかし、登録遺跡の統合及び三内丸山遺跡としての範囲確定は、今後さらに調査が必要である。今回の第1次～第4次調査区は、いずれも登録遺跡名では三内丸山(2)遺跡にあたるが、本報告書においては三内丸山遺跡として記述する。

なお、三内丸山(1)、三内丸山(2)遺跡、小三内遺跡、近野遺跡としての範囲区分については1図に示してある。

2 三内丸山(2)遺跡の遺跡番号は01021番である。

3 本報告書の執筆者名は、文末に付した。

4 本遺跡の遺構番号については種類毎に平成4年度調査からの通し番号を付してある。

5 挿図の縮尺は、各図毎に示している。なお、遺物写真の縮尺も同様である。

6 記載にあたっては、土器—P-1、P-2、石器—S-1、S-2、柱穴—P1、P2、炭化物—C-1、C-2の略号を用いた。

7 本書に記載した地形図(遺跡の位置)は、建設省国土地理院発行の2万5千分の1の地形図を複写したものである。

8 遺構・遺物の文・図中での表現は原則として次の様式・基準に従った。

遺構番号は、一部を除いて発掘調査時のものを用いている。

遺構内外の堆積土を注記は、「新版標準土色帖」(小山・竹原1990)を用いた。

原則として遺物には観察表・計測表を付し、出土地点、法量及び諸特徴を一覧できるようにした。

石質の略称は以下とする。

玉—玉髓、珪頁—珪質頁岩、玉珪—玉髓質珪質頁岩、黒—黒曜石、鉄—鉄石英、凝—凝灰岩、溶凝—溶結凝灰岩、砂—砂岩、安—安山岩、流—流紋岩、輝—輝緑岩、花—花崗岩、閃—閃緑岩、緑片—緑色片岩、細凝—細粒凝灰岩、緑細—緑色細粒凝灰岩、ホル—ホルンフェルス、蛇紋—蛇紋岩

9 発掘調査時における出土遺物・実測図・写真等は、青森県教育庁文化課三内丸山遺跡対策室で保管している。

目 次

序	
例 言	
目 次	
第 I 章 調査目的及び調査要項	1
第 1 節 調査目的	1
第 2 節 調査要項	2
第 II 章 調査の方法と経過	3
第 1 節 調査の方法	3
第 2 節 調査の経過	3
第 3 節 整理の方法	4
第 III 章 第 1 次調査	11
第 1 節 第 1 次調査の概要	11
第 2 節 検出遺構	13
第 3 節 埋没谷の概要	29
第 4 節 包含層の調査の概要	37
第 5 節 検出遺構一覧	41
第 6 節 遺構外出土遺物	42
第 IV 章 第 2 次調査	58
第 1 節 第 2 次調査の概要	58
第 2 節 検出遺構	60
第 3 節 検出遺構一覧	75
第 4 節 遺構外出土遺物	76
第 V 章 第 3 次調査	80
第 1 節 調査の概要	80
第 2 節 検出遺構	80
第 3 節 検出遺構一覧	85
第 4 節 遺構外出土遺物	86
第 VI 章 第 4 次調査	91
第 1 節 第 4 次調査の概要	91
第 2 節 検出遺構	93
第 3 節 検出遺構一覧	109
第 4 節 遺構外出土遺物	111
第 VII 章 調査の成果と課題	115
報告書抄録	117
写真図版	119

第Ⅰ章 調査目的及び調査要項

第1節 調査目的

三内丸山遺跡は青森県総合運動公園拡張整備事業に係る新県営野球場建設に先立ち、平成4年から発掘調査が進められてきた。調査の進展につれて、日本最大級の縄文集落であると推定されるとともに、巨大木柱による大型掘立柱建物跡をはじめ重要な発見が相次いだことから、平成6年8月1日に青森県は野球場の建設を中止するとともに、12月16日には、野球場及びその周辺を含む約38ヘクタールを国民全体の貴重な文化遺産として保存・活用することを決定した。

この保存・活用に関する基本方針の一つとして、国の史跡指定に必要な調査を行うとともに、遺跡全体の学術的な解明や整備・活用のための調査については、今後継続的に行うこととした。

この基本方針に基づき、文化庁の指導・助言を得ながら今後の調査方針を検討した結果、本遺跡の場合、遺跡そのものの範囲は概略判明していること、保存・活用範囲は既に決定していることから、既調査区相互の関連性、及び泥炭層の内容把握に重点を置くこととした。

つまり、保存・活用範囲とした面積約38ヘクタールのうち、遺跡部分は約35ヘクタールであるが、この中に野球場調査区、サッカー場予定地試掘調査区、送電線鉄塔調査区、その他運動施設建設予定地試掘調査区があり、この他青森市教育委員会による都市計画道路「里見丸山線」調査区などが存在し、各々多種多様な遺構群の存在が確認されている。しかしながら、各調査区における遺構群の拡がりや各調査区相互の関連性等、集落の全体構造やその変遷については未解明と言わざるを得ない。したがって本遺跡の学術的な解明、さらには今後整備を進める上で、各調査区域の周辺状況をさらに把握することはもちろん、大規模な調査により解明の進んでいる野球場区域との関連性を把握して集落の全体構造とその変遷を明確にすること、また数カ所に存在し、豊富な資料を提供する泥炭層の内容を把握することが当面の課題と考えられた。

以上の点を踏まえ、平成7年度は

1. 沖館川に沿った台地縁辺部に掘立柱建物跡群が延びるか否か、および捨て場や泥炭層の有無を確認する（第1次調査）
 2. 送電線第7鉄塔調査区で検出された袋状土坑群の範囲を確認する（第2次調査）
 3. 青森市教育委員会が調査した都市計画道路「里見丸山線」建設地で検出された住居跡及び袋状土坑群の範囲を確認する（第3次調査）
 4. 野球場発掘区域の中央部から東に延びる土坑墓群の東限を探る（第4次調査）
- ことを目的とした調査を実施し、早期の国の史跡指定を目指すこととしたものである。

(三宅 徹也)

第2節 調査要項

1 調査目的

三内丸山遺跡の試掘調査を行い、集落の全体構造を解明し、今後の保存・活用に資する。

2 調査期間 平成7年7月10日～平成7年11月2日

3 遺跡名及び所在地 三内丸山(2)遺跡 青森市大字三内字丸山231外

4 調査面積 3,212平方メートル

5 調査主体 青森県教育委員会

6 調査担当機関 青森県教育庁文化課

7 調査協力機関 青森市教育委員会 東青教育事務所

8 調査参加者

調査指導員	村越 潔	青森大学考古学研究所 所長(考古学)
調査協力員	池田 敬	青森市教育委員会 教育長
調査員	市川 金丸	青森県考古学会 会長(考古学)
	山口 義伸	青森県立板柳高等学校 教諭(地質学)

9 調査担当者 青森県教育庁文化課 三内丸山遺跡対策室

総括主幹	三宅 徹也
総括主査	岡田 康博
主事	阿部 美杉
主事	斎藤 岳
主事	小笠原 雅行
主事	伊藤 由美子
調査補助員	戸川 雅子 斎藤 勝
	神 庸高 本間 順子

第Ⅱ章 調査の方法と経過

第1節 調査の方法

調査用のグリッドは、平成4年度に設定したものに準拠しており、20m×20mの大グリッドに基づく4m×4mの小グリッドを設定した。

小グリッドは東から西へA、B、C…とアルファベット順に、北から南へ1、2、3…と算用数字を付し、北東の交点で呼称した。東西方向のアルファベットの使用は繰り返しとなるため、その前にローマ数字を付してある。なお、南北線は磁北を示している。ベンチマークは既設の工事用測量杭から引用し、必要に応じて、原点移動を行った。

調査はトレンチ法を用い、遺構の確認を目的とした。遺構分布の状況によっては、必要に応じてトレンチを拡張した。遺構は確認したうちのいくつかを、二分法・四分法による精査を行い、その性格を把握するよう努めた。平面図の作成は1/20を基本とし、状況に応じて1/10、1/40、その他とした。遺構番号は種類毎に、平成4年度以降の旧野球場予定地内調査からの続き番号を付すこととした。

基本土層は、平成4年からの層序に基づいている。第Ⅰ層は耕作土で、黒褐色土である。第Ⅱ層は平安時代から縄文時代中期末葉（大木10式併行期）にかけてのもので、黒色土である。第Ⅲ層は、縄文時代中期末葉から前期中葉（現時点では円筒下層b式までと考えられる）にかけてで、暗褐色土である。第Ⅳ層は、前期中葉以前の時期で、黒色土である。各調査区の基本土層もこれに準じている。

遺構外出土遺物の取上げは、グリッド単位・層単位で行い、必要に応じて平面図作成、レベルの記録を取った。また、遺構内出土遺物についてはできるだけ平面図を作成し、レベルを記録した。

土層の呼称は上層から下層に、基本層序にはローマ数字を、遺構内堆積土には算用数字を付し、土層注記に際しては、「標準土色帳」を用いた。

写真撮影は適宜行うこととし、カラーリバーサルとモノクロームの2種類のフィルムを使用することとした。

第2節 調査の経過

平成7年7月10日、環境整備、調査区へのグリッド・ベンチマークの設定を行い、第1次・2次調査を開始した。

まず、第1次調査区の粗掘り作業に着手したが、現代の盛り土の部分は重機を使用し、作業の迅速・省力化を図った。第Ⅱ層では中～近世の溝跡、柱穴が多数確認されるとともに、縄文時代中期末葉の竪穴住居跡の炉跡も検出された。これらは黒色土中に構築され、遺構密度も非常に濃いため、作業は難航した。8月末には、台地斜面部の遺物包含層の精査に入った。縄文時代前期から中期に形成されたもので、大量の土砂と遺物が廃棄されていた。さらにその下の泥炭層を確認するため、作業を10月末まで継続した。この遺物包含層を除き9月8日までには埋め戻し作業を完了した。

第2次調査区は、第1次調査区にやや遅れて着手した。表土が比較的薄かったため、粗掘り作業は順調に進んだ。その後、遺構の確認・精査に移った。平安時代以降の遺構が多数検出されたものの、目的としていた袋状土坑は少数確認されただけであった。そのため、調査区を西側と北側の台地縁辺部まで拡張した結果、袋状土坑をさらに確認し、一応、調査の目的を達することができた。調査区は9月8日までに、埋め戻し作業を完了した。

第3次調査は、9月18日に粗掘り作業を開始した。畑の耕作による攪乱が激しく、ローム面まで達する部分もあった。当初設定したトレンチでは、平安時代の竪穴住居跡を確認したが、縄文時代の遺構は確認できなかった。そのため、調査区を拡張したが、同様の結果となったことから、袋状土坑の分布範囲の再検討を迫られる結果となった。調査区は11月2日までに埋め戻し作業を完了した。

第4次調査は、第3次調査からやや遅れて開始した。調査区は現代の厚い盛り土に覆われており、除去作業に重機を使用した。検出遺構は、92年に検出した土坑墓列の延長部分や平安時代の竪穴住居跡等である。土坑墓列の範囲を確認するため、最終的には当初の調査区域の約100m東側まで調査区を延ばした。そこからも土坑墓は確認されたが、最終的な範囲は確認できなかった。調査区は11月2日までに埋め戻し作業を完了した。

第3節 整理の方法

室内整理は平成7年8月から同8年3月までの期間に青森県教育庁文化課三内丸山遺跡対策室松原分室及び三内丸山遺跡展示室で行った。以下、遺構と遺物について整理作業の手順を記載する。

・遺構

調査現場で記録した図面（原図）のグリッド・セクションポイントの確認を行い、標高の割り出しを行った。平面図・断面図を鉛筆トレースし、2次原図を作成した。平面図は、確認のみの遺構は配置図に掲載するに止めた。断面図は完掘しているものについては、掲載上平面図の下側・右側に載せることとしたため、必要に応じて裏トレースしたものもある。半截しただけの遺構は、掘った側に載せることとしたため、体裁上必ずしも統一されている訳ではない。土層注記は注記表に簡潔化した。

遺構の掲載に当たっては、北がページ上方になることを原則としている。ただし、平安時代の竪穴住居跡はカマドが上になるようにしたため、必ずしもこの原則と一致しない。本報告書の遺構のスケールは1/50を基本としている。ただし、場合によっては縮尺を変えているものもあるため、それぞれの図毎にはスケールを付した。

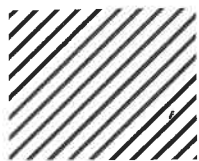
遺構配置図は原図をもとに作成した。

今回の調査は試掘調査であるため、すべての遺構を精査しているわけではなく、確認のみに留めているものも多い。遺構の事実記載に当たっては、調査した遺構のみ扱うことを基本とし、確認のみのものは遺構配置図の中で示すこととした。

なお、図中に使用したアルファベットは次のものを示す。

P……土器、 S……石器、 F……鉄器、 L.B.……ロームブロック

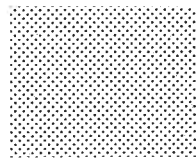
また、図中に使用したスクリーントーンは以下のものを表す。



地山



焼土



柱痕

凡例 1

・遺物

今回の試掘調査で出土した遺物は、ダンボール箱で61箱分である。水洗い・注記・復元作業を行い選別後、実測または採拓を行った。

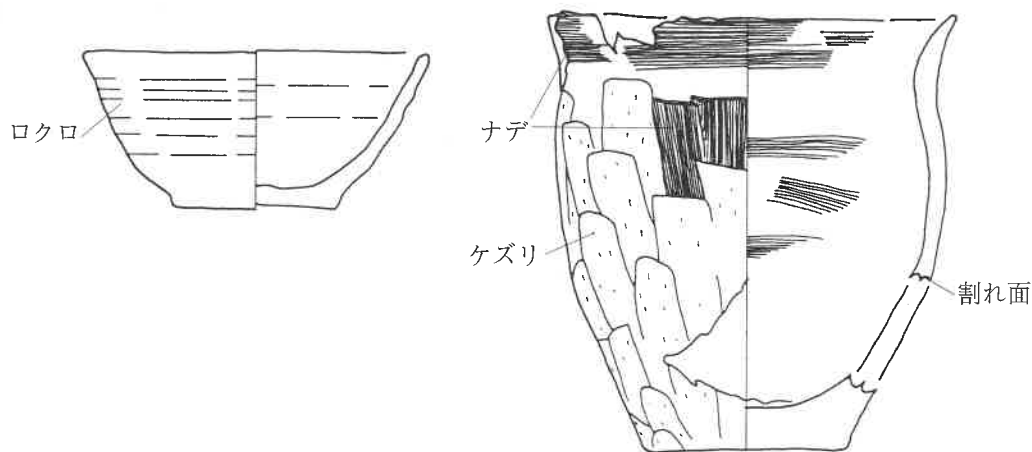
土器は径の1/3以上を復元しえたものについては、できるだけ実測図の作成を行った。土師器・須恵器でロクロ成形されるものは上記にこだわらず、径の判別しうる限り実測図を作成している。また径の不明な破片は、遺物の時期の明確なものを中心に採拓を行った。

石器の実測図に使用したスクリーントーンについては、凡例を参照されたい。

これらの遺物は掲載ページ下側に遺物観察表を付した。遺物の縮尺は、土器は1/2.5、礫石器は1/3、磨製石斧・剥片石器は2/3、陶磁器は1/2である。

遺物写真撮影は、専門家に委託した。掲載時の縮尺は約1/3、2/3、その他である。

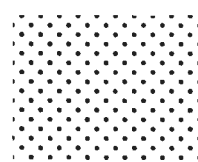
(小笠原 雅行)



敲打痕



磨痕



炭化物付着

凡例 2

遺物の分類

土器は次のように分類した。

第Ⅰ群 縄文時代草創期～早期

第Ⅱ群 縄文時代前期

- 1類 前期初頭に位置づけられる土器群
- 2類 円筒下層a式に位置づけられるもの
- 3類 円筒下層b式に位置づけられるもの
- 4類 円筒下層c式に位置づけられるもの
- 5類 円筒下層d式に位置づけられるもの
さらに2つに細分する 1 d1式
2 d2式
- 6類 1から5類で、時期の特定できないもの

第Ⅲ群 縄文時代中期

- 1類 円筒上層a式期に位置づけられるもの
- 2類 円筒上層b式期に位置づけられるもの
- 3類 円筒上層c式期に位置づけられるもの
- 4類 円筒上層d式期に位置づけられるもの
- 5類 円筒上層e式期に位置づけられるもの
- 6類 1から5類の時期で、時期を特定し得ないもの
- 7類 榎林式以前に位置づけられる大木式土器系のもの
- 8類 榎林式期に位置づけられるもの
- 9類 最花・中ノ平Ⅲ式期に位置づけられるもの
- 10類 大木10式併行に位置づけられるもの
- 11類 8から10類の時期で、時期の特定できないもの

第Ⅳ群 縄文時代後期

第Ⅴ群 縄文時代晩期

第Ⅵ群 弥生時代

第Ⅶ群 古墳時代

第Ⅷ群 古代

石器は機能・用途に注目して大別し、さらに器種毎、形態毎により次のように細分した。

(1) A類 石鏃

- a 有茎T基のもの
- b 有茎Y基 ♪
- c 尖 基 ♪
- d 平 基 ♪

e 円 基 ♪

f 凹 基 ♪

(2) B類 石槍

a 無茎のもの

b 有茎 ♪

(3) C類 石匙

a 縦型のもの

b 横型 ♪

(4) D類 石錘

a 棒状のもの

b つまみがあるもの

c 素材に大きな形状の変化を加えず尖端を作り出したもの

(5) E類 石鏡

a 短冊型のもの

b 撥型 ♪

(6) F類 ピエス・エスキーユ

(7) G類 不定形石器

a いわゆるスクレイパー類

b ♪ R. フレイク

c ♪ U. フレイク

(8) H類 石斧

a 磨製石斧

b 打製石斧

(9) I類 敲磨器類

a 主に凹のあるもの

b ♪ 敲打痕 ♪

c ♪ 磨痕 ♪

(10) J類 半円状扁平打製石器

(11) K類 抉り入り石器

(12) L類 石皿・台石類

(13) M類 石棒

(14) N類 石錘

(15) O類 石冠

(16) P類 石核類

a 石核

b 原礫

c 剥片類

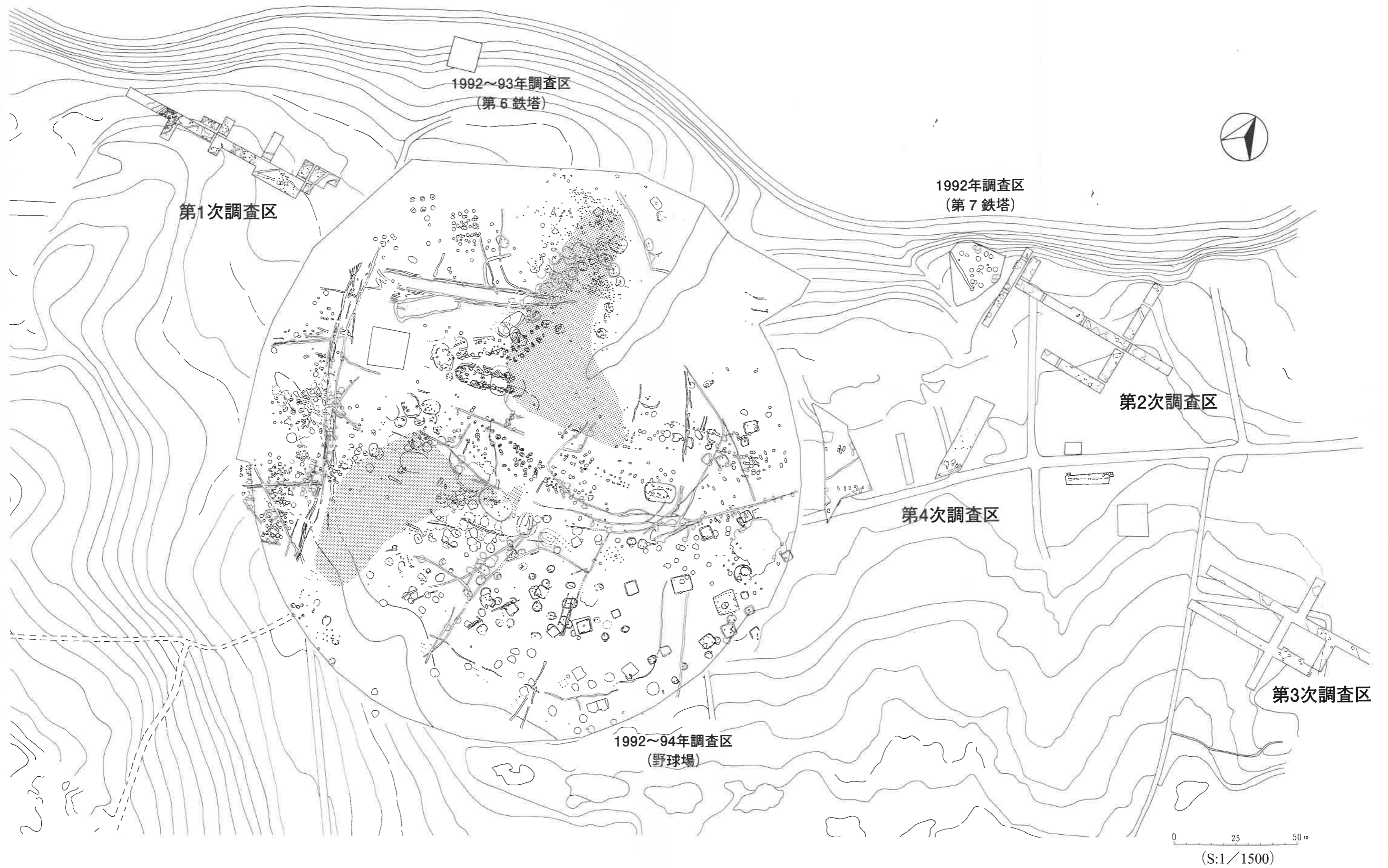
(17) Q類 その他

(18) R類 異形石器

(19) S類 砥石



1 図 三内丸山遺跡位置図



2 図 三内丸山遺跡調査区配置図

第Ⅲ章 第1次調査

第1節 第1次調査の概要

本調査区は第26号掘立柱建物跡の西側と台地の西斜面の縄文時代遺物包含層の広がりを確認するため調査した。出土遺物はダンボール箱で37箱分である。

当初、調査区は第26号掘立柱建物跡西側に南北4m、東西約95mで設定し、ⅦP・QラインとⅧA・Bラインで北側へ拡張している。さらにⅧBから東側で、縄文時代の遺構が検出されなかったため、調査区をⅦNまで拡張した。

調査区中央部にあたるⅧC～ⅧGでは第Ⅲ層上面で埋没谷を確認したため、南北に調査区を拡張した。また西側のⅧJ・Kでも縄文時代の住居跡を確認し、南側へ調査区を拡張した。

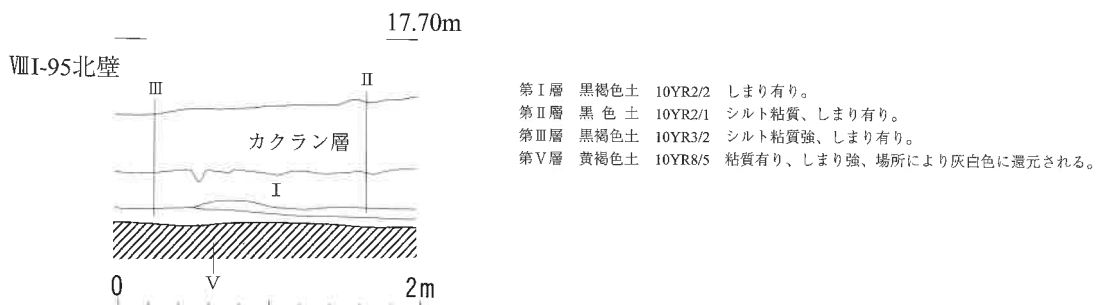
第1次調査区の基本層序は、地表から平均約50cmの厚さで比較的新しい時代のカクラン層が堆積し、その下に第Ⅰ層黒褐色土がある。Ⅱ層は黒色土で平安時代から縄文時代中期末葉の遺物を包含する。一次調査区では多くがこのⅡ層まで削平をうけている。Ⅲ層暗褐色土は埋没谷と台地斜面の遺物包含層に堆積している。

縄文時代の遺構は、調査区中央部(ⅧC)から西側に分布し、第26号掘立柱建物跡に隣接する調査区東側では、縄文時代の遺構は検出されなかった。検出遺構は住居跡8棟、土坑7基、柱穴54基である。住居跡と柱穴群はⅧJ・Kに密集している。住居跡は第Ⅱ層が削平をうけているため、遺存状態が悪く、炉跡及び床面(貼床)の検出により確認したが、重複が激しい。住居跡8棟のうち、2棟については、縄文時代中期末葉、大木10式併行期に相当することが判明した。柱穴群も重複が激しく、縄文時代中期末葉のものが多く、直径約40cm、深さ約50cmのものが多く、配置は明らかではないが掘立柱建物跡の可能性が考えられる。

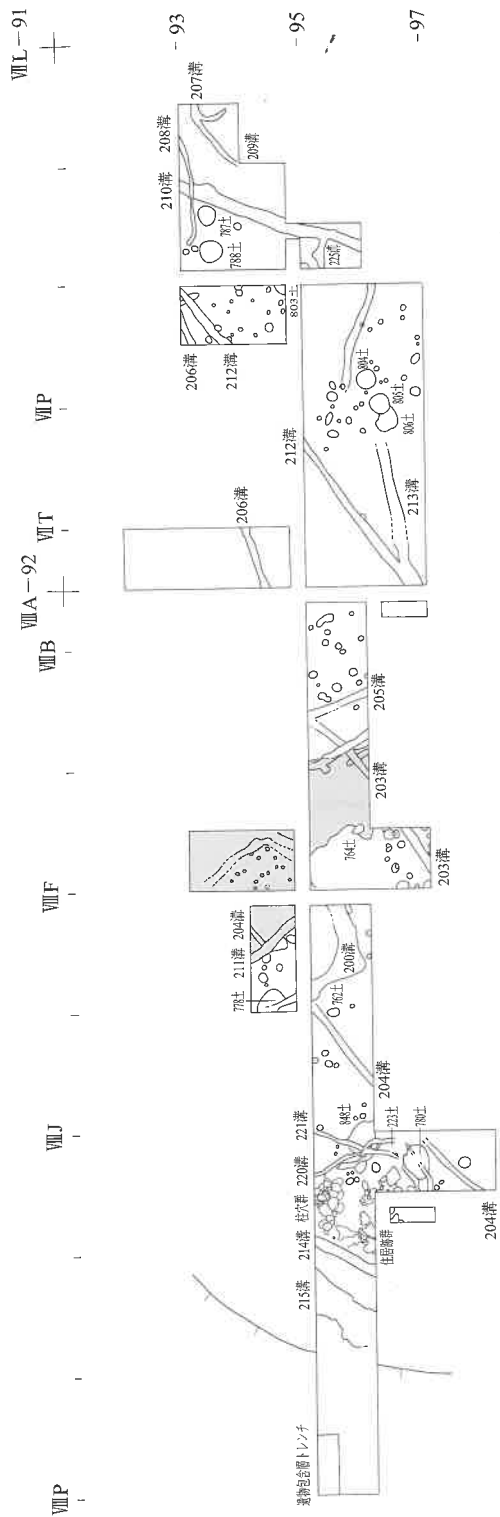
調査区中央部(ⅧCからⅧG)では縄文時代中期の埋没谷を確認した(第4節)。西斜面のⅧLからⅧNでは縄文時代の遺物包含層を確認した(第5節)。

時期不明の遺構は、土坑14基、溝跡19条、柱穴154基を確認した。これらの遺構は調査区中央以東(ⅧG～)に多く分布している。調査区東側のⅦO～Qにかけて、土坑を5基確認しそのうち3基を完掘した。時期は不明であるが、うち1基(第804号土坑)は柱痕がなく堆積土中に炭化物、ローム粒が多く含まれ埋められた可能性もあり、井戸跡と考えられる。

遺物の分布は、縄文時代の遺物は調査区全体に広がり、特に縄文時代中期末葉に相当する土器が多い。西斜面の遺物包含層では土偶・三角形土製品も出土している。石器は、石鏃が多く、主に調査区中央部(ⅧD～)より西側に分布している。また数は少ないが、近世陶磁器破片が調査区全体に分布している。

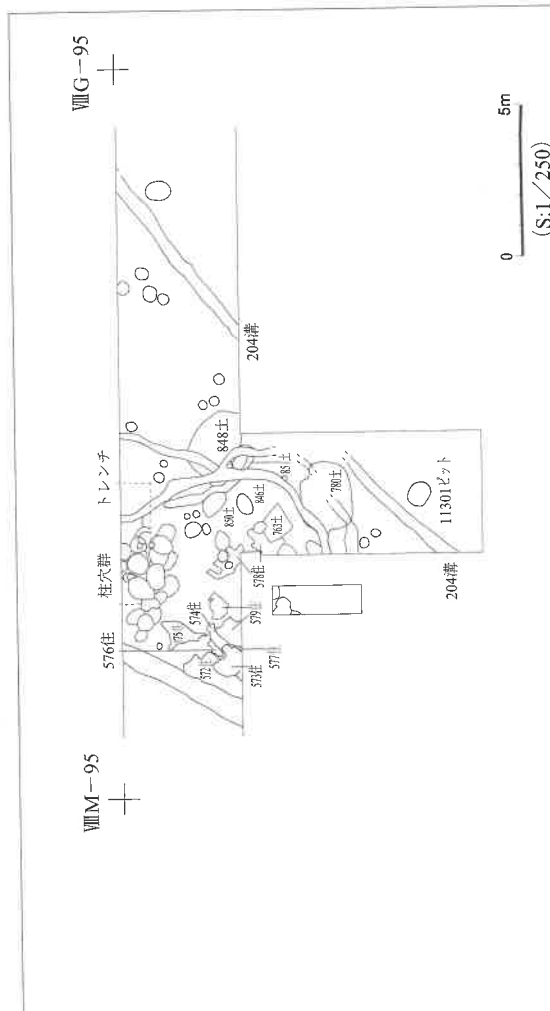


3図 第1次調査区基本土層



0 10m
(S:1/500)

埋没谷



0 5m
(S:1/250)

4 図 第 1 次調査区遺構配置図

第2節 検出遺構

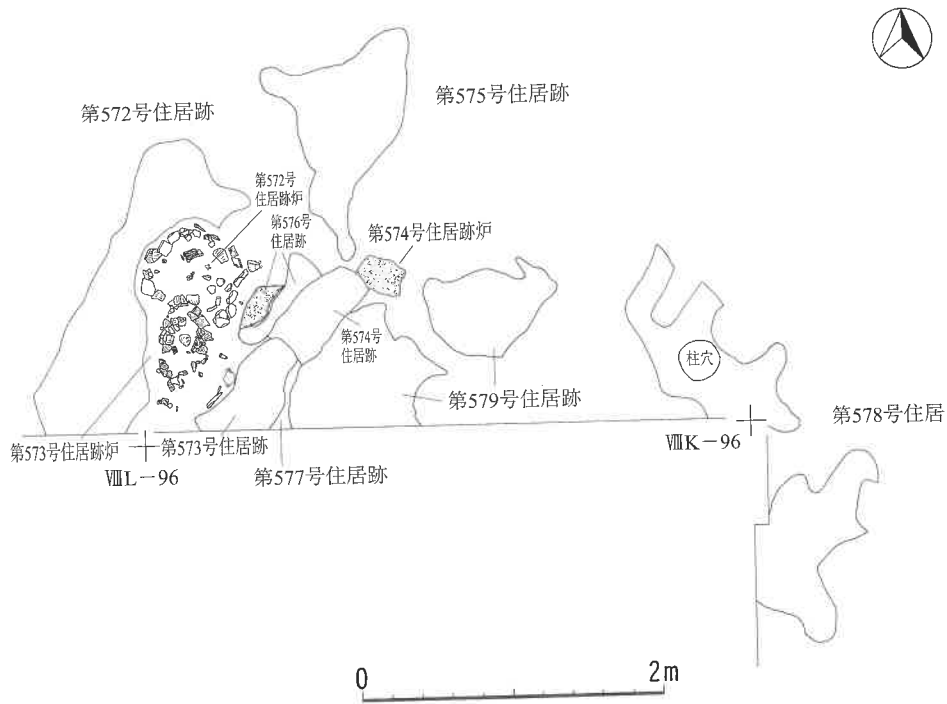
縄文時代の遺構

縄文時代中期住居跡群（第572～579号住居跡）（5図・写真1）

縄文時代中期住居跡群はⅧJ～L-95、ⅧJ-96に位置する。周辺は第Ⅱ層がほとんど確認できず、第Ⅰ層を除去した段階で住居跡群の炉及び貼床を確認した。

貼床の性質の違い、位置関係、高低差、小トレンチを設定した時の重複から、住居跡を8棟認定した。貼床は小部分しか残存しておらず、貼床同士の重複も激しいため、いずれも全体の形を知ることとはできない。

遺物は、第572・573号住居跡の炉を構成する土器及び、第572号住居跡の炉の堆積土内から検出された石器のみである。第572号住居跡及び第573号住居跡が大木10式併行期に属し、各住居跡の床面の高さが大きなへだたりをもたないことから他の住居跡についても時期的には中期末葉及び近接した時期（中期後半）が考えられる。5図は住居跡群の縮尺1/20の全体図であり、6図は第572号住居跡を中心とした縮尺1/10の図である。以下各住居跡についてその特徴を述べる。



5図 縄文時代中期住居跡群（炉及び貼床）

第572号住居跡（6図・写真1）

- [位置と確認] VIIIK・L-95に位置する。第I層を除去した段階で土器片敷炉と貼床を確認した。
- [重複] 第573号住居跡より古く、第576号住居跡より新しい。
- [平面形] 残存部分は炉及び周囲の貼床部分のみであり全体の形は不明である。
- [壁・床面] 壁は残存していない。貼床は北側が暗褐色（7.5Y R3/4）であり南側がにぶい黄褐色（10Y R4/3）を呈する。炉の北側の部分では赤く焼けている。
- [炉] 東側を石で囲った土器片敷炉が検出された。底面には土器を敷き詰めている。掘り方は長軸が70cm、短軸が60cmであった。
- [出土遺物] 炉跡を構成する大木10式併行期の土器片が出土している。使用されている土器は小破片もあり識別が難しいがほぼ十数個体程度に収まるものと考えられ、1及び4とその同一個体の土器が主体となっている。また、炉の堆積土から剥片が4点出土した。うち1点は焼けている。また炉内から炭化物が検出されている。
- [時期] 炉跡の土器から大木10式併行期である。

第573号住居跡（6図・写真1）

- [位置と確認] VIIIK-95に位置する。第I層を除去した段階で土器敷炉と貼床を確認した。
- [重複] 第572号住居跡、第574・576・579号住居跡より新しい。
- [平面形] 残存部分は炉及び周囲の貼床部分のみであり全体の形は不明である。
- [壁・床面] 壁は残存していない。貼床は黒褐色土（10Y R2/2）であり、ロームブロックや白色粘土、焼土ブロックを僅かに含んでいる。
- [炉] 土器片敷炉が検出された。底面には土器片を敷き詰め、南東側では土器片を立てて囲っている。当初は第572号住居跡の炉を作り直した可能性も考えられたが、両住居跡炉を切るセクションで観察すると、明確なレベル差があり第573号住居跡が新しいと考えられる。6図にその火烧面を図示したが、堆積土がほとんどが失われており、火烧面の下から新たな土器が検出されなかったため、炉体自体の図は掲載していない。また、炉の掘り方は明確ではなかった。
- [出土遺物] 炉跡を構成する土器はいずれも中期末葉の土器であるが大木10式併行期の第572号住居跡より新しいこと及び第572号住居跡炉跡の土器と接合するものがあることから大木10式併行期と考えられる。使用されている土器は識別が難しいが7～8個体程度と考えられる。

1は7点の土器が接合したものであるが、うち右側の2点が第573号住居跡の炉を構成する土器であり、左側の5点が第572号住居跡の炉を構成する土器である。第572号住居跡出土土器の4と同一個体と考えられる。二つの炉は北側で一部分重なりあっているが、第573号住居跡の土器は、炉の南側から出土したものであり、混入の可能性はない。同一個体の土器が双方で使用されていることは両者が時間的に極めて近いことを示している。また他には両住居跡を結び付けるような土器個体はなかった。

[時期] 炉跡の土器から大木10式併行期である。

第574号住居跡 (6図・写真1)

[位置と確認] VIIIK-95に位置する。第I層を除去した段階で貼床を確認した。

[重複] 第579号住居跡より新しく、第573・第576号住居跡より古い。なお小トレンチのセクションには現れていないが第576号住居跡の貼床との間には赤褐色と黒褐色土が混じった土層が存在する。

[平面形] 残存部分は炉と貼床部分のみであり全体の形は不明である。

[壁・床面] 壁は残存していない。貼床は明褐色土(7.5YR5/8)である。炉の部分以外でも西側の部分は焼けて赤褐色になっている。東側部分ではさらに一枚より堅緻な貼床が上に重なっており、境界面で二つはきれいに分離するが、両者の間に別の種類の土をはさまないので、時間的な連続性が想定され、同一住居跡の床面とした。

[炉] 地床炉である。貼床の北東部分は傾斜して低くなり、赤褐色に焼けており、地床炉として認定した。炉は北側及び東側を欠失している。

[時期] 縄文時代中期後半～末葉と考えられる。

第575号住居跡 (5図・写真1)

[位置と確認] VIIIK-95に位置する。第I層を除去した段階で貼床を確認した。

[重複] なし。

[平面形] 残存部分は貼床部分のみであり全体の形は不明である。

[壁・床面] 壁は残存していない。貼床は褐色土(7.5YR4/4)であり、ロームブロックや白色粘土を多量に含む。

[その他] 本住居跡は本来的には南側のいずれかの住居跡と同一の住居跡である可能性があるが、貼床の比較観察を行った結果、同質の貼床は存在せず帰属しうる住居跡は確認できなかった。

[時期] 縄文時代中期後半～末葉と考えられる。

第576号住居跡 (6図・写真1)

[位置と確認] VIIIK-95に位置する。第I層を除去した段階で貼床を確認した。

[重複] 第572・573号住居跡より古く第574号住居跡より新しい。

[平面形] 残存部分は炉及び周囲の貼床部分のみであり全体の形は不明である。

[壁・床面] 壁は残存していない。貼床は褐色土(7.5YR4/6)であり、東側のレベルが高く西側の炉に向かって傾斜する。

[時期] 縄文時代中期後半～中期末葉と考えられる。

第577号住居跡 (6図)

[位置と確認] VIIIK-95に位置する。

- [重 複] 第573号及び第579号住居跡より古い。第574号住居跡ともごく一部分で接しているが両者の新旧は不明である。
- [平 面 形] 残存部分は貼床部分のみであり全体の形は不明である。
- [壁・床面] 壁は残存していない。貼床は黒褐色土（10Y R3/2）であり、焼土・炭化物・ロームブロック・白色粘土が入り混じっている。
- [そ の 他] 第579号住居跡の貼床との間に厚さ約 1 cmの黒色土が堆積している。第579号住居跡の貼床下に土器敷炉の可能性のある土器片の断面部分が露出しており、その東側で長軸30cm、幅18cm程度の範囲で土器片の存在が確認でき土器片敷炉が存在する可能性がある。
- [時 期] 縄文時代中期後半～中期末葉と考えられる。

第578号住居跡（5図・写真2）

- [位置と確認] VIII・K-95・96に位置する。第I層を除去した段階で貼床を確認した。
- [重 複] なし
- [平 面 形] 残存部分は貼床部分のみであり全体の形は不明である。
- [壁・床面] 壁は残存していない。貼床は南北二つの部分に分かれる。貼床は褐色土（10Y R4/6）であり、赤褐色に焼けている部分もあるが、炉と認定できなかった。
- [そ の 他] 第579号住居跡と同一の住居跡である可能性もあるが床面のレベル差が10cm～20cmと大きいので、別住居と判断した。
- [柱 穴] 直径14cmの柱穴を1基確認した。
- [時 期] 縄文時代中期後半～中期末葉と考えられる。

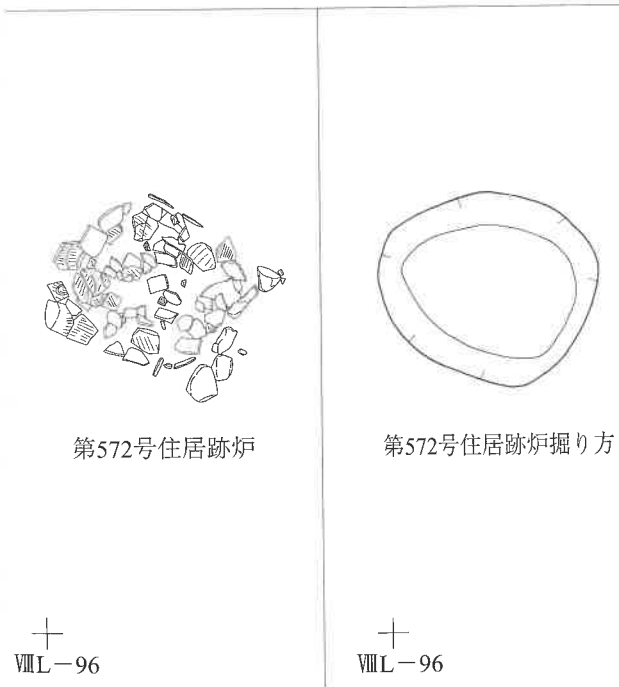
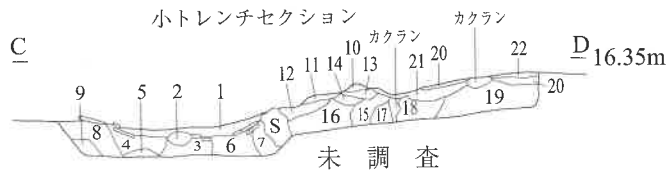
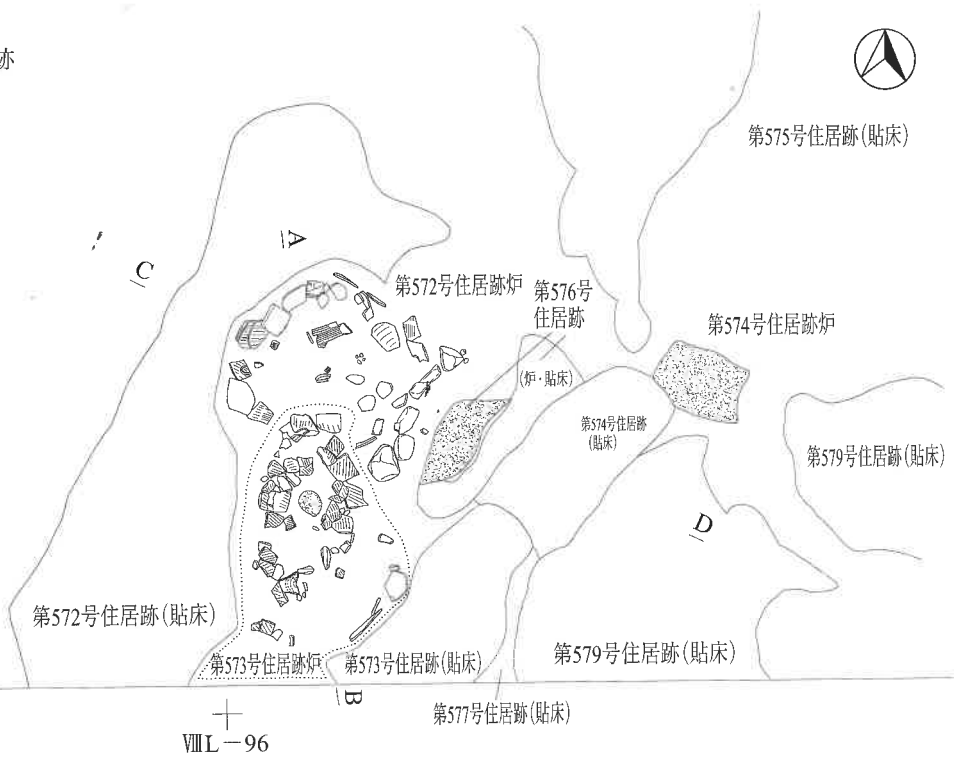
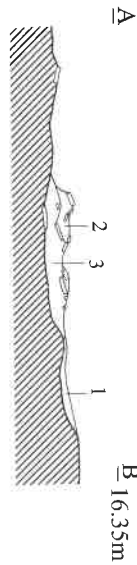
第579号住居跡（5図・写真1）

- [位置と確認] VIIIK-95に位置する。第I層を除去した段階で貼床を確認した。
- [重 複] 第577号住居跡より新しい。
- [平 面 形] 残存部分は貼床部分のみであり全体の形は不明である。
- [壁・床面] 壁は残存していない。貼床は東西二つの部分に分かれる。西側の貼床下には第577号住居跡の土器片敷炉の可能性のある土器片が存在するが、東側の貼床南側部分にも下に長軸40cm、幅20程度の範囲で土器片の存在が確認でき、下に土器片敷炉が存在する可能性がある。
- [時 期] 縄文時代中期後半～中期末葉と考えられる。

（斎藤 岳）

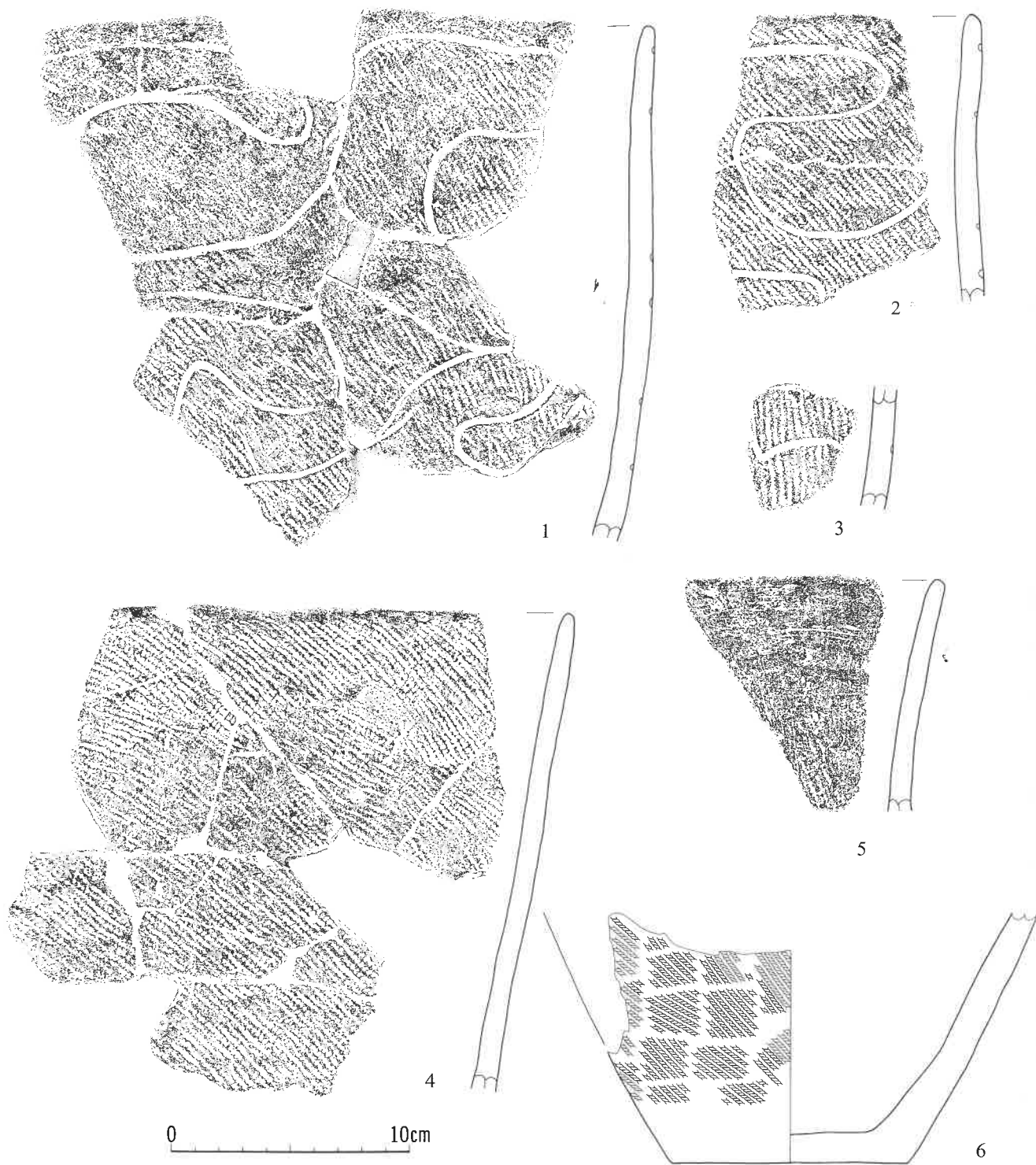
第572～577・579号住居跡
(炉はいずれも火烧面)

第572～573号住居セクション
第1層 黒褐色土 7.5YR2/2 焼土粒少量、ローム粒ごく微量。573号住居跡堆積土。
第2層 黒褐色土 7.5YR2/2 焼土粒・炭化物粒微量。
第3層 黒褐色土 10YR2/2 焼土粒少量、炭化物粒微量、572号住居跡堆積土。



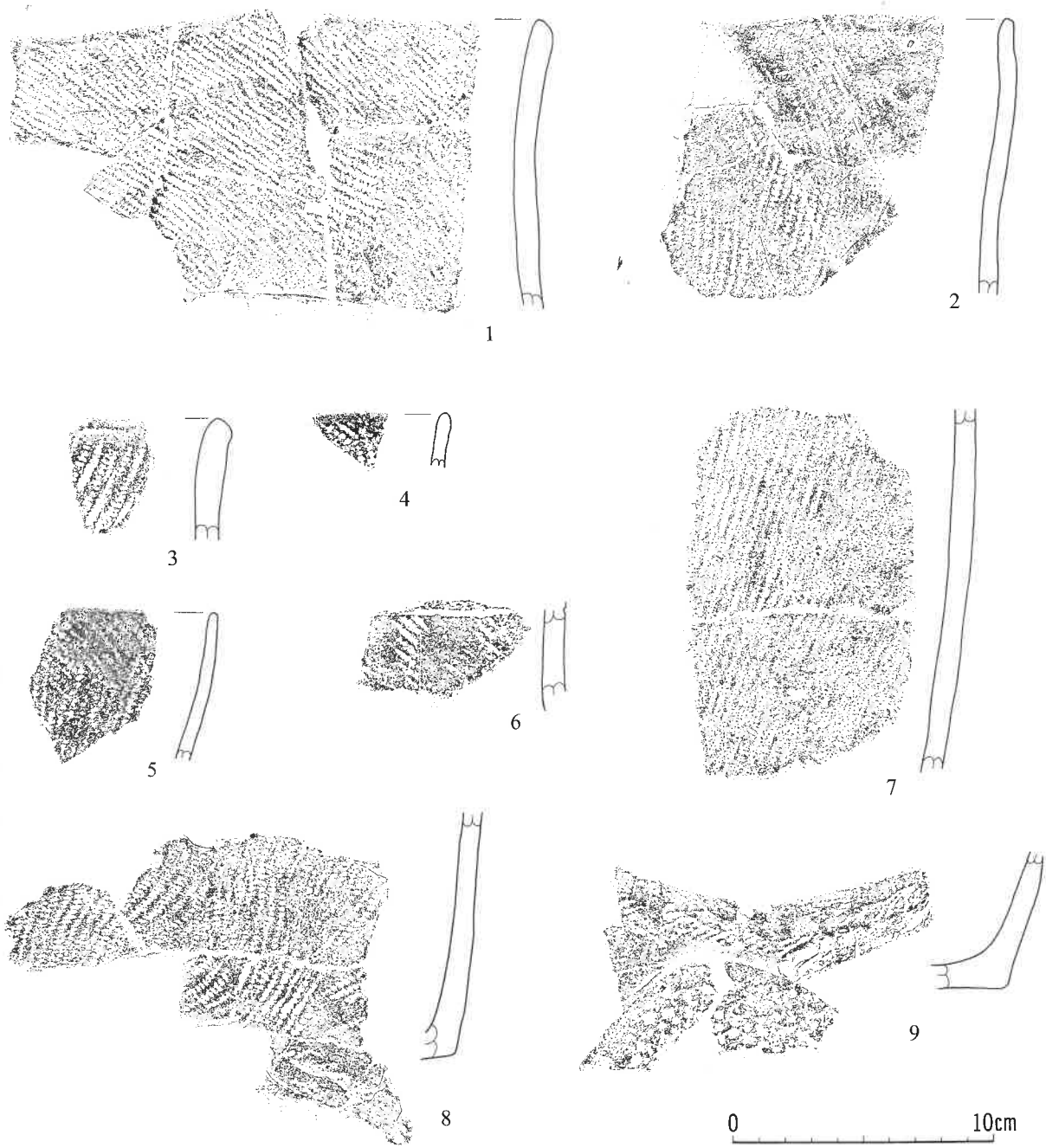
- 小トレンチセクション
- | | |
|--------------------|-------------------------------------|
| 第1層 黒褐色土 10YR2/3 | 第572号住居跡炉、炭化物中量、焼土少量、骨粉・ローム粒微量。 |
| 第2層 暗褐色土 10YR3/3 | ローム多量。 |
| 第3層 暗褐色土 10YR3/3 | ローム多量、焼土・炭化物微量。 |
| 第4層 黒褐色土 10YR2/3 | 炭化物・焼土少量。 |
| 第5層 黒褐色土 10YR2/2 | 炭化物中量、焼土少量。 |
| 第6層 黒褐色土 10YR2/3 | ローム微量、炭化物・焼土少量。 |
| 第7層 黒褐色土 10YR2/3 | 炭化物・焼土微量。 |
| 第8層 黒褐色土 10YR2/3 | ローム・炭化物微量、焼土少量。 |
| 第9層 黒褐色土 10YR2/2 | ローム微量、炭化物・焼土少量。 |
| 第10層 褐色土 7.5YR4/6 | 第576号住居跡貼床、炭化物・焼土中量。ローム・浮石粒少量、骨粉微量。 |
| 第11層 黒褐色土 7.5YR2/2 | 第576号住居跡炉、炭化物・焼土多量、骨粉微量。 |
| 第12層 黒褐色土 10YR2/2 | 炭化物・焼土粒少量、ローム粒微量。 |
| 第13層 黒褐色土 10YR2/3 | 炭化物少量、焼土中量。 |
| 第14層 黒褐色土 10YR2/3 | 炭化物・焼土微量。 |
| 第15層 暗褐色土 7.5YR3/4 | 炭化物、骨粉微量、焼土BL多量、ローム・黒色土少量。 |
| 第16層 暗褐色土 7.5YR2/3 | 炭化物・ローム・黒色土少量、焼土中量、骨粉微量。 |
| 第17層 暗褐色土 10YR3/4 | 炭化物微量、ローム多量、黒色土少量。 |
| 第18層 褐色土 7.5YR4/4 | 炭化物・ローム少量、焼土中量、灰褐色粘土微量。 |
| 第19層 灰褐色土 5YR4/4 | 炭化物微量、ローム粒少量、灰褐色粘土中量、焼土層。 |
| 第20層 明褐色土 7.5YR5/8 | 第574号住居跡貼床、赤褐色土・黒色土中量。 |
| 第21層 赤色土 2.5YR4/6 | 第574号住居跡貼床、炭化物・骨粉微量、黒色土多量。 |
| 第22層 明褐色土 7.5YR5/6 | 第578号住居跡貼床、炭化物・焼土微量、黒色土少量。 |

6 図 第572～577・579号住居跡



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	572住炉		LR 沈線			ミガキ		Ⅲ-10	
2	〃		RL 沈線			〃		〃	
3	〃			RL 沈線		〃		〃	
4	〃		LR			〃		Ⅲ-11	
5	〃		無文			〃		Ⅲ-9	
6	〃				LR	〃		Ⅲ-11	

7 図 第572号住居跡出土遺物



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	572住炉+573住炉		LR			ミガキ	Ⅲ-11		
2	573住炉		RL			ナ デ	〃		
3	〃		〃			〃	〃		
4	〃		〃			ナ デ	〃		
5	〃		〃			〃	〃		
6	〃		LR 沈線			〃	〃		
7	〃			RL		一部ミガキ	〃	外面煤状炭化物附着	
8	〃				RL	ミガキ	網代痕	Ⅲ~Ⅳ	
9	〃				〃	ナ デ	〃	〃	

8 図 第572号・573号住居跡出土遺物

第762号土坑（9図・写真2）

[位置] VIII-95に位置する

[重複] なし

[平面形・規模] 楕円形を呈する。長軸82cm、短軸61cm、深さ26cmである。

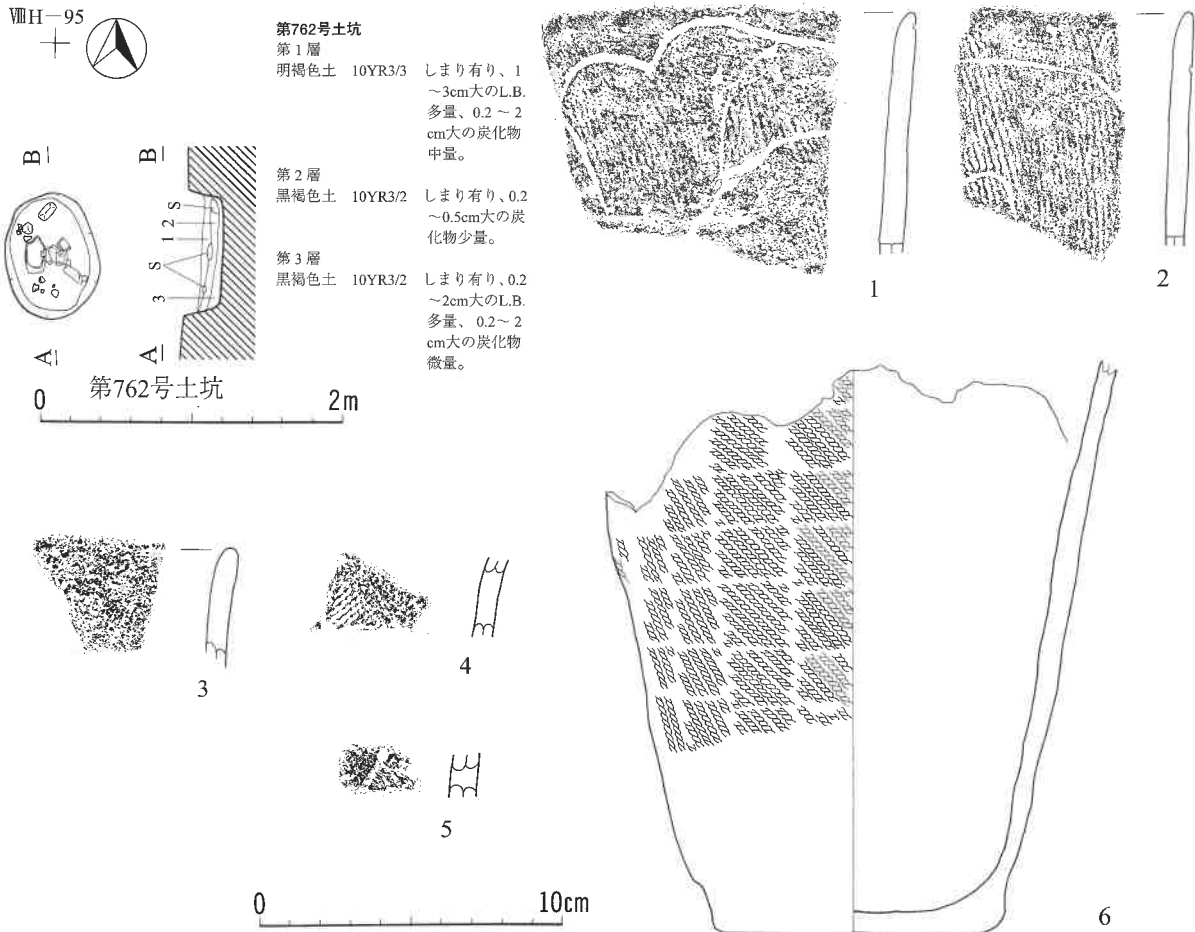
[壁・底面] 確認された壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦で、北に傾斜する。

[堆積土] 下層に炭化物粒を含む。

[出土遺物] 底面から大木10式併行期の土器の底部と口縁部1/3個体分が出土している。

また坑底から堆積土下部にかけて礫が7個出土した。形状は細長いもの4個、寸詰まりのもの3個であり、最大のものは長軸17cm重量907gで、最小のものは長軸5.3cm重量93gである。平均長軸は11.2cmであり平均重量は526gである。石材は凝灰岩が2個、細粒凝灰岩が4個、安山岩が1個であり、色は安山岩の1点が灰黄色であるほか全て灰白色である。

[時期] 出土遺物から縄文時代中期末の大木10式併行期である。



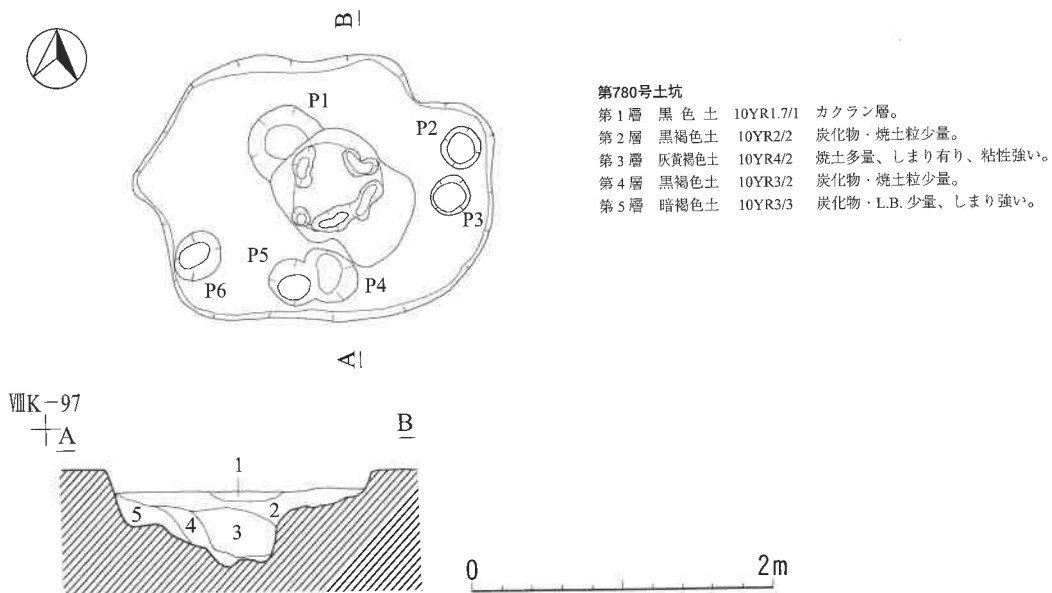
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	762土	堆積土	回転絡条体	沈線		ナデ	III-10	原体不明、砂粒混入	
2	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	
3	〃	〃	無文				III-9		
4	〃	〃		LR					
5	〃	〃		沈線			III-11		
6	〃	底面			RL	ナデ	〃		

9図 第762号土坑

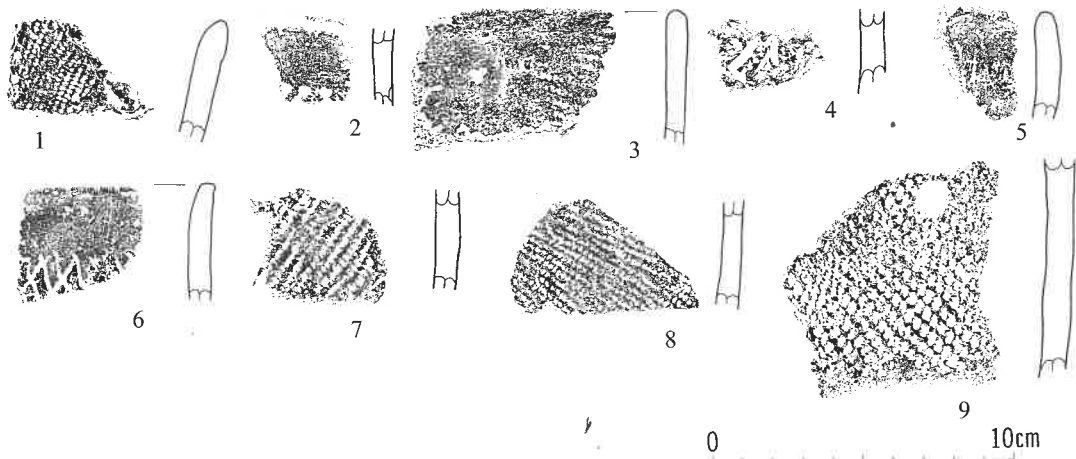
第780号土坑 (10図・写真2)

- [位置と確認] VIII J-96に位置する。第V層精査中に落ち込みを確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 不整楕円形を呈する。長軸236cm、推定短軸174cm、確認面からの深さ62cmである。
- [壁・底面] 壁は垂直に立ち上がる。底面中央やや東寄りに、深さ26cmの不整楕円形の落ち込みがある。それに接して一ヶ所、東壁から南壁にかけて5ヶ所のピットが検出された。それぞれのピットの深さは、P1・・・36cm、P2・・・21cm、P3・・・20cm、P4・・・11cm、P5・・・24cm、P6・・・33cmである。
- [堆積土] 全体に焼土・炭化物が混入する。特に第3層では、焼土が多量に見られる。人為的堆積の可能性が高い。
- [出土遺物] 堆積土から縄文時代中期末葉を主体とする土器片、磨製石斧、敲磨器類などが出土した。
- [時期] 縄文時代である。

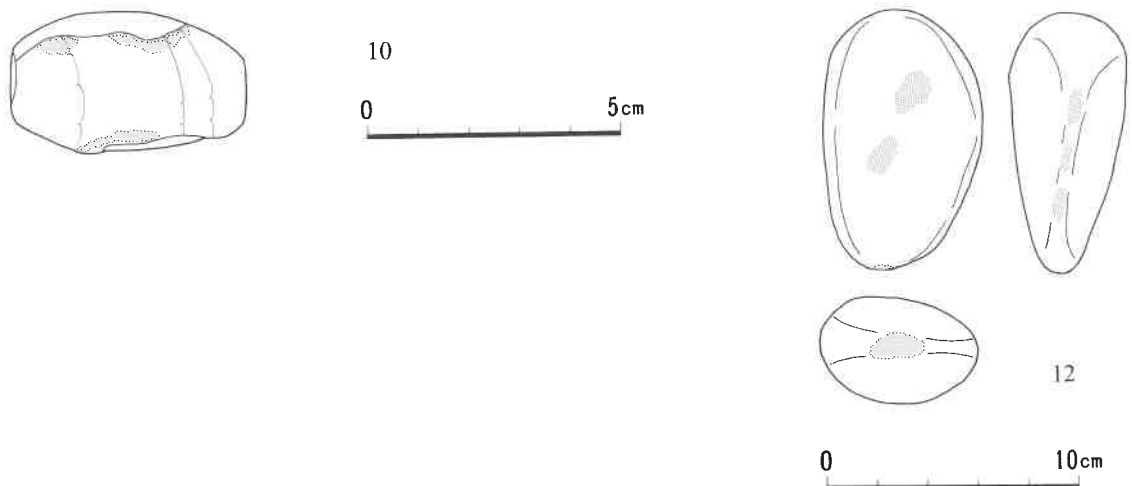
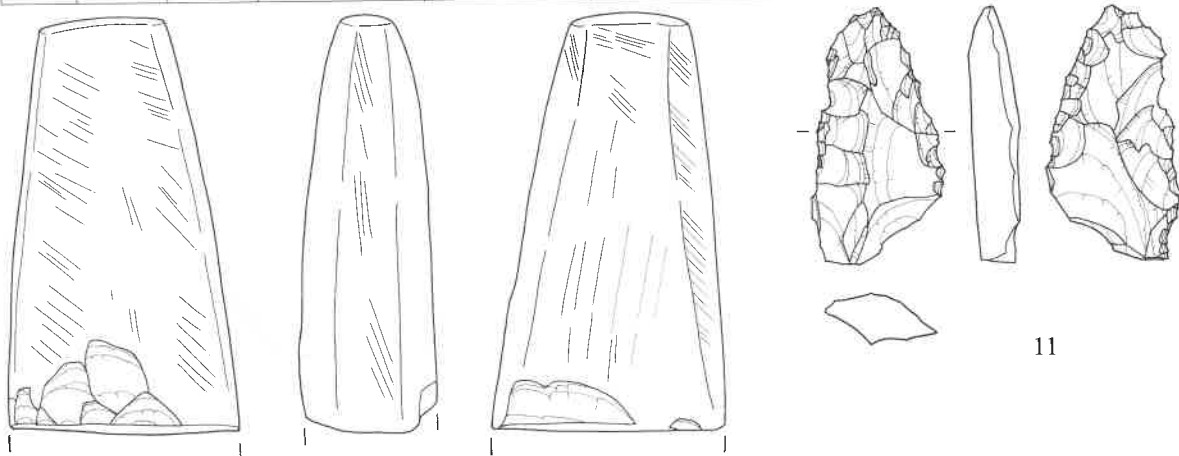
(伊藤由美子)



10図 第780号土坑



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	780土	堆積土	山形口縁 RL			ミガキ		Ⅲ-5	
2	〃	〃	無文帯 円形刺突					Ⅲ-9	
3	〃	〃		LR				〃	
4	〃	〃		LR? 沈線				〃	
5	〃	〃	無文					〃	
6	〃	〃	L単絡1			ナデ		Ⅳ	
7	〃	〃		LR				Ⅲ-11	
8	〃	〃		〃		ミガキ		〃	
9	〃	〃		RLR		〃		〃	



番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
10	780土	堆積土	83	46	28	176.5	緑細	I b	折損した磨製石斧転用	30,125
11	〃	〃	50	27	1	13.2	珪頁	G a		30,007
12	〃	〃	102	63	42	353.1	細凝	I b		30,203

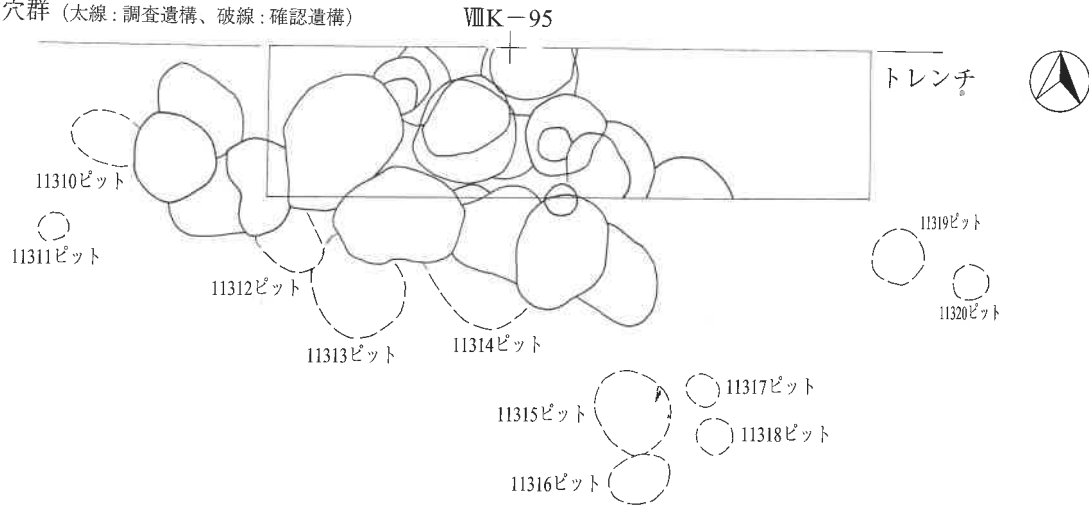
11図 第780号土坑出土遺物

柱 穴 群 (12図・写真2)

- [位置と確認] VIII J・K-95及びその周辺に位置する。周辺は第Ⅱ層がほとんど確認できず、第Ⅰ層を除去した段階で柱穴の一部を確認した。95のグリッドラインに接するように1×4mのトレンチを設定し、トレンチ内及び周辺の柱穴を25個調査し、他にも29基の柱穴を確認した。
- [重 複] 各柱穴の重複は激しい。南側の住居跡群と重複するものもある。
- [平面形・規模] 直径25～70cm、深さ30～60cm程度のもが多い。
- [柱痕跡の有無] 11359ピットには確認できたが、他の柱穴では確認できなかった。
- [出土遺物] 遺物は摩耗した縄文土器小片が多い。土器型式では榎林式～大木10式併行期のものが出土している。
- [住居跡群との関係] 柱穴群の南側には中期後半～末葉の住居跡群が存在する。貼床の間には黒褐色の落ち込みが広がっており、平面形はつかめなかったが住居跡群より新しい柱穴が存在している。また貼床下にも柱穴が存在する可能性がある。柱穴群は住居跡群に先立って存在し、住居跡群の廃絶後まで継続した可能性がある。また規模の小さな柱穴の一部はこれらの住居跡の柱穴である可能性がある。
- [時 期] 出土遺物及び南側に位置する住居跡群との重複関係から縄文時代中期後半以前～中期末葉以降と考えられる。
- [そ の 他] 柱穴は、規模からみてその多くは掘立柱建物跡の一部を構成するものであると考えられるが、今回の調査は小面積であり、建物跡としての全容を把握することはできなかった。調査した各柱穴の規模や出土遺物については第5節検出遺構一覧に記述した。

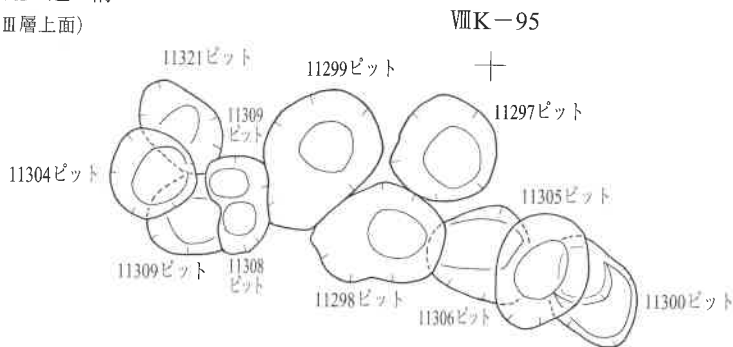
(斎藤 岳)

柱穴群 (太線: 調査遺構、破線: 確認遺構)

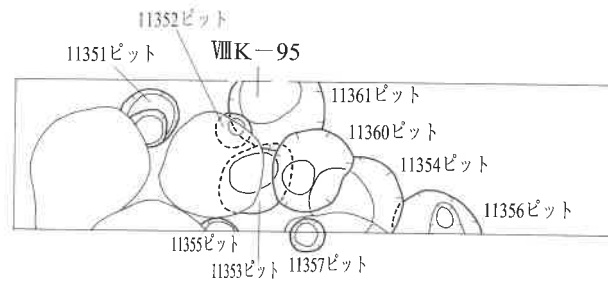


調査遺構

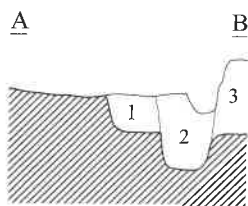
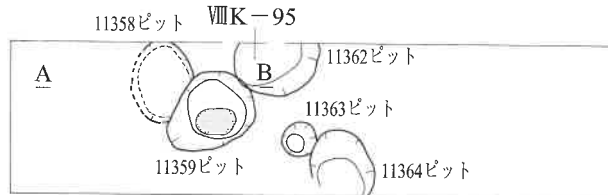
(Ⅲ層上面)



(Ⅲ層上部)



(Ⅲ層中部)

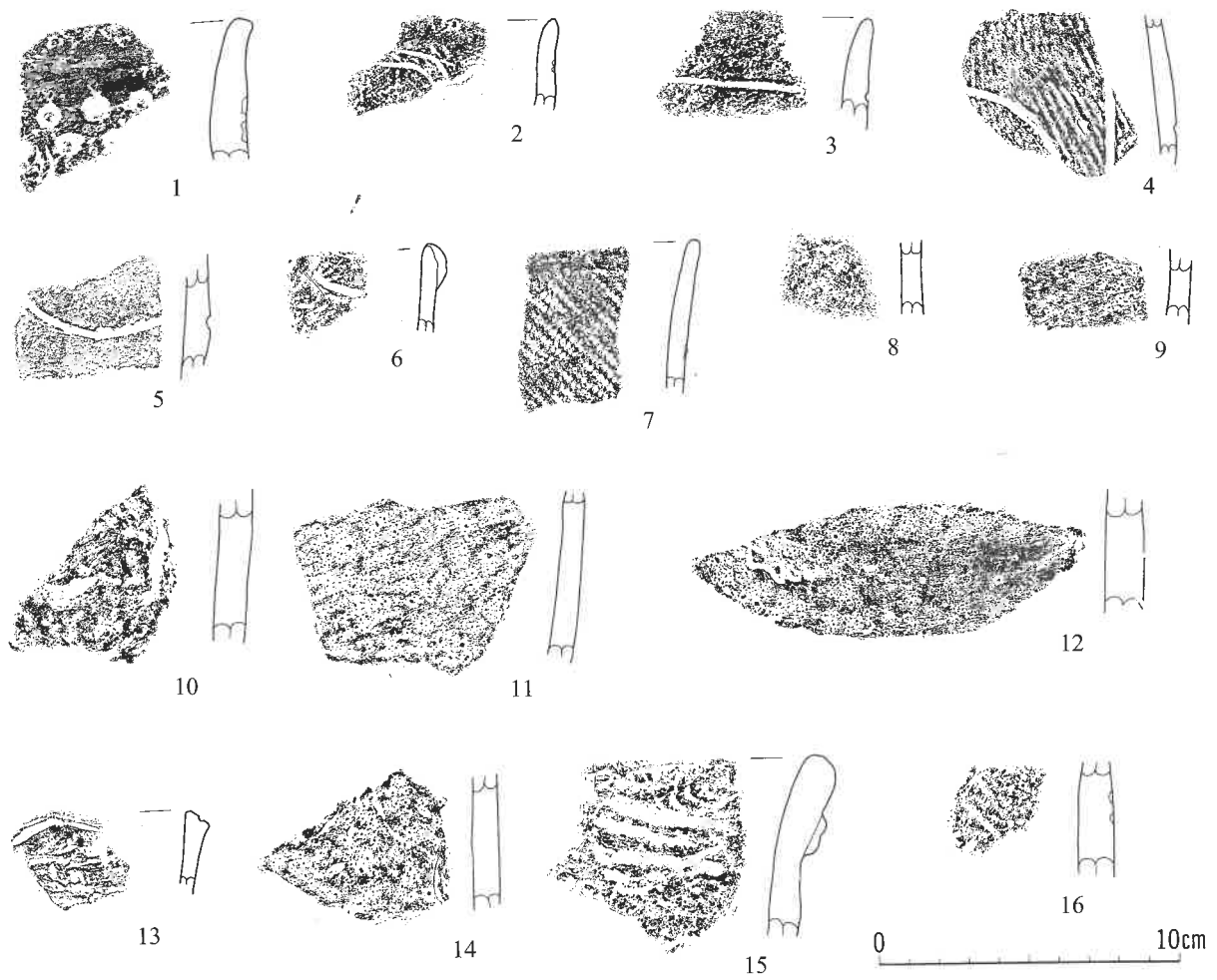


B 16.30m

- 第1層 褐色 10YR4/4 11358ピット堆積土、白色粘土少量、炭化物ごく微量。
- 第2層 褐色 10YR4/4 11359ピット堆積土、白色粘土塊多量。
- 第3層 褐色 10YR4/6 11362ピット堆積土、しまり非常に強い、白色粘土少量。

0 2m

12図 縄文時代中期柱穴群



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	11297 P	堆積土	無文	竹管様刺突					
2	11299 P	〃	縄文	沈線			Ⅲ-9		
3	〃	〃	無文帯	沈線		ミガキ	〃		
4	〃	〃		R 沈線		〃	〃		
5	〃	〃	無文	沈線			Ⅲ-10		
6	〃	〃	突起	沈線					
7	11300 P	〃	LR			ナデ	Ⅲ-11		
8	11351 P	〃		無文					
9	11356 P	1		LR		ナデ			
10	11258 P	〃		不明			Ⅲ-6		
11	〃	堆積土	無文			ナデ		P-1	
12	〃	〃				無文(ナデ)		P-1	
13	11359 P	1	沈線	LR		ミガキ	Ⅲ-8		
14	〃	堆積土			無文	ナデ		P-1 繊維微量	
15	〃	1	粘土紐貼付	原体押圧		ナデ	Ⅱ-5-2		
16	11364 P	〃		沈線	縄文		Ⅲ-11	原体不明	

13図 柱穴群出土遺物

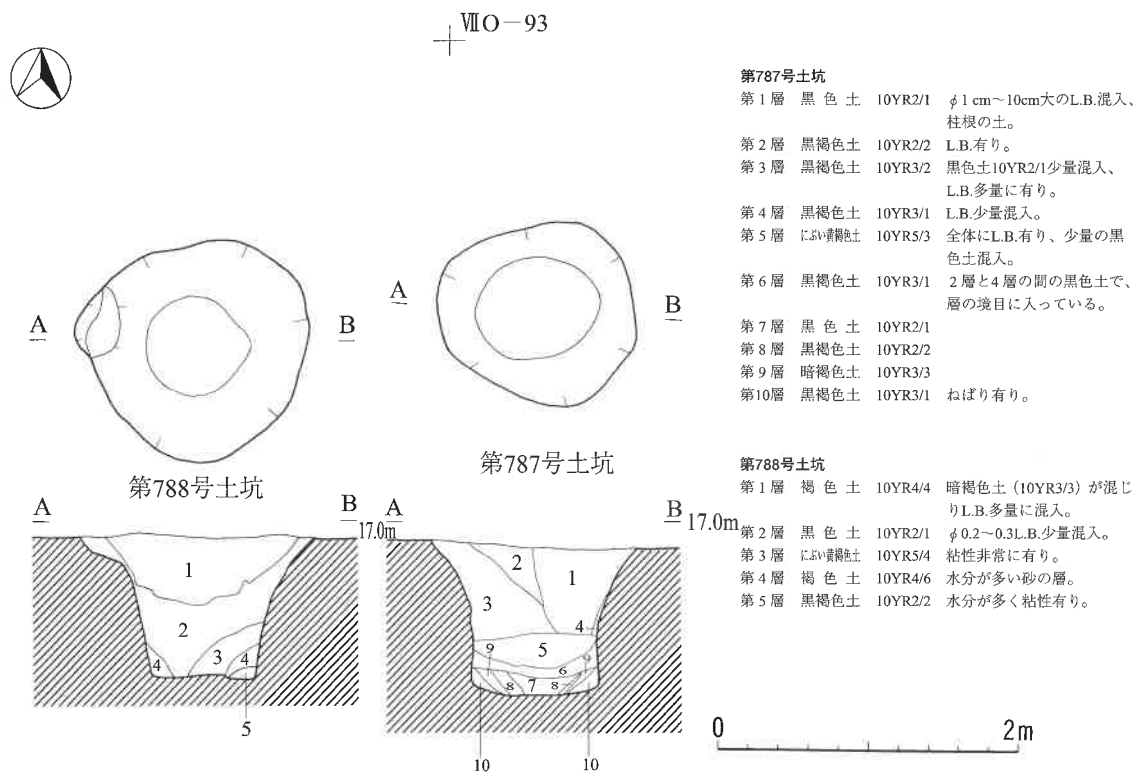
時期不明の遺構

第787号土坑 (14図・写真2)

- [位置と確認] VII N・O-93に位置する。第V層精査中に確認した。
- [重 複] なし。
- [平面形・規模] 不整な円形を呈する。長軸128cm、短軸124cm、深さ98cmである。
- [壁・底面] 壁は比較的緩やかに立ち上がり、開口部で外傾する。底面は平坦である。
- [堆 積 土] 黒褐色土を基調とする。自然堆積である可能性が高い。
- [出土遺物] なし。
- [時 期] 不明。

第788号土坑 (14図・写真2)

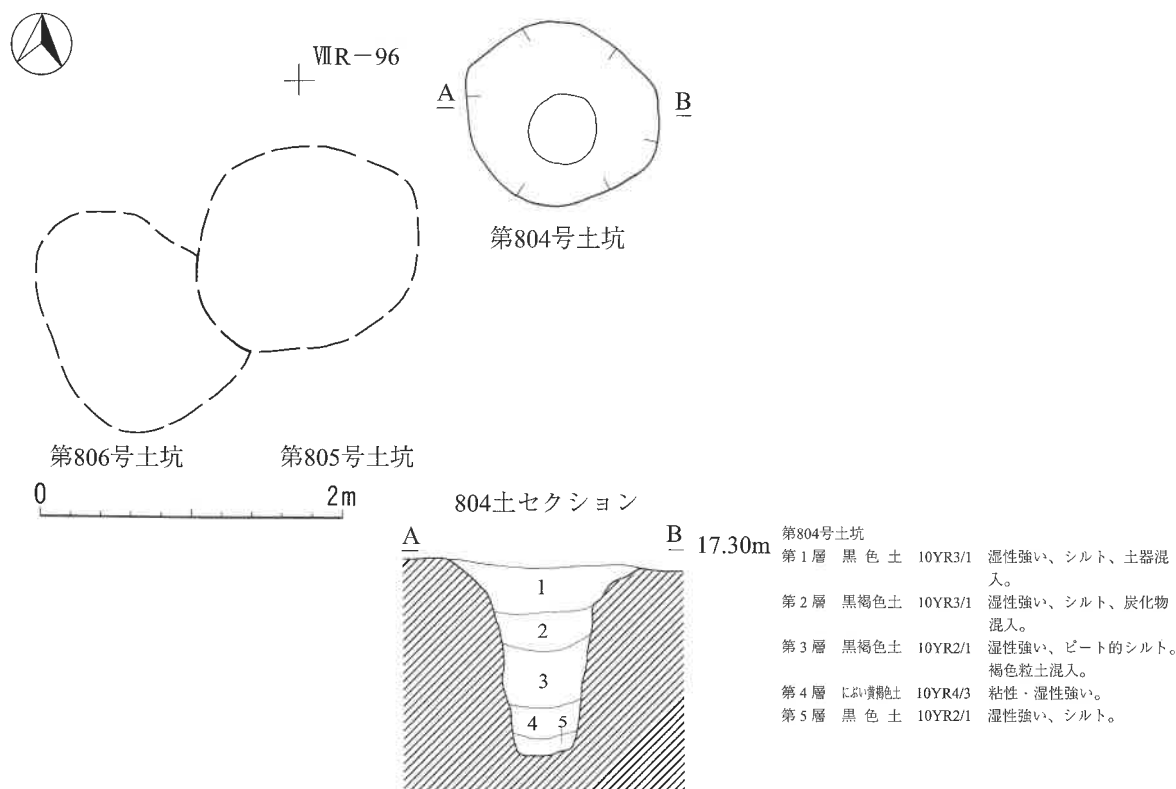
- [位置と確認] VII O-93に位置する。第V層精査中に確認した。
- [重 複] なし。
- [平面形・規模] 不整な円形を呈する。長軸131cm、短軸122cm、深さ102cmである。
- [壁・底面] 壁は比較的緩やかに立ち上がり、開口部で外傾する。底面は平坦である。
- [堆 積 土] 黒褐色土を基調とする。自然堆積である可能性が高い。
- [出土遺物] なし。
- [時 期] 不明。



14図 第787号・第788号土坑

第804号土坑 (15図・写真3)

- [位置と確認] VII Q-95・96に位置する。第V層精査中に確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 不整な円形を呈する。長軸127cm、短軸121cm、深さ125cmである。
- [壁・底面] 壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、開口部で外傾する。底面は平坦である。
- [堆積土] 5層に分層した。黒褐色土を基調とし、2層中には炭化物が混入する。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明。
- [その他] 本土坑の東南に第805号・第806号土坑が重複している。

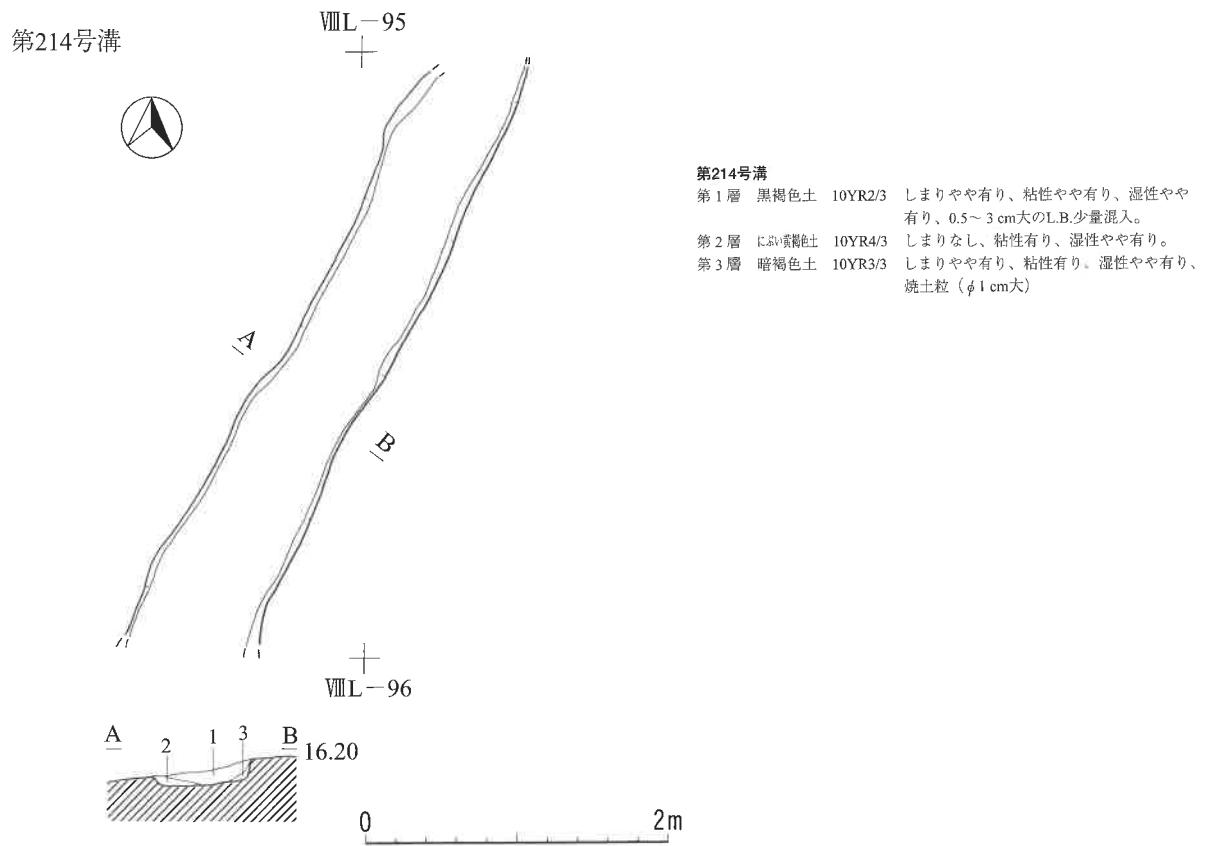


15図 第780号土坑

第214号溝 (16図)

- [位置と確認] VIII K・L-95に位置する。第V層精査中に確認した。
- [規模] 幅68cm、深さ10cmで南東から北西方向に広がる。
- [堆積土] 3層に分層した。黒褐色土を基調とし、1層中に炭化物や焼土粒が混入。
- [時期] 時期は不明である。

(伊藤由美子)



16図 第214号溝

第3節 埋没谷の概要

調査区の中央部、ⅧD～ⅧG-95・96の第Ⅲ層上面で第Ⅱ層の落ち込みが東西幅5.5mで南北に広がるのを確認した。調査区を北にⅧE-93、北西にⅧG-94まで拡張し、広がりを確認したが、さらに北へ広がると考えられる。トレンチをⅧE-93（Aトレンチ）と、ⅧF-94（Bトレンチ）と、ⅧC・D-95（Cトレンチ）に設定して調査した。Aトレンチでは深さ30cm東西幅0.9mで南西から北東に傾斜している。Bトレンチは深さ34cm、東西幅1.2mで南東から北西へ傾斜している。Cトレンチは深さ20cm、東西幅2.1mで南東から北西に傾斜している。埋没谷は南東から北西、さらに北東方向に蛇行していたか、ⅧF-94付近で分岐していたことが考えられる。

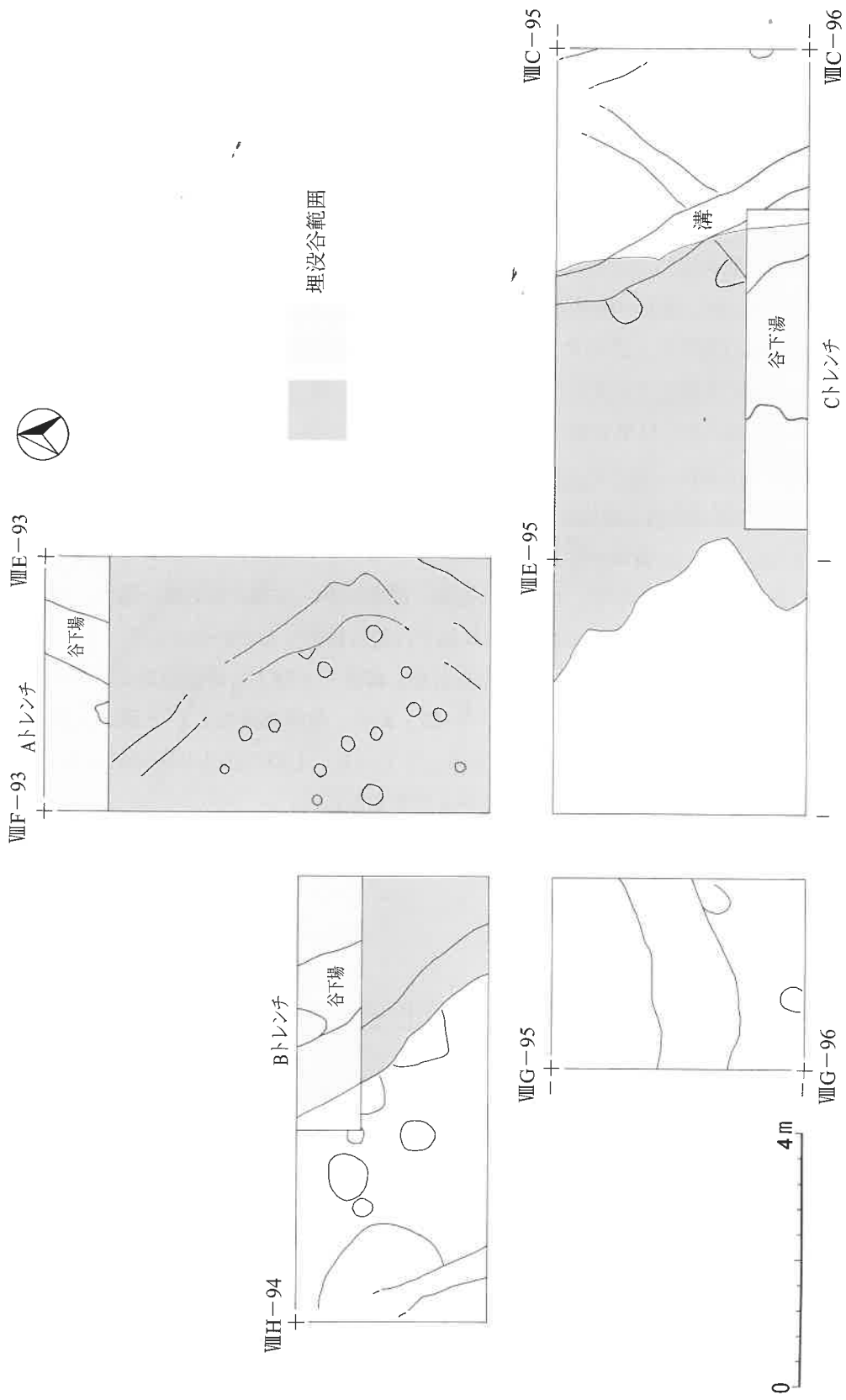
埋没谷は第Ⅲ層の暗褐色土を浸食、開析し、谷の底面は第Ⅴ層に達している。堆積土は黒褐色土を基調とし、下部で黄褐色土を多く含み、4から5層に分層できるが、各トレンチ間での整合は確認できなかった。谷上面には第Ⅱ層の黒褐色土が堆積している。

出土遺物のうち土器は、各トレンチの第Ⅱ層では大木10式併行が多く出土している。各トレンチの1・2層からは最花式の土器片が出土している。Aトレンチ、Cトレンチの底面から円筒上層d式土器が出土している。土器は小片で磨滅したものが多い。石器はAトレンチ1層から石鏃、スクレイパー類、剥片、石皿破片など、2層から石錐、磨製石斧、3層から石核、剥片、磨製石斧小片、4層から石鏃、スクレイパー類、剥片、半円状偏平打製石器破片などが出土している。Bトレンチ2層から石錐、石核、剥片、石皿など、3層から石錐、剥片、5層から磨製石斧などが出土している。Cトレンチ1層から石核、石鏃、スクレイパー類、剥片、敲磨器類など、2層から敲磨器、石錐、石核、スクレイパー類など、3層から剥片が出土している。石器の出土状況は特に層や地点での種類・量の偏りはなく、周囲からの二次堆積であると考えられる。

出土遺物から埋没谷は遅くとも縄文時代中期後葉円筒上層d式期に形成され、中期末大木10式併行期には埋没したと考えられる。

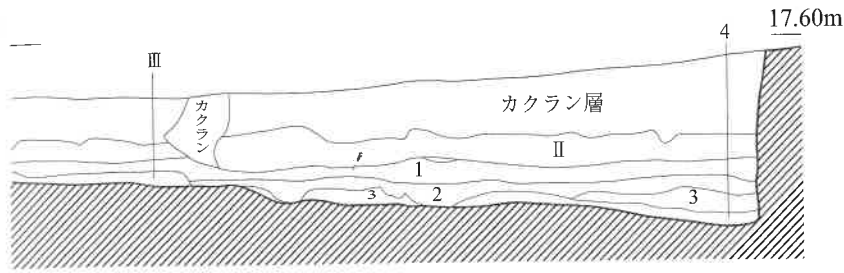
第764号土坑（24図・写真3）

- [位置と確認] ⅧE-95に位置する。第Ⅴ層精査中に黒褐色土の円形の落ち込みを確認した。
- [重 複] なし
- [平面形・規模] 平面形は北東～南西に長い、不整な楕円形を呈する。開口部で長径88cm、短径52cm、深さ18cmである。底面は長径67cm、短径35cmである。
- [壁・底面] 壁は底面よりやや外傾しながら緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。
- [堆 積 土] 2層に分層される。黒褐色土を基調とし炭化物、ロームブロックを含むことから人為的堆積の可能性が高い。
- [出 土 遺 物] 底面から大木10式併行の土器片が出土している。
- [時 期] 出土土器から大木10式併行期である。



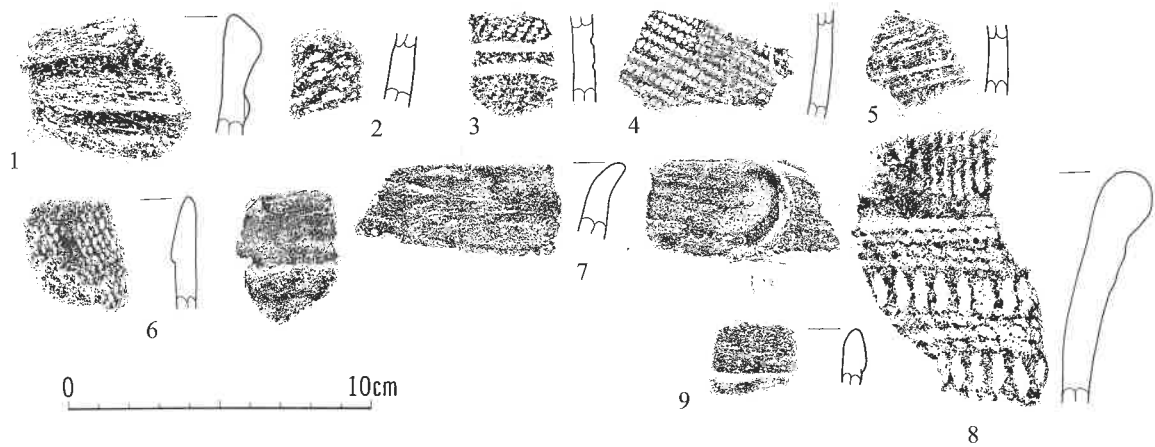
17図 埋没谷

VIII F-94~VIII G-94 北壁セクション



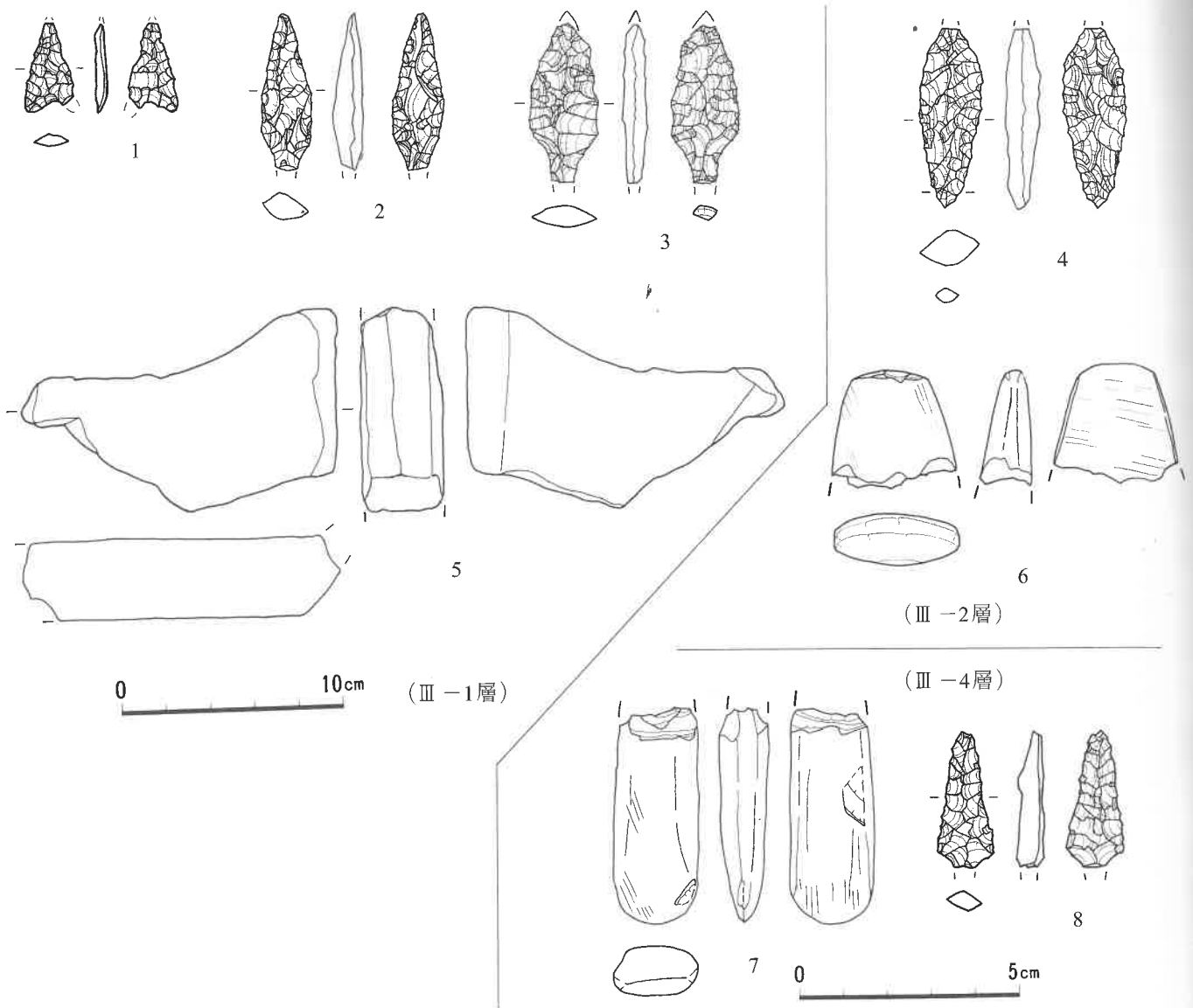
- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 粘性少々有り。
- 第2層 黒色土 10YR2/1 粘性無し。
- 第3層 黒褐色土 10YR2/1 焼土微量。
- 第4層 灰黄褐色土 10YR4/2 粘性無し。炭化物微量、ローム粒。(黄褐色土の砂混入)

18図 埋没谷セクション



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	VIII F-94	III		貼付 剥落激しい				III-4	
2	〃	3		LR				III-6	
3	〃	1		RL 沈線		ナデ		III-9	
4	〃	〃		LR		〃		III-11	
5	VIII F-94	2		条痕					
6	VIII E-93	1	無文(内面折返口縁状)			ミガキ		III-11	
7	〃	〃	無文(内面にヒレ状突起)			〃		III-10	
8	〃	3	口縁肥厚 LR押圧					III-1	
9	先行トレンチM-92	〃	折返口縁 LR					III-11	

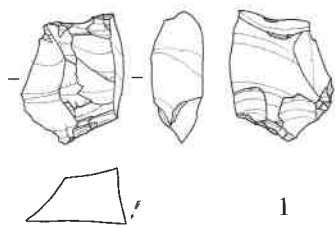
19図 A・Bトレンチ出土遺物



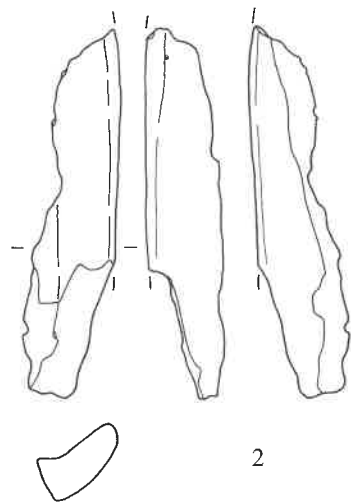
番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
1	ⅧE-93	1	20	11	2	0.4	珪頁	A f		30,162
2	〃	〃	35	11	6	2.4	〃	A b		30,115
3	〃	〃	36	16	6	3.1	〃	〃		30,153
4	〃	2	40	14	8	4.4	〃	D	石鏃の可能性有	30,098
5	〃	1	91	143	37	350.6	凝灰	L		30,210
6	〃	2	27	28	12	11.1	緑凝	H a		30,190
7	〃	4	485	19	11	17.1	〃	〃		30,068
8	〃	〃	31	13	6	1.6	珪頁	A		30,151

20図 Aトレンチ出土石器

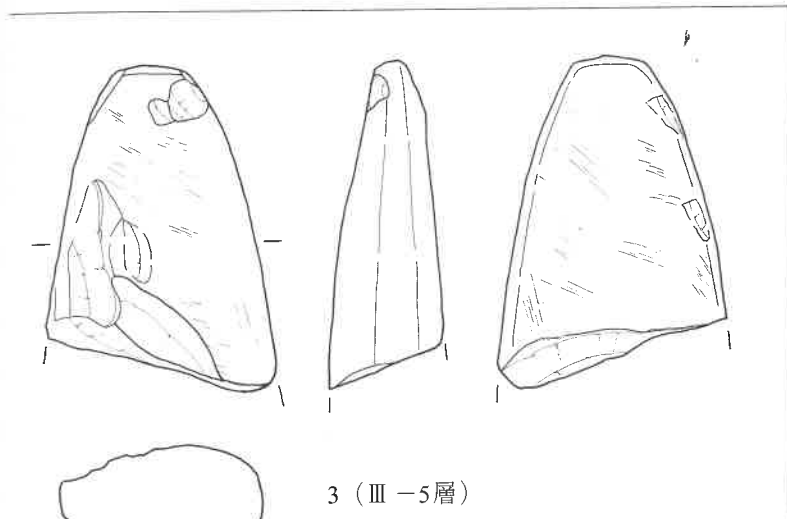
(Ⅲ-2層)



1



2

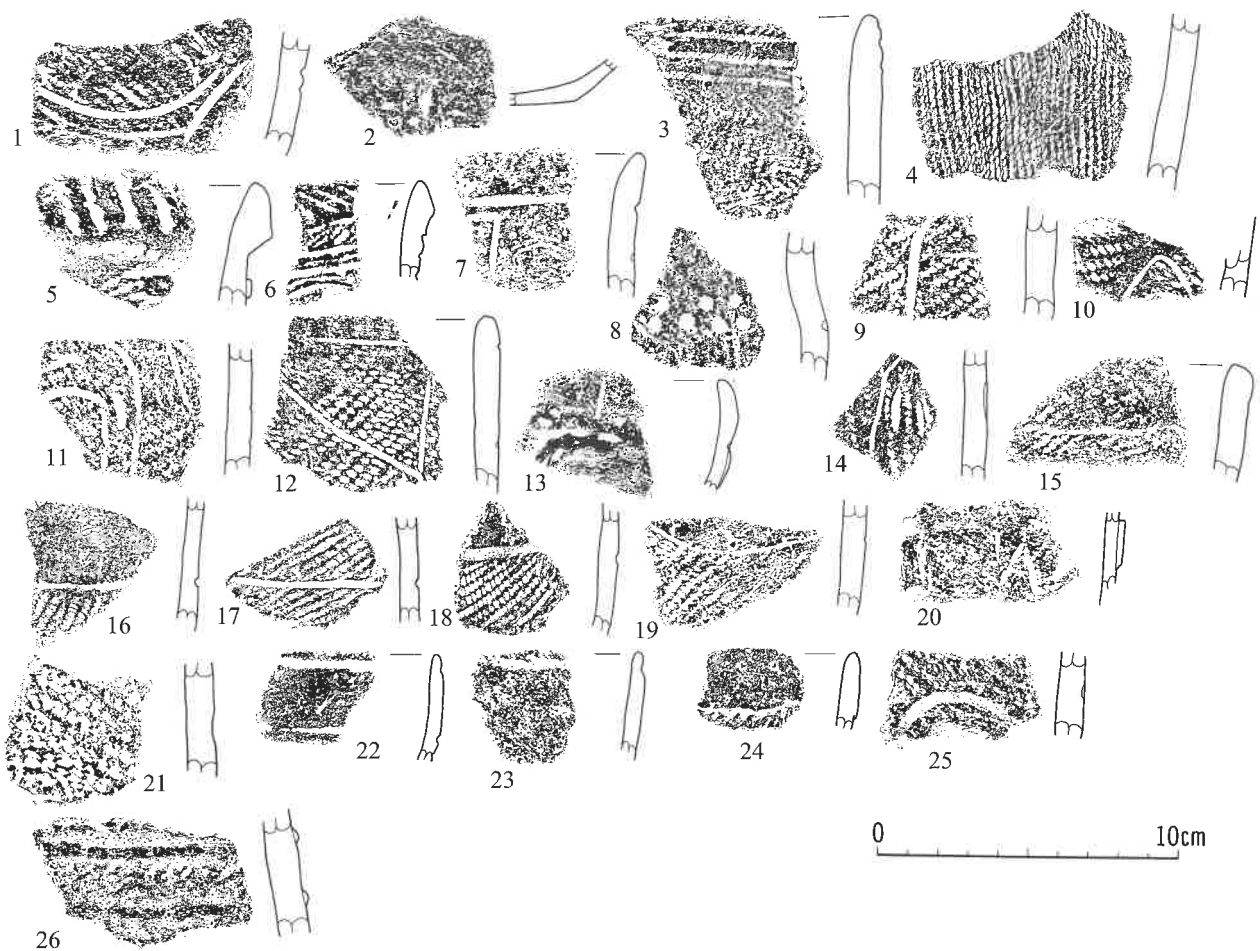


3 (Ⅲ-5層)



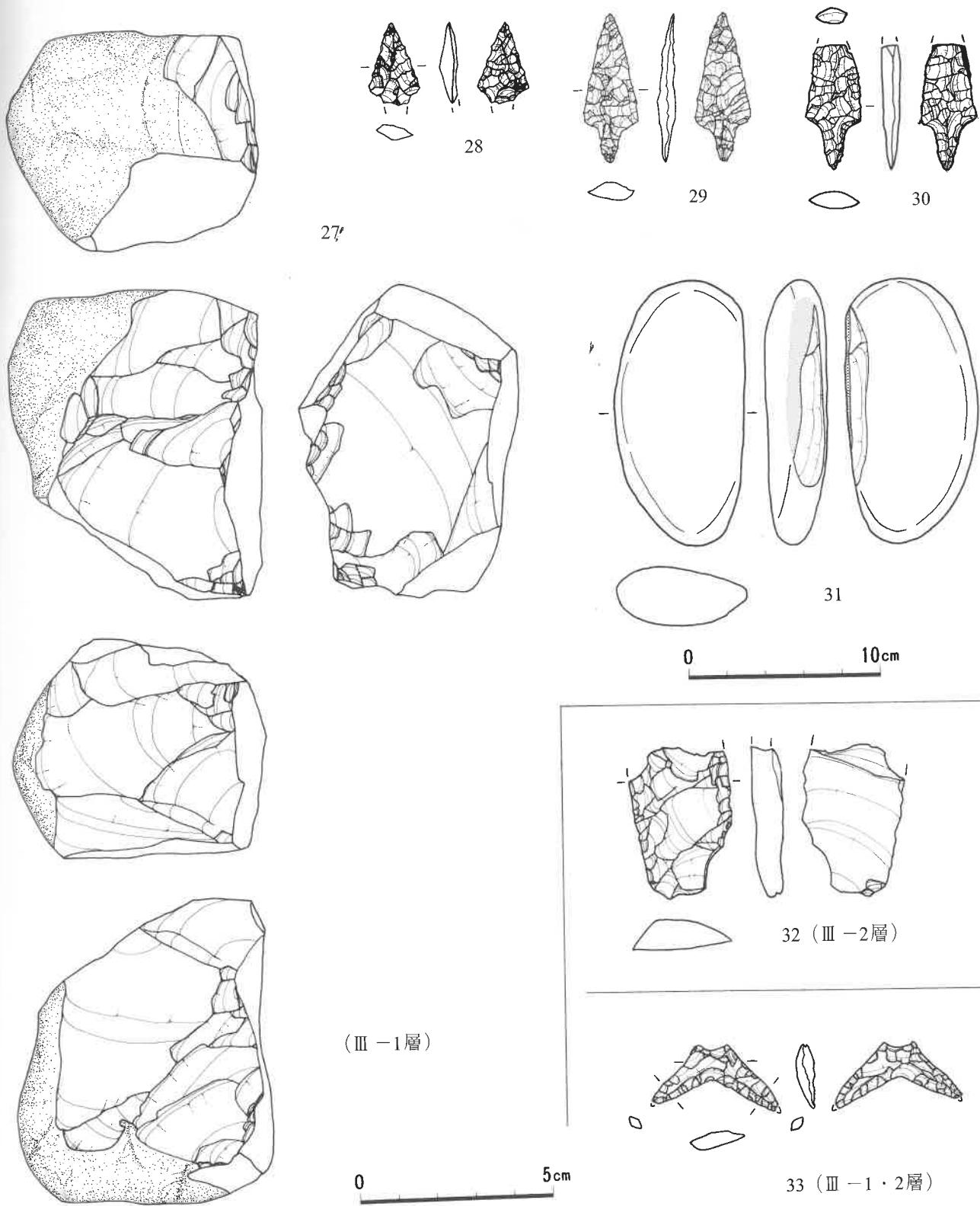
番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
1	ⅧF-94	2	26	20	10	5.4	珪頁	F		30,023
2	〃	〃	144	39	30	81.7	凝灰	L		30,201
3	〃	5	65	46	23	78.4	緑細	H a		30,129

21図 Bトレンチ出土石器



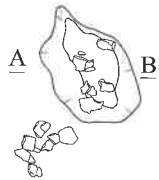
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	VIII C-95	III		LR 沈線		ナデ	III-10?		
2	〃	〃			無文		〃		
3	VIII D-95	〃	R 押圧	結束第一種(LR, RL), L 単絡 1		ミガキ	II-5-1		
4	VIII C-95	〃		L 単絡 1		〃	II-6		
5	〃	〃	R 押圧, LR, 粘土紐貼付			ナデ	III-4		
6	〃	〃	口唇 L 押圧, LR, 沈線			ミガキ	III-5		
7	〃	〃	無文帯, 縄文, 沈線				III-8		
8	VIII CD-95	1	無文帯, 円形刺突, 縄文			ミガキ	III-9		
9	VIII C-95	III		RL, 沈線		〃	〃		
10	〃	〃		〃 〃			〃		
11	〃	〃		LR, 沈線		ミガキ	〃		
12	〃	〃	RL, 沈線			〃	III-10		
13	〃	〃	無文帯, リング状貼付 刺突			ナデ	〃		
14	〃	〃	磨消縄文 沈線 短刻線			〃	〃		
15	〃	〃	折返口縁 LR			ミガキ	III-11		
16	〃	〃	無文帯, 沈線, LR				III-10?		
17	〃	〃		LR, 沈線		ナデ	III-11		
18	〃	〃		〃 〃		ミガキ	III-9~10		
19	〃	〃		RL, 沈線		〃	III-10		
20	〃	〃		貼付, 沈線		〃	?		
21	VIII D-95	〃		RLR			III-11		
22	VIII C-95	〃	LR 押圧				IV	23 と同一個体	
23	〃	〃	〃				IV	22 と同一個体	
24	VIII CD-95	1	折返口縁 LR				III-11		
25	〃	〃		RL, 沈線		ナデ	III-9		
26	VIII C-95	2		粘土紐貼付		ナデ	III-4		

22図 Cトレンチ出土遺物(1)



番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
27	VIII D-95	1	66	80	57	78.9	珪頁	P a		30,133
28	VIII C-95	〃	21	13	5	0.8	〃	A b		30,158
29	VIII D-95	〃	40	14	5	1.4	〃	〃		30,178
30	〃	〃	32	14	5	1.9	〃	〃		30,099
31	〃	〃	136	68	32	424.0	安	I		30,128
32	〃	2	39	26	8	7.5	珪頁	G a	石匙破片?	30,178
33	VIII E-95	1・2	33	17	5	1.4	〃	R		30,066

23図 Cトレンチ出土遺物(2)

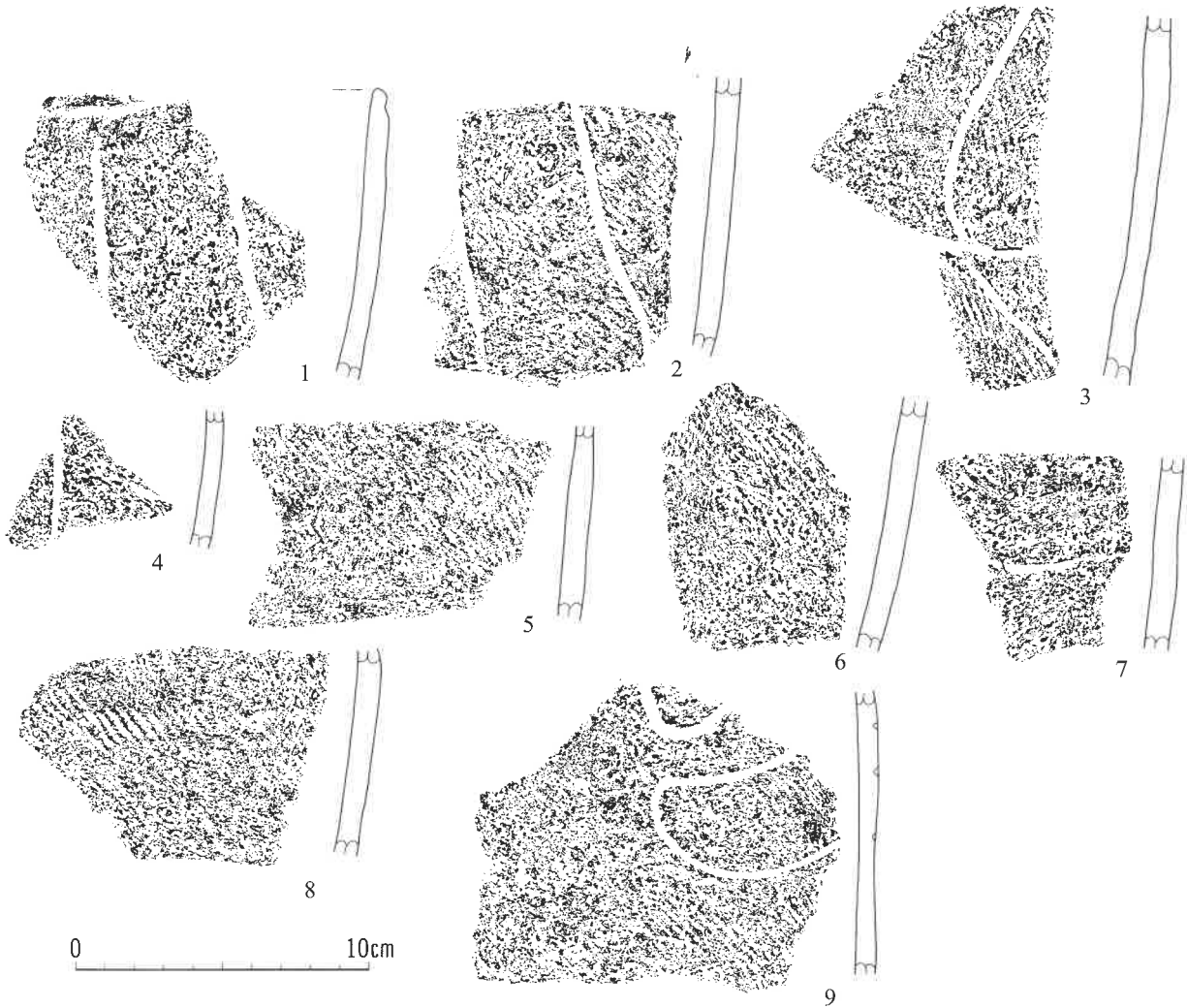
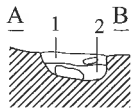


第764号土坑

第1層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物少量、L.B. φ1~25cm大、多量混入、土器有り。

第2層 灰褐色土 10YR5/3 炭化物微量。

VIII E-96



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	第764号土坑	Ⅲ上面	沈線 縄文			ナデ		Ⅲ-10	原体不明
2	〃	〃		沈線		〃		〃	
3	〃	〃		〃		〃		〃	
4	〃	〃		〃		〃		〃	
5	〃	〃		RL		ナデ		〃	
6	〃	〃		〃		〃		〃	
7	〃	〃		〃		〃		〃	
8	〃	〃		〃		〃		〃	
9	〃	〃		沈線		ナデ		Ⅲ-10	

24図 第764号土坑

第4節 包含層の調査の概要

一次調査区の西端は、沖館川に面する斜面となっている。台地北側斜面には縄文時代前期の泥炭層、中期の遺物廃棄ブロックが形成されていた（No.6鉄塔地区）。今回の調査は、台地西側斜面の包含層・泥炭層の有無を確認するために、1 m×4 mのトレンチを設定して行った。包含層の厚さは、調査途中の段階であるが、最も厚いところでは1.5mに及んだ。調査範囲も狭く湧水もあったため、その上面に形成された酸化鉄層のところでは中断し、今年度の調査を終えた。そのため、今回の報告では概要のみとし、最終的な報告は次年度以降とする。以下に、今年度調査分の概要を述べる。なお、土層断面は、旧野球場部分で検出した北・南盛土遺構と類似するが、遺構が形成される立地が異なっており、盛土遺構との関連は今後さらに検討を要するため、ここでは包含層の名称を用いる。

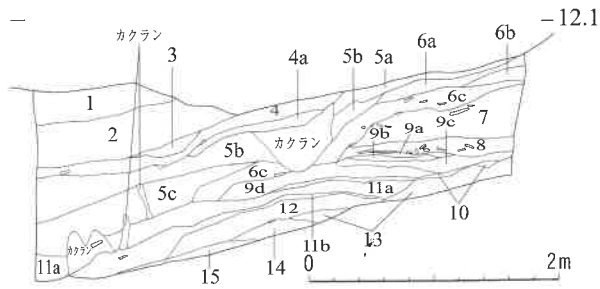
遺物包含層の状況は、第Ⅰ層に相当する1層、第Ⅱ層に相当する2～5層、第Ⅲ層に相当する6層～15層に大きく分けられる。時期的には2～5層は大木10式期を下限とし、後者はそれ以前の大木式および円筒上層式から前期円筒下層式（下層d₂式）までである。

第Ⅱ層は、黒色土を主体とし、非常に乾燥しやすい。混入物・土色から4つに分層したが、特に2層では、大木10式併行期の土器片が多量に出土した。また、4層下部には白色粘土を主体とする層が見られる。5層はローム主体で、ごくわずかに炭化物等の混入物がある。この5層は、人為的な堆積の可能性が高いが、2～4層は自然堆積と思われる。ほかに出土遺物としては、2層から土偶、5層から土偶・円盤状土製品などがある。

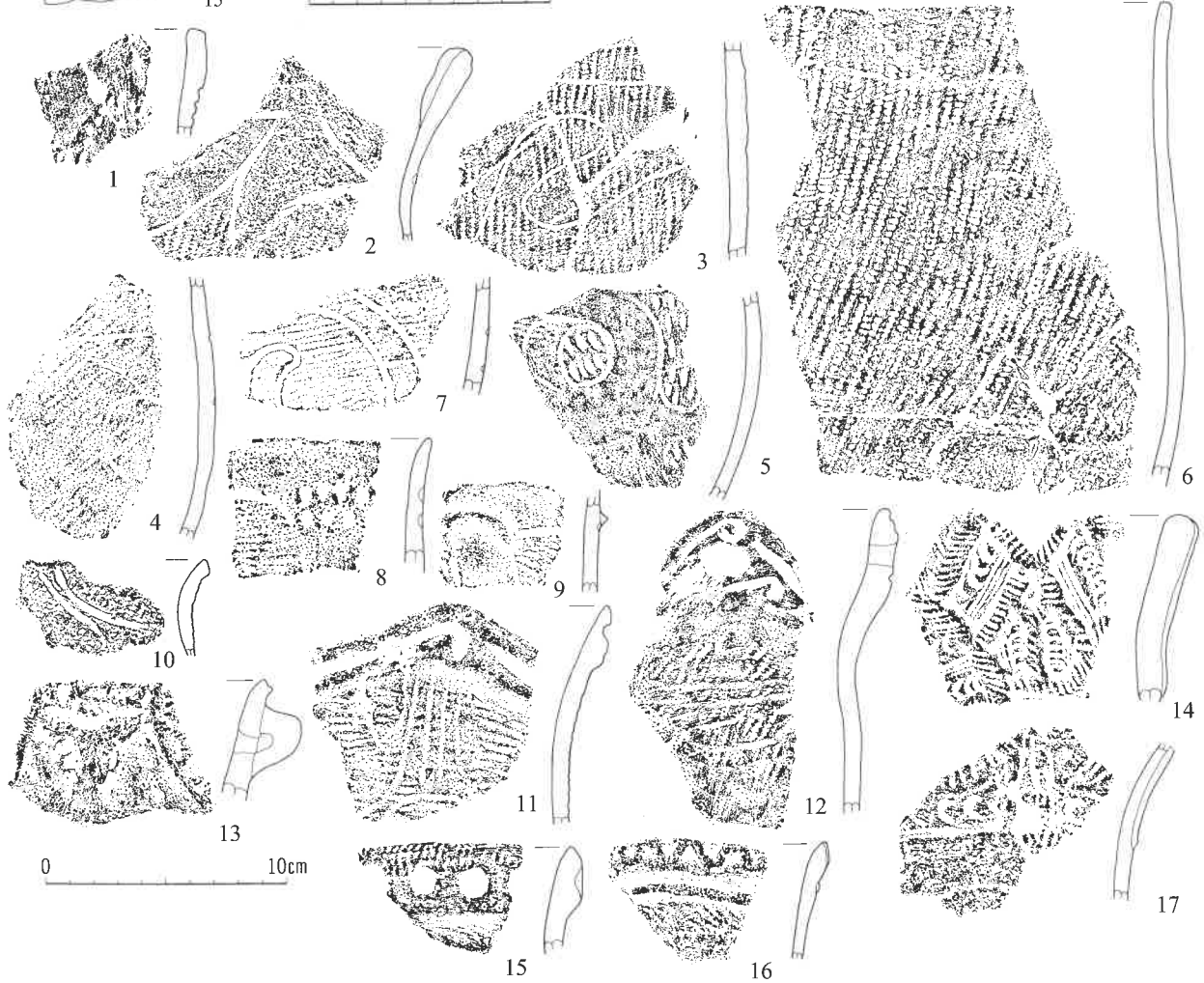
第Ⅲ層は、人為的な廃棄と見られるロームあるいは炭化物を主体して構成される。このうち、6層は出土遺物・土色等から3つに細分した。6b層からは榎林式・6c層からは円筒上層d式の土器片が出土しているが、出土量は非常に少ない。7～8層は円筒上層b式が、9層以下は円筒下層d₂式が出土している。

堆積状況では、比較的水平的な堆積が認められるが、7～9b層は、斜面下部に向かって大きく削られたような状況である。また、下の9b層（炭化物層）でとらえやすいが、上部の7層が途切れる6c層との層理面では、炭化物が拡散した状態である。包含層が斜面部に形成されているため、水等による浸食、崩落等があった可能性がある。遺物出土状況としては、各層とも層中にまばらに混在し、復元できるものは少ない。しかし、8層では9a層との層理面に乗るように、遺物がまとまって出土しており、復元可能土器も多い。出土遺物の時期的な多寡をみると、出土量の多い時期と非常に少ない時期が見られる。大局的には、中期前葉・後葉の土器は比較的多いが、中葉の土器が少ない。これは7層（上層b式期）形成後、何らかの理由により、土層が削平されたため、遺物の出土も少なくなっている可能性がある。また、9c～12層では円筒下層d₂式が出土している。このことは、比較的短期間での廃棄行為がくり返されたことを示していると考えられる。また、廃棄行為が活発な時期と、そうでない時期があったことも伺わせるものである。（小笠原 雅行）

石器については、各層から石鏃、石槍、石錐、ピエスエ・スキュー、不定形石器、剥片、石核、磨製石斧、敲磨器類、石皿・台石類、石棒、砥石があわせて297点出土し、他に未加工の軽石が22点出土している。詳細は今後の報告に譲ることとし、今回は7点の石器のみ図示した。（斎藤 岳）

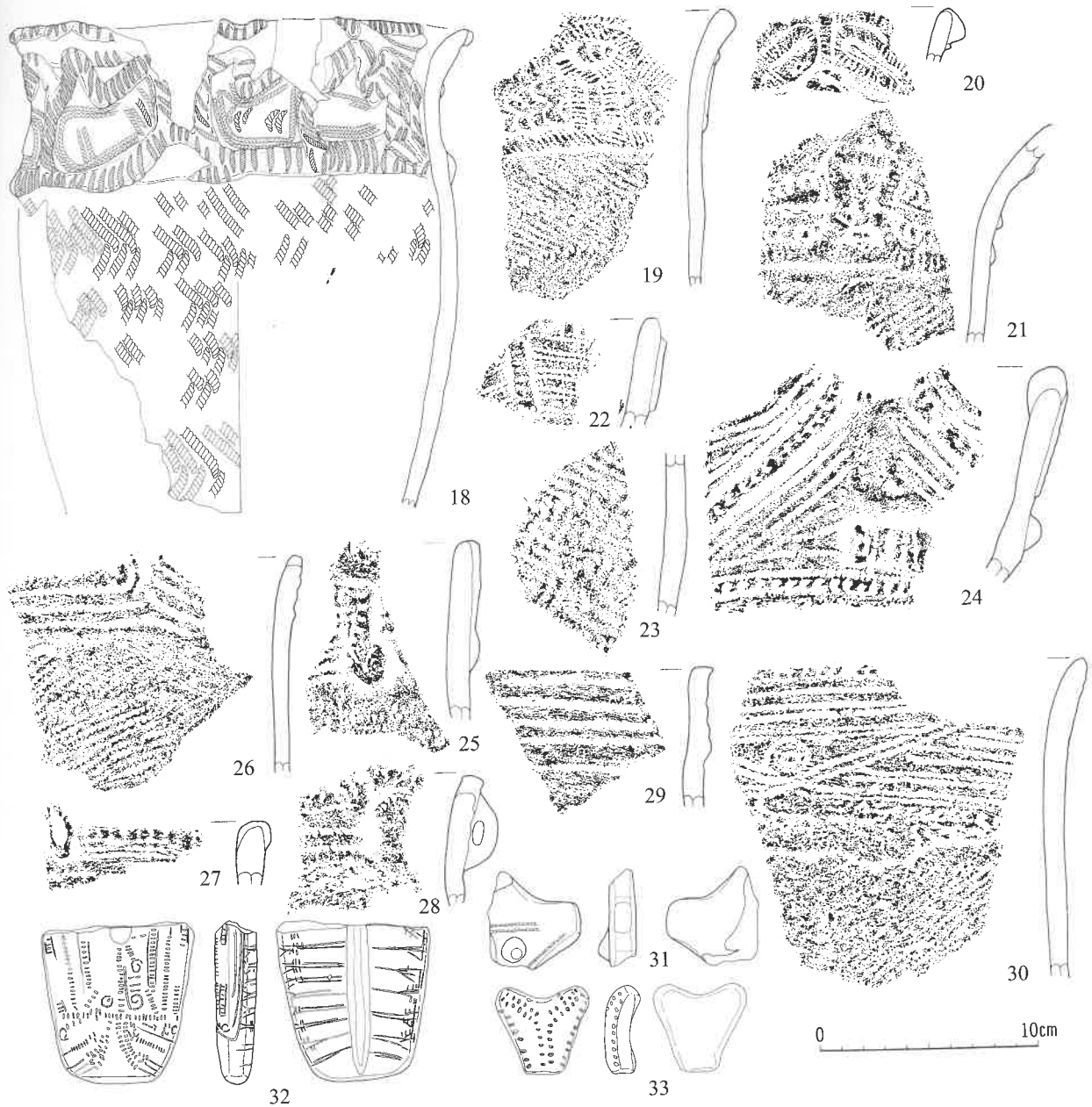


- 第 1 図 暗褐色土 10YR3/3 草木痕多し、地表面、非常に乾燥し易い、白くバサバサの土になる。
- 第 2 図 黒褐色土 10YR2/3 根の入り込み多い、非常に乾燥し易い、白くバサバサの土になる。
- 第 3 図 暗褐色土 10YR3/4 炭化物・粘土少量。
- 第 4 図 黒褐色土 10YR3/2 しまり無、炭化物・焼土。
- 第 4 a 図 暗褐色土 10YR3/4 粘性强、しまり無、白色粘土多量。
- 第 5 a 図 黄褐色土 10YR5/6 しまり強、ローム主体、炭化物微量。
- 第 5 b 図 褐色土 10YR4/6 炭化物・白色粘土少量。
- 第 5 c 図 明黄褐色土 10YR6/6 しまり強、炭化物・白色バミス・焼土粒微量。
- 第 6 a 図 明黄褐色土 10YR6/8 炭化物微量。
- 第 6 b 図 暗褐色土 10YR5/4 しまり強、褐色ローム主体。
- 第 6 c 図 褐色土 10YR4/6 炭化物微量。
- 第 7 図 暗褐色土 10YR3/4 炭化物多量、焼土微量。
- 第 8 図 褐色土 10YR4/4 炭化物少量。
- 第 9 a 図 黄褐色土 10YR5/6 しまり強、ローム主体。
- 第 9 b 図 黒褐色土 10YR2/3 炭化物主体。
- 第 9 c 図 褐色土 10YR4/6 炭化物微量。
- 第 9 d 図 暗褐色土 10YR3/4 炭化物少量。
- 第 10 図 黒褐色土 10YR3/2 炭化物多量。
- 第 11 a 図 褐色土 10YR4/6 炭化物多量。
- 第 11 b 図 黄褐色土 10YR5/6 炭化物多量。
- 第 12 図 褐色土 10YR4/6 しまり強、ローム主体。
- 第 13 図 黄褐色土 10YR5/6 ローム主体。
- 第 14 図 褐色土 10YR4/6 炭化物微量。
- 第 15 図 暗褐色土 10YR3/4 炭化物微量。



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	Ⅲ O-95	2	無文帯、隆起帯、円形刺突					Ⅲ-10	
2	〃	〃	沈線 刺突←RL	RL 沈線		ナデ		〃	
3	〃	〃		RL縄文→波トウ状沈線		〃		〃	
4	〃	3	磨消縄文(原体不明)→沈線			〃		〃	
5	〃	4		沈線 刺突				〃	
6	〃	〃	RL	RL		ナデ		Ⅲ-11	
7	〃	5	RL、沈線			〃		Ⅲ-10	
8	〃	〃	無文帯	刺突、LR 沈線		ミガキ		〃	
9	〃	〃	一状貼付、LR、沈線			ナデ		〃	
10	〃	6	口縁肥厚 LR-沈線			〃		Ⅲ-8	
11	〃	〃	口縁肥厚 凹状沈線	沈線 LR		〃		〃	
12	〃	6 b	凹状沈線、貼付	RL、沈線		〃		〃	
13	〃	6 c	貼付、貫通孔					Ⅲ-4	
14	〃	7	貼、L型(直状、馬蹄形状)			ミガキ		Ⅲ-2	山形口縁
15	〃	〃	貼付 L・R 押圧	結束第一種(LR、RL)		ナデ		〃	
16	〃	〃	口縁肥厚 円形刺突			〃		Ⅲ-2~3	
17	〃	〃	貼付 L型(直状、馬蹄形状)			ミガキ		Ⅲ-2	山形口縁

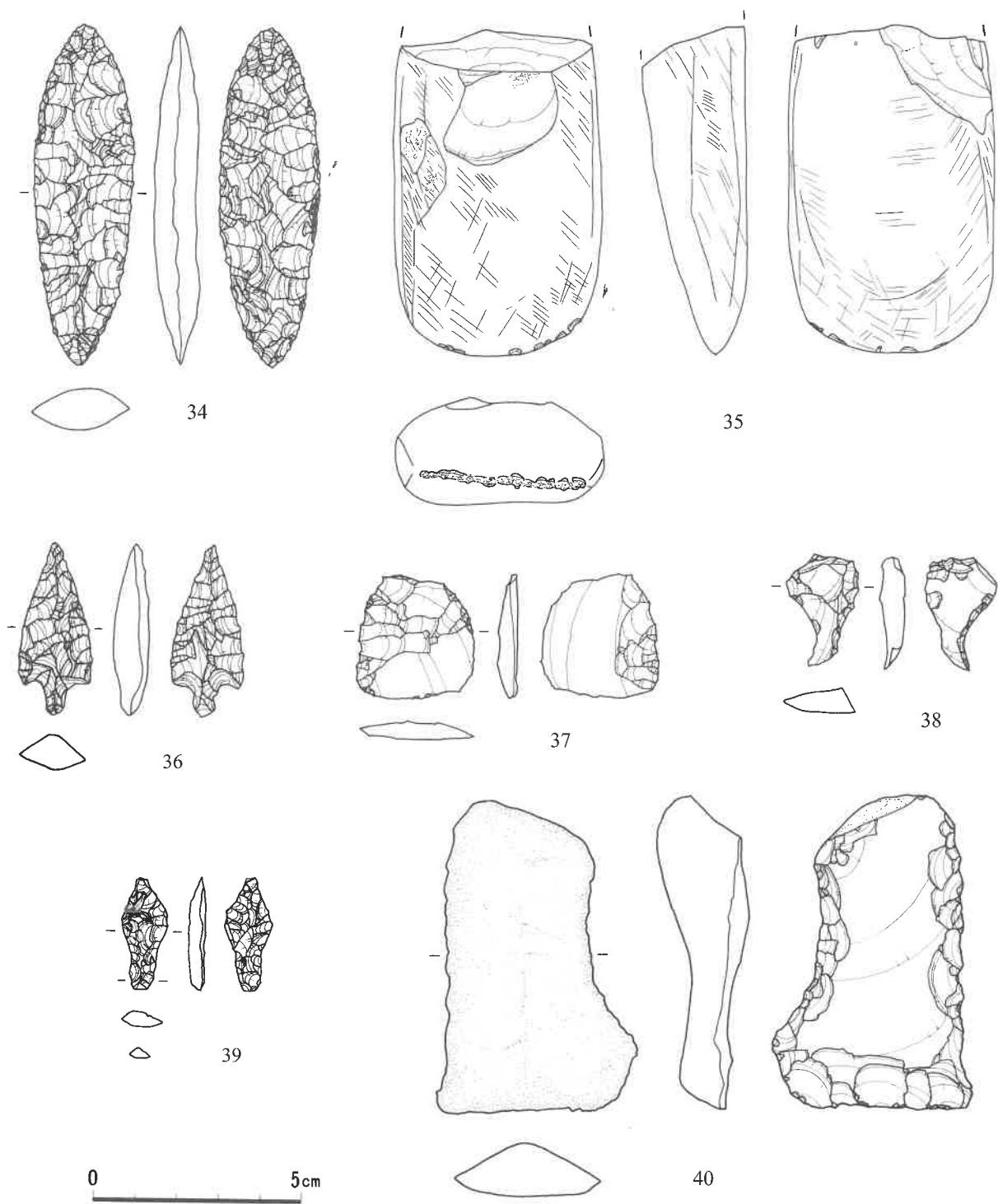
25図 遺物包含層出土遺物 (1)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
18	Ⅷ〇-95	Ⅲ-8	貼付・L押圧, R馬蹄形状押圧	結束第一種(LR, R, L)		ナデ		Ⅲ-2	
19	〃	〃	貼付、R押圧	〃		〃		〃	
20	〃	〃	貼付、L・R押圧			〃		〃	
21	〃	〃	貼付、原体押圧(原体不明)	結束第一種(LR, RL)		〃		〃	
22	〃	Ⅲ-9	縦位貼付、R押圧			ミガキ		Ⅱ-5-2	
23	〃	Ⅲ-9 a		結束第一種(LR, RL)		ナデ		〃	
24	〃	Ⅲ-9 c	貼付、コの字状刺突 R刺突			ミガキ		Ⅱ-5-2	
25	〃	Ⅲ-11 a	L押圧、ワラヒ状縦位貼付			ナデ		〃	
26	〃	Ⅲ-11 b	LR押圧	LR		〃		Ⅱ-5-2	二又状山形口縁
27	〃	Ⅲ-11 a	口唇上面に貼付、L押圧			ミガキ		〃	繊維混入
28	〃	Ⅲ-11 b	L押圧、橋状突手						
29	〃	Ⅲ-12	R押圧(?)			ミガキ			口唇上面面取
30	〃	〃	L押圧	LR(?)					

番号	出土地点	層位	計測値(cm)			文様		種類	備考
			長さ	幅	厚さ	外面	内面		
31	Ⅷ〇-95	2	4.4	4.2	1.2	L押圧	無文	土偶	胸~左腕部
32	〃	5 c	7.1	7.0	1.9	短刻線	短刻線	〃	脚部
33	〃	6 c	4.0	4.2	1.3	刺突	無文	三角型土製品	

26図 遺物包含層出土遺物(2)



番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
34	ⅧO-95	Ⅲ	81	24	11	20.7	珪頁	B a		30,045
35	〃	Ⅲ-2	785	50	25	153.6	緑凝	H a		30,145
36	〃	Ⅲ	41	18	8	4.0	珪頁	A		30,038
37	〃	Ⅲ-6	29	29	5	3.8	〃	G a	石鏃未製品?	30,018
38	〃	〃	26	17	6	2.3	〃	G	ノッチ	30,020
39	〃	〃	27	11	4	1.0	〃	D		30,078
40	〃	Ⅲ-8	75	48	22	66.2	〃	G		30,065

27図 遺物包含層出土遺物 (3)

第5節 検出遺構一覧

図版番号	住居番号	位置	重複新旧	平面形	計測値 (cm)				壁溝	主軸方位	主柱穴	炉	出土遺物	備考
					開口部	床面	深さ	面積						
6図	572H	VIII K-95	<573土 >576土									土器片数炉	土器、剥片4点	炉及び貼床のみ
6図	573H	VIII K-95	<572土 <575土 >576土									〃	土器	〃
6図	574H	VIII K-95	<573土 <579土 >576土									地床炉		〃
5図	575H	VIII K-95	なし											貼床のみ
6図	576H	VIII K-95	<572土 <573土 >574土									地床炉		炉及び貼床のみ
6図	577H	VIII K-95	<573土 <579土											貼床のみ
5図	578H	VIII K-95・96	なし											〃
5図	579H	VIII K-95	>577土											〃

図版番号	土坑番号	グリッド	重複新旧	平面形	計測値 (cm)			出土遺物				時期	備考
					開口部	底面	深さ	土器	剥片	礫石器	その他		
9図	762	VIII G-95		楕円	80×61	73×50	26	〇	〇	〇		縄文	
4図	763	VIII J-95	579H<	不整円								不明	確認のみ
24図	764	VIII E-95		不整楕円	87×54	67×35	18	〇				縄文	
4図	778	VIII G-94		楕円?	(220)×-							不明	確認のみ
10図	780	VIII J-96	<220.221溝	不整楕円	236×170	230×156	62	〇	〇	〇		縄文	焼土、ピットあり
14図	787	VII N-93		楕円	135×120	84×66	101					不明	確認のみ
14図	788	VII O-93		円	146×140	68×66	106					〃	〃
4図	803	VII P-94			(-)×(-)							〃	〃
15図	804	VII Q-96		円	136×118	47×46	131					〃	〃
15図	805	VII Q-R-96	>806土	円	144×133							〃	〃
15図	806	VII R-96	<805土	不整楕円	152×120							〃	〃
4図	846	VIII J-96		楕円	70×62							縄文	〃
4図	848	VIII H-95	<220.221溝	不整円	(90)×(65)							〃	〃
4図	850	VIII J-95		不整楕円								〃	〃
4図	851	VIII J-95	<11322溝	不整楕円								〃	〃

図版番号	柱穴番号	位置	平面形	計測値 (cm)			柱痕	出土遺物	時期	備考
				上端径	下端径	深さ				
12図	11297	VIII K-95	不整円	71×67	48×43	66	無		縄文	
12図	11298	VIII K-95	不整楕円				無	土器、剥片1	〃	
12図	11299	VIII K-95	不整楕円	98×81	35×34	70	無	土器、剥片3	〃	
12図	11300	VIII J-95	円形	76×(55)	42×34	55	無	土器	〃	
12図	11304	VIII K-95	不整円	62×58	43×34	58	無	土器、不定形、剥片5(砥磨器1)	〃	
12図	11305	VIII J-95		79×(-)	44×27	48	無		〃	
12図	11306	VIII J・K-95		(-)×66	57×36	26	無		〃	
12図	11307	VIII K-95		42×(-)	26×20	75	無		〃	
12図	11308	VIII K-95		(-)×34	24×22	68	無		〃	
12図	11309	VIII K-95		(-)×(50)	(46)×31	40	無		〃	
12図	11321	VIII K-95	不整楕円	68×(54)	(30)×25	52	無		〃	
12図	11351	VIII K-95		38×(38)	20×19	32	無	土器、剥片2	〃	
12図	11352	VIII K-95		26×(24)	14×11	26	無		〃	
12図	11353	VIII J・K-95		57×51	25×(20)	44	無		〃	
12図	11354	VIII J-95					無		〃	
12図	11355	VIII K-95		28×(-)	18×(-)	(7)	無		〃	
12図	11356	VIII J-95		62×(-)	15×(-)	(16)	無	土器、剥片1	〃	
12図	11357	VIII J-95		25×22	17×15	(8)	無		〃	
12図	11358	VIII K-95		55×(42)	50×36	(22)	無	土器	〃	
12図	11359	VIII K-95		66×51	42×41	(20)	有	土器	〃	
12図	11360	VIII J-95					無		〃	
12図	11361	VIII J・K-95					無		〃	
12図	11362	VIII J・K-95		56×(-)	44×(-)	(43)	無	剥片	〃	
12図	11363	VIII J-95		26×24	12×12	(29)	無		〃	
12図	11364	VIII J-95		(52)×42	29×(32)	52	無		〃	

(1) A類石鏃(88~114) 30点出土し27点図示した。

形態はバラエティーに富んでおり、うち19点が有茎で、11点が無茎でありすべて凹基である。無茎のものは、小型のものが多し。黒曜石製が3点あるほかすべて珪質頁岩製である。欠損部位では基部及び先端の欠失するものが多い。103は焼けて裏面側が剥落している。図示しなかった3点は、いずれも欠損した有茎石鏃であり、うち2点は焼けていた。

(2) C類石匙(115) 1点出土した。

(3) D類石錐(116~123) 10点出土し、8点図示した。

素材に大きな変化を加えず、剥片の末端に先端部をつくり出したものが多い。122は黒曜石製の石鏃を転用したものであるが、先端部は摩耗が激しく、稜線も摩耗のために失われている。

(4) E類石篋(124) 1点出土した。

(5) F類ピエス・エスキュー(125~128) 4点出土し、4点図示した。

(6) G類不定形石器(129~137)

スクレイパー類は、87点出土し、9点図示した。133は下端に加工があるが刃部とするほどしっかりしたものではなく、石篋には含めなかった。U. フレイクは25点、R. フレイクは60点出土している。

(7) H類石斧(139~140) 磨製石斧が4点出土し、2点図示した。

(8) I類敲磨器類(141~148) 25点出土し、8点図示した。

遺構外出土のものは、複数の種類の使用痕を持つものは無く、凹痕を持つものが2点であり、磨痕を持つものは5点である。敲打痕を持つものは18点であり、うち1点は浅い凹まりができている。148の磨面は滑らかである。

(9) J類半円状偏平打製石器(149) 1点出土した。

(10) L類石皿・台石類(150~153) 23点出土し、4点図示した。

いずれも、破片資料であり、小破片が多いことが特徴である。そのため、皿状に凹まない台石と石皿との区分の不可能なものも多く一括して取り扱った。150と151は焼けた痕跡が残っている。

(11) M類石棒(155) 1点出土した。

素材礫面に全体的に軽く研磨加工されていると考えられるが、研磨が明瞭な部分と不明瞭な部分がある。

(12) P類石核類 石核は15点出土した。

原礫は2点出土している。1点は珪質頁岩の原礫であり長さ10cm、幅7.5cm、厚さ5cm重量382.7gでⅧC-95グリッドのⅡ~Ⅲ層から出土している。もう1点は黒曜石の原礫で長さ4.5cm、幅3.0cm、厚さ2.7cm、重量37.2gでありⅧN-95グリッドから出土している。

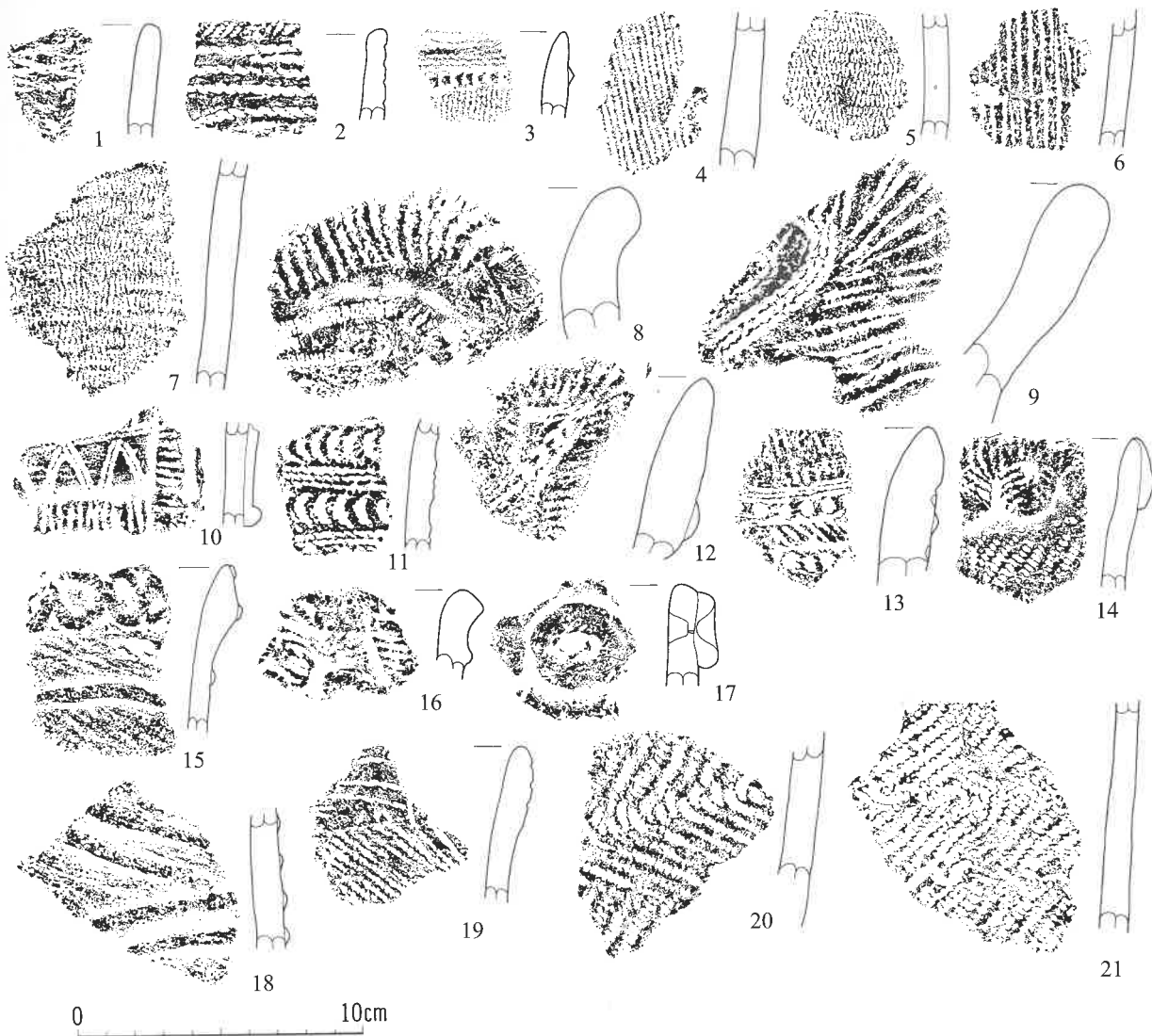
剥片は591点出土している。うち17.4%にあたる103点が焼けており、剥落等痕跡を示していた。焼けた剥片の出土点数が多いのはⅧD-95グリッドの第Ⅱ層(16点)、第Ⅱ~Ⅲ層(5点)、E-96グリッドの第Ⅱ層(10点)であり、埋没谷の周辺の第Ⅱ層からの出土が多い。

(13) R類異形石器(138) 1点出土し、1点図示した。

(14) S類砥石(154) 3点出土し1点図示した。

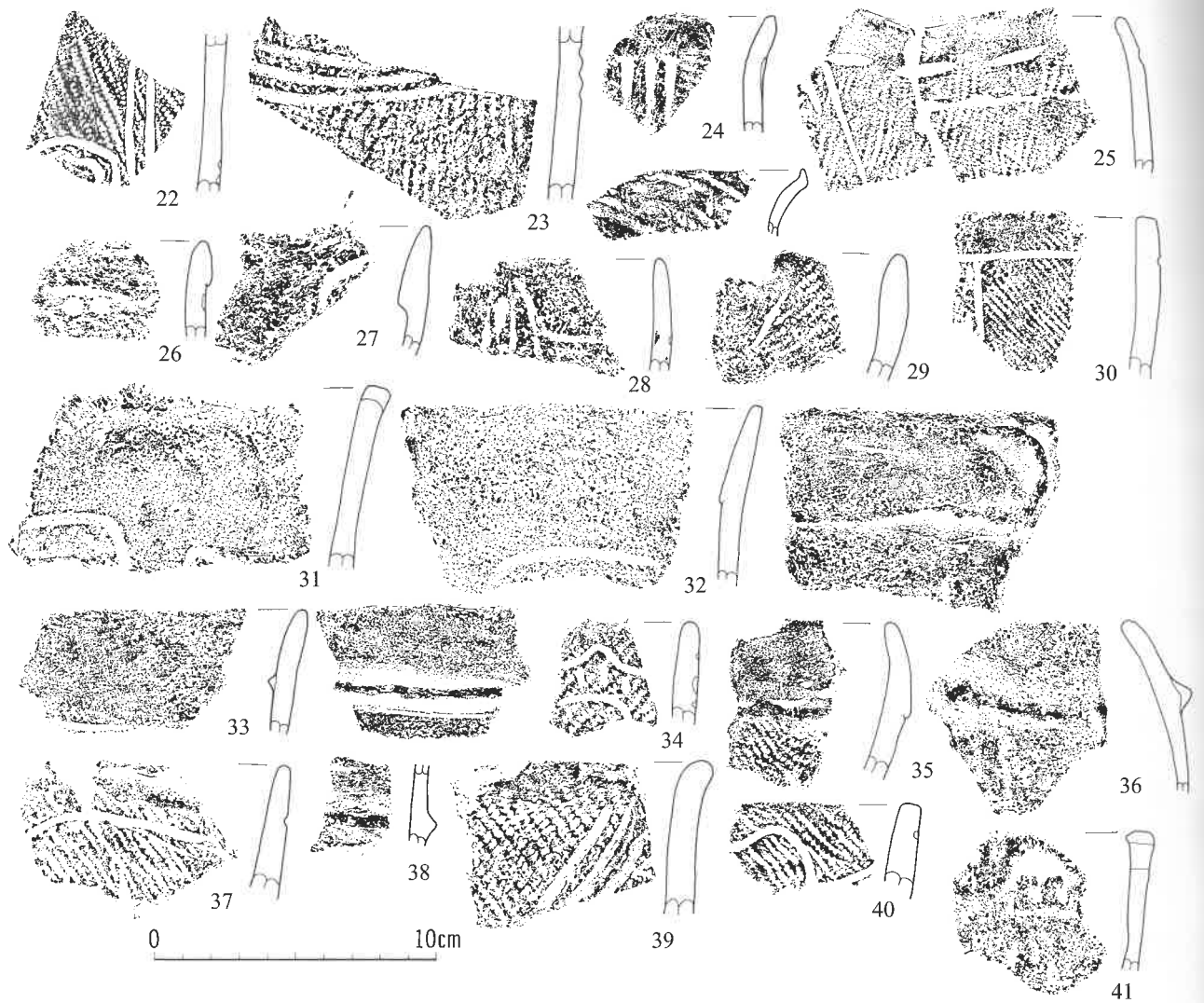
図示しなかったもののうち1点は平安時代以降のものと考えられるものである。

(15) Q類その他 石刀あるいは磨製石斧破片の可能性のある粘板岩製の磨製石器片が1点出土した。



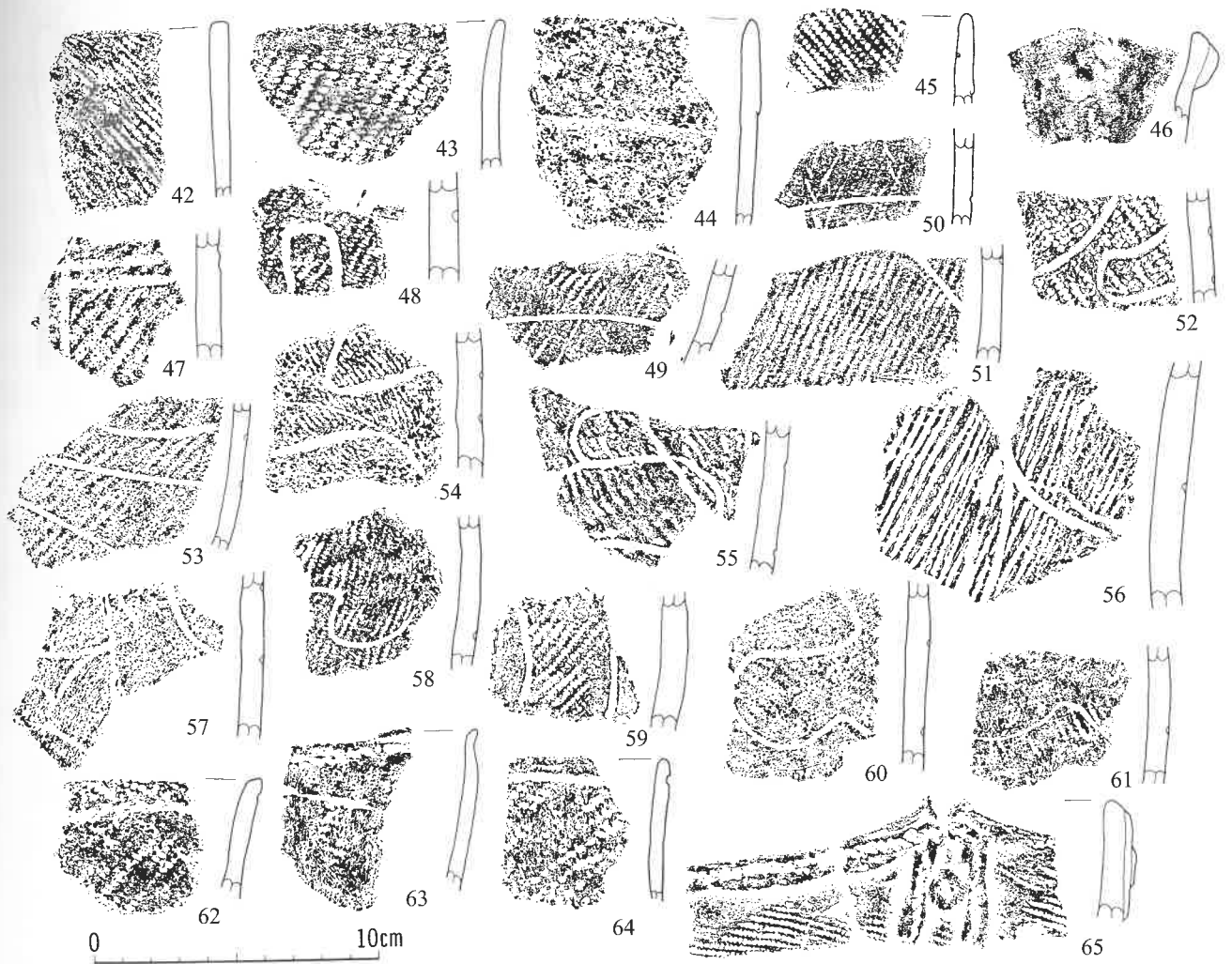
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	VII F-95	II	波状口縁、細目状			ナデ	II-1	繊維混入	
2	VIII B-95	I	LR押圧、刺突			ミガキ	II-5	口唇上面にLR縄文	
3	VIII G-95	〃	R押圧、低巻帯、コの字刺突	R単絡1		〃	〃	繊維混入	
4	〃	II		L単絡1		〃	II-6	〃	
5	VIII B-95	I		R多軸絡		ナデ	〃	〃	
6	VIII C-95	〃		R単絡		ミガキ	〃	〃	
7	VIII B-95	〃		R多軸絡		〃	〃	〃	
8			貼付、LR押圧			〃	III-1		
9	VIII F-94	II	口縁肥厚、LR、RL押圧			〃	〃		
10	VIII B-95	I	口縁肥厚、RL押圧			〃	〃		
11	〃	〃	LR押圧				III-2		
12	VIII A-92		貼付、原体馬蹄形押圧				〃	砂粒混入、原体不明	
13	VIII G-94	I	貼付、R押圧、刺突			ミガキ	III-3		
14	VIII B-95	表土	山形貼付、L押圧	LR			III-2~3		
15	VIII M-95	II	貼付、RL			ナデ	〃		
16	VIII L-95	III	貼付、刻線、貫通孔			ミガキ	III-3~4		
17	VIII M-95	I	凹形貼付			ナデ	III-4	内面から盲孔	
18	〃	III	貼付			〃	〃		
19	〃	II	山形口縁、L押圧	RL			III-5		
20	VIII J-95	III		結束第一種(LR、RL)		ミガキ	III-6		
21	VIII C-95	I		結束第二種(LR、LR)		〃	〃		

28図 第1次調査区遺構外出土遺物(1)



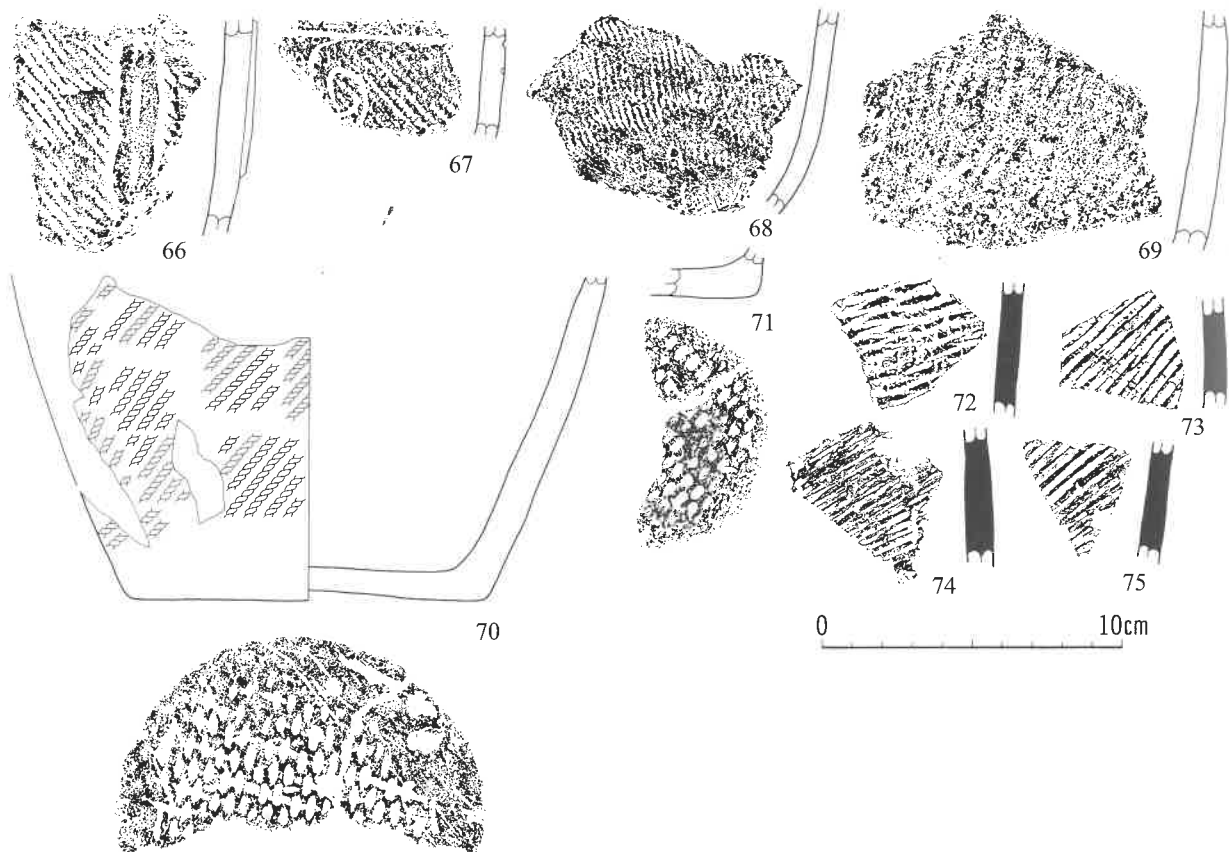
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
22	VIII F-94	II		LR→沈線		ナデ	III-8		
23	VIII N-95	〃	RL、沈線			〃	〃		
24	VIII E-96	〃	無文帯、縦位刻線			ミガキ	III-9		
25	VIII M-95	I	横位短刻線、RL、沈線			〃	〃		
26	〃	〃	折返口縁、円形刺突				〃		
27	〃	II	無文帯、沈線			ミガキ	III-10	内面に突帯	
28	VIII O-95	〃	〃			〃	III-9		
29	VIII M-95	〃	磨消縄文(RL)、沈線			〃	III-10	内面にヒレ状突起	
30	VIII K-95	〃	無文帯、沈線、短刻線、RL			ナデ	〃		
31	VIII O-95	〃	小山形口縁、沈線			ミガキ	〃		
32	VIII M-94	〃	無文帯、沈線			ナデ	〃	内面にヒレ状突起	
33	VIII O-95		無文			〃	〃	内面に突起	
34	VIII K-95	II	RL、沈線、刺突			〃	〃		
35	VIII M-95	〃	折返口縁、横位短刻線	RL		ミガキ	III-9~10		
36	VIII O-95	〃	横位貼付帯、無文			ナデ	〃		
37	VIII L-95	I	磨消縄文(LR)、沈線			〃	III-10		
38	VIII O-95	II	ハ状突帯			ミガキ	〃		
39	VIII N-95	〃	RL、沈線			〃	〃		
40	VIII L-95	〃	LR、沈線			〃	〃	口唇上面平坦に面取	
41	VIII F-93	〃	縦位短刻線、楕円形孔				〃		

29図 第1次調査区遺構外出土遺物(2)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
42	VIII M-95	II	RL			ミガキ	III-9~10		
43	〃	〃	RL			〃	〃		
44	〃	〃	折返口縁、RL			ナデ	〃		
45	VIII Q-93	I	〃	〃		〃	〃		
46	VIII M-95	II	無文、小瘤状突起			〃	III-10		
47	VIII O-95	〃	LR、沈線			〃	〃		
48	VIII E-93	I		RL、沈線			〃		
49	VIII O-95	II	RL、沈線			ナデ	〃		
50	〃	〃	磨消縄文(RL)、沈線			ミガキ	〃		
51	〃	〃		RL、沈線		ナデ	〃		
52	〃	〃		〃		〃	〃		
53	〃	〃		〃		〃	〃		
54	VIII K-95	〃		〃		〃	〃		
55	VIII M-95	〃		LR、沈線		ミガキ	〃		
56	VIII K-95	〃		R単絡1、沈線		ナデ	〃		
57	〃	〃		磨消縄文(LR)、沈線		〃	〃		
58	VIII L-95	I		RL、沈線		〃	〃		
59	VIII O-95	II		磨消縄文(RL)、沈線		〃	〃		
60	VIII M-95	〃		〃		ミガキ	〃		
61	〃	〃		磨消縄文(LR)、沈線		ナデ	〃		
62			RL押圧	RL			IV		
63			〃	〃			〃	小波状	
64	VIII O-95	II	横位沈線、RL			ミガキ	〃		
65	VIII M-95	〃	貼付、上面にLR押圧、#720状に貼付	LR		ナデ	〃		

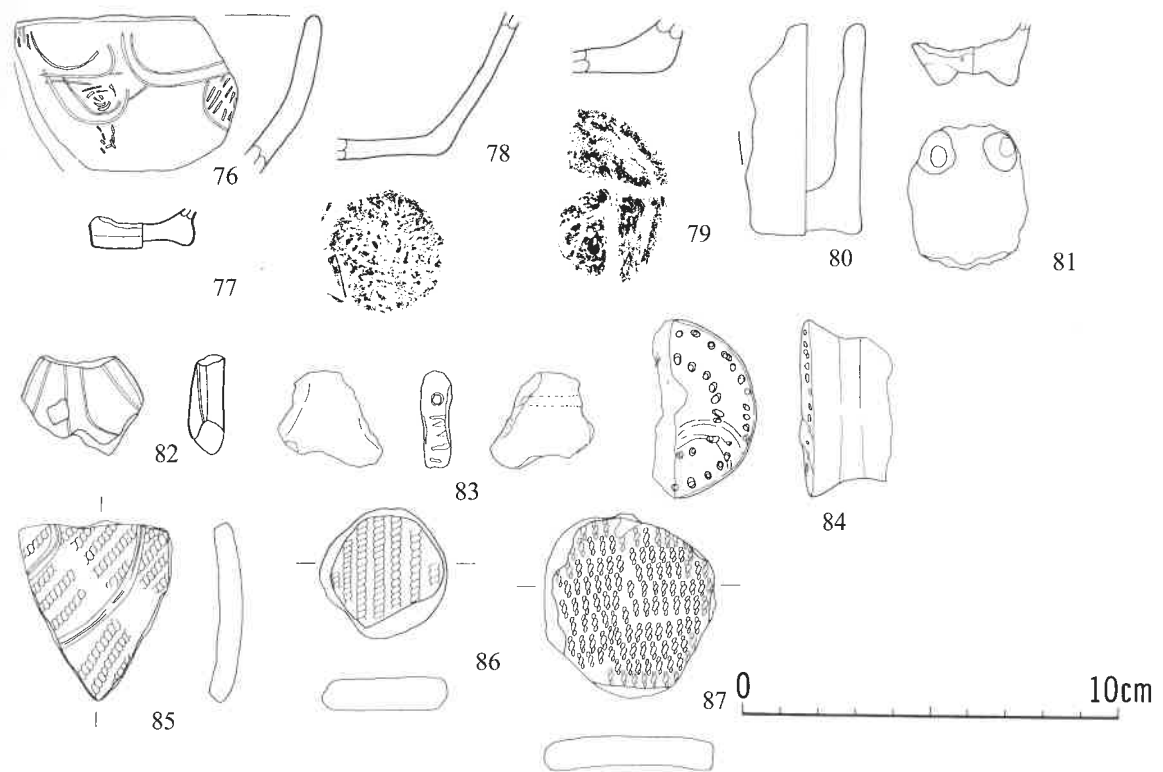
30図 第1次調査区遺構外出土遺物(3)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
66	VIII N-94	II		LR、貼付、刻線		ミガキ		III-10	
67	〃	〃		RL、沈線		ナデ		IV	
68	VIII K-95	〃			R単絡1	ミガキ		IV?	
69	〃	〃			RL	〃		〃	
70	VIII M-95	〃			RL	ナデ	網代痕	〃	
71	〃	〃					〃	〃	

番号	出土地点	種類	器種	法量 (cm)			外面調整			内面調整			底面	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	胴部上半	胴部下半	口縁部	胴部上半	胴部下半			
72	VIII D-95・II	須恵	大甕				口縁部	胴部上半	胴部下半					VIII	
73	VIII L-95・I	〃	〃					格子目叩き						〃	
74	VIII O-96・I	〃	〃					平行叩き						〃	
75	VIII Q-96・II	〃	〃					〃						〃	

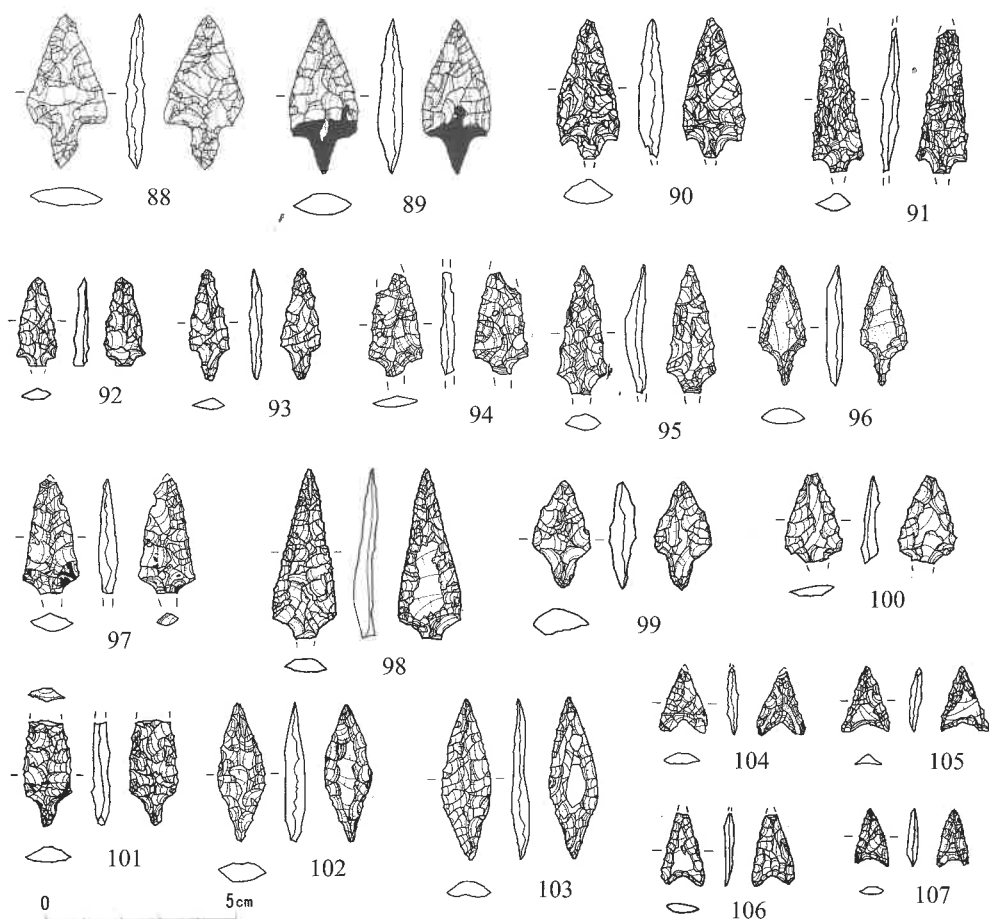
31図 第1次調査区遺構外出土遺物(4)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
76	VIII M-95	II	沈線	沈線		ナデ		ミニチュア	
77	*	*					無文	ク	
78					無文		沈線?	ク	
79							原体押圧	ク	
80	VIII K-95	II			無文		無文	ク	
81	VIII J-96	III					ク	ミニチュア脚付	

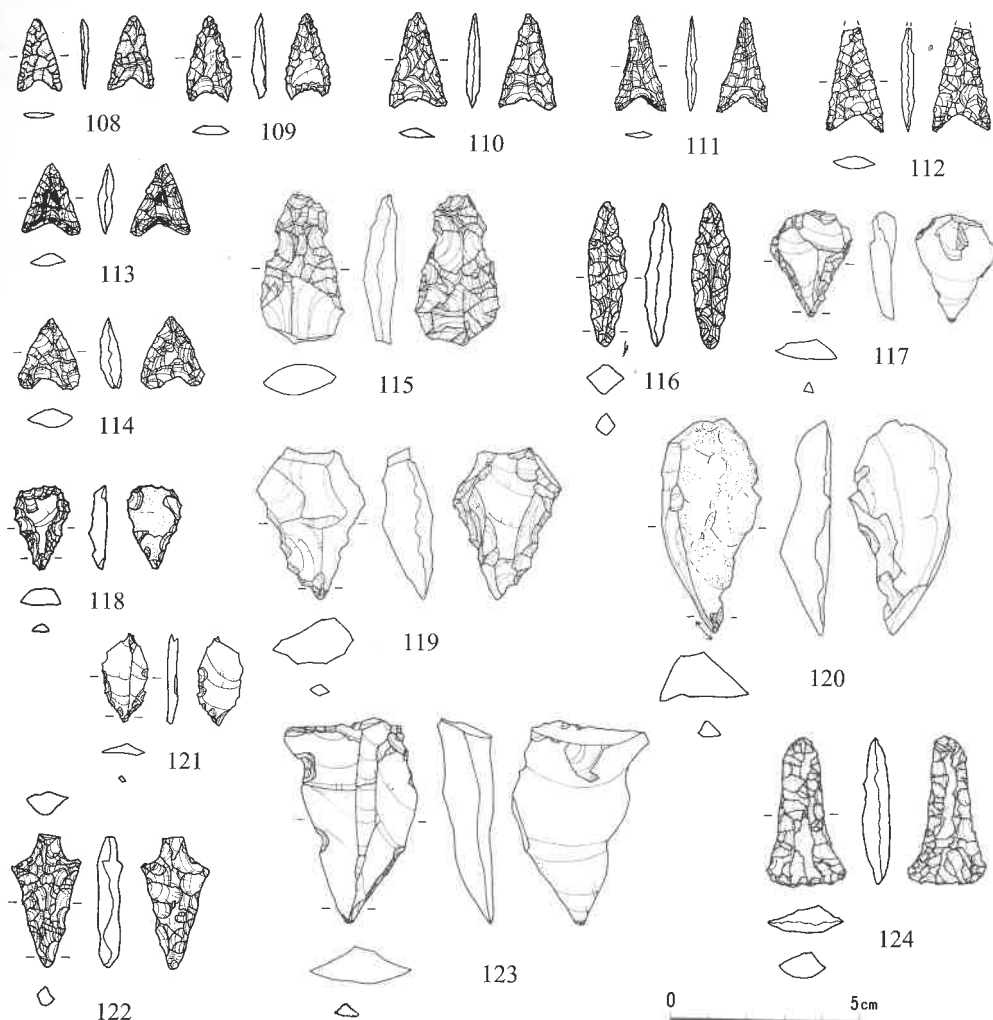
番号	出土地点	層位	計 測 値 (cm)			文 様		種類	備 考
			長さ	幅	厚さ	表面	裏面		
82	VIII L-95	III	(2.5)	(3.4)	0.8	沈線	無文	不明土製品	
83	VIII K-95	II	(2.1)	(2.7)	0.8	無文	無文	有孔土製品	側面に刻み
84	VIII O-95	III	(4.7)	(2.5)	(2.3)	刺突		耳飾	裏面剥落
85	*	II	4.4	4.5	0.6	RL、沈線			土器片利用
86	*	*	3.5	3.4	0.8	L単絡1		円蓋状土製品	ク
87	VIII B-95	I	4.9	4.4	0.6	多軸絡		ク	ク

32図 第1次調査区遺構外出土遺物(5)



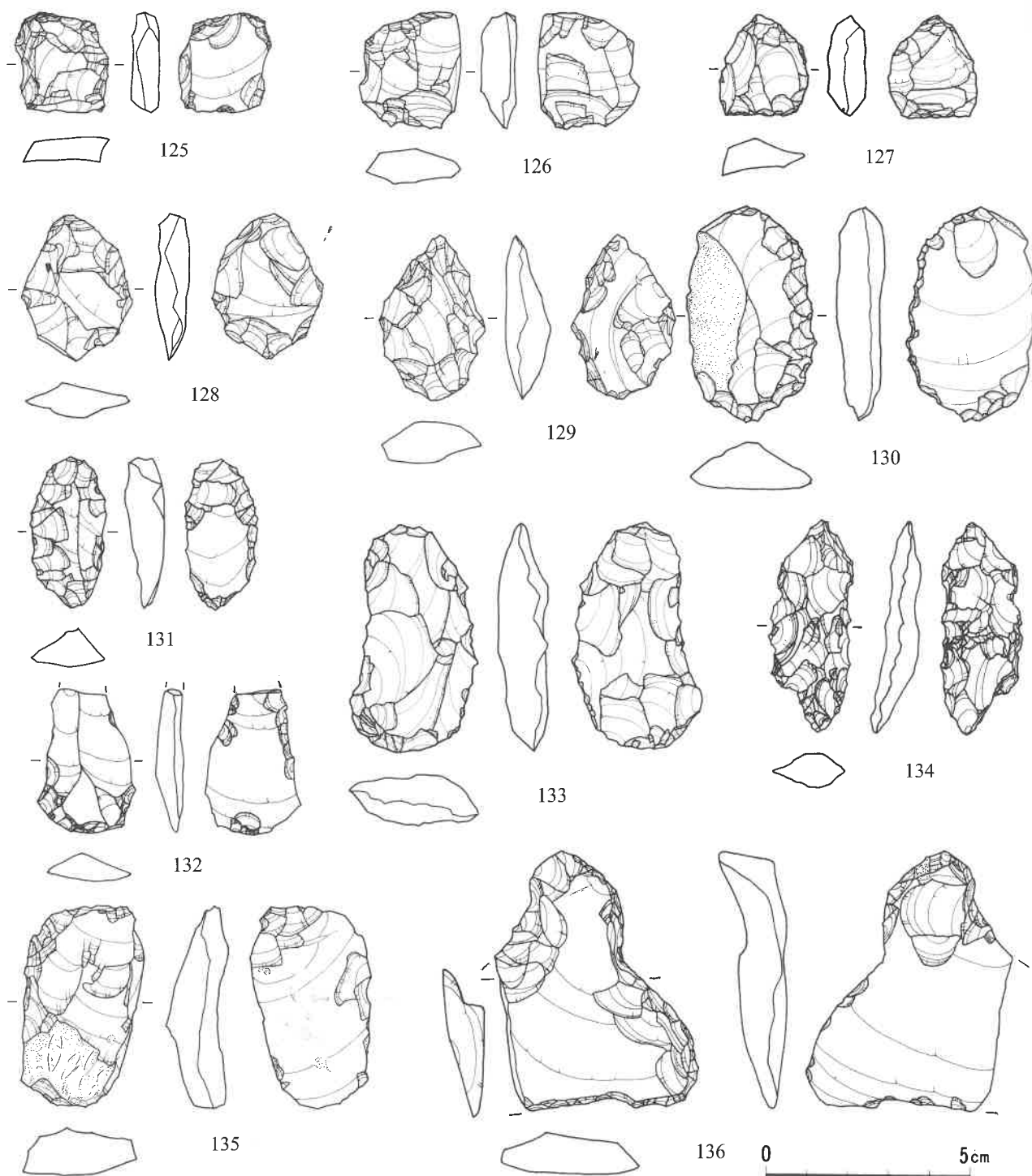
番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
88	VIII E-95	III	40	21	5	2.7	黒	A a		30,086
89	〃	II	41	18	6	3.3	珪頁	〃	アスファルト	30,080
90	VII T-96	〃	36	16	7	3.2	〃	〃		30,077
91	〃	〃	38	13	4	2.0	〃	〃	焼け	30,094
92	VIII G-95	〃	23	11	3	0.9	〃	〃		30,093
93	VIII G-94	〃	29	10	3	0.8	〃	〃		30,095
94	VIII M-95	I	27	14	3	1.5	〃	A b	焼け	30,156
95	VIII G-94	II	33	13	5	1.7	〃	〃		30,160
96	VIII J-96	〃	32	13	4	1.6	〃	〃		30,084
97	VIII P-93	〃	30	15	5	1.9	〃	〃	アスファルト	30,150
98	VIII E-95	〃	45	16	6.5	2.9	〃	〃		30,079
99	VIII G-95	〃	18	15	7	2.1	〃	〃		30,009
100	VIII E-95	III	23	15	4	1.4	〃	〃		30,161
101	VIII L-95	I	27	12	5	1.7	〃	〃		30,075
102	〃	〃	36	12	5	2.0	〃	A c		30,032
103	VIII D-95	II	43	13	5	1.9	〃	〃	焼け	30,163
104	VIII E-95	〃	27	15	3	0.4	黒	A f		30,082
105	〃	〃	20	13	4	0.5	珪頁	〃		30,085
106	VII P-93	〃	19	11	2	0.5	〃	〃		30,152
107	VIII D-95	〃	15	8	3	0.2	〃	〃		30,083

33図 第1次調査区遺構外出土遺物(6)



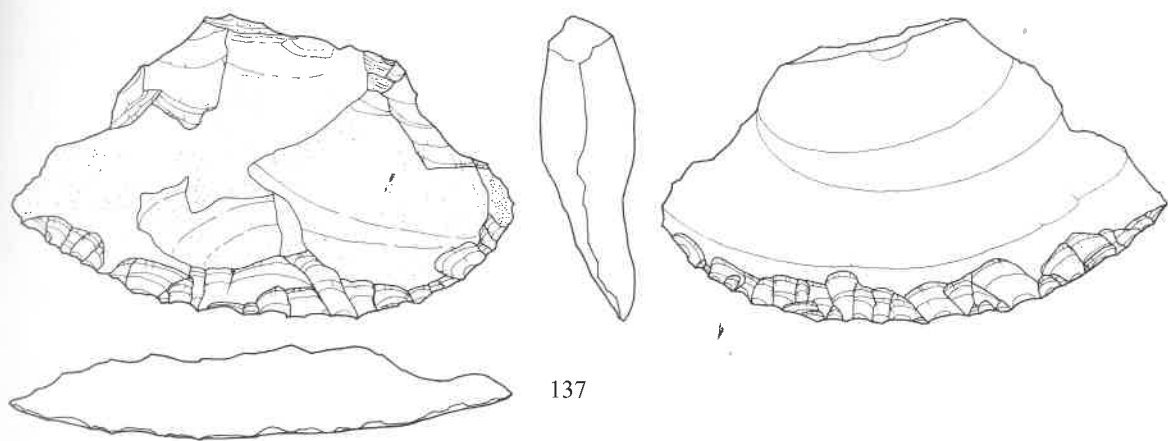
番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
108	VII P-94	I	19	12	2	0.4	珪頁	A f		30,091
109	VII T-96	II	22	12	3	0.8	〃	〃		30,092
110	VIII L-95	I	25	15	3	1.1	〃	〃		30,076
111	VII P-94	〃	25	13	2	0.7	〃	〃	アスファルト	30,096
112	VIII J-96	〃	17	12	4	1.1	〃	〃		30,087
113	VIII J-95	〃	19	15	3	0.6	〃	〃	アスファルト	30,081
114	VIII F-95	II	18	16	6	1.2	黒	〃		30,097
115	VIII J-96	III	40	21	8	6.4	珪頁	C a		30,050
116	VIII F-94	II	38	10	7	2.2	〃	D a		30,089
117	III M-95	III	28	21	6	2.8	〃	D		30,022
118	VIII M-95	〃	22	14	4	1.5	〃	〃		30,159
119	VIII D-95	II	23	12	3	0.7	〃	〃		30,026
120	VII Q-93		40	29	13	11.5	〃	D c		30,188
121	VIII E-95	II	56	26	13	12.6	〃	〃		30,017
122	VIII M-95	〃	34	18	6	2.8	黒	D b	石鏃転用	30,073
123	VIII F-94	〃	53	35	15	16.3	珪頁	D c		30,061
124	〃	〃	39	23	7	4.3	〃	E b		30,070

34図 第1次調査区遺構外出土遺物(7)



番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
125	VIII K-95	II	24	23	7	4.8	珪頁	F		30,058
126	VIII G-94	〃	28	24	9	6.6	〃	〃		30,030
127	VIII E-95	〃	24	21	9	4.9	〃	〃		30,029
128	VIII B-95	I	35	27	8	7.1	〃	G a		30,015
129	VIII M-95	〃	40	27	11	8.7	〃	〃		30,168
130	VIII E-95	II	52	31	11	19.7	〃	〃		30,012
131	VIII J-95	〃	36	18	9	5.7	〃	〃		30,179
132	〃	III	35	23	7	4.7	〃	〃		30,051
133	VII E-94		72	31	12	19.7	〃	〃		30,072
134	VIII L-95	III	26	25	4	1.4	〃	〃		30,074
135	VII F-94		50	29	12	18.9	黒	〃		30,173
136	VIII K-95	III	64	45	17	28.6	珪頁	〃		30,186

35図 第1次調査区遺構外出土遺物(8)



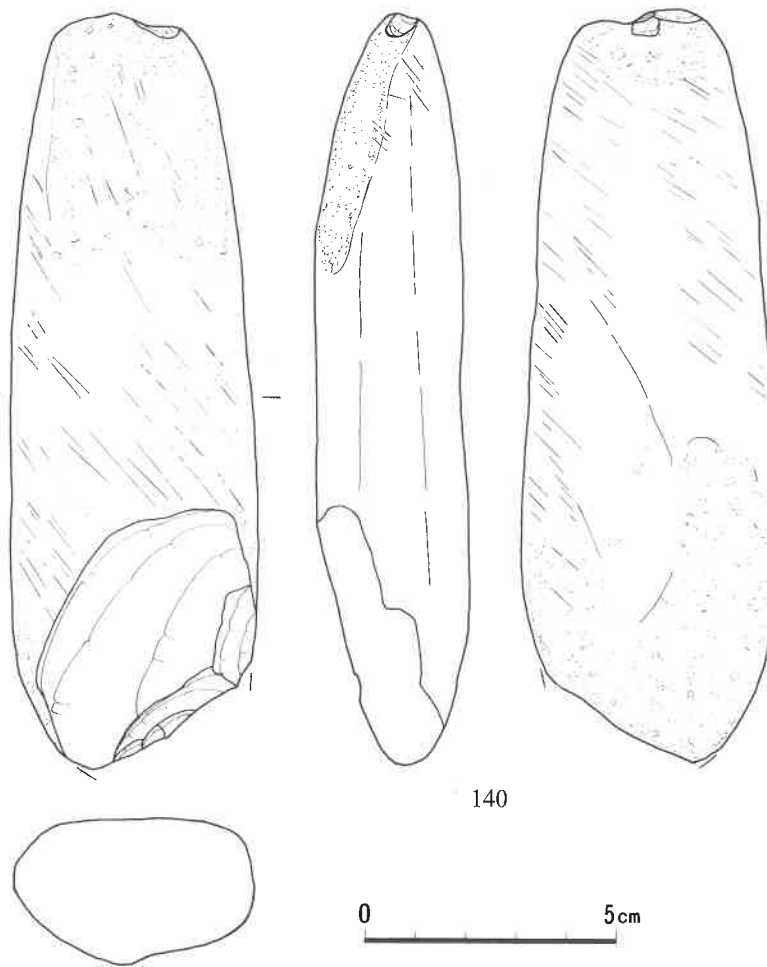
137



138



139

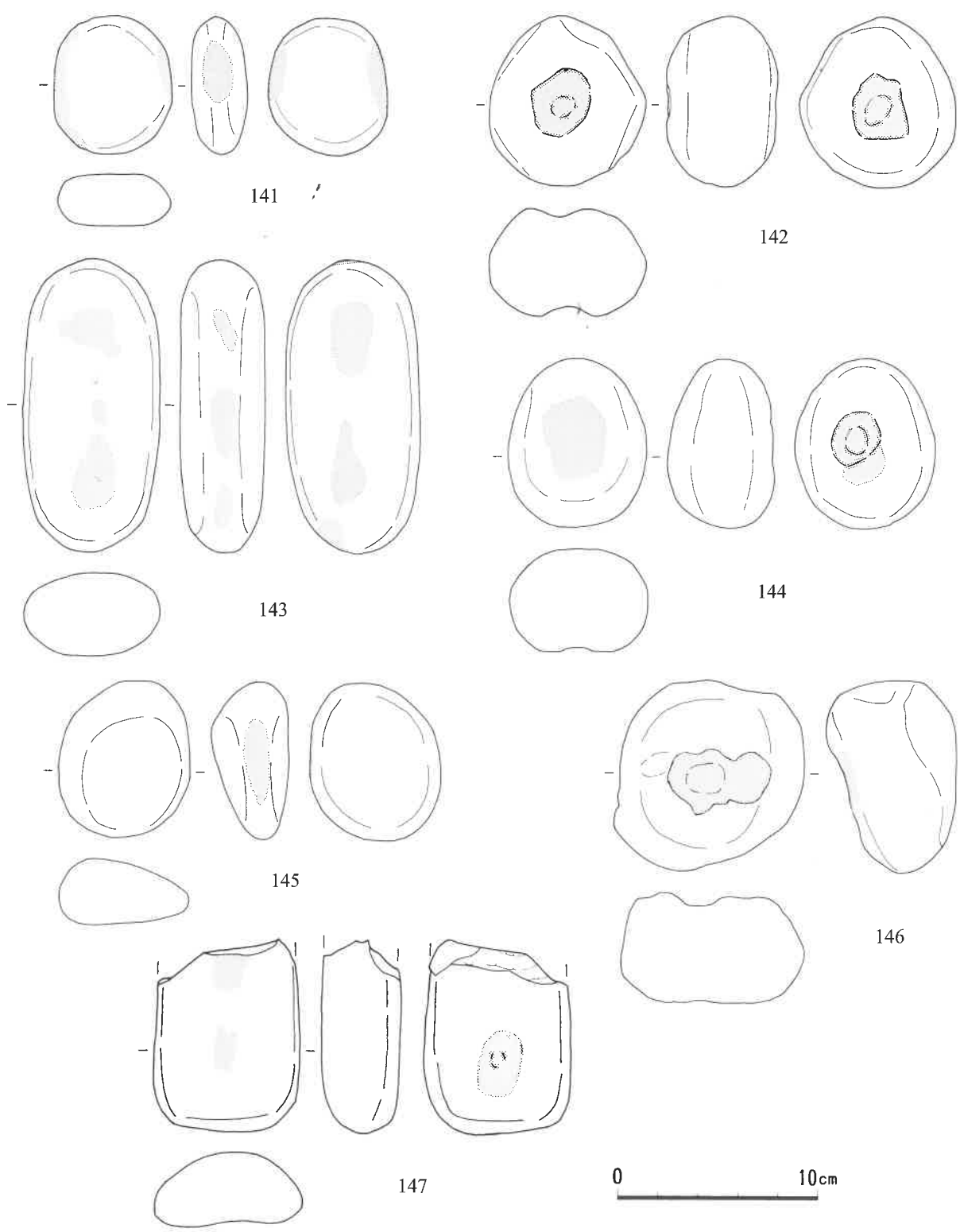


140

0 5cm

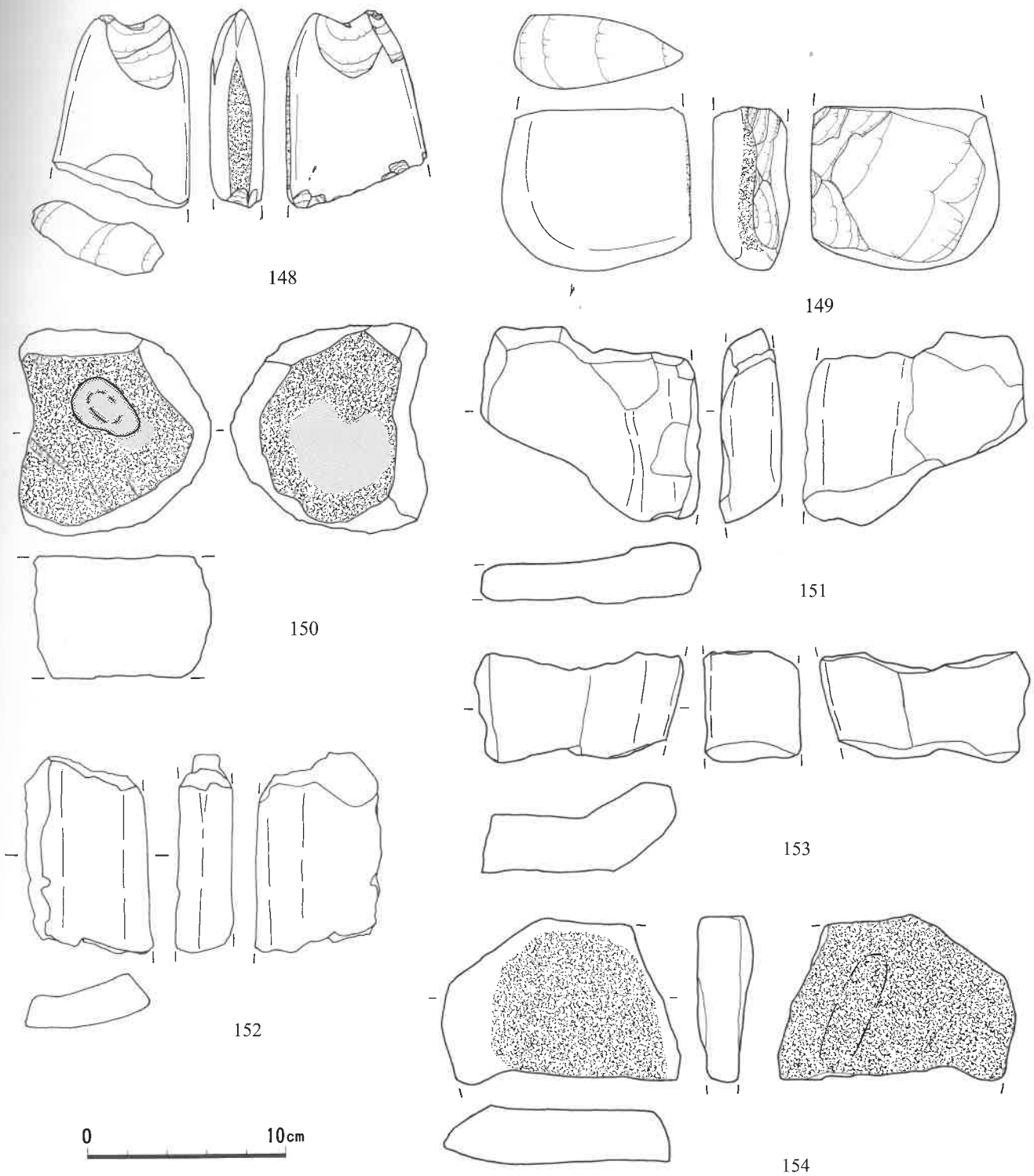
番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
137	VIII M-95	II	60	100	18	74.4	珪頁	G a		30,170
138	VIII D-96	〃	19	34	6	1.7	〃	R		30,067
139	VIII G-95	〃	102	29	13	52.8	緑片	H a	欠損後刃部再生?	30,191
140	VIII M-95	〃	148	50	31	368.5	ホル	〃		30,142

36図 第1次調査区遺構外出土遺物(9)



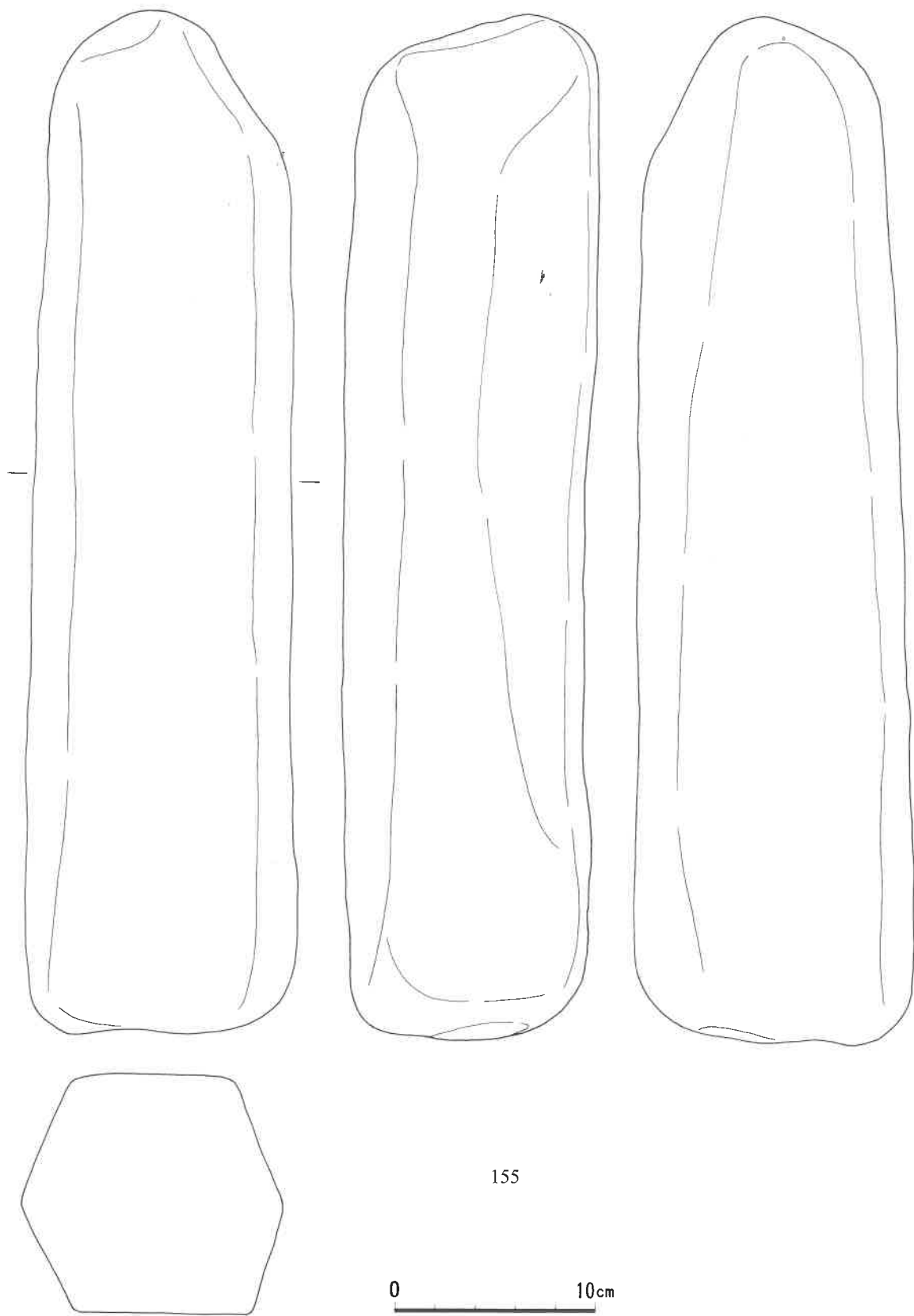
番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
141	VIII K-95	III	69	58	28	166.8	閃	I b	敲打痕	30,107
142	VIII N-95	II	84	78	55	221.3	安	I a	凹	30,217
143	VIII F-94	〃	145	68	42	580.4	凝	I b	敲打痕	30,127
144	VIII F-95	〃	84	53	51	440.8	安	〃	敲打痕	30,101
145	VIII L-95	III	78	65	39	221.3	溶凝	〃	〃	30,209
146	VIII B-95	I	94	94	55	657.8	安	I a	凹+敲打痕	30,214
147	VIII D-95		96	73	40	339.0	凝	I b	敲打痕	30,131

37図 第1次調査区遺構外出土遺物 (10)



番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
148	VIII M-95	I	93	705	27	267.5	安	I c		30,122
149	VIII C-95	III	82	98	39	439.4	凝	J		30,135
150	VIII R-96	〃	104	97	61	812.2	安	L		30,144
151	VIII E-93	I	97	111	31	291.0	凝	〃		30,216
152	VIII G-95	II	98	64	30	156.7	〃	〃		30,218
153	VIII E-96	〃	55	104	45	195.6	〃	〃		30,141
154	VIII F-95	〃	83	119	28	259.4	砂	S		30,138

38図 第1次調査区遺構外出土遺物 (11)

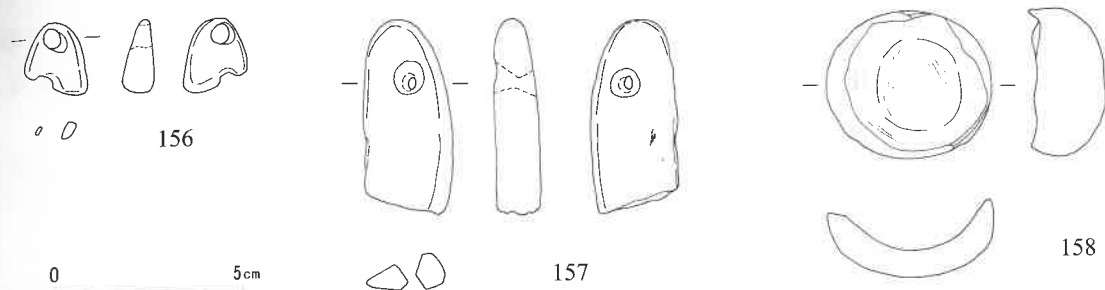


番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
155	VIII D-95	カクラン	510	130	126	13,800	安	M		30,204

39図 第1次調査区遺構外出土遺物(12)

石製品

石製品は3点出土した。玉類が2点、細粒凝灰岩の礫をくり抜いて整形した石製品が1点である。出土地点はいずれも調査区の西側であり縄文時代中期末の遺物や遺構が集中する区域であるので、中期末に帰属する可能性が高い。



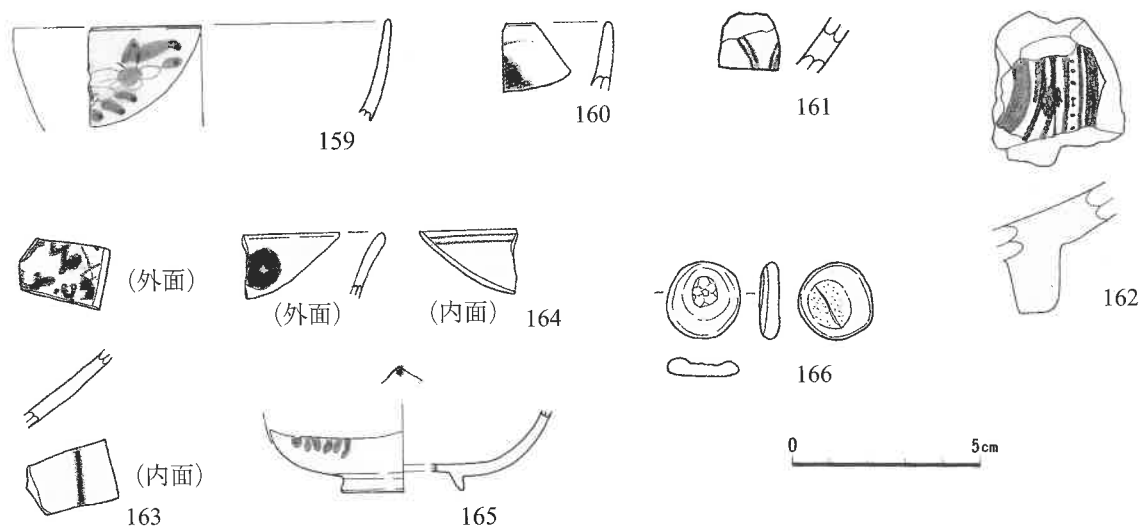
番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
156	VII L-95	I	20	18	8	3.1	蛇紋		玉	2,589
157	VII F-94	II	52	24	12	13.1	細凝		玉	2,587
158	VIII G-94	III	42	46	21	18.3	〃			2,588

40図 第1次調査区遺構外出土遺物(13)

近世～近現代の遺物

江戸時代の陶磁器は8点出土しており6点図示した。図示しなかった2点は肥前IV期の蛇ノ目釉ハギの皿の小片及び、肥前IV期の銅緑釉の皿小片で内野山窯産と考えられるものである。分布状況は調査区の各地区からまとまりなく出土している。他に明治時代以降のものも十数点出土しており、1点(165)図示した。

他にガラス製のおはじきが1点出土している(166)。中央に5枚の花弁をデザインしたものであり、裏面は製作技術上の問題のためか表面に少しざらついた楕円形の部分がある。(齋藤 岳)



番号	出土地点	層位	種別	特徴
159	VII L-95	II層	磁器	碗。肥前IV期か? 復元口径10.0cm
160	VII P-95	III層	〃	碗。外面、梅花文? 肥前IV期
161	VII Q-95	II層	〃	碗。二重網目文IV期
162	VIII F-94	III層	陶器	大皿(大鉢)。内面白化粧土。肥前III~IV期(唐津)
163	VIII B-95	I層	磁器	皿。内面唐草文。肥前IV期か?
164	VII Q-95	II層	〃	碗。焼成不良。肥前系(V期)
165	VIII I-95	〃	〃	碗。明治以降。瀬戸?
166	VIII F-95		おはじき	花卉の意匠。20mm×20mm×5mm。3.2g

41図 第1次調査区遺構外出土遺物(14)

第Ⅳ章 第2次調査

第1節 第2次調査の概要

本調査区は遺跡の北の谷の東側、沖館川に面した台地縁辺に位置する。平成4年度に調査した第7鉄塔調査区域で検出した縄文時代の貯蔵穴群の範囲確認を目的として東側の隣接地点を681㎡調査した。出土遺物はダンボール箱4箱分である。

当初は東西の69・74ラインのトレンチと南北のⅢMラインのトレンチを設定したが、貯蔵穴群をとらえることができず、ⅣE・Fラインのトレンチを設定し調査した。

層位は野球場建設予定地の基本層序と対応するが、第Ⅳ層は確認されなかった。

調査区北西端傾斜面のⅣF-66グリッド付近を除き調査区のほぼ全域が削平をうけているため、ほとんどの遺構は第Ⅴ層及び第Ⅲ層下部（漸移層）で確認することになった。

また、ⅢS・T-74グリッド及びⅢS-68～ⅢT-69グリッドからは直線的な上場を持つ攪乱穴が確認されており、昭和45年に青森市教育委員会が調査した発掘調査区跡の可能性はある。

縄文時代の遺構は土坑を23基検出した。特に調査区西端の第7鉄塔調査区域に隣接する地区で密集している。底径の大きいものや断面がフラスコ状を呈するものが大部分である。また調査区北東の台地崖面付近でも第756・757号土坑を確認したが、同様の特徴を示していた。一方調査区南東部からは、後期初頭の土坑を1基検出した。

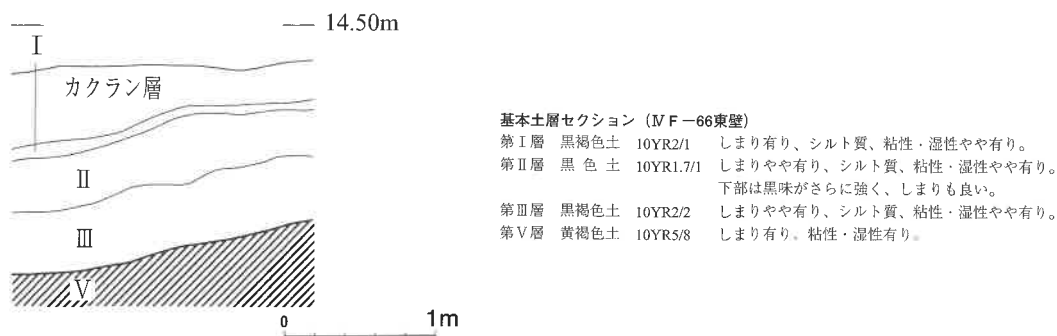
平安時代の遺構は竪穴住居跡10棟、土坑1基、焼土遺構1基、溝跡1条であり、特に調査区中央から東側に分布している。第585号住居跡の確認面からは十和田a火山灰、第216号溝及び第580号住居跡の確認面からは白頭山火山灰と考えられる火山灰が検出されている。

他に時期不明の遺構としては掘立柱建物跡1棟、土坑9基、溝跡3条、柱穴32基を検出した。

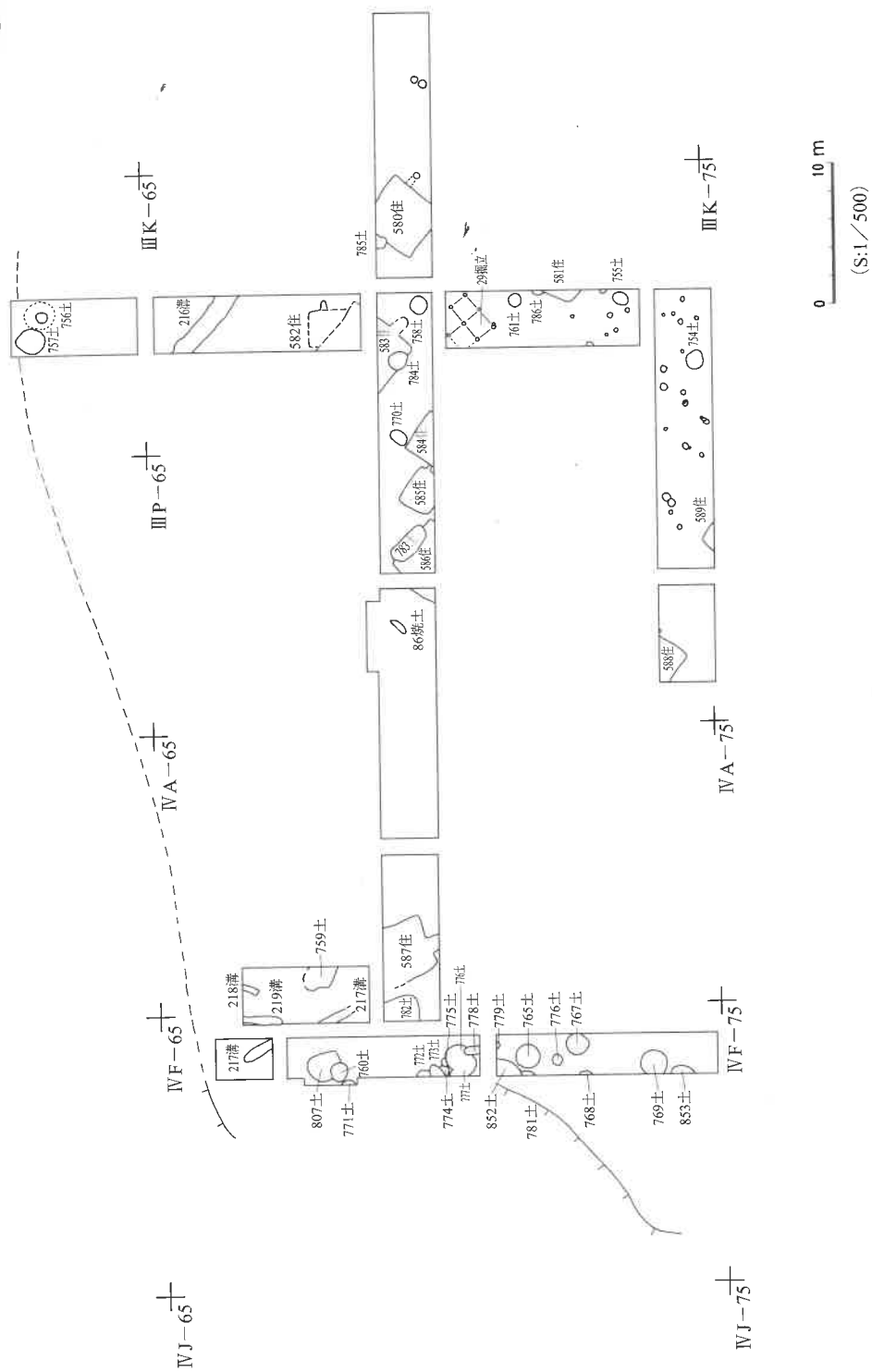
確認遺構のなかから、土坑14基、平安時代住居跡1棟の煙出し孔、焼土遺構1基を半截あるいは完掘し調査した。

遺物分布についてみると縄文時代の遺物の出土は散発的であり、ⅢM-69～74では土器片が1グリッドから十数点～数点出土しており、比較的まとまっている。ⅣFラインからは土坑群が検出されているが、ⅣF-69グリッド以南は削平が第Ⅴ層まで及んでいるためか遺物が全く出土していない。平安時代の遺物はグリッドのⅢK～ⅣEまで69ラインを中心に広い範囲で出土している。

なお、調査区北東の台地崖面付近に位置するⅢM-63グリッドからは十数点縄文土器の細片が出土しているが、台地崖面に位置するⅢM-62グリッドからは遺物が出土していない。一方、削平を免れたⅣF-66グリッド付近の傾斜面においても遺物は出土しておらず、傾斜面における遺物包含層は確認できなかった。



42図 第2次調査区基本土層



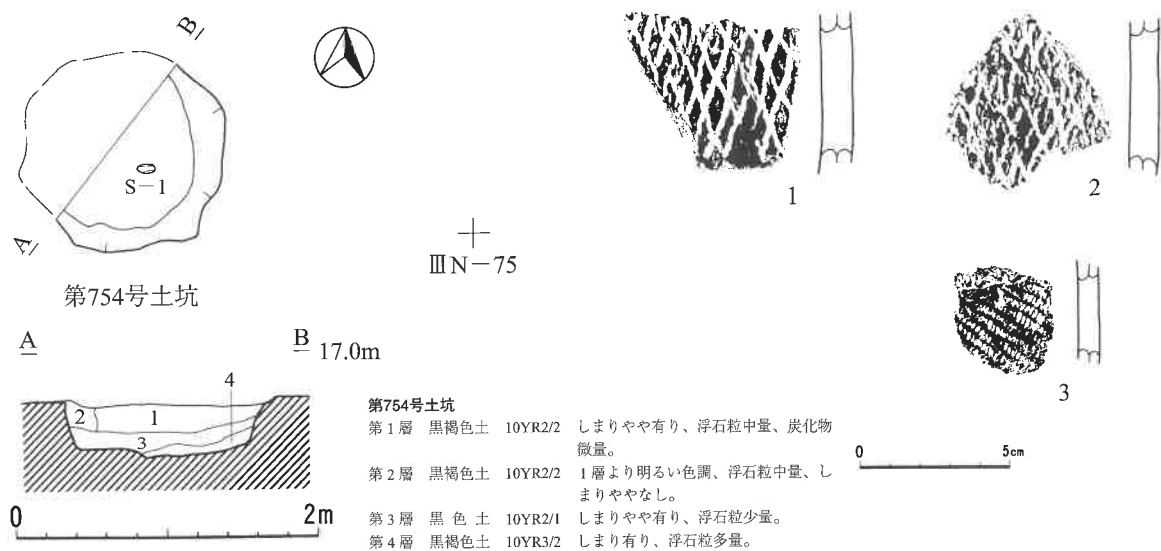
43図 第2次調査区遺構配置図

第2節 検出遺構

縄文時代の遺構

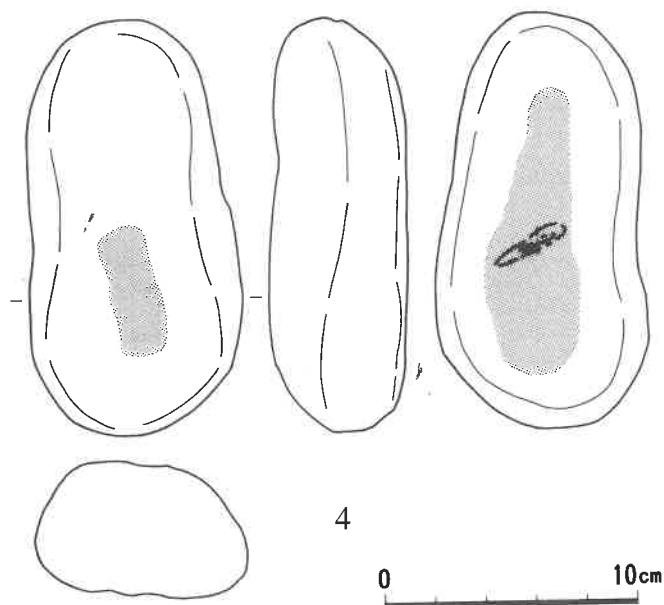
第754号土坑 (44図・写真13)

- [位置と確認] ⅢN-74に位置する。第Ⅲ層中で円形の落ち込みを確認し、半載した。
- [重 複] なし。
- [平面形・規模] 不整な円形を呈する。開口部は長軸136cm、短軸135cm、深さ38cmである。
- [壁・底面] 壁は、ほぼ垂直に立ちあがる。底面には凹凸がある。
- [堆 積 土] 4層に区分した。黒褐色土を主体とする。自然堆積と考えられる。
- [出土遺物] 堆積土から縄文時代中期末葉の土器片1点と後期初頭の網目状撚糸文の土器片が2点出土し、底面から敲磨器類が1点出土した。
- [時 期] 出土土器から縄文時代後期初頭と考えられる。



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	754土	堆積土		網目状撚糸文		ナデ		Ⅳ	
2	〃	〃		〃		〃		〃	
3	〃	〃		RL		ミガキ		Ⅲ-11	

44図 第754号土坑



番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
4	754土	坑底	107	84	66	675.8	凝	Ib	S-1	30,114

45図 第754号土坑出土遺物

第756号土坑 (46図・写真13)

[位置と確認] ⅢM-62・63に位置する。付近は第Ⅲ層下部まで削平を受けており、第Ⅰ層を除去した時に楕円形の落ち込みを確認した。

[調査] 袋状土坑であり、崩落が懸念されるため土層セクション図とエレベーション図作成に必要な範囲のみを調査した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 開口部は長軸86cm、短軸72cmの楕円形を呈する。底面は長軸218cm、短軸190cmの楕円形である。深さは112cmである。

[壁・底面] 壁の断面はフラスコ状であり、底面は平坦である。

[堆積土] 14層に分層した。ロームブロックを主体とした層と黒褐色土層が重なりあい、人為堆積と考えられる。

[出土遺物] なし。

[時期] 土坑の形状、堆積土、位置関係等から縄文時代と考えられる。

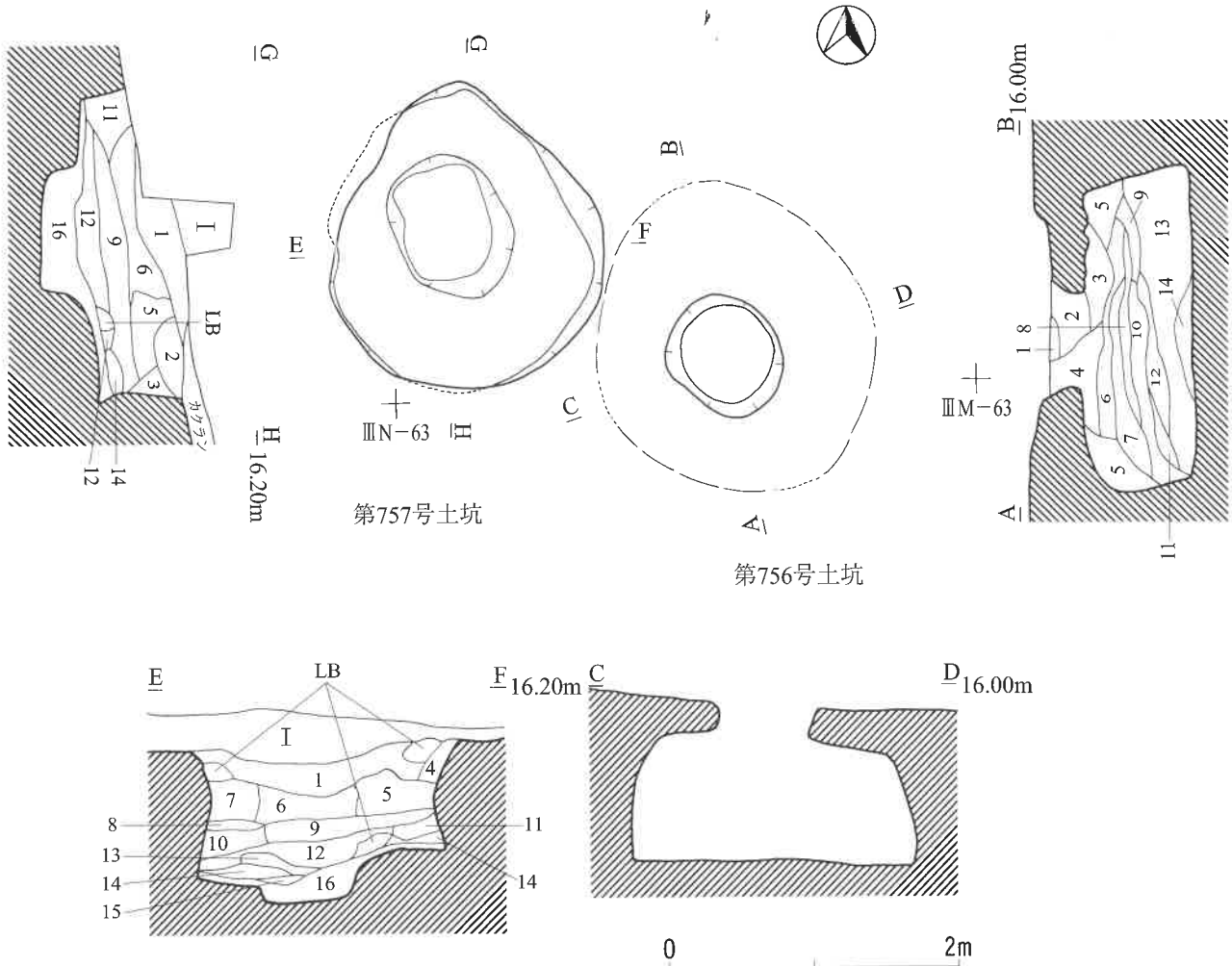
第757号土坑 (46図・写真13)

[位置と確認] ⅢM・N-62・63の沖館川に面した崖面上に位置する。付近は第Ⅲ層下部まで削平を受けており、第Ⅰ層を除去した時に楕円形の落ち込みを確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 洋梨形を呈する。開口部は長軸210cm、短軸184cmであり、底面は長軸208cm、短軸174cm、深さ109cmである。

- [壁・底面] 壁は下部が横方向に入り込み、中央部で屈曲し、上部が開く形である。底面中央には長軸104cm、短軸80cm、深さ24cmのピットが伴う。
- [堆積土] 16層に分層した。黒褐色土を主体とするがロームブロックや褐色土層を含んでおり人為堆積と考えられる。
- [出土遺物] 敲磨器類が1点、石刀破片が1点出土した。
- [時期] 出土遺物から縄文時代と考えられる。



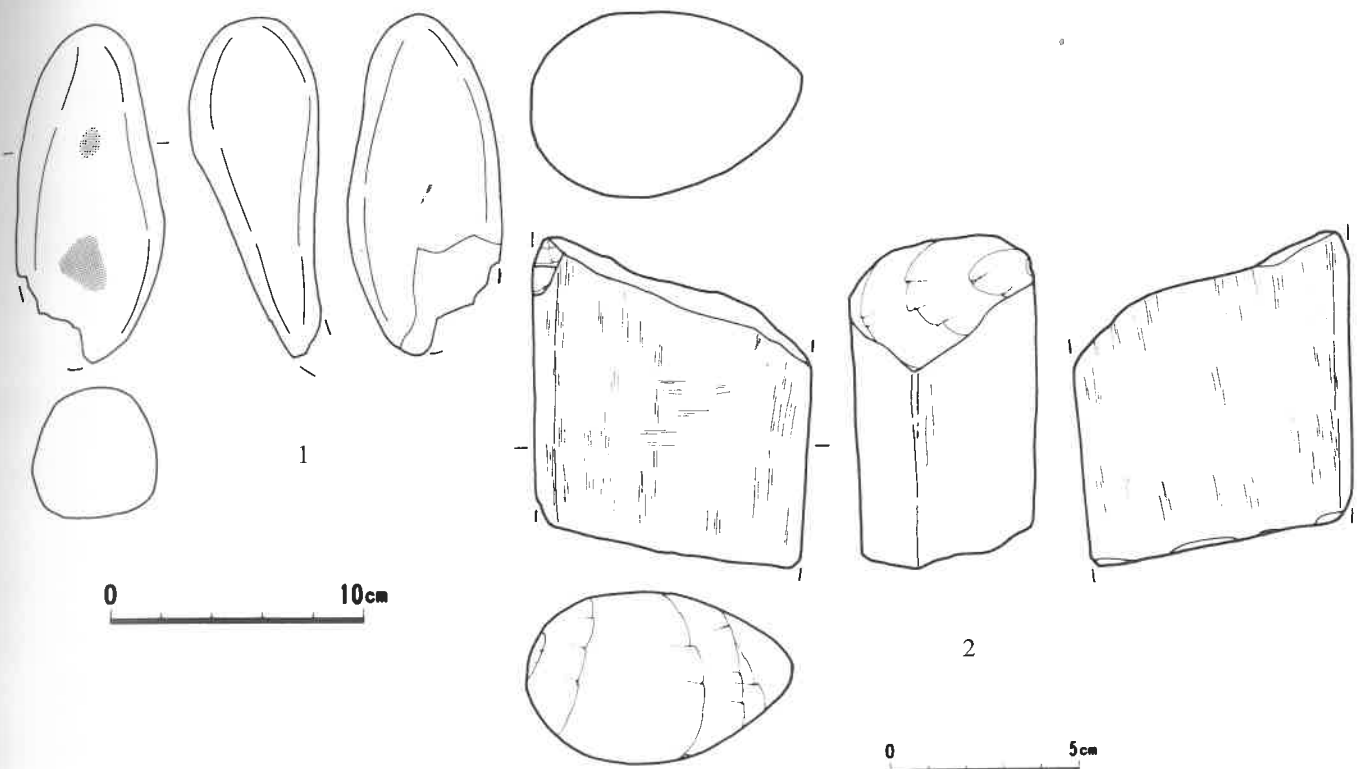
第757号土坑

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 しまりやや有り、浮石粒少量。
- 第2層 褐色土 10YR4/6 しまりなし、浮石粒少量、L.B.含む。
- 第3層 明褐色土 7.5YR5/6 L.B.を主体とした層、細砂及び粗砂含む、しまり弱い。
- 第4層 明褐色土 7.5YR5/6 L.B.を主体とした層、しまり有り。
- 第5層 黄褐色土 10YR5/8 L.B.を主体とした層、細砂及び粗砂を含む。
- 第6層 暗褐色土 10YR3/4 しまり有り、浮石粒を多量に含む、炭化物粒微量。
- 第7層 褐色土 10YR4/6 しまり有り、L.B.を含む。
- 第8層 黄褐色土 10YR5/8 L.B.を主体とした層。
- 第9層 黒褐色土 10YR2/2 しまり有り、浮石粒少量。
- 第10層 暗褐色土 10YR3/4 しまりなし、浮石粒少量。
- 第11層 明褐色土 7.5YR5/6 10YR3/4 (暗褐色土)が入りまじる、しまりなし。
- 第12層 黒褐色土 10YR2/2 しまりやや有り、浮石粒少量、L.B.少量。
- 第13層 明褐色土 7.5YR5/6 L.B.を主体とした層、しまり有り。
- 第14層 明褐色土 7.5YR5/6 L.B.を主体とした層、しまりなし。
- 第15層 暗褐色土 10YR3/4 しまりなし、浮石粒少量。
- 第16層 明褐色土 10YR5/6 しまり有るが、地山よりやわらかい。

第756号土坑

- 第1層 黒色土 10YR2/1 しまりやや有り、浮石粒・ローム粒微量。
- 第2層 黒色土 10YR2/1 しまりやや有り、浮石粒・ローム粒微量。
- 第3層 黄褐色土 10YR5/6 しまりやや有り、浮石粒少量・L.B.中量。
- 第4層 黒色土 7.5YR2/1 しまりやや有り、浮石粒・L.B.多量。
- 第5層 褐色土 10YR4/6 L.B.を主体とした層、しまりやや有り。
- 第6層 黒色土 7.5YR2/1 しまりなし、浮石粒微量、L.B.含む。
- 第7層 黒色土 7.5YR2/1 しまりなし、浮石粒微量、ローム粒微量。
- 第8層 褐色土 10YR4/4 しまり有り、L.B.少量。
- 第9層 黒褐色土 10YR3/2 L.B. (10YR6/6)が入りまじる。しまりやや有り。
- 第10層 黒色土 7.5YR2/1 しまりなし、L.B.少量混入。
- 第11層 暗褐色土 10YR3/3 しまりなし。
- 第12層 黄褐色土 10YR5/6 しまりなし、L.B.主体の層。
- 第13層 黄褐色土 10YR5/6 しまりやや有り、L.B.主体の層。
- 第14層 黄褐色土 10YR2/3 しまりやや有り、L.B.を含む。

46図 第756・757号土坑



番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
1	757土	堆積土	144	61	52	438.9	安	Ib	欠損後焼け	30,113
2	〃	〃	87	73	49	425.2	安		石刀	2,591

47図 第757号土坑出土遺物

第759号土坑 (48図・写真13)

[位置と確認] IV E-67・68に位置する。第Ⅲ層下部で楕円形の落ち込み確認し、半截した。

[重複] なし。

[平面形・規模] トレンチ外まで広がるため全体の形は不明であるが不整な円形もしくは楕円形と推定される。攪乱をうけているが開口部の推定短軸は220cmである。深さは50cmである。

[壁・底面] 壁は垂直に立ち上がり、底面には若干の凹凸がある。

[堆積土] 攪乱をうけていない部分を7層に区分した。褐色土を主体とすることから人為堆積である可能性が高い。

[出土遺物] なし。

[時期] 確認層位及び位置関係等から縄文時代と考えられる。

第760号土坑 (48図・写真13)

[位置と確認] IV F・G-68に位置する。付近は第Ⅴ層上面から第Ⅲ層下部まで削平をうけており、第Ⅰ層を除去した時に円形の落ち込みを確認し、半截した。

[重複] 第807号土坑と重複し、本土坑が新しい。

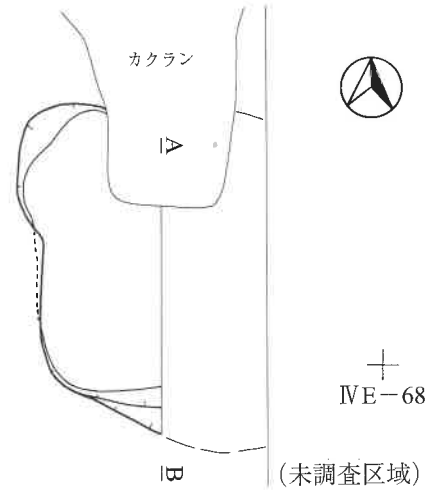
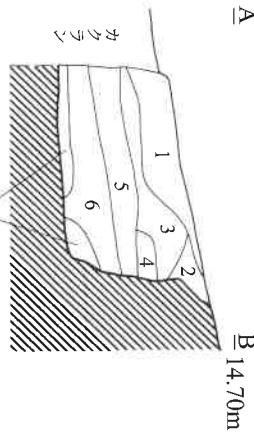
- [平面形・規模] 円形を呈する。開口部で長軸138cm、短軸138cm、深さ40cmである。
- [壁・底面] 壁は緩やかな湾曲を持ちながら立ち上がる。底面は北側に傾斜する。
- [堆積土] 7層に区分した。ロームブロックを含み、堆積状態にも乱れがあり、人為堆積と考えられる。
- [出土遺物] 縄文土器片が4点出土したが、いずれも無文であり時期不明である。
- [時期] 出土遺物等から縄文時代と考えられる。

第807号土坑 (48図・写真13)

- [位置と確認] IV F・G-67・68に位置する。付近は第Ⅲ層下部まで削平をうけており、第Ⅰ層を除去した時に楕円形の落ち込みを確認し半截した。
- [重複] 第760号土坑と重複し、本土坑が古い。
- [平面形・規模] 隅丸長方形を呈する。開口部で長軸236cm、短軸198cm、深さ59cmである。
- [壁・底面] 壁は垂直に立ち上がり、底面は平坦である。中央部に直径13cm、深さ48cmの円形のピットが、北端に直径42cm、深さ24cmの円形のピットがあり、両者を幅16cm、深さ4～6cmの溝が結んでいる。
- [堆積土] 8層に区分した。ロームブロックを含み黄褐色土を主体とすることから、人為堆積である可能性が高い。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 第760号土坑との重複関係等から縄文時代と考えられる。

第759号土坑

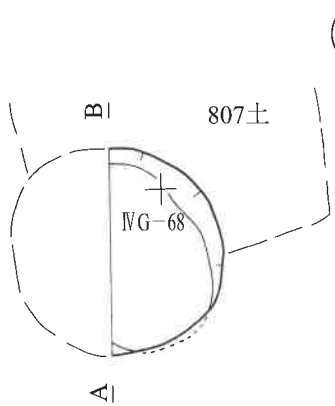
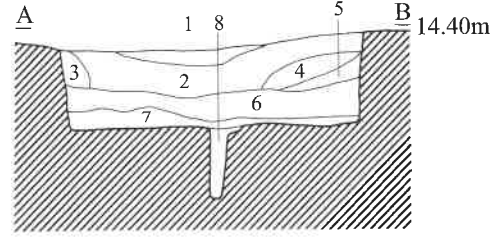
- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 しまり有り、炭化物、浮石粒微量。
- 第2層 暗褐色土 10YR3/4 しまりやや有り、浮石粒少量。
- 第3層 褐色土 10YR4/4 しまり有り、炭化物微量。
- 第4層 褐色土 10YR4/6 しまり有り、浮石粒少量、L.B.中量。
- 第5層 褐色土 10YR4/6 しまりやや有り、浮石粒少量、炭化物微量、L.B.少量。
- 第6層 褐色土 10YR4/6 しまりなし、他は5層と同一。
- 第7層 褐色土 10YR4/6 しまりなし、L.B.多量。



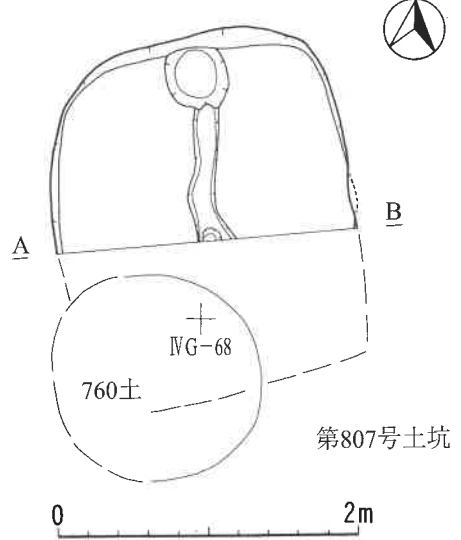
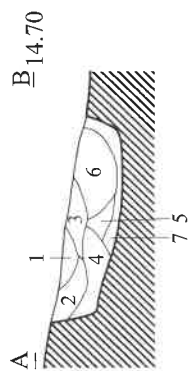
第759号土坑

第807号土坑

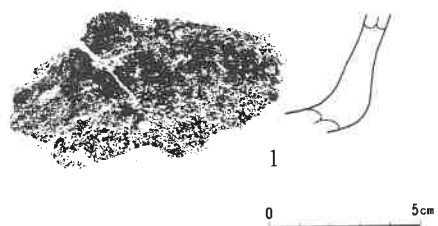
- 第1層 黄褐色土 10YR5/8 暗褐色土少量、L.B.、浮石粒微量、炭化物ごく微量。
- 第2層 黄褐色土 10YR5/6 暗褐色土微量、浮石粒微量、白色粘土少量、炭化物微量。
- 第3層 黄褐色土 10YR5/6 炭化物微量、浮石粒微量。
- 第4層 黄褐色土 10YR5/6 白色粘土少量、浮石粒微量、炭化物ごく微量。
- 第5層 黄褐色土 10YR5/6 白色粘土微量、浮石粒微量、炭化物ごく微量。
- 第6層 黄褐色土 10YR5/6 暗褐色土微量、浮石粒微量、炭化物ごく微量。
- 第7層 褐色土 10YR4/6 白色粘土中量、黒色土微量、浮石粒微量、炭化物ごく微量。
- 第8層 褐色土 10YR4/4 白色粘土中量、浮石粒微量、炭化物ごく微量。



第760号土坑



第807号土坑



第760号土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 しまり有り、炭化物・浮石粒微量。
- 第2層 黒色土 10YR2/1 しまり有り。
- 第3層 黒褐色土 10YR3/2 しまり有り、炭化物・浮石粒微量。
- 第4層 褐色土 10YR4/4 しまりなし、L.B.中量。
- 第5層 濃い黄褐色土 10YR4/3 しまりやや有り。
- 第6層 暗褐色土 10YR3/3 しまり有り、炭化物・浮石粒微量、L.B.中量。
- 第7層 濃い黄褐色土 10YR4/3 しまりやや有り、炭化物・焼土粒微量、L.B.中量。

番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	760土	堆積土				ナデ	無文		

48図 第759・760・807号土坑

第765号土坑 (49図・写真14)

- [位置と確認] IV F・G-71に位置する。付近は第V層まで削平を受けており、第I層を除去した時に円形の落ち込みを確認し半截した。
- [重 複] なし。
- [平面形・規模] 円形を呈する。開口部は長軸180cm、短軸170cmであり、底部は南東に入り込むので長軸が193cmとなる。深さは29cmである。
- [壁・底面] 北西側では壁は垂直に立ち上がるが、南東側では袋状を呈する。底面は平坦である。
- [堆 積 土] 13層に区分した。北西側ではロームブロックを主体としているが、南東側では褐色土を主体とする。堆積状況から人為堆積であると考えられる。
- [出土遺物] なし。
- [時 期] 土坑の形状、堆積土、位置関係等から縄文時代と考えられる。

第766号土坑 (49図・写真14)

- [位置と確認] IV F・G-71・72に位置する。付近は第V層まで削平を受けており、第I層を除去した時に円形の落ち込みを確認し半截した。
- [重 複] なし。
- [平面形・規模] 円形を呈する。開口部で長軸74cm、短軸72cm、深さ93cmである。
- [壁・底面] 壁の断面形は、袋状である。底面は平坦である。
- [堆 積 土] 14層に区分した。黒褐色土を基調とするが、特に下層においてはローム・白色粘土を多量に含んでおり人為堆積と考えられる。
- [出土遺物] なし。
- [時 期] 土坑の形状、堆積土、位置関係等から縄文時代と考えられる。

第767号土坑 (49図・写真14)

- [位置と確認] IV F-72に位置する。付近は第V層まで削平を受けており、第I層を除去した時に円形の落ち込みを確認し半截した。
- [重 複] なし。
- [平面形・規模] 円形を呈する。開口部で長軸160cm、短軸158cm、深さ20cmである。
- [壁・底面] 北西側では壁は垂直に立ち上がるが、南東側では袋状を呈する。底面は平坦である。
- [堆 積 土] 6層に区分した。にぶい黄褐色土を基調とするが、ローム粒を多量に含む。堆積土からみて人為堆積の可能性があると考えられる。
- [出土遺物] なし。
- [時 期] 土坑の形状、堆積土、位置関係等から縄文時代と考えられる。

第769号土坑 (49図・写真14)

- [位置と確認] IV F・G-73に位置する。付近は第V層まで削平を受けており、第I層を除去した時に円形の落ち込みを確認し半截した。
- [重 複] なし。
- [平面形・規模] 楕円形と考えられる。開口部で長軸192cm、深さ87cmである。調査区域外まで遺構

が伸びるため短軸は不明である。

- [壁・底面] 壁は下部が横方向に入り込み、中央部で屈曲し、上部が開く形である。底面は平坦であり、直径26cm、深さ18cmのピットが1基中央部北よりに付属している。ピットに向かって幅7cm、深さ2cmの小溝が2条検出された。南側にも1条幅6cm、深さ2cmの小溝が検出されている。
- [堆積土] 22層に区分した。黒褐色土及びにぶい黄褐色土を基調とするが、ロームブロックや白色粘土を含んでおり人為堆積と考えられる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 土坑の形状、堆積土、位置関係等から縄文時代と考えられる。

平安時代の遺構

第580号住居跡 (50図・写真15)

- [位置と確認] III K・L-69・70に位置する。付近は第Ⅲ層下部まで削平を受けており、第Ⅰ層を除去した時に方形の落ち込み及び煙出し孔内の土器を確認し、煙出し孔部分のみ調査した。
- [重複] 第785号土坑と重複し、本住居跡が古い。
- [平面形・規模] 南東壁及び北西壁が約4.6m、北東壁及び南西壁が約4.1mの方形を呈する。南東壁から約1m離れて煙出し孔を持つ。主軸方位はN-50°-Wである。
- [堆積土] 確認面の堆積土は黒褐色土を主体としており、白頭山火山灰と考えられる黄褐色の火山灰を検出した。
- [煙出し孔] 煙道は地下式であり煙出し孔の上部から甕を1個体分出土した。甕は器高32.3cm、口径22.6cmであり、二つの大破片にわかれて重なりあっていた。甕の上下では焼土を検出した。煙出し孔は開口部で長軸45cm短軸39cm、深さ46cmである。

第758号土坑 (51図・写真15)

- [位置と確認] III M-69・70に位置する。平安時代の住居跡群の分布域に位置する。第Ⅲ層下部まで削平を受けており、第Ⅰ層を除去した時に円形の落ち込みを確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 円形を呈する。開口部は長軸140cm、短軸132cm、深さ39cmである。
- [壁・底面] 壁は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。
- [堆積土] 6層に区分した。層全体にロームブロックを含んでおり人為堆積の可能性がある。
- [出土遺物] 堆積土から土師器片が出土した。
- [時期] 出土遺物から平安時代と考えられる。

第86号焼土遺構 (51図・写真15)

- [位置と確認] III S-69に位置する。付近は第Ⅲ層下部まで削平を受けており、第Ⅰ層を除去した時に長軸325cm、短軸285cmの不整円形の落ち込みと落ち込み中の焼土を確認した。
- [遺構の形成] 調査の結果、落ち込みは風倒木痕と確認され、風倒木によって生じた穴に、土師器や須恵器が廃棄され、焼土遺構が形成された後埋没したと判断された。なお第5層

からは十和田 a 火山灰と考えられる灰白色の火山灰が検出されている。

第 3 層が焼土層であるが、焼土に汚れが少ないこと、直下の第 4 層（黒褐色土）はいくぶん紫がかっており、熱を受けた可能性が考えられることから焼土は廃棄ではなくこの場所で形成されたものと考えられる。

- [重 複] なし。
- [平面形・規模] 長さは145cmで最大幅が44cmである。
- [出土遺物] 焼土遺構そのものからは遺物の出土はないが、上下の層から土師器及び須恵器片が出土している。遺物はいずれも火山灰を含む第 5 層及びその上位から検出されており土師器坏の準完形品や大破片が出土している。3 は土師器坏であるが器表面に剥落がみられる。6 は須恵器の壺の底部付近であるが第 2 層出土の破片と遺構外のⅢ R-69、Ⅲ M-69グリッド出土の底部破片と接合した。6 を構成する全破片は二次焼成を受け表面が剥落している。
- [時 期] 出土遺物から平安時代と考えられる。

第216号溝

- [位置と確認] Ⅲ M・N-65・66に位置する。付近は第Ⅲ層下部まで削平をうけており、第Ⅰ層を除去した時に北西から南東方向に伸びる落ち込みを確認した。
- [調 査] 調査は確認のみのため、確認面から出土した遺物についてのみ図示する。
- [重 複] なし。
- [平面形・規模] 幅は約1.1～1.4mである。
- [堆 積 土] 確認面の堆積土は黒褐色土を主体としており、白頭山火山灰と考えられる黄褐色の火山灰を検出した。
- [出土遺物] 土師器甕の口縁部が確認面から出土している。遺物のみ図示した。
- [時 期] 出土遺物から平安時代と判断される。

時期不明の遺構

第755号土坑 (53図・写真16)

- [位置と確認] Ⅲ M-73に位置する。第Ⅲ層下部まで削平を受けた区域に位置し、第Ⅰ層を除去した時に楕円形の落ち込みを確認した。
- [重 複] なし。
- [平面形・規模] 楕円形を呈する。開口部で長軸114cm、短軸92cmであり、底面で長軸90cm、短軸76cmである。深さは30cmである。
- [壁・底面] 壁は外傾して立ちあがる。底面はほぼ平坦である。
- [堆 積 土] 3層に区分した。黒褐色土を主体とし、層全体に炭化物粒を微量～少量含む。自然堆積と考えられる。
- [出土遺物] なし。
- [時 期] 不明である。

第761号土坑 (53図・写真16)

- [位置と確認] ⅢM-71に位置する。付近は第Ⅲ層下部まで削平をうけており、第Ⅰ層を除去した時に円形の落ち込みを確認し半截した。
- [重 複] なし。
- [平面形・規模] 不整形円形を呈する。開口部は長軸112cm、短軸98cmであり、底面は長軸104cm、短軸80cmである。深さは13cmである。
- [壁・底面] 壁は垂直に立ち上がり、底面は凹凸がある。
- [堆 積 土] 3層に区分した。黒色土を基調とするが上部に焼土粒子を大量に含んでおり人為堆積の可能性はある。
- [出土遺物] なし。
- [時 期] 不明である。

第770号土坑 (53図・写真16)

- [位置と確認] ⅢO-69に位置する。付近は第Ⅲ層下部まで削平をうけており、第Ⅰ層を除去した時に楕円形の落ち込みを確認し半截した。
- [重 複] なし。
- [平面形・規模] 楕円形を呈する。長軸138cm、短軸88cm、深さ20cmである。
- [壁・底面] 壁は北東側ではゆるやかに立ち上がるが、南西側では垂直に立ち上がる。底面は凹凸がある。
- [堆 積 土] 6層に区分した。黒褐色土を主体とするが上部は浅黄橙色の粘土となっており、人為堆積と考えられる。
- [出土遺物] なし。
- [時 期] 不明である。

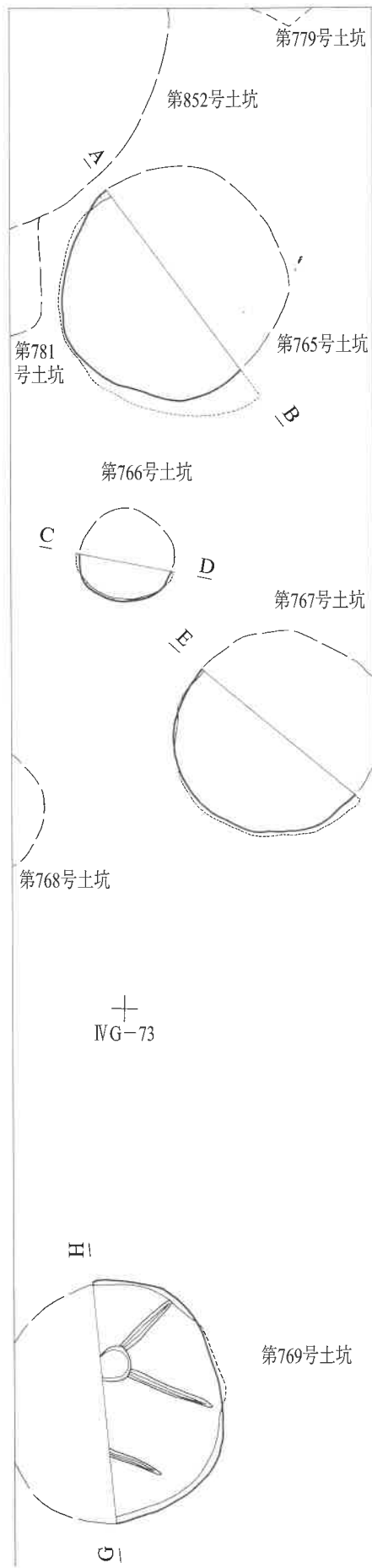
第217号溝 (53図・写真16)

- [位置と確認] ⅣF-66～ⅣE-68に位置する。第Ⅱ層中で北西方向から南東方向に伸びる落ち込みを確認した。ⅣF-66グリッドの部分については全掘した。
- [重 複] なし。
- [平面形・規模] 幅は約65cmである。ⅣE-68グリッドの南半からは第Ⅴ層まで削平を受けており、溝は途中で消失する。
- [堆 積 土] 2層に区分した。いずれも黒色土である。
- [出土遺物] なし。
- [時 期] 時期不明である。

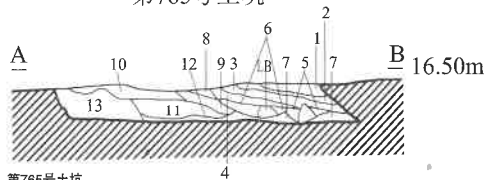
その他 (確認のみの遺構)

確認のみの遺構についても住居跡及び土杭については遺構一覧表に記述した。溝跡及び柱穴については先述した第216号溝を除き時期不明であり遺物も確認できなかった。

第29号掘立柱建物跡はⅢM・N-70・71に位置し、柱間1.5mの柱穴が7個検出された。柱穴は確認面で直径がいずれも22cm前後であり、調査は確認のみである。堆積土は黒褐色土である。時期不明であるが堆積土からみて比較的新しい時代に属すると考えられる。



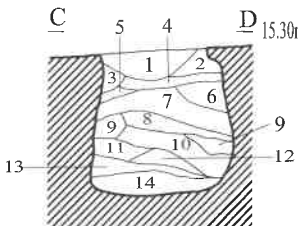
第765号土坑



第765号土坑

- 第1層 褐色土 10YR4/6 L.B.多量、炭化物ごく微量。
- 第2層 褐色土 10YR4/6 L.B.多量、炭化物ごく微量。
- 第3層 褐色土 10YR4/4 L.B.中量、炭化物微量、白色粘土少量、焼土微量。
- 第4層 褐色土 10YR4/4 L.B.中量、白色粘土少量、炭化物微量。
- 第5層 灰褐色土 10YR4/3 L.B.・白色粘土中量、炭化物微量、焼土ごく微量。
- 第6層 暗褐色土 10YR3/3 黒色土微量、炭化物ごく微量、L.B.・白色粘土中量、焼土ごく微量。
- 第7層 明褐色土 7.5YR5/6 L.B.多量、褐色土微量、焼土ごく微量。
- 第8層 明黄褐色土 10YR6/6 L.B.・白色粘土層、炭化物、焼土ごく微量。
- 第9層 黄褐色土 10YR5/6 L.B.・白色粘土多量、炭化物ごく微量。
- 第10層 黄褐色土 10YR5/8 L.B.・炭化物・焼土ごく微量。
- 第11層 黄褐色土 10YR5/8 L.B.・炭化物・焼土ごく微量。
- 第12層 褐色土 10YR4/6 L.B.・白色粘土中量、焼土粒・炭化物ごく微量。
- 第13層 明褐色土 7.5YR5/6 炭化物・焼土ごく微量。

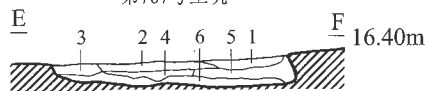
第766号土坑



第766号土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物微量、L.B.少量、白色粘土微量、焼土ごく微量。
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 L.B.中量、白色粘土少量、炭化物微量。
- 第3層 褐色土 10YR4/6 L.B.多量。
- 第4層 黒褐色土 10YR3/2 L.B.・白色粘土中量、炭化物粒微量。
- 第5層 褐色土 10YR4/4 L.B.中量、白色粘土中量、炭化物少量、細砂やや多し。
- 第6層 灰褐色土 10YR4/3 L.B.・白色粘土少量、炭化物少量、細砂やや多し。
- 第7層 黒褐色土 10YR2/3 L.B.・白色粘土少量、炭化物微量。
- 第8層 暗褐色土 10YR3/3 L.B.・白色粘土中量、炭化物少量。
- 第9層 褐色土 10YR4/6 L.B.と白色粘土の層、炭化物少量、焼土ブロック微量。
- 第10層 黒色土 10YR3/2 L.B.・白色粘土少量、炭化物微量。
- 第11層 灰褐色土 10YR4/3 L.B.・白色粘土中量、炭化物微量。
- 第12層 明黄色土 10YR6/6 L.B.・白色粘土多量、炭化物微量。
- 第13層 灰褐色土 10YR4/3 L.B.・白色粘土多量、炭化物ごく微量、しまり有り。
- 第14層 灰褐色土 10YR6/4 L.B.・白色粘土多量、炭化物ごく微量。

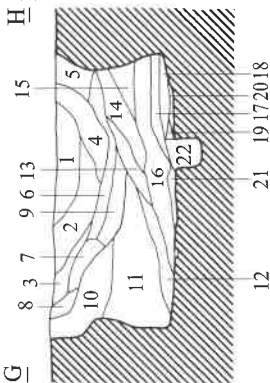
第767号土坑



第767号土坑

- 第1層 褐色土 10YR4/4 L.B.多量、黒色土微量、炭化物微量。
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 L.B.中量、炭化物ごく微量。
- 第3層 褐色土 10YR4/4 L.B.多量、炭化物微量。
- 第4層 暗褐色土 10YR3/3 L.B.中量、炭化物粒ごく微量。
- 第5層 灰褐色土 10YR4/3 L.B.少量、炭化物粒ごく微量。
- 第6層 灰黄褐色土 10YR4/3 L.B.中量、炭化物ごく微量。

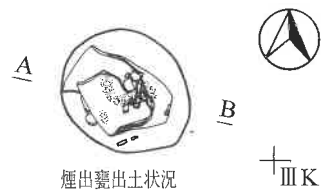
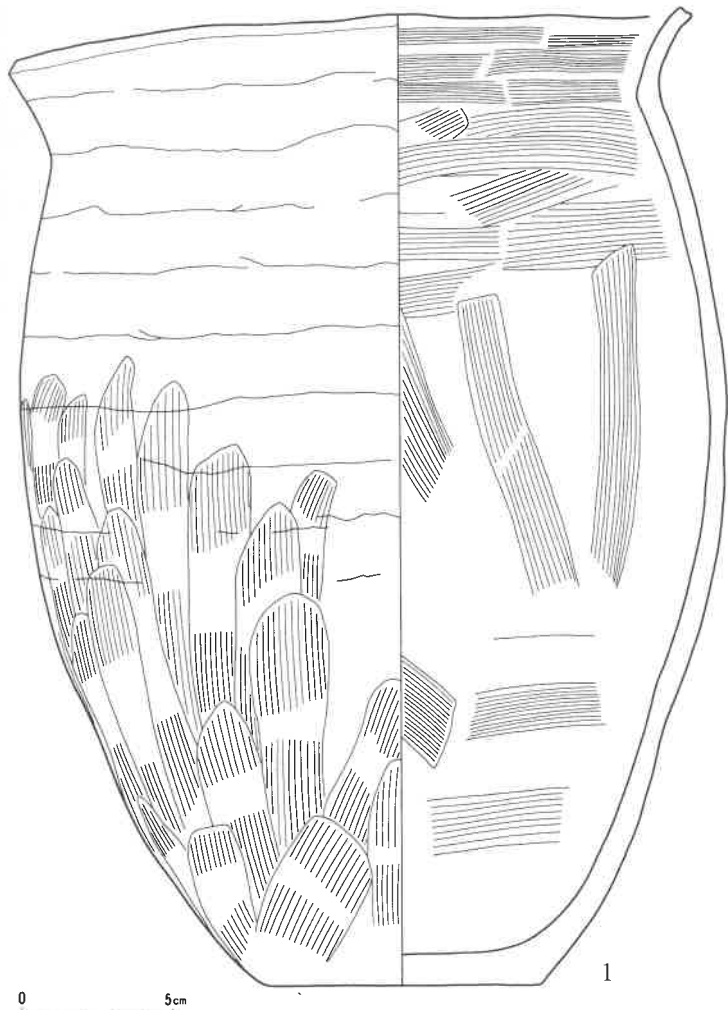
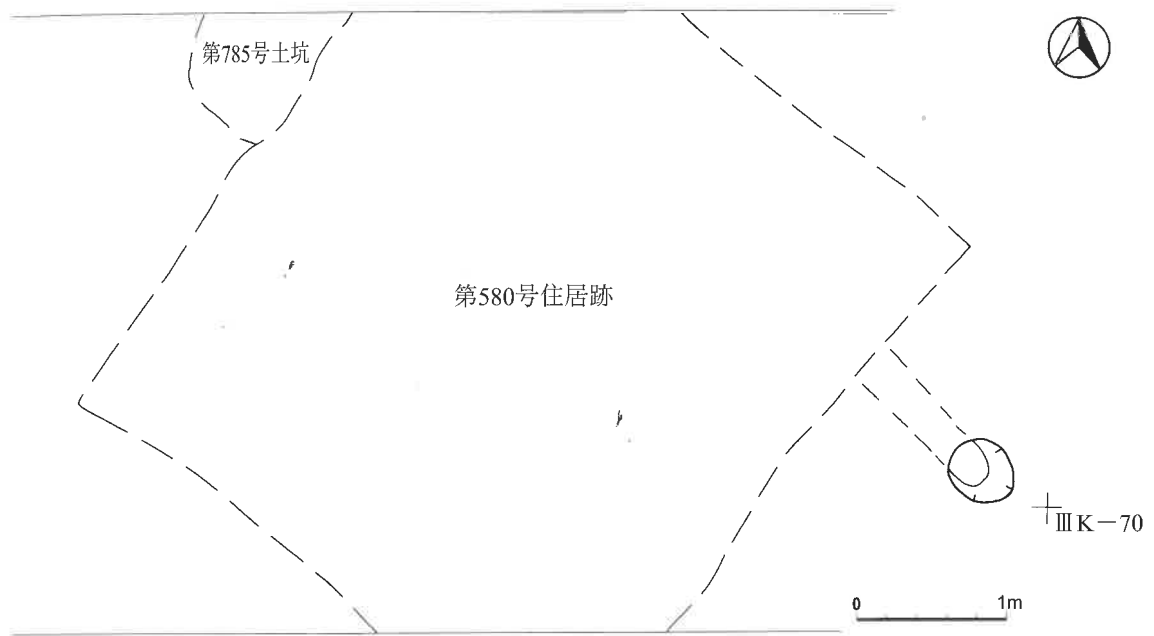
第769号土坑



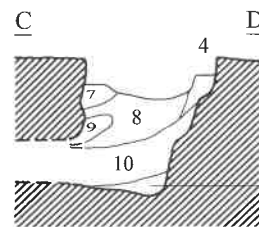
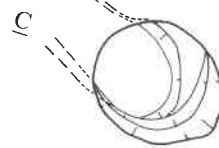
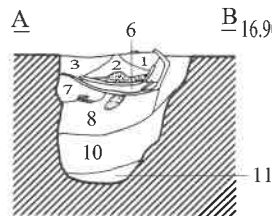
第769号土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 L.B.多量、炭化物・浮石粒微量、焼土粒ごく微量。
- 第2層 灰褐色土 10YR4/2 L.B.多量、炭化物粒微量、浮石粒微量。
- 第3層 黄褐色土 10YR5/6 炭化物粒ごく微量、浮石粒微量、L.B.多量。
- 第4層 暗褐色土 10YR3/3 L.B.少量、炭化物粒ごく微量、浮石粒微量。
- 第5層 褐色土 10YR4/6 L.B.多量、暗褐色土少量、炭化物微量。
- 第6層 暗褐色土 10YR5/6 L.B.・白色粘土が、炭化物微量、焼土粒ごく微量、浮石粒少量。
- 第7層 褐色土 10YR4/4 L.B.多量、炭化物微量、焼土粒ごく微量、浮石粒微量。
- 第8層 灰褐色土 10YR5/4 L.B.多量、浮石粒微量、炭化物ごく微量。
- 第9層 暗褐色土 10YR3/3 白色粘土、L.B.中量、炭化物粒ごく微量、浮石粒微量。
- 第10層 明黄褐色土 10YR6/6 L.B.・暗褐色土微量、炭化物ごく微量。
- 第11層 黄褐色土 10YR5/8 L.B.・暗褐色土少量、炭化物微量。
- 第12層 灰褐色土 10YR4/3 L.B.中量、炭化物微量。
- 第13層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量、浮石粒微量、炭化物微量。
- 第14層 黒褐色土 10YR3/2 L.B.・白色粘土中量、炭化物微量、焼土粒ごく微量、浮石粒微量。
- 第15層 黒褐色土 10YR2/2 白色粘土、L.B.少量、炭化物微量、浮石粒微量、粘性・しまり有り。
- 第16層 灰褐色土 10YR5/4 白色粘土、L.B.多量、炭化物少量、細砂やや多く、焼土粒ごく微量。
- 第17層 灰褐色土 10YR4/3 炭化物微量、L.B.少量。
- 第18層 褐色土 10YR4/4 L.B.多量。
- 第19層 灰褐色土 10YR5/4 白色粘土・L.B.多量、炭化物、焼土粒微量。
- 第20層 黒褐色土 10YR3/2 白色粘土・L.B.少量、炭化物微量。
- 第21層 灰褐色土 10YR4/3 白色粘土中量、暗褐色土中量、炭化物微量。
- 第22層 灰褐色土 10YR5/4 白色粘土・L.B.中量、炭化物微量、焼土粒微量。

49図 第765・767・769号土坑



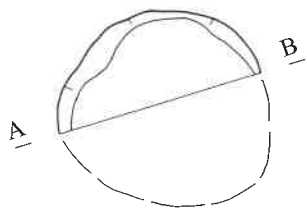
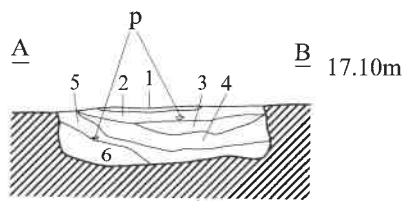
煙出甕出土状況



- 第580号住居
III K-70
- 第1層
に灰燼土 10YR4/3 炭化物粒微量、焼土中量。
 - 第2層
黄褐色土 10YR5/6 炭化物粒、焼土微量、褐灰色砂質土まじりの粘性ブロック。
 - 第3層
に灰燼土 5YR4/4 焼土層、焼土多量。
 - 第4層
暗褐色土 10YR3/4 ローム粒、炭化物、焼土粒微量。
 - 第5層
暗褐色土 10YR3/3
 - 第6層
暗褐色土 10YR3/3 焼土少量、ローム粒微量。
 - 第7層
に灰燼土 10YR4/3 ローム粒少量、焼土粒、炭化物粒ごく微量。
 - 第8層
黒褐色土 10YR2/3 焼土ブロック少量。
 - 第9層
暗褐色土 10YR3/3 ローム粒、焼土粒微量。
 - 第10層
黒褐色土 10YR2/2 焼土ブロック微量。
 - 第11層
黒褐色土 10YR3/2 ローム粒多量混入、炭化物粒、細砂微量。

番号	出土地点	種類	器種	法量 (cm)			外面調整			内面調整			底面	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	胴部上半	胴部下半	口縁部	胴部上半	胴部下半			
1	580住	土師	甕	22.6	32.3	9.1		ナデ	ナデ		ナデ	ナデ		VIII	

50図 第580号住居跡

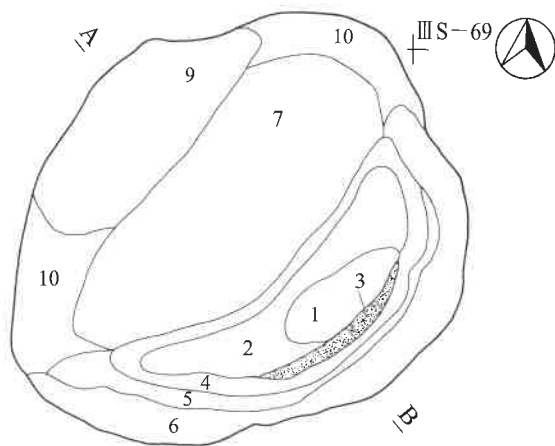


III M-70

第758号土坑

第758号土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/1 しまりやや有り、L.B.少量。
- 第2層 黒褐色土 10YR3/2 しまりやや有り、浮石粒微量、L.B.微量。
- 第3層 黒褐色土 10YR3/3 しまり有り、浮石粒微量、L.B.多量。
- 第4層 暗褐色土 10YR3/4 浮石粒少量、L.B.多量。
- 第5層 黒褐色土 10YR3/2 しまりなし、浮石粒少量、L.B.少量。
- 第6層 黒褐色土 10YR3/3 しまりなし、L.B.、浮石粒少量。

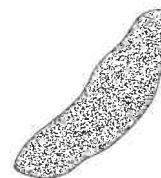


III S-70

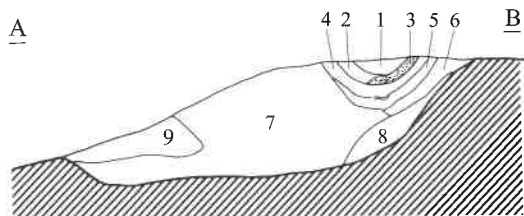
III S-69

(確認)

第86号焼土遺構



(平面)



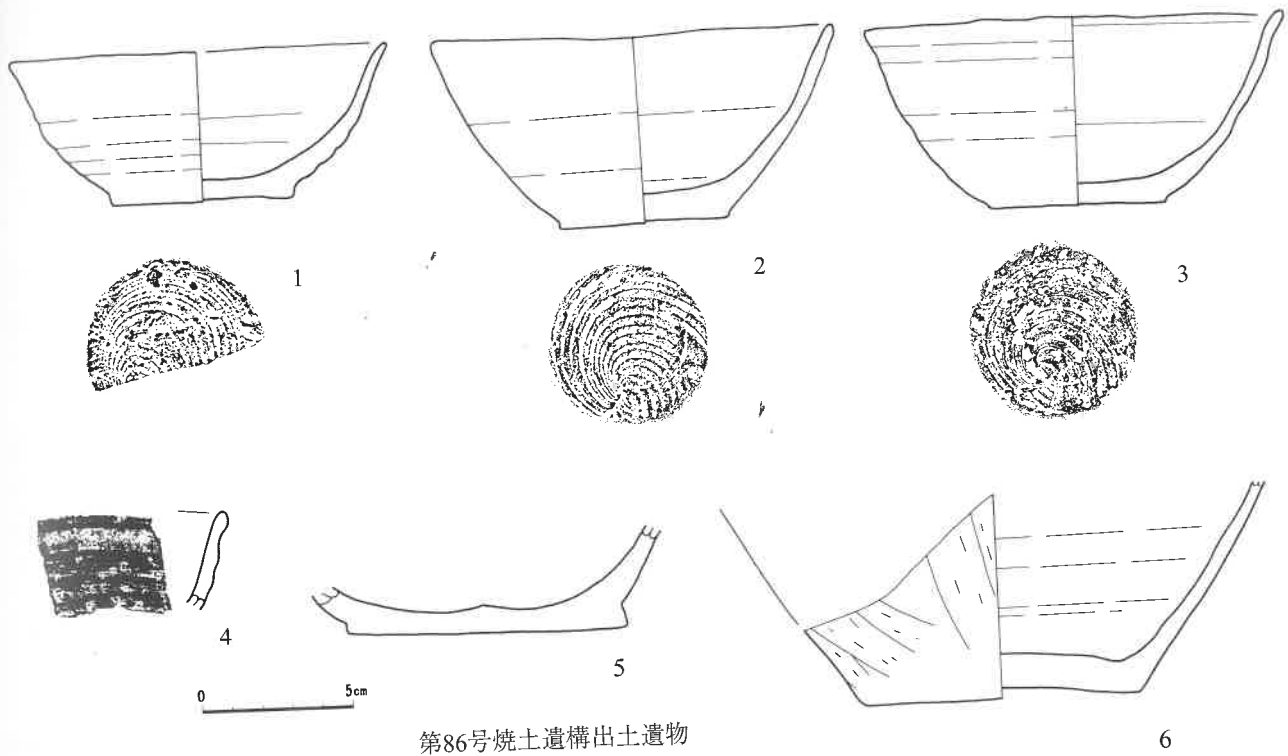
III S-70



第86号焼土

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒微量、炭化物粒ごく微量、焼土粒微量。
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒微量、炭化物微量、焼土粒ごく微量。
- 第3層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒微量、炭化物微量、焼土粒多量。
- 第4層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒微量、炭化物、焼土粒少量。
- 第5層 黒褐色土 10YR2/2 十和田 a 火山灰 (灰黄褐色: 10YR5/2) 多量。ローム粒少量、炭化物微量、焼土粒ごく微量。
- 第6層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒微量、炭化物、焼土ごく微量
- 第7層 黄褐色土 10YR5/6 黒色土少量、しまりゆるい、風倒木痕。
- 第8層 暗褐色土 10YR3/3 L.B.中量、炭化物ごく微量、風倒木痕。
- 第9層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒中量、炭化物粒微量、しまりゆるい、風倒木痕。
- 第10層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒中量、しまりゆるい、風倒木痕。

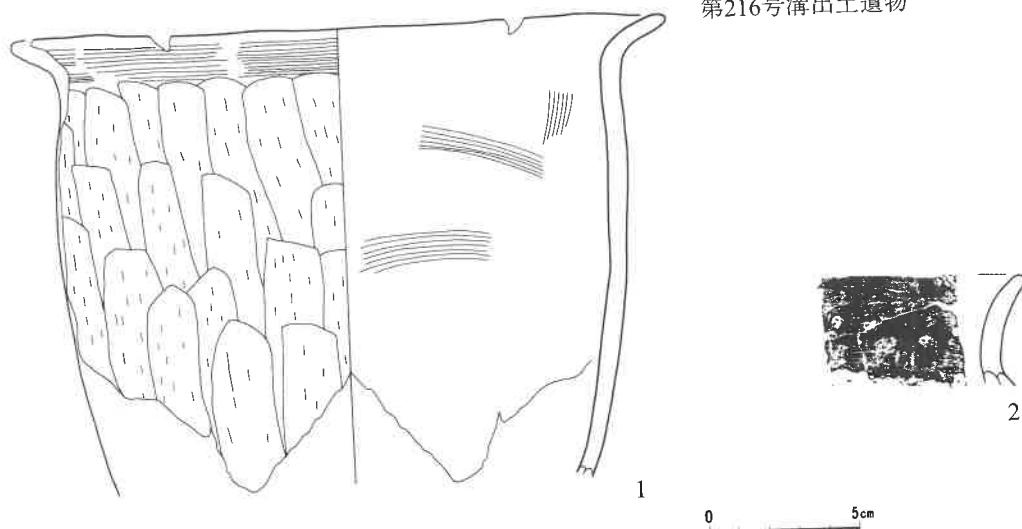
51図 第758号土坑、第86号焼土遺構



第86号焼土遺構出土遺物

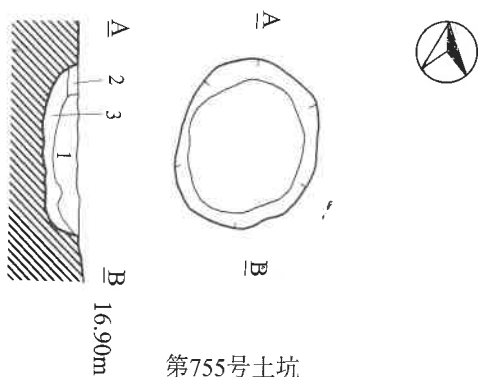
番号	出土地点	種類	器種	法量 (cm)			外面調整			内面調整			底面	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	胴部上半	胴部下半	口縁部	胴部上半	胴部下半			
1	86焼土5層	土師	杯	12.6	5	6.1	口クロ		口クロ	口クロ					P-13
2	86焼土2・4層	〃	〃	13.4	6.3	5.7	〃		〃	〃					P-7
3	86焼土2層	〃	〃	14	6.2	5.9	〃		〃	〃					P-10
4	86焼土2層	〃	〃				〃								P-1
5	86焼土	〃	甕			9.3			ケズリ			ナデ	ケズリ		
6	86焼土2層	須恵	壺			9.2			〃			口クロ	〃		Ⅲ-M69, Ⅳ-R-69の破片と接合

第216号溝出土遺物



番号	出土地点	種類	器種	法量 (cm)			外面調整			内面調整			底面	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	胴部上半	胴部下半	口縁部	胴部上半	胴部下半			
1	216溝	土師	甕	21.7			ナデ	ケズリ				ナデ			P-1
2	〃	〃	〃				ナデ								P-1

52図 第86号焼土・第216号溝出土遺物

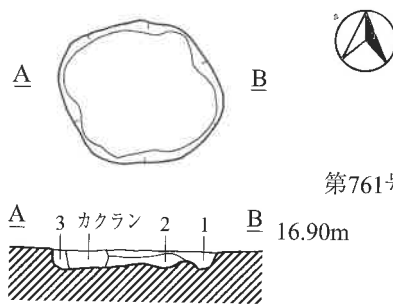


第755号土坑

第755号土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 しまりやや有り、炭化物粒微量。
- 第2層 黒褐色土 10YR2/3 しまりやや有り、浮石粒少量、炭化物粒微量。
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 しまり有り、浮石粒中量、炭化物粒少量、坑底付近は非常にしまりが有り。

III M-74

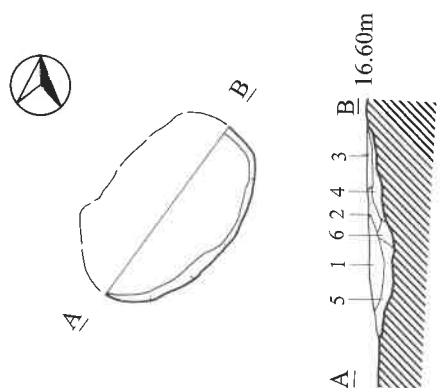


第761号土坑

第761号土坑

- 第1層 黒色土 7.5YR2/1 焼土粒子多量、浮石粒微量。
- 第2層 黒色土 10YR2/1 L.B.中量。
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 L.B.中量。

III M-72

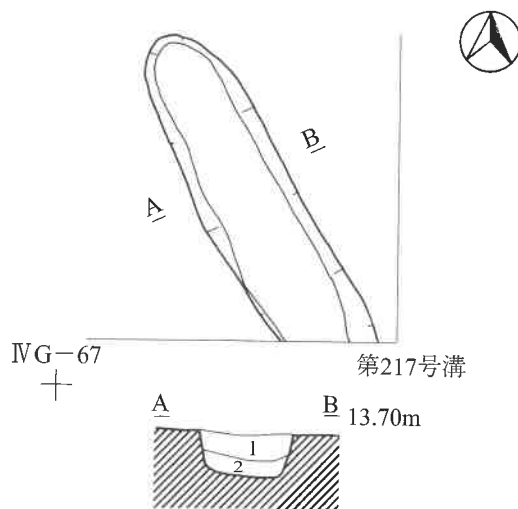


第770号土坑

III O-70

第770号土坑

- 第1層 浅木褐色土 10YR8/3 しまりなし、炭化物粒、焼土微量、黒褐色土(10YR3/1)多量。
- 第2層 暗褐色土 10YR3/4 しまり有り、粘性、湿性なし、炭化物微量、ローム粒少量。
- 第3層 黒色土 10YR2/1 しまり有り、粘性、湿性なし、L.B.多量。
- 第4層 黒褐色土 10YR2/3 しまり有り、炭化物微量、L.B.多量。
- 第5層 黒色土 10YR2/1 しまり有り、L.B.多量。
- 第6層 黒褐色土 10YR3/2 しまりやや有り。



第217号溝

IV G-67

第217号溝

- 第1層 黒色土 7.5YR1.7/1 しまりなし。
- 第2層 黒色土 10YR1.7/1 ややしまり有り、ローム粒少量。

53図 第755・761・770号土坑、第217号溝

第3節 検出遺構一覧

図版 番号	住居 番号	位置	重複 ・ 新旧	平面形	計測値 (cm・m ²)				壁溝	主軸 方位	支柱穴	カマド	出土遺物	備考
					開口部	床面	深さ	面積						
50図	580	ⅢK・L-69	<785土	方形					N-50°-W		南東壁	土師器	白頭山火山灰?	
43図	581	ⅢM-72	>786土											
43図	582	ⅢM・N67・68	<583H	長方形					N-90°-E		東壁			
43図	583	ⅢM・N68・69	>582H <854土						N-40°-W		南東壁			
43図	584	ⅢO・P-69	>585H						N-60°-W					
43図	585	ⅢP・Q-69	<584H	長方形							南東壁		十和田火山灰?	
43図	586	ⅢQ・R-69	<783土											
43図	587	ⅣD・E-69							N-23°-W		南東壁			
43図	588	ⅢS・T-74							N-62°-W		〃			
43図	589	ⅢQ-74												

図版 番号	土坑 番号	グリッド	重複 ・ 新旧	平面形	計測値 (cm)			出土遺物				時期	備考
					開口部	底面	深さ	土器	剥片 石器	燧石器	その他		
44図	754	ⅢN-74		不整円	136×135	112×	38	○		○		縄文後期	半截
53図	755	ⅢM-73		楕円	114×92	90×76	30					不明	完掘
46図	756	ⅢM-62-63		〃	86×72	218×190	112					縄文	〃
46図	757	ⅢM-62-63		洋梨	210×184	208×174	109			○	○	〃	〃ピット有り
51図	758	ⅢM-69-70		円	140×132	126×	39	○				平安	半截
48図	759	ⅣE-67-68		(楕)円	×(220)		50					縄文	〃
48図	760	ⅣF・G-68	>807土	円	138×138	118×	40	○				〃	〃
53図	761	ⅢM-71		不整円	112×98	104×80	13					不明	完掘
49図	765	ⅣF・G-71		円	180×170	×193	29					縄文	半截
49図	766	ⅣF・G-71-72		〃	74×72	×80	93					〃	〃
49図	767	ⅣF-72		〃	160×158	×76	20					〃	〃
49図	768	ⅣG-72		円?								〃	確認のみ
49図	769	ⅣF・G-73		楕円?	192×	184×	87					〃	半截 ピット・溝有
53図	770	ⅢO-69		楕円	138×88	130×	20					不明	完掘
43図	771	ⅣG-68		円?								縄文	確認のみ
43図	772	ⅣG-69	<773土									〃	〃
43図	773	ⅣG-69	>772土 >774土									〃	〃
43図	774	ⅣG-69-70	<773土 <775土									〃	〃
43図	775	ⅣF・G-69	<776土	楕円?								〃	〃
43図	776	ⅣF・G-70		〃?	(240)×(196)							〃	〃
43図	777	ⅣG-71	?776土									〃	〃
43図	778	ⅣF-70	>776土									〃	〃
49図	779	ⅣF-70										〃	〃
49図	781	ⅣG-71	<852土		148×122							〃	〃
43図	782	ⅣE・F-69										不明	〃
43図	783	ⅢQ-69	>586H	楕円	330×98							〃	〃
43図	784	ⅢN-69	>584H	〃								〃	〃
50図	785	ⅢL-69	>580H									不明	〃
43図	786	ⅢM-72	<581H									〃	〃
48図	807	ⅣF・G-67-68	<760土	隅丸長方	236×198	×194	59					縄文	半截 ピット・溝有
49図	852	ⅣF・G-71	>781土	楕円?								〃	確認のみ
43図	853	ⅣF-74										〃	〃
43図	854	ⅢN-69	>583住									不明	

第4節 遺構外出土遺物

土器 (54・55図、写真17)

本試掘調査区からは、縄文時代前期から後期、弥生時代、古代の遺物が出土した。遺物量が少量のため、分類は時期別による大分類のみとし、土器型式については記述・観察表の中で触れる。

第Ⅱ群 縄文時代前期 (1)

1は円筒下層式である。縦位の絡条体回転文が施される。

第Ⅲ群 縄文時代中期 (2～16)

2は上層c式で、縄文原体を押圧した粘土紐の貼付後、間に刺突文を施している。3は上層d式、4は上層e式である。5は粘土紐の上面にLR、張付に沿うように沈線が見られる。最花式と思われる。6・7は大木10式で、地文上に沈線で文様が施されている。8は折返口縁。9は小波状口縁の上面に刻みがある。8～16は地文のみのもので、大木式系の土器と考えられる。

第Ⅳ群 縄文時代後期 (17～20)

17・18は縦位の網目状撚糸文が施されている。また、本群に含まれるか断定できないが、19・20は底部片である。20には格子目状の沈線が見られる。

第Ⅵ群 弥生時代 (21～27)

21・22は変形工字文が施文された浅鉢と考えられる。23は沈線が施される。21～23は、弥生時代前期のものである。24・25には山形状の沈線が施文される。25は上下に組み合わせたものである。26・27はRL縄文を縦走させたものである。24～27は、弥生時代後期のものである。

第Ⅷ群 古代 (28～39)

28～35は土師器である。28～32が坏、33～35は甕である。坏はロクロを使用し、底面には回転糸切り痕が見られる。36～39は須恵器片である。36～37は須恵器坏、38・39は大甕片と考えられる。

土製品 (40)

40はミニチュア土器である。

(小笠原 雅行)

石器 (41～45)

石器は石錐1点、不定形石器6点(スクレイパー類3点、U.フレイク2点、R.フレイク1点)、石核1点、剥片13点(うち焼け1点)、磨製石斧の基部小片が1点、敲磨器類3点の合計25点出土した。出土点数が少なく、出土状況も散漫であるが主として調査区北西部で出土している。

石材は、剥片のうち1点が黒曜石で、磨製石斧が安山岩、敲磨器類が凝灰岩及び溶結凝灰岩であるほかは全て珪質頁岩である。

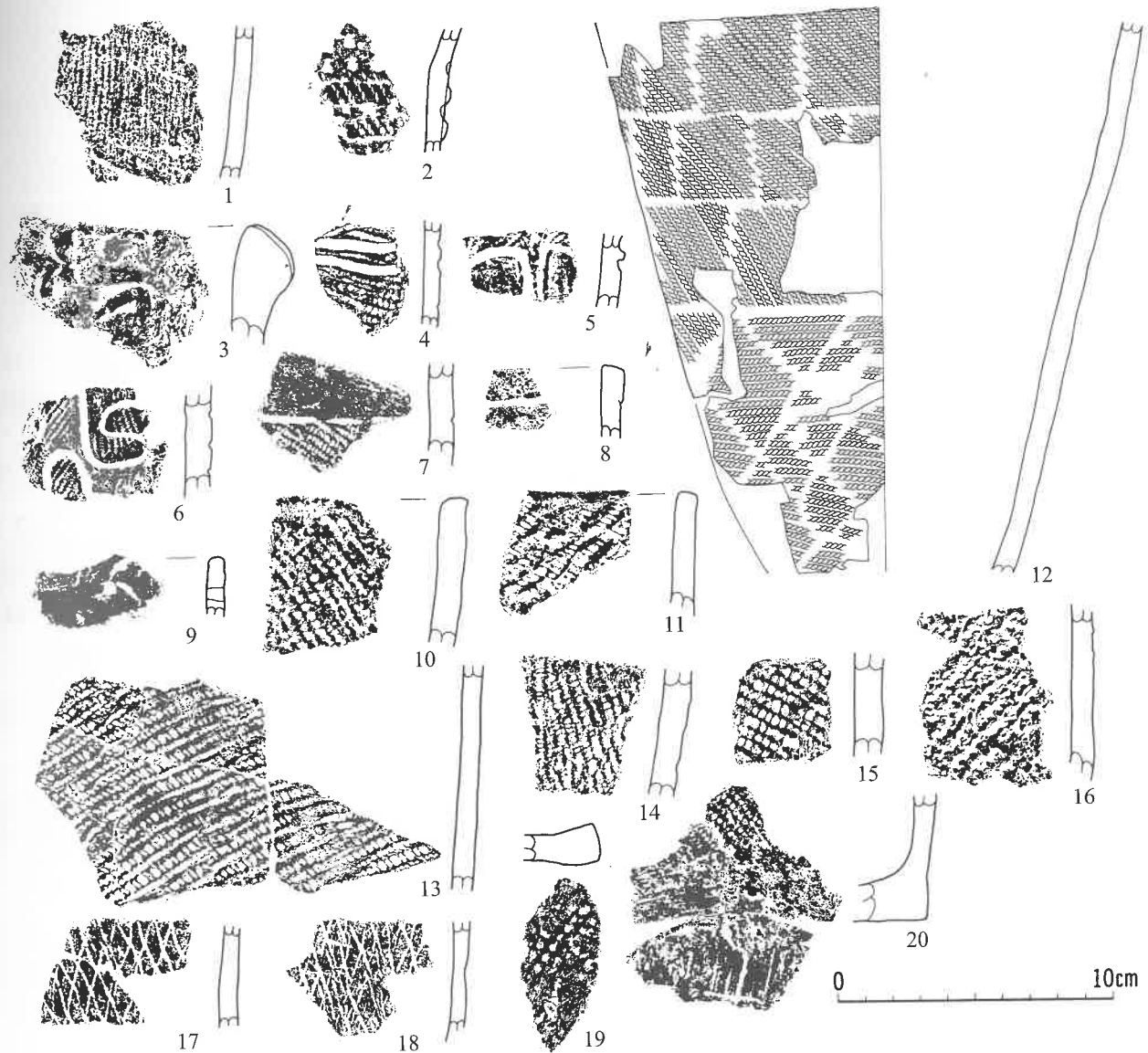
石製品 (46)

石製品は凝灰岩製の円盤状石製品が1点出土している。

近現代の遺物 (47)

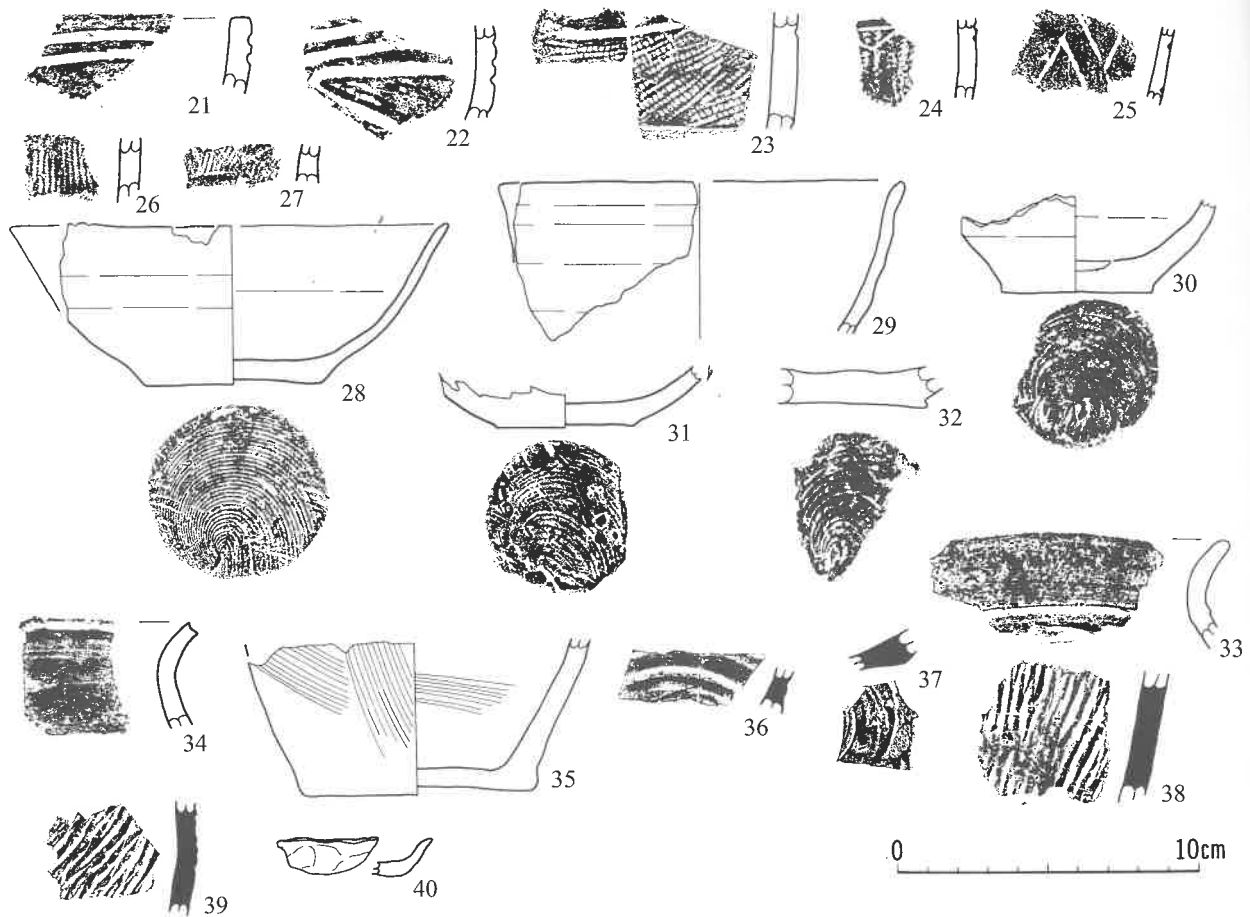
近現代の遺物では「勇忠」の文字の入ったガラス製品が1点出土した(47)。不整円形であり直径は約3.4cmで重量は13.8gである。ガラスには小さな気泡がたくさん入り、裏面は表面や側面に比べ、ざらついた肌合いをしている。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胸部上半	胸部下半				
1	IV O-69	I		R単絡1		ミガキ		III-6 繊維混入	
2	IV E-67	〃	貼付 LR押圧 刺突			ナデ		III-3	
3	III L-69		口縁肥厚 貼付			ミガキ		III-4	
4	III M-71	III		LR 沈線		〃		III-5	
5	IV D-69	I	貼付 LR 沈線			ナデ		III-9	
6	III M-74			RL 沈線		〃		III-10	
7	III M-68	I		磨消縄文、LR 沈線		〃		〃	
8	III M-74		折返口縁			〃		III-11 口唇上面平坦に面取	
9	III M-69	I	口唇上面刻み 補修孔					〃	
10	III P-69	I	RL			ミガキ		〃	
11	IV D-69	〃	LR					〃	
12				LR		ミガキ		〃	
13	III M-71	III		RL+RL 附加条		〃		〃	
14	IV E-67	I		RL				〃	
15	III M-71	III		〃		ミガキ		〃	
16	III R-74	I		RLR				砂粒混入	
17	III M-67			網目状燃糸文		ミガキ		IV	
18	III K-69	I		〃		〃		〃	
19	III O-69	I				ナデ	縄文?		
20	III H-69	I			LR	〃	格子状沈線		

54図 第2次調査区遺構外出土遺物(1)

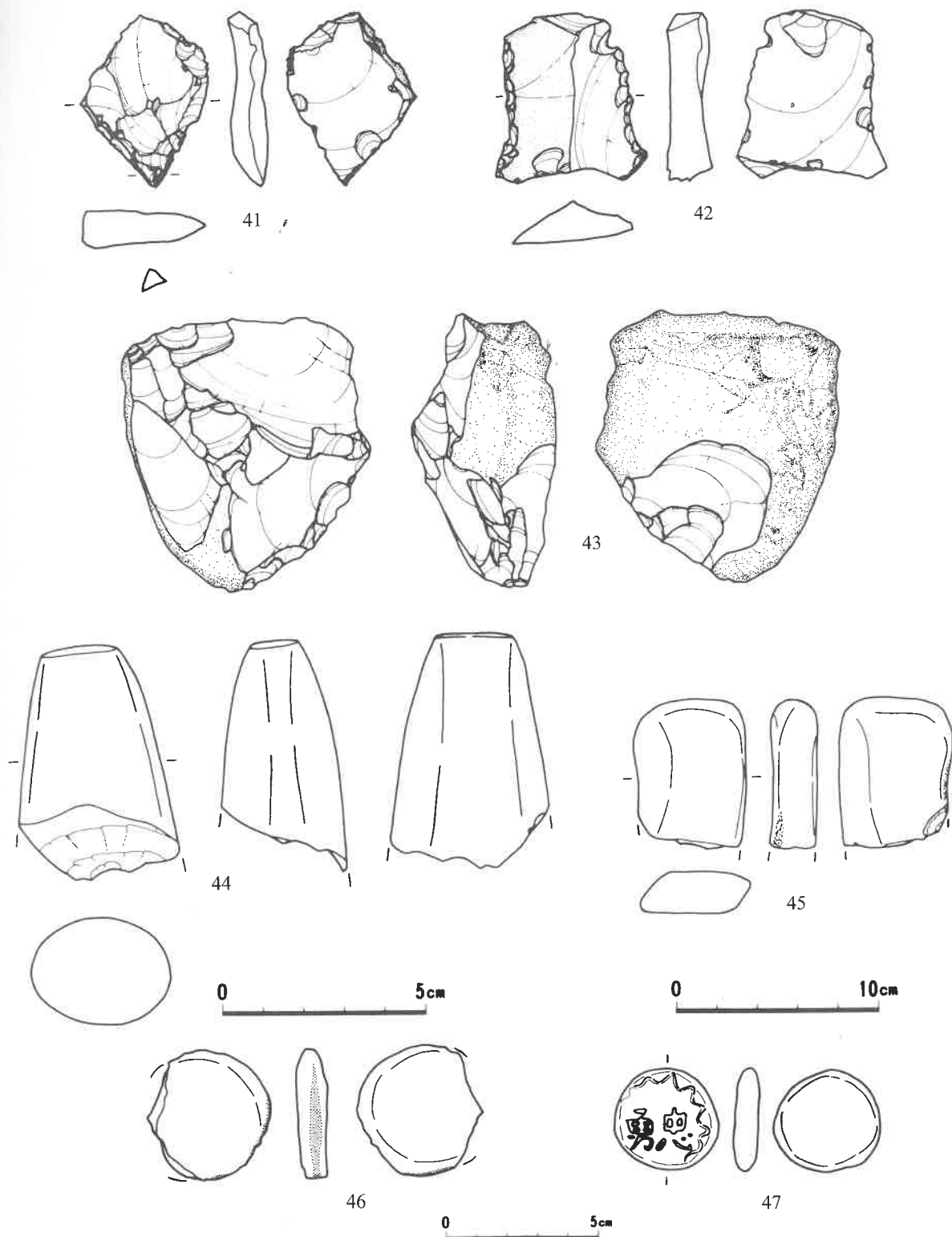


番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
21	ⅢM-71	I	沈線			ミガキ		Ⅵ	
22	ⅢR-74	〃	変形工字文			ナデ		〃	
23	ⅣO-69	I		LR 沈線		ミガキ		〃	
24	ⅢR-69	〃		RL 沈線(鋸歯状)				〃	
25	ⅢM-71	I		沈線(鋸歯状)				〃	
26	ⅢM-68	〃		RL				〃	
27	ⅢM-65	〃		RL				〃	

番号	出土地点	種類	器種	法量 (cm)			外面調整			内面調整			底面	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	胴部上半	胴部下半	口縁部	胴部上半	胴部下半			
28		土師器	坏	14.6	5.3	5.8	口クロ		口クロ	口クロ		口クロ	回糸切	Ⅷ	
29		〃	〃	(13.5)			〃		〃			〃	〃	〃	
30	ⅢR-67・I	〃	〃			5.0			〃			〃	回糸切	〃	
31	ⅢQ-69	〃	〃			4.7			〃			〃	〃	〃	
32	ⅣA-69・I	〃	〃			4.6			〃			〃	〃	〃	
33	ⅣE-67・I	〃	甕				ナデ			ナデ				〃	
34	ⅢM-69	〃	〃				〃			〃				〃	口唇上面凹状
35		〃	〃			7.4			ナデ			ナデ		〃	
36	ⅢM-69・I	須恵器	坏						口クロ			口クロ		〃	
37	ⅢM-68・I	〃	〃						〃			〃	回糸切	〃	
38	〃	〃	大甕					平行叩						〃	
39	〃	〃	〃					〃						〃	

番号	出土地点	層位	計測値 (cm)			文様		種類	備考
			長さ	幅	厚さ	外面	内面		
40	ⅣA-69	I			0.5	無文	無文	ミニチュア	

55図 第2次調査区遺構外出土遺物(2)



番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
41	ⅢH-67	I~Ⅲ	42	31	9	10.9	珪頁	Dc		30,027
42	ⅢM-67	〃	43	37	11	16.3	〃	Ga		30,007
43	ⅢH-69	〃	67	62	35	132.5	〃	Pa		30,107
44	ⅢM-74	〃	57	40	31	86.5	安山	Ha		30,119
45	〃		74	51	25	155.7	凝	Ic	磨痕	30,120
46	ⅢN-69	I~Ⅲ	43	41	10	19.4	〃	円盤状石製品		
47	ⅣB-69	I	33	35	8	13.8				

56図 第2次調査区遺構外出土遺物(3)

第V章 第3次調査

第1節 調査の概要

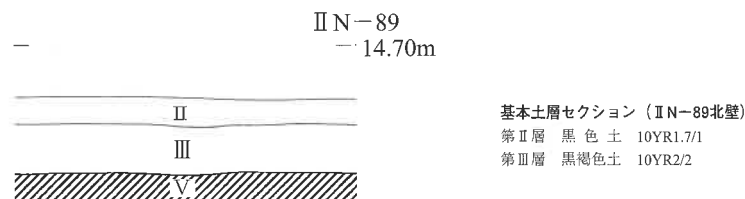
第三次調査は平成5・6年度に青森市教育委員会が調査した縄文時代中期の貯蔵穴群の範囲確認を目的に行った。調査区は青森市教育委員会が検出した貯蔵穴群の北側に設定した。この地点は旧野球場予定地の東側に位置する。当初、南北方向に36m×4mのトレンチ（ⅡP—85～93）を、東西方向に長さ40m×4mのトレンチを2本（ⅡP～ⅢD—85、及びⅡP～ⅢD—89）を設定した。これらのトレンチで確認された縄文時代の遺構は土坑1基のみであったため、南北方向には16m×4m（ⅡO—81～84）、12m×4m（ⅡK—86～88）の2本を新設し、東西方向では当初のトレンチを東にそれぞれ、36m（ⅡF～O—85）、16m（ⅡL～O—89）延長した。また、遺構確認のため、トレンチを一部拡張したところもある。調査面積は770㎡である。

調査区の基本層序は、一部で第Ⅱ層が確認されたが、かなりの部分が第Ⅲ層あるいはⅤ層まで削平を受けた後に盛土されていた。この盛土は現代のものである。

縄文時代の遺構は調査区の南側から土坑5基、掘立柱建物跡1棟を検出した。土坑は1基を完掘、3基を半截した。掘立柱建物跡は柱穴を2基半截した。

平安時代の遺構は、調査区の北側で住居跡4棟、溝1条を検出した。第598号竪穴住居跡の堆積土には白頭山火山灰が認められた。

時期不明の土坑を3基検出した。これらは第Ⅴ層まで削平を受けた地点で確認し、出土遺物もないため、時代を明確に決定することができなかった。



57図 第3次調査区基本土層

第2節 検出遺構

縄文時代の遺構

(1) 土坑

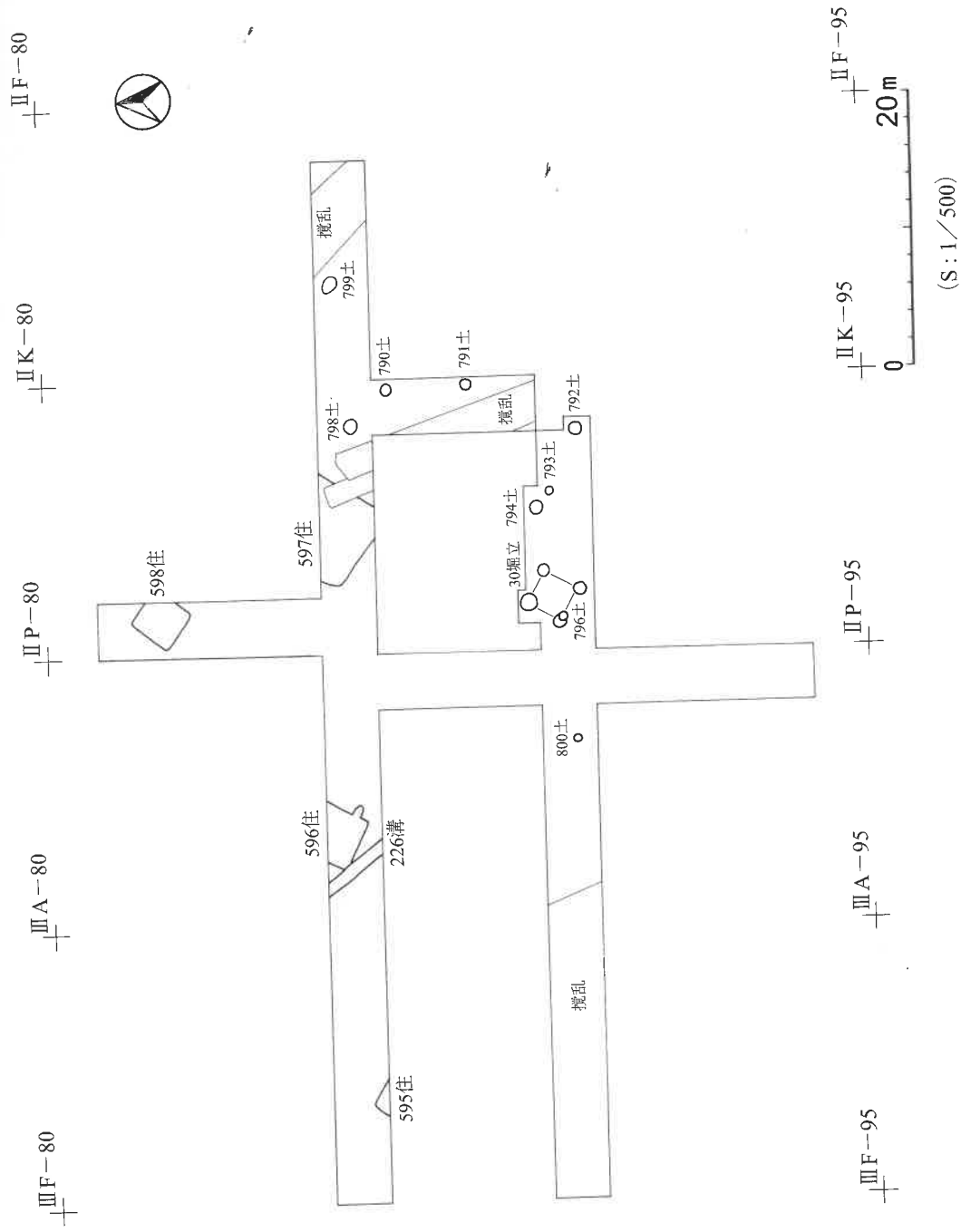
第791号土坑 (59図)

[位置と確認] ⅡF—87に位置する。付近は第Ⅲ層まで削平を受けており、Ⅲ層中で確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] ほぼ円形を呈する。長軸82cm、短軸75cm、深さ53cmである。

[壁・床面] 壁は外傾しながら東側は直線的に、西側は途中まで直線的に、その後外傾しながら緩やかに立ち上がる。底面は西側が少し窪んでいる。



58図 第3次調査区遺構配置図

- [堆積土] 7層に分層した。ローム粒が混入している。人為堆積の可能性が高いと思われる。
[出土遺物] なし。

第793号土坑 (59図)

- [位置と確認] II H—89に位置する。第II層中で確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] ほぼ円形を呈する。長軸70cm、短軸62cm、深さ49cmである。
[壁・床面] 壁は直線的に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。
[堆積土] 4層に分層した。炭化物、ローム粒が混入している。人為堆積の可能性が高いと思われる。
[出土遺物] なし。

第794号土坑 (59図・写真18)

- [位置と確認] II H—88・89に位置する。第III層中で確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] ほぼ円形を呈する。長軸88cm、短軸80cm、深さ18cmである。
[壁・床面] 西壁は直線的、東壁は内傾しながら立ち上がる。底面はほぼ平坦である。
[堆積土] 炭化物、ローム粒が混入している。
[出土遺物] なし。

第796号土坑 (59図)

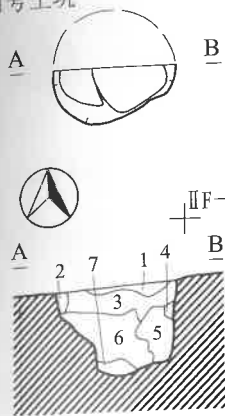
- [位置と確認] II J—89に位置する。第III層で確認した。
[重複] 第30号掘立柱建物跡と重複し、本土坑が新しい。
[平面形・規模] ほぼ円形を呈する。長軸62cm、短軸53cm、深さ45cmである。
[壁・床面] 壁は外傾しながら立ち上がり、底面はほぼ平坦である。
[堆積土] 炭化物粒、ローム粒を含む。
[出土遺物] 堆積土から第III群土器が出土した。
[時期] 縄文時代中期と考えられる。

(2) 掘立柱建物跡

第35号掘立柱建物跡 (59図・写真18)

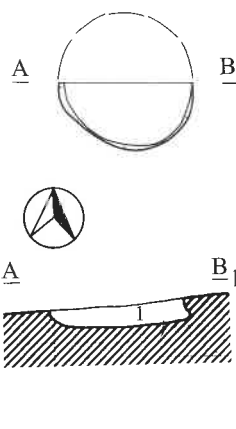
- [位置と確認] II I・J—88・89に位置する。当初トレンチ内のIII層中で土坑を3基確認し、795土、797土、801土とした。その後、北側にトレンチを拡張したところX₁Y₁を確認したので、遺構番号を変更し、第35号掘立柱建物跡とした。
[重複] X₁Y₀が第796号土坑と重複し、本遺構の方が古い。
[規模] 桁行1間(総長3.0m)、梁行(総長2.9m)である。建物跡の主軸方位はN—34°—Eである。

第791号土坑



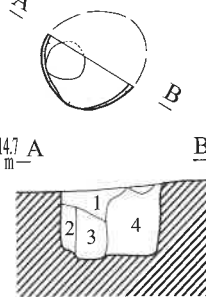
- 第791号土坑
- 第1層 黑褐色土 10YR3/2 炭化物微量、ローム粒少量。
 - 第2層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物微量、ローム粒多量。
 - 第3層 黄褐色土 10YR5/6 炭化物微量、ローム粒多量。
 - 第4層 暗褐色土 10YR5/8 ローム層。
 - 第5層 黄褐色土 10YR5/6 ローム層、炭化物微量。
 - 第6層 黑褐色土 10YR2/2 炭化物少量、ローム層少量。
 - 第7層 黄褐色土 10YR5/6 炭化物微量、ローム粒多量。

第794号土坑



- 第793号土坑
- 第1層 黑褐色土 10YR3/3 ローム粒微量。
 - 第2層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物微量、ローム粒微量。
 - 第3層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物微量。
 - 第4層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物少量、ローム粒少量。

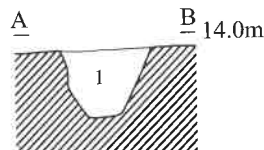
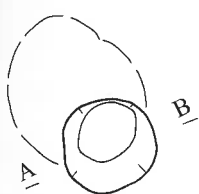
第793号土坑



- 第794号土坑
- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物微量、ローム粒少量。



第796号土坑

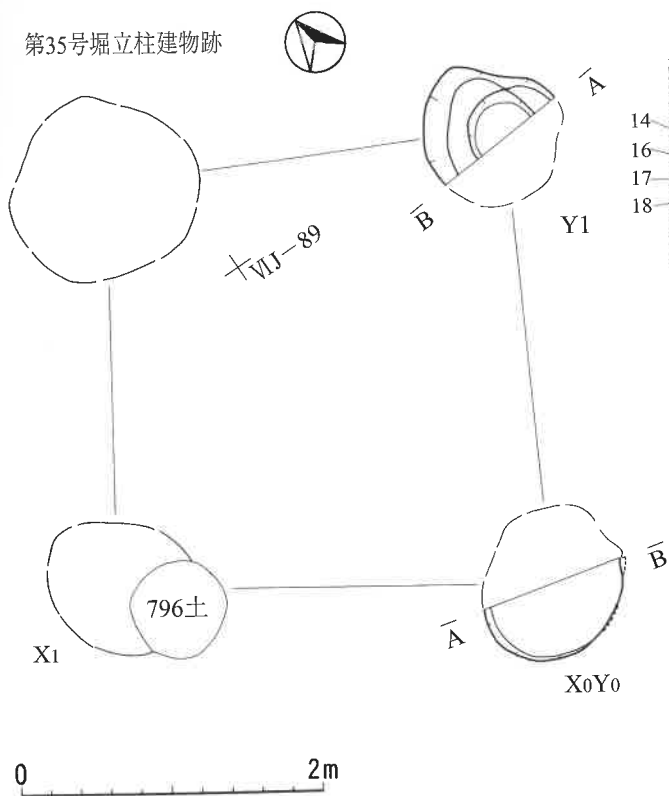


- 第796号土坑
- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物微量、ローム粒少量。



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	796土	堆積土	LR			ナデ	無文	Ⅲ-5	
2					無文				

第35号掘立柱建物跡



- 第35号掘立柱建物跡
- X0Y1
- 第1層 黑褐色土 10YR2/2 炭化物微量、ローム粒少量。
 - 第2層 黑褐色土 10YR2/2 炭化物微量、ローム粒少量。
 - 第3層 黑褐色土 10YR2/2 炭化物微量、ローム粒少量。
 - 第4層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物微量、ローム粒多量。
 - 第5層 黑褐色土 10YR2/2 炭化物微量、ローム粒少量。
 - 第6層 褐色土 10YR4/4 炭化物微量、ローム粒少量。
 - 第7層 黑褐色土 10YR3/2 炭化物少量、ローム粒少量。
 - 第8層 黑褐色土 10YR2/2 炭化物微量。
 - 第9層 黑褐色土 10YR3/2 炭化物微量、ローム粒多量。
 - 第10層 暗褐色土 10YR5/4 炭化物微量。
 - 第11層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物微量、ローム粒少量。
 - 第12層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物微量、ローム粒多量。
 - 第13層 褐色土 10YR4/4 炭化物微量、ローム粒微量。
 - 第14層 褐色土 10YR4/6 炭化物微量、ローム粒多量。
 - 第15層 暗褐色土 10YR5/4 炭化物微量。
 - 第16層 褐色土 10YR4/6 炭化物微量、ローム粒多量。
 - 第17層 明褐色土 10YR5/6 炭化物微量。
 - 第18層 黑褐色土 10YR2/2 炭化物少量、ローム粒少量。
 - 第19層 明黄褐色土 10YR4/3 炭化物微量、ローム粒多量。
 - 第20層 明褐色土 10YR6/6 炭化物微量。
 - 第21層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物微量、ローム粒少量。
 - 第22層 黑褐色土 10YR3/2 炭化物多、ローム粒少量。
- X0Y0
- 第1層 黑褐色土 10YR2/2 ローム粒少量。
 - 第2層 黑褐色土 10YR3/2 ローム粒少量。
 - 第3層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒多量。
 - 第4層 黑褐色土 10YR2/2 ローム粒少量。
 - 第5層 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム粒多量。
 - 第6層 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム粒多量。
 - 第7層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量。
 - 第8層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒多量。
 - 第9層 褐色土 10YR4/4 ローム層。
 - 第10層 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム粒多量、焼土粒多量。
 - 第11層 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム粒少量、焼土粒少量。
 - 第12層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒多量。
 - 第13層 暗褐色土 10YR5/4 ローム層。
 - 第14層 黑色土 10YR2/1 粘性あり。

59図 第791号・793号・794号・796号土坑、第35号掘立柱建物跡

- [平面型式] 方形を呈する。
- [柱穴・柱痕] 掘り方は確認面で1 m～1 m25cm、深さは90cm～1 m2 cmである。明確な柱痕は確認できなかった。
- [柱間寸法] 柱痕が不明確であるため、ピット中央部を結んだ線で測ると桁方向で2.7m～3.0m、梁方向で2.7m～2.9mである。
- [出土遺物] なし。
- [時期] X1Y1をⅢ層中で確認したため、縄文時代のものとするが、遺物が出土しなかったため明確な時期は不明である。しかし、796土との重複関係から考えると縄文時代中期を下るものではない。

時期不明の遺構

第790号土坑 (60図・写真18)

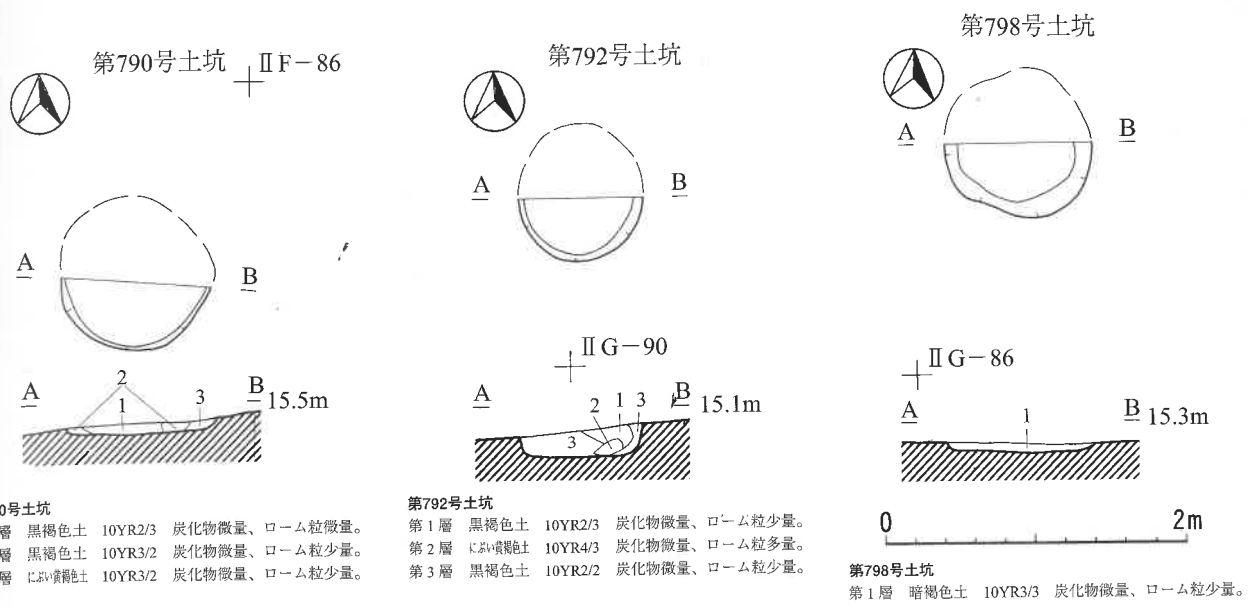
- [位置と確認] ⅡF—86に位置する。この付近は第V層まで削平されていた。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] ほぼ円形を呈する。長軸1 m4 cm・短軸1 m3 cm、深さ7 cmである。
- [壁・床面] 壁は外傾しながら緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦である。
- [堆積土] 3層に分層した。炭化物粒を微量含む。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 堆積土の状態から縄文時代より新しいものと考えられる。

第792号土坑 (60図・写真18)

- [位置と確認] ⅡF・G—89に位置する。この付近は第V層まで削平されていた。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] ほぼ円形を呈する。長軸91cm、短軸82cm、深さ23cmである。
- [壁・床面] 壁は外傾しながら直線的に立ち上がる。底面は平坦である。
- [堆積土] 3層に分層した。炭化物粒、ローム粒を含む。人為堆積の可能性が高いと考えられる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 堆積土の状態から縄文時代より新しいものと考えられる。

第798号土坑 (60図)

- [位置と確認] ⅡF—85に位置する。この付近は第V層まで削平されていた。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] ほぼ円形を呈する。直径1 m、深さ12cmである。
- [壁・床面] 壁は緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。
- [堆積土] 炭化物粒、ローム粒を含む。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 堆積土の状態から縄文時代より新しいものと考えられる。 (阿部 美杉)



60図 第790号・792号・798号土坑

第3節 検出遺構一覧

図版番号	住居番号	位置	重複・新旧	平面形	計測値 (cm・m ²)				壁溝	主軸方位	主柱穴	カマド	出土遺物	備考
					開口部	床面	深さ	面積						
58図	595	II S-85		方形										確認のみ
58図	596	II N-85		〃										〃
58図	597	II I-85		〃										〃
58図	598	II J-82		〃										〃

図版番号	土坑番号	グリッド	重複・新旧	平面形	計測値 (cm)			出土遺物	時期	備考
					開口部	底面	深さ			
60図	790	II F-86	なし	円形	104×103		7		不明	
59図	791	II F-87	〃	〃	82×75		53		縄文	
60図	792	II F・G-89	〃	〃	91×82		23		不明	
59図	793	II H-89	〃	〃	70×62		49		縄文	
59図	794	II H-88・89	〃	〃	88×80		18		〃	
59図	796	II J-89	>30掘立	〃	62×53		45	縄文土器	〃	
60図	798	II F-85	なし	〃	100×100		12		不明	
58図	799	II D-85	〃	楕円形					縄文	確認のみ
58図	800	II L-89	〃	円形					〃	〃

第4節 遺構外出土遺物

土器 (61・62図、写真19)

本試掘調査区からは、縄文時代前期、中期、古代の遺物が出土した。遺物量が少量のため、分類は時期別による分類のみとし、土器型式についてはそれぞれの記述・観察表の中で触れる。

第Ⅱ群 縄文時代前期 (1～3)

1は刺突とコンパス文が施されており、表館式である。1点のみの出土である。2、3は胎土に繊維を含み、縦位の絡条体回転文が施される円筒下層式の胴部片である。

第Ⅲ群 縄文時代中期 (4～34)

4・5は太い貼付隆帯をもち、上面には原体押圧がされる。円筒上層式前半のものである。6～11は地文施文後に、細い貼付隆帯が付けられるものである。円筒上層d式に比定される。12～16は円筒上層e式で、地文施文後に沈線文が施されるものである。12には細隆帯により、三角形を呈すると思われる貼付がある。17～21は、円筒上層式に含まれると思われる口縁部片である。17・18は、肥厚させた口縁部に原体押圧を加えたものである。20は地文施文後、沈線文が施される。21は口唇部に横位のLR押圧と縦位の貼付がある。22～37は大木系の土器群である。22は断面三角形の貼付が2条見られる。23は地文が複節縄文で、3条単位の沈線が加えられる。これらは、榎林式に比定されるが、23は上層e式の可能性もある。24～28は、地文としての縄文を施文後に沈線が施されるが、その特徴から最花式と考えられるものである。24は刺突が見られる。29～34は、胎土・地文の状態から、大木系と考えられるものを一括した。

第Ⅷ群 古代 (35～46)

35～40は土師器甕である。41～46は須恵器片である。41・42は須恵器坏、43・44は長頸壺である。45・46は大甕片と考えられる。

(小笠原 雅行)

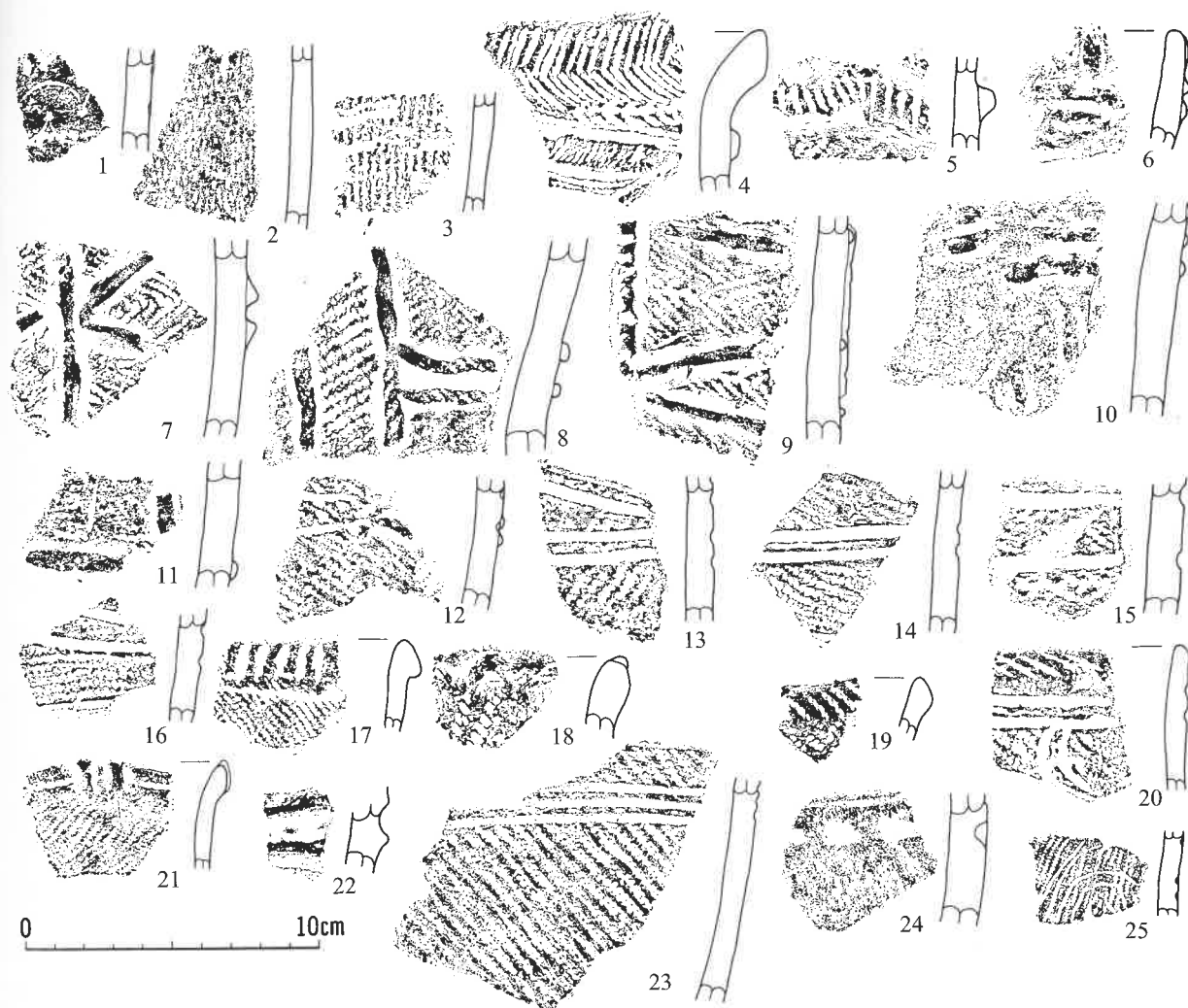
石器 (48～61)

石器の出土状況は散漫であり一つのグリッドからの出土点数も3点以下がほとんどである。調査区中央部に位置するⅡJ～ⅡT、85～89ラインのグリッドからの出土が中心であり、出土層位は全て第Ⅰ層である。

石鏃3点、石錐2点、不定形石器9点(スクレイパー類6点、R.フレイク3点)、剥片23点(うち焼け1点)、石核1点、磨製石斧(胴部から剥落した小片)1点、台石破片1点、敲磨器類7点(凹が主で敲打痕のあるものが2点、磨石小片が1点、敲石が4点)の合計47点が出土した。

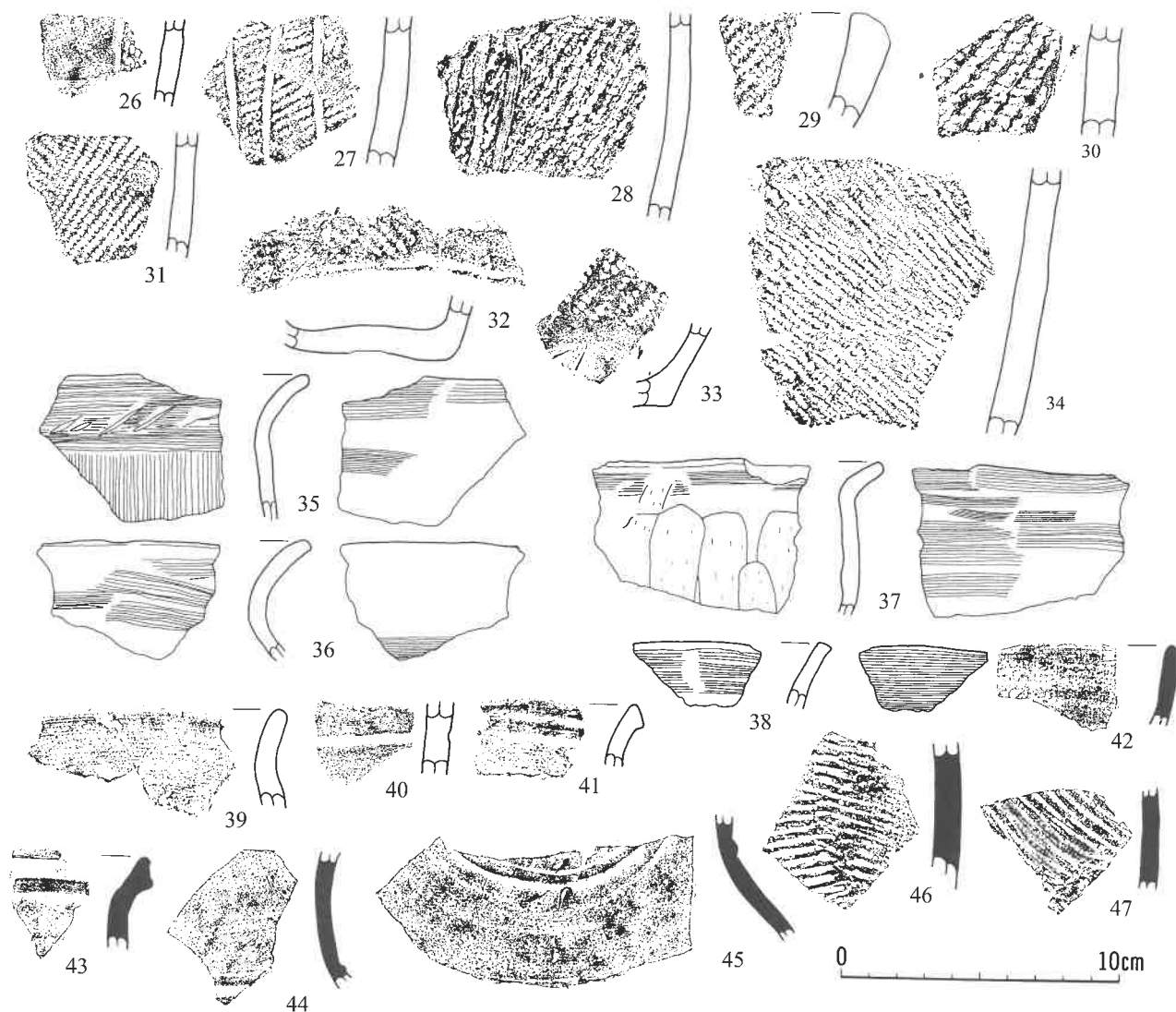
石材は、剥片石器は玉髓1点、鉄石英1点のほかはすべて珪質頁岩である。磨製石斧は緑色細粒凝灰岩、敲磨器類は凝灰岩・溶結凝灰岩などを使用している。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胸部上半	胸部下半				
1	II F-85	I		刺突 コンパス文			II-1		
2	II N-89	〃		R多軸絡		ミガキ	II-6	繊維混入	
3	II O-89	〃		R単絡1		ナデ	〃	〃	
4	I T-85	〃	L・R押圧、貼付			ミガキ	III-1~2		
5	II F-93	〃		貼付 L押圧 LR		〃	III-1~3		
6	〃	〃	貼付				III-4	細砂粒混入	
7	II F-90	〃		結束糸一種(LR・RL) 貼付		ナデ	〃		
8	II F-85	〃		LR 貼付(上面RL)		〃	〃		
9	II A-85	〃		RL 貼付(上面刺突)			〃		
10	〃	〃		縄文 貼付		ミガキ	〃		
11	I T-85	〃		RL? 貼付			〃		
12	〃	〃		RL 貼付 沈線		ナデ	III-5		
13	II N-85	〃		RL 沈線		〃	〃		
14	II H-89	〃		〃		〃	〃		
15	II I-89	〃		〃		ミガキ	〃		
16	II G-89	〃		〃		ナデ	〃		
17	II F-93	〃	口縁肥厚 RL縄文 RL押圧			〃	III-6		
18	II F-90	〃	LR押圧 LR			〃	〃		
19	II F-85	〃	口唇上面貼付 RL				〃		
20	II F-93	〃	口唇部沈線 RL 沈線			ナデ	〃		
21	I T-85	〃	LR押圧 貼付 LR			ミガキ	〃		
22	II F-93	〃	△状隆線				III-8		
23	I T-85	〃		LRL、沈線		ナデ	III-5・8?		
24	II D-85	〃		RL、刺突、RL			III-9		
25	I T-85	〃		LR、沈線			〃		

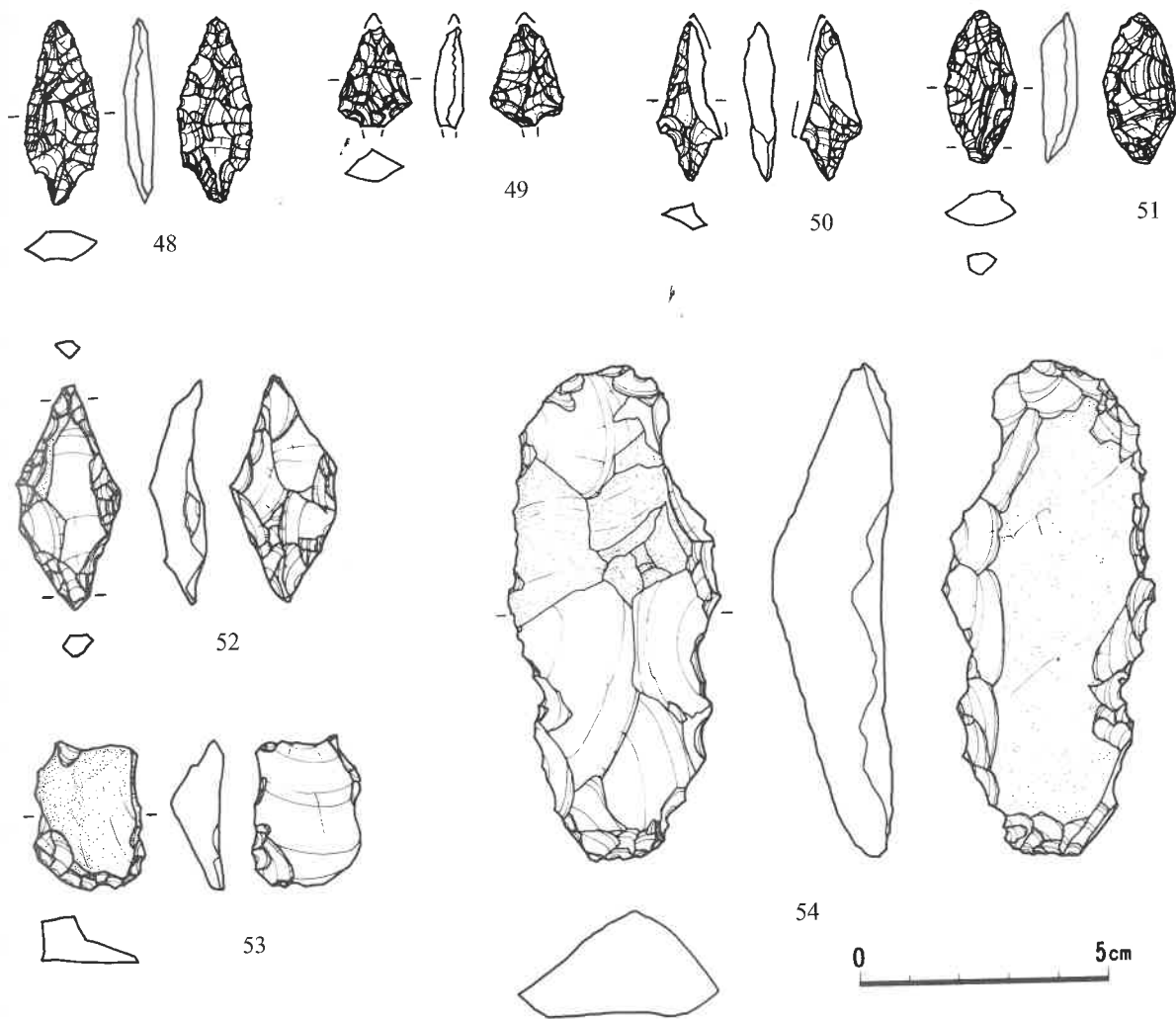
61図 第3次調査遺構外出土遺物(1)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
26	II F-92	I		消縄文RL、沈線		ミガキ	III-9		
27	I T-85	〃		LR、沈線		ナデ	〃		
28	II E-89	〃		〃			〃		
29	II E-85	〃	RL				III-11	口唇上面剥落	
30	II B-E-90	〃		RL単絡1、沈線			〃		
31	II F-93	〃		RL			〃	砂粒含む	
32	II O-89	〃		〃			〃		
33	II F-92	〃			RL		〃		
34	II F-93	〃			〃	素文	〃		

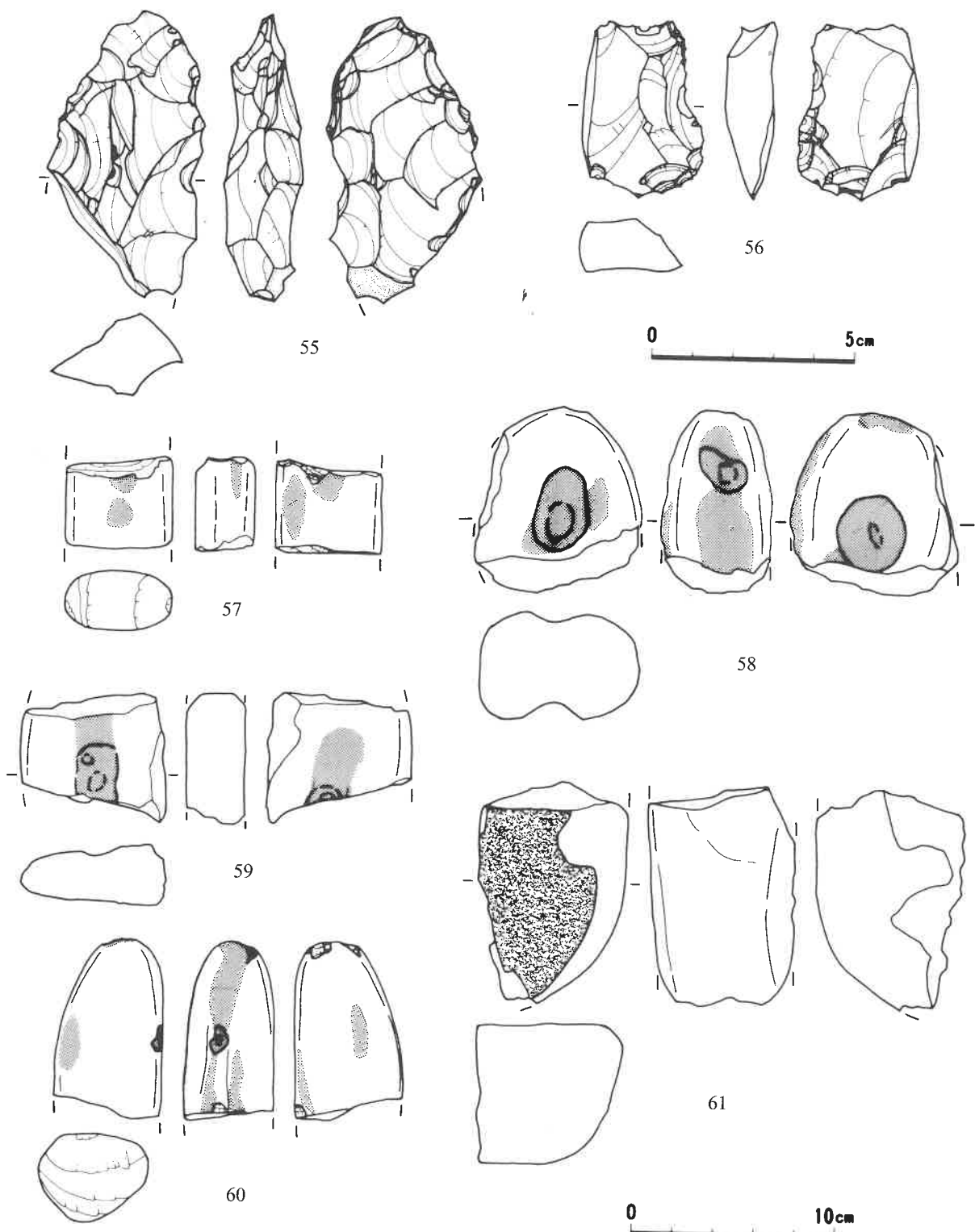
番号	出土地点	種類	器種	法量 (cm)			外面調整			内面調整			底面	分類	備 考
				口径	器	底径	口縁部	胴部上半	胴部下半	口縁部	胴部上半	胴部下半			
35	II C-85・I	土師	甕				ナデ	ナデ		ナデ	ナデ		VIII		
36	II A-85・〃	〃	〃				〃			ナデ	ナデ		〃		
37	II E-82・〃	〃	〃				〃	ケズリ		ナデ	ナデ		〃		
38	II D-85・〃	〃	〃				〃			〃	〃		〃	口唇部平坦に面取	
39	II D-82・〃	〃	〃				〃			〃	〃		〃		
40	II J-85・〃	〃	〃				凹線			〃	〃		〃	肩部附近	
41	II B-89・〃	〃	〃				ナデ			〃	〃		〃		
42	II F-89・〃	須恵器	坏				ロクロ			ロクロ	〃		〃		
43	II C-85・〃	〃	長頸壺				〃			〃	〃		〃		
44	II E-84・〃	〃	〃				〃			〃	〃		〃		
45	I T-85・〃	〃	〃				ロクロ			ロクロ	〃		〃	肩部に隆帯	
46	II F-93・〃	〃	大甕				平行叩			〃	〃		〃		
47	II O-89・〃	〃	〃				格子目叩			〃	〃		〃		

62図 第3次調査遺構外出土遺物 (2)



番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
48	ⅡP-93	I	27	15	6	3.0	珪頁	A b		30,014
49	ⅢL-0-90		20	14	6	1.6	〃	〃		30,016
50	〃		31	12	6	1.2	〃	〃	焼け	30,011
51	ⅡP-91	I	30	14	7	3.0	〃	D		30,192
52	ⅢE-85	〃	45	21	11	7.1	〃	〃		30,044
53	〃	〃	30	22	11	5.7	〃	G a		30,033
54	ⅡP-85	〃	96	39	26	81.1	〃	〃		30,104

63図 第3次調査遺構外出土遺物(3)



番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
55	ⅡK-88	I	70	32	20	46.1	珪頁	G a		30,102
56	ⅡO-85	〃	44	30	13	17.0	〃	〃		30,003
57	ⅡP-93	〃	46	50	29	103.2	凝	I b	敲打痕	30,100
58	ⅡK-85	〃	86	80	55	359.7	〃	I a	凹(主体)+敲打痕	30,115
59	ⅡM-85	〃	63	71	29	154.3	安	〃	〃	30,112
60	ⅡQ-89	〃	88	53	46	218.4	溶凝	I b	敲打痕	30,110
61	ⅡN-85	〃	115	73	70	588.8	凝	L		30,111

64図 第3次調査遺構外出土遺物(4)

第Ⅵ章 第4次調査

第1節 第4次調査の概要

本調査区は、平成四年度に検出された土坑墓域の東側に当たる。土坑墓列の延長・範囲を確認するため、最終的に6ヶ所の調査地点を設定した。調査面積は1112m²である。調査期間は平成7年9月25日～11月2日である。

当初、平成四年度の調査区に隣接した東側に設定し、その後約30m東側にも調査区を設定した。両地点からは、いずれも土坑墓が検出されたため、約60m東側に調査区を設定した。この調査区の東端からも土坑墓が検出された。さらに東側へ延びることが想定されたが、その確認は平成8年度以降に行うこととした。しかしながら、今回の調査によって、土坑墓域が先年の調査で検出した最西端から少なくとも約210m東方まで延びていることが確認できた。

6地点調査区を設けたが、検出した遺構・遺物の検出・出土状況は次のとおりである。

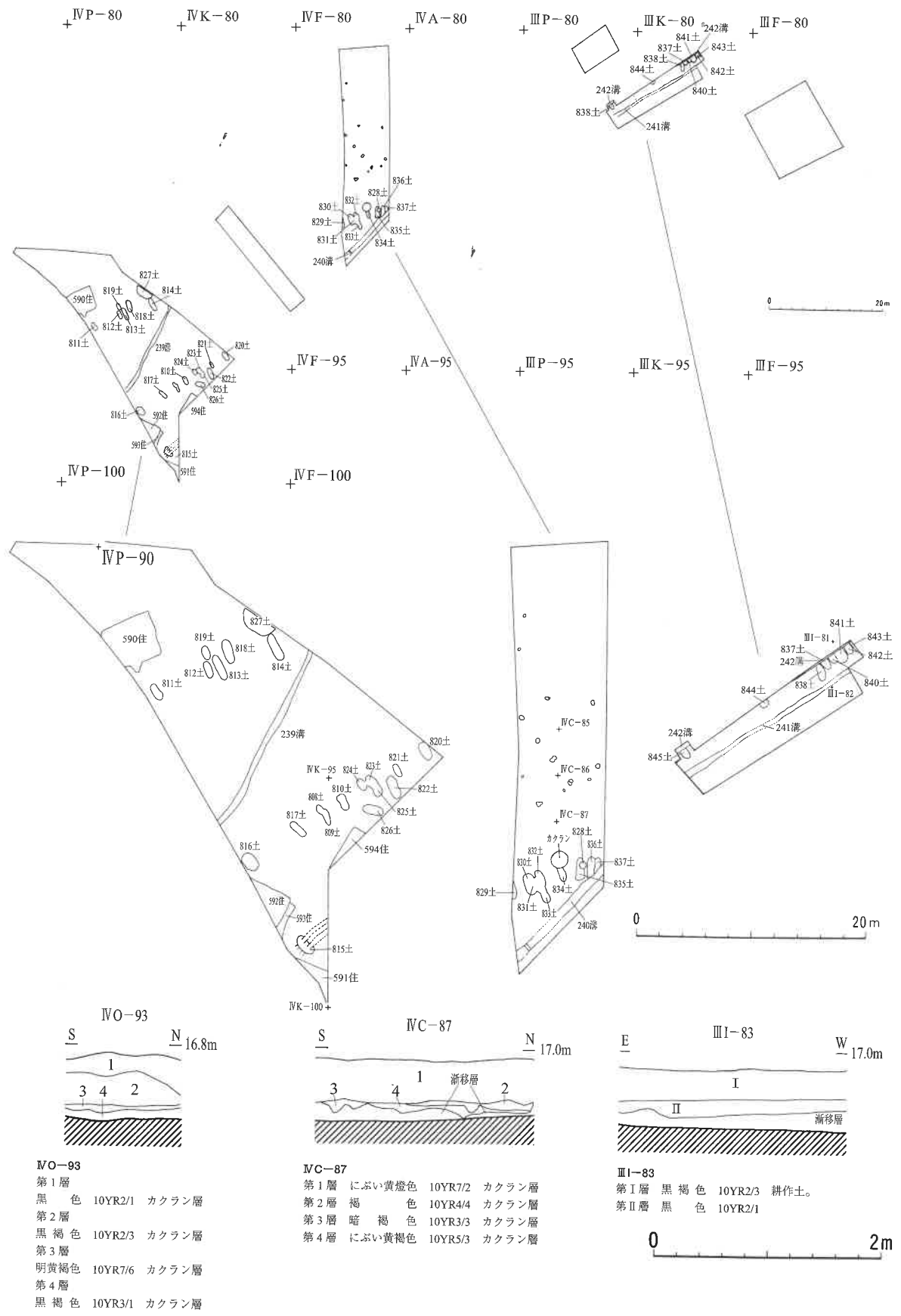
縄文時代の遺構は土坑墓と考えられる土坑を34基確認し、このうち4基を完掘、6基を半截、2基を1/4精査した。平安時代の竪穴住居跡は5棟確認し、うち1棟を半截した。時期不明の遺構としては、土坑4基、掘立柱建物跡と考えられる柱穴跡、溝跡4条を確認した。

遺物はダンボール箱で9箱分である。このうち3箱は平安時代の竪穴住居跡から出土したものである。遺構外の遺物は縄文時代前～中期、平安時代の遺物が出土している。

基本層序は西側の3つの調査区では、黒色土がほとんど削平され、厚いところでは1.5mもの現代の盛り土が覆っている。また、西側の南・北の調査区では表土がほとんど残存しない。西側中央調査区では漸移層直上まで耕作による攪乱が及んでいる状況であった。そのため遺構の確認は、漸移層ないしはローム面で行った。今回の調査目的のひとつとしていた、土坑墓上部の構造（土盛り等）は確認できなかった。

遺構の記載方法は、第Ⅱ章第3節で述べたとおりである。ただし、土坑の主軸については、長軸の両端の短軸側の中点を結んだ線で計測し、北を基準として、東西の角度を表記した。したがって、確認のみ、半截したのみの土坑については、誤差が生じる恐れがあるものの、西地点ではN-30°～45°-W、中央地点ではN-0°～30°-W、東地点ではN-15°～38°-Wの中にほぼ収まる。

平成4年度に調査した土坑墓と考えられる楕円形の土坑からは、縄文時代前期末葉（円筒下層d₂式）から円筒上層式の土器片が出土した。今回調査した土坑はその延長に当たり、一連のものと考えられる。時期決定に際しては、遺物の出土が無くても、その配置・形態・堆積土状況も判断基準とした。



65図 第4次調査遺構配置図・基本土層

第2節 検出遺構

縄文時代の遺構

第810号土坑 (66図・写真20)

- [位置と確認] IV J-95に位置する。表土除去後、第V層精査中に褐色土の落ち込みを確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 楕円形を呈する。長軸143cm、推定短軸71cm、確認面からの深さ10cmである。
- [壁・底面] 壁は緩やかに立ち上がる。底面は平坦であるが、長軸南から北に向かって約2°で傾斜する。比高差は3cmで南側が高い。
- [堆積土] ロームブロックが微量に混入する。人為堆積の可能性が高いと思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 形態・配置から縄文時代前期末葉～中期中葉ぐらいと思われる。

第811号土坑 (66図・写真20・24)

- [位置と確認] IV N-92に位置する。第V層精査中に黒褐色土の落ち込みを確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 隅丸長方形を呈する。長軸140cm、短軸66cm、確認面からの深さ26cmである。主軸方位はN-38°-Wである。
- [壁・底面] 壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦であるが、長軸北から南に向かって約2°で傾斜する。比高差は4cmで北側が高い。
- [堆積土] ロームブロックが多量に混入し、人為堆積と考えられる。
- [出土遺物] 堆積土中から縄文土器の小片が出土した。
- [時期] 出土土器からは判断できないが、形態・配置から縄文時代前期末葉～中期中葉ぐらいと思われる。

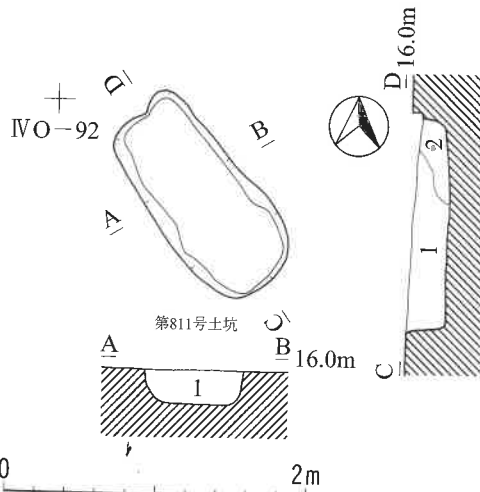
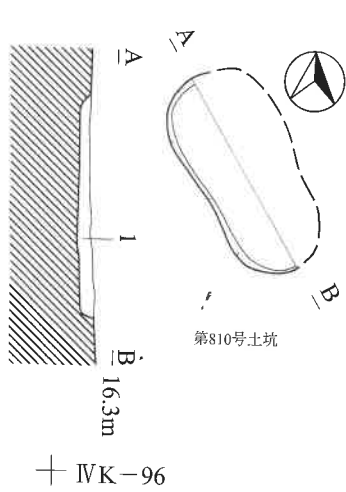
第812号土坑 (66図・写真20・24)

- [位置と確認] IV M-92に位置する。第V層精査中にロームブロックの広がりを確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 楕円形を呈する。長軸145cm、推定短軸60cm、確認面からの深さ16cmである。
- [壁・底面] 壁は外傾して立ち上がる。底面はほぼ平坦である。
- [堆積土] ロームブロックが多量に混入する。人為堆積と考えられる。
- [出土遺物] 敲磨器が南西壁側の確認面から出土した。
- [時期] 形態・配置から縄文時代前期末葉～中期中葉ぐらいと思われる。

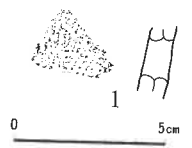
第813号土坑 (66図・写真20・24)

- [位置と確認] IV M-92に位置する。第V層精査中にロームブロックの広がりを確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 長楕円形を呈する。長軸255cm、短軸79cm、確認面からの深さ25cmである。主軸方

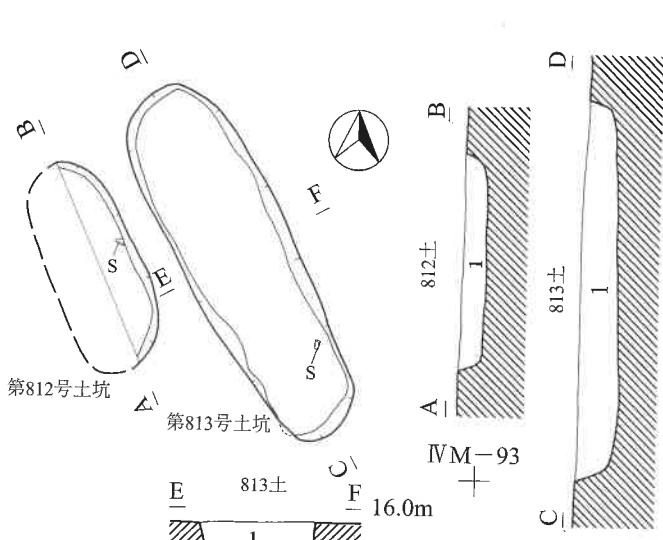
第810号土坑
第1層 黒褐色土 10YR2/3
しまり有。
L.B.



第811号土坑
第1層 黒褐色土 10YR2/2
しまり無。L.B.多量、
炭化物極微量混入。
第2層 黒褐色土 10YR2/2
しまり、粘性無。
L.B. 微量混入。

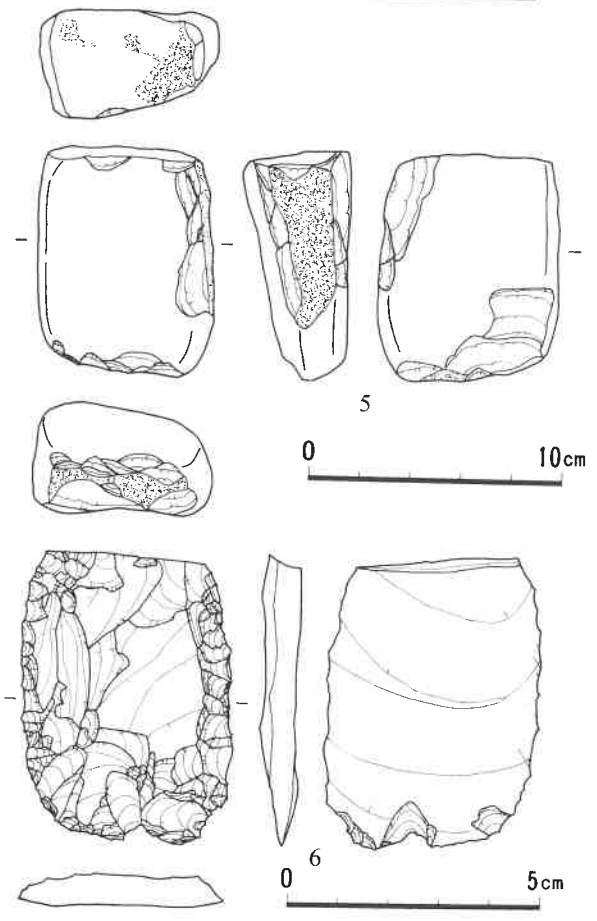
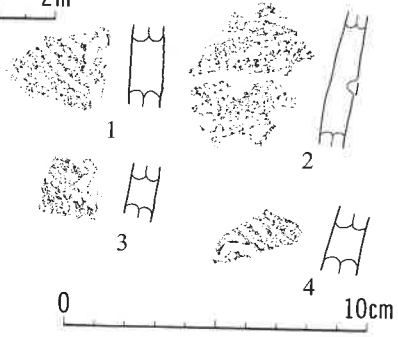


番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	811土	1層		無文				II?	



第812号土坑
第1層 黒褐色土 10YR3/2
L.B.多量、炭化物極微量。

第813号土坑
第1層 暗褐色土 10YR3/3
L.B.多量。



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	813土	1層		LR				II-6	
2	〃	〃		絡条体回転				〃	纖維混入
3	〃	〃		不明				〃	
4	〃	〃		LR 結節回転?				II?	

番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
5	812土	1層	91	71	43	400.7	安山	I	磨痕(主体)+敲打痕	30,117
6	813土	〃	57	43	8	26.0	珪頁	Ga		30,062

66図 第810・811・812・813号土坑

位はN-29°-Wである。

[壁・底面] 壁は外傾して立ち上がる。底面はほぼ平坦であるが、長軸北から南にかけて約2°傾斜する。比高差は、4cmで北側が高い。

[堆積土] ロームブロックが多量に混入する。人為堆積と考えられる。

[出土遺物] スクレイパーが東壁中央壁際の確認面から、堆積土中から縄文前期の土器片が出土した。

[時期] 出土土器は、縄文時代前期末葉ぐらいであるため、それに近い時期が考えられる。

第814号土坑 (67図・写真21)

[位置と確認] IV L-92に位置する。第V層精査中に褐色土の落ち込みとロームブロックの広がり
で確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 長楕円形を呈する。長軸230cm、推定短軸70cm、確認面からの深さ24cmである。

[壁・底面] 壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦だが、長軸北端と南端では北側がやや高い。

[堆積土] ロームブロックが多量に混入する。人為堆積と考えられる。

[出土遺物] なし。

[時期] 形態・配置から縄文時代前期末葉～中期中葉ぐらいと思われる。

第816号土坑 (67図・写真21)

[位置と確認] IV L-96に位置する。第V層精査中に暗褐色土の落ち込みを確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 楕円形を呈する。長軸161cm、推定短軸116cm、確認面からの深さ6cmである。

[壁・底面] 南側は削平によりほとんど残存していないが、北側の壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦であるが、長軸南側から北側に向かって約2°で傾斜する。比高差は3cmで南側が高い。

[堆積土] ロームブロックが多量に混入する。人為堆積と考えられる。

[出土遺物] なし。

[時期] 形態・配置から縄文時代前期末葉～中期中葉ぐらいと思われる。

第817号土坑 (67・68図・写真21・24)

[位置と確認] IV K-96に位置する。第V層精査中に暗褐色土の落ち込みを確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 隅丸長方形を呈する。長軸160cm、推定短軸54cm、確認面からの深さ17cmである。主軸方位はN-49°-Wである。

[壁・底面] 壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦であるが、長軸南側から北側に向かって約2°で傾斜する。比高差は5cmで南側が高い。

[堆積土] ロームブロックが少量混入する。人為堆積の可能性が高いと考えられる。

[出土遺物] 堆積土中から縄文時代中期土器片が出土した。また、土坑中央の堆積土中～下位にかけて、石鏃が10点出土した。

[時 期] 出土遺物から、縄文時代前期末葉から中期前半と考えられる。

第820号土坑 (69図・写真21・24)

[位置と確認] IVH-94に位置する。第V層精査中に暗褐色土の落ち込みを確認した。

[重 複] なし。!

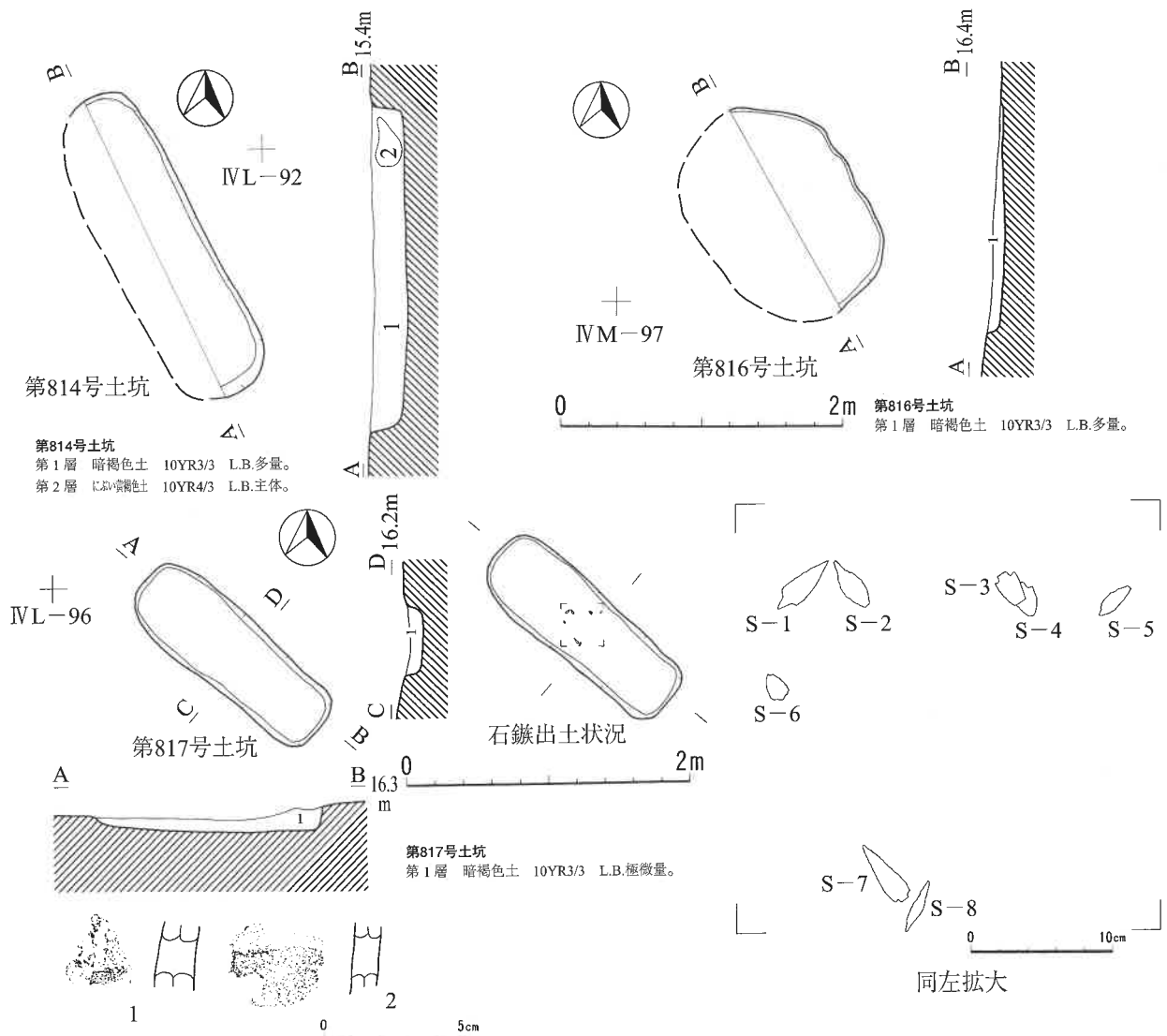
[平面形・規模] 楕円形を呈する。長軸160cm、推定短軸85cm、確認面からの深さ25cmである。

[壁・底面] 壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦であるが、長軸南側から北側に向かって約3°で傾斜する。比高差は4cmで南側が高い。

[堆 積 土] ロームブロックが微量混入する。人為堆積の可能性が高いと考えられる。

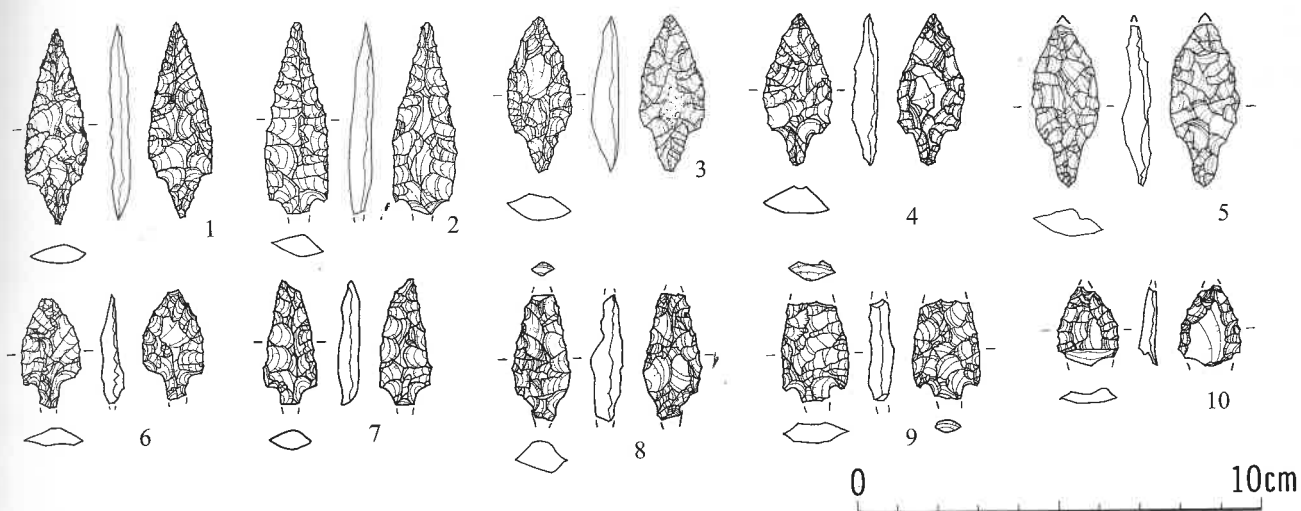
[出土遺物] 堆積土中から石鏃、縄文時代前期から中期の土器片が出土した。

[時 期] 新しいものでは、円筒上層b~c式土器が出土しており、それに近い時期と考えられる。



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	817土	1層		不明				Ⅲ-6	
2	〃	〃		無文				Ⅲ-6	

67図 第814・816・817号土坑



番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
1	817土	1層	48	16	5	3.1	珪頁	A a	S-1	30,049
2	〃	〃	47	16	5	3.8	〃	〃	S-7	30,043
3	〃	〃	38	16	7	3.5	〃	A b		30,037
4	〃	〃	37	16	6	3.2	〃	A a	S-8	30,019
5	〃	〃	40	17	7	3.6	〃	A b	S-2	30,047
6	〃	〃	27	15	5	1.7	〃	A a	S-4	30,035
7	〃	〃	30	13	5	1.7	〃	〃		30,056
8	〃	〃	31	14	8	2.8	〃	A b	S-5	30,046
9	〃	〃	24	16	6	2.6	〃	A a	S-3	30,041
10	〃	〃	20	15	4	0.9	〃	〃	S-6	30,059

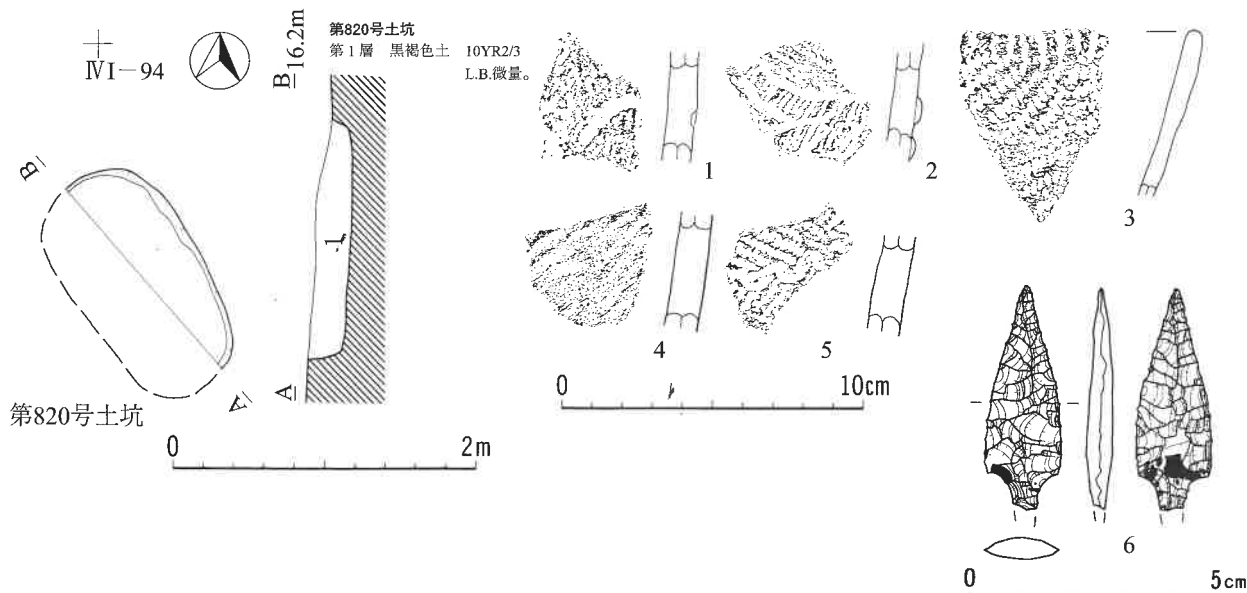
68図 第817号土坑出土遺物

第822号土坑 (69図・写真24)

- [位置と確認] IV I-95に位置する。第V層精査中にロームブロックの広がりを確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 長楕円形を呈する。長軸207cm、推定短軸82cm、確認面からの深さ15cmである。
- [壁・底面] 壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦であるが、長軸南側から北側に向かって約6°で傾斜する。比高差は4cmで南側が高い。
- [堆積土] ロームブロックが少量混入する。人為堆積の可能性が高いと考えられる。
- [出土遺物] 堆積土中から縄文時代前期から中期の土器片が出土した。
- [時期] 円筒上層b式の土器片が出土していることから、それに近い時期と考えられる。

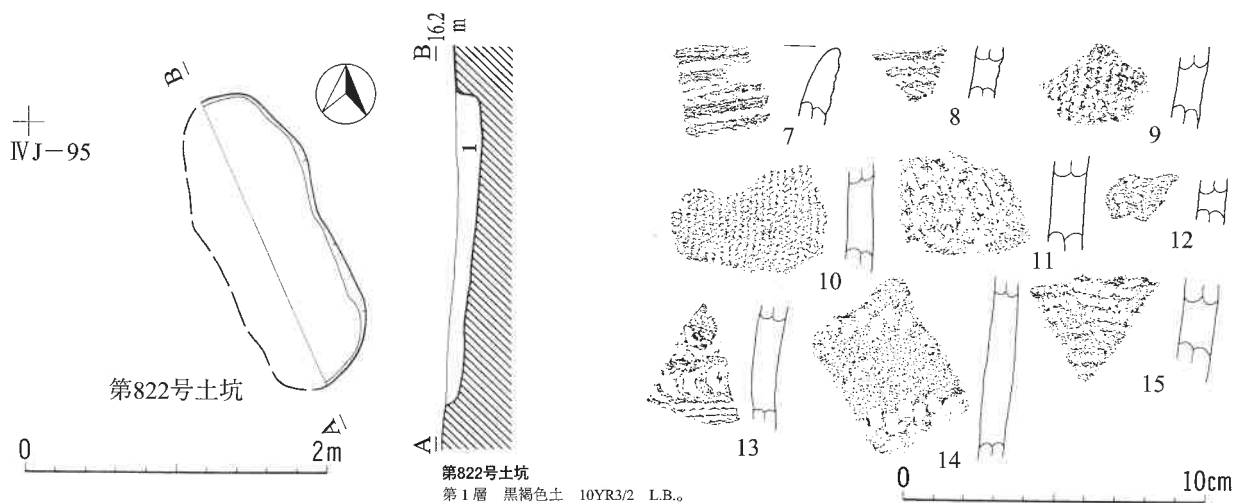
第835号土坑 (70図・写真22・24)

- [位置と確認] IV B-87~88に位置する。第V層精査中に黒色土の落ち込みを確認した。
- [重複] 828号土坑と重複し、本土坑が古い。
- [平面形・規模] 釣鐘形を呈し、長軸195cm、短軸76cm、深さ16cmである。
- [壁・底面] 壁は外傾して立ち上がる。底面は南側に弧形の深さ5cmほどの不整な落ち込みがある。それ以外の部分は、北側から南側へ向かって、傾斜する。主軸方位はN-2°-Wである。



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	820土	1層		不明			II-6	繊維多量	
2	〃	〃	貼付(L押圧)RL縄文				III-6		
3	〃	〃	原体圧痕	LR縄文			〃		
4	〃	〃		LR			〃		
5	〃	〃		結束第二種(RL, LR)			〃		

番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
6	820土	1層	45	15	5	3.0	珪頁	A a	アスファルト	30,157



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
7	822土	1層	LR押圧				II-5-1	繊維多量	
8	〃	〃	〃				II-5		
9	〃	〃		R単絡1			II-6		
10	〃	〃		〃			〃		
11	〃	〃		絡糸体回転			〃	繊維・細砂粒混入	
12	〃	〃		不明			II-6?		
13	〃	〃	LR押圧(直線状・馬蹄形状)				III-2		
14	〃	〃		LR縄文			III-6		
15	〃	〃		〃			〃		

69図 第820・822号土坑出土遺物(2)

- [堆積土] ロームブロックが混入する。
- [出土遺物] 土坑中央西寄りの堆積土下位から磨石が、南寄りの堆積土中位から敲石が出土した。また、堆積土中から縄文時代中期前半の土器片が出土した。
- [時期] 出土土器から、中期前半ぐらいの時期と考えられる。

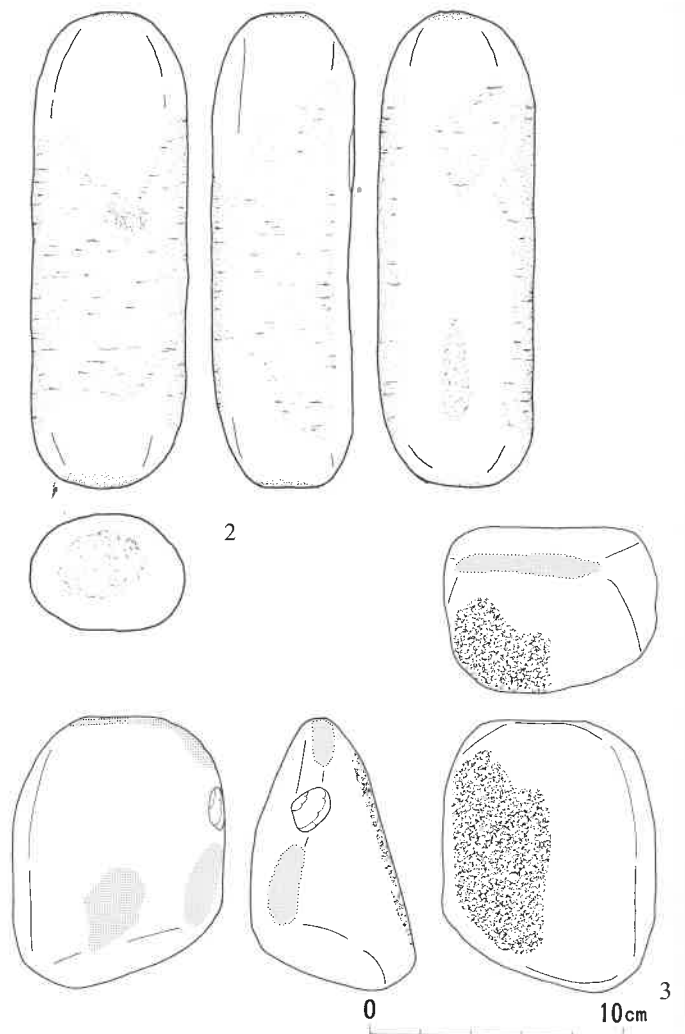
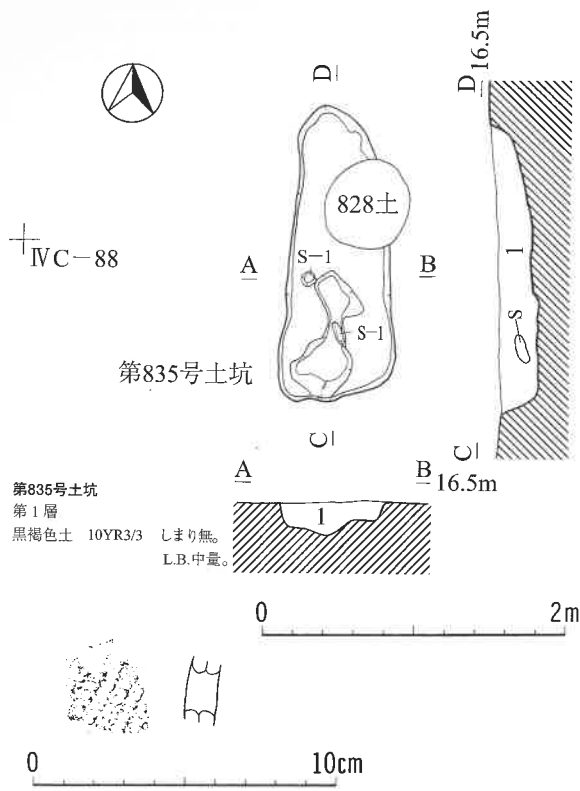
第838号土坑 (70図・写真22)

- [位置と確認] III I-81に位置する。第V層精査中に黒色土の落ち込みを確認した。
- [重複] 第242号溝跡と重複し、本土坑が古い。
- [平面形・規模] 確認面では楕円形を呈し、推定長軸152cm、推定短軸60cm、深さ13cmである。
- [壁・底面] 壁は外傾して立ち上がる。底面は約5°で長軸北側から南側に向かって傾斜する。
- [堆積土] 黄褐色ローム主体である。
- [出土遺物] 土坑中央南よりの底面直上から敲石が出土した。
- [時期] 形態・配置から縄文時代前期末葉～中期中葉ぐらいと思われる。

第842号土坑 (70図・写真22・24)

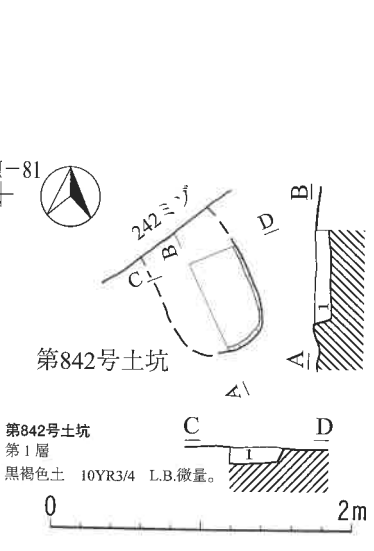
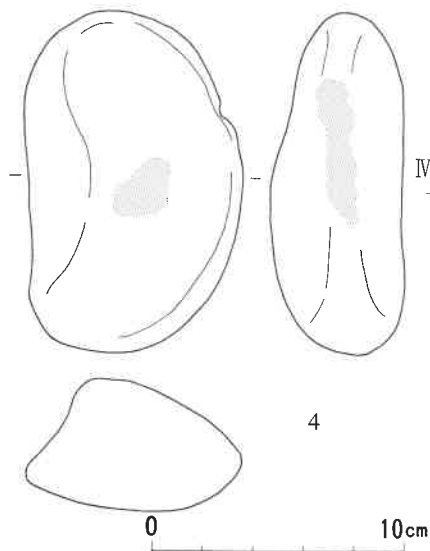
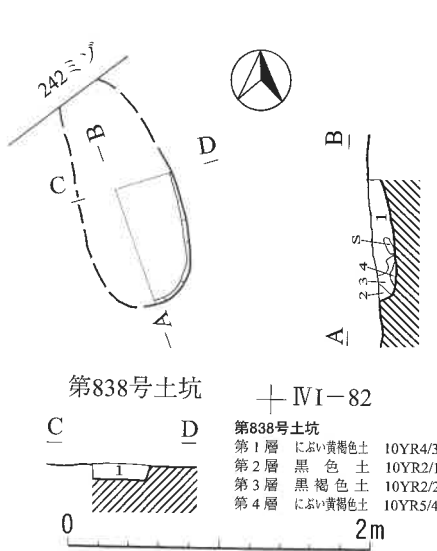
- [位置と確認] III H-81に位置する。第V層精査中に黒色土の落ち込みを確認した。
- [重複] 第242号溝跡と重複し、本土坑が古い。
- [平面形・規模] 確認面では楕円形を呈すると思われ、長軸は不明であるが、推定短軸は60cm、深さ10cmである。
- [壁・底面] 壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。
- [堆積土] 暗褐色土主体である。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 形態・配置から縄文時代前期末葉～中期中葉ぐらいと思われる。

(小笠原 雅行)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	835土	1層		PL縄文				Ⅲ-6	

番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
2	835土	1層	186	61	56	1,022	凝灰	Ib	敲打痕	30,109
3	〃	〃	107	84	66	675.8	〃	Ic	磨痕(主体)+敲打痕	30,116



番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
4	838土	1層	135	88	51	794.0	安山	Ib	敲打痕	

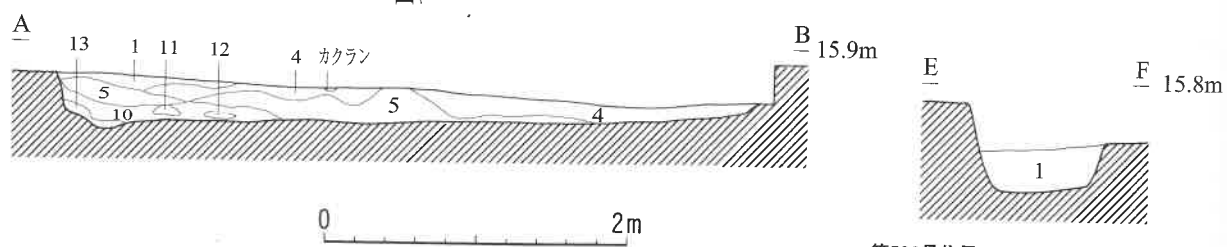
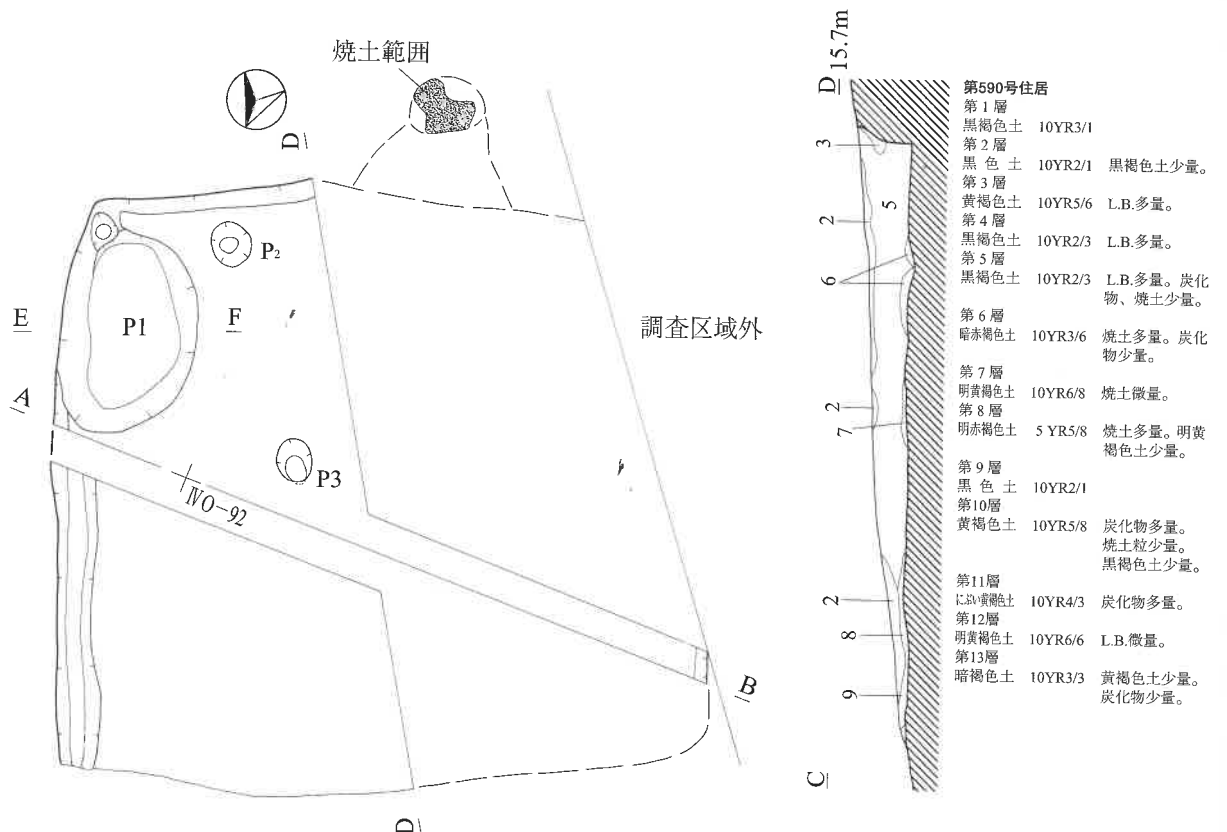
70図 第835・838・842号土坑

平安時代の遺構

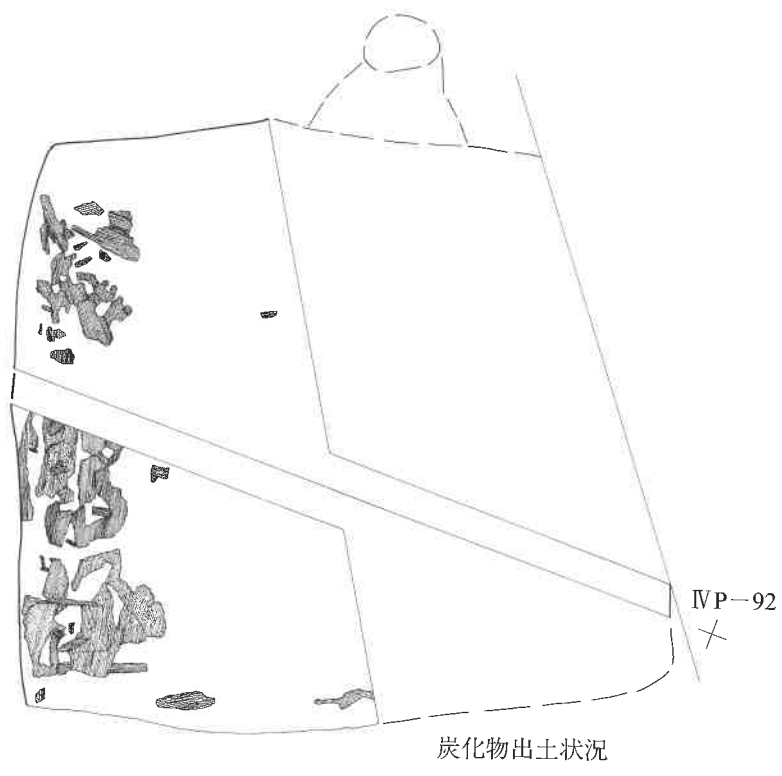
第590号竪穴住居跡 (71~73図・写真23・25)

- [位置と確認] IV N~O-91~92に位置する。表土除去後、第V層精査中に確認した。精査を進めていったところ、焼失家屋であることが判明した。また、北側は削平されている。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 方形を呈すると考えられる。規模は東壁は残存部で375cm、北側は確認のみも含めて420cmである。
- [壁・床面] 壁高は、南壁で38cm、東壁で25cmあり、北壁は削平され残存しない。床面は、全面に貼り床が施され、特にカマドに近い南西側が堅緻である。全体にほぼ平坦である。
- [壁溝] 東壁北側で検出した。幅25cm、深さ10~12cmである。削平のためか、北壁部では確認できなかった。また、南壁では検出されなかった。
- [炭化材の出土状況] 東壁北側では、炭化材が壁から倒れ込んだように検出された。柱状の炭化材もあるが、多くは板材であることから、腰板の一部と考えられる。東壁の南側では炭化材のまとまりが弱く、点在した状態で出土している。
- [柱穴] ピットは4個検出している。ピット1については[その他の施設]でのべる。ピット2~4の深さはP2-19cm、P3-31cm、P4-12cmである。いずれも柱痕は確認できなかった。このうち、ピット2が柱穴の可能性が高いと考えられるものである。対応するピットは床面上では確認できず、貼床を剥がしていないため、詳細は不明である。
- [カマド] 精査は行っていないが、南壁西側で煙出し部と見られる焼土が確認された。
- [その他の施設] 東壁南隅からピット1が床面上で暗褐色の落ち込みとして確認された。平面形は楕円形を呈し、134×90cmの規模で深さは34cmである。堆積土は暗褐色土主体で白色粘土、焼土塊、炭化物が多量に混入する。当初、付近から検出されている土坑墓の可能性も考えられたが、堆積土の状況も明らかに異なり、半截した結果、堆積土中から土師器片が出土したため、平安時代のものとしてとらえた。
- [堆積土] 13層に分層した。堆積土下部には焼土が見られ、黄褐色土も多量に混入する。堆積土最上部は一部攪乱を受けているが、上部全体としては黒色土が主体である。
- [出土遺物] 床面・床面直上から土師器甕・坏、須恵器片、土製支脚、台石などが出土した。

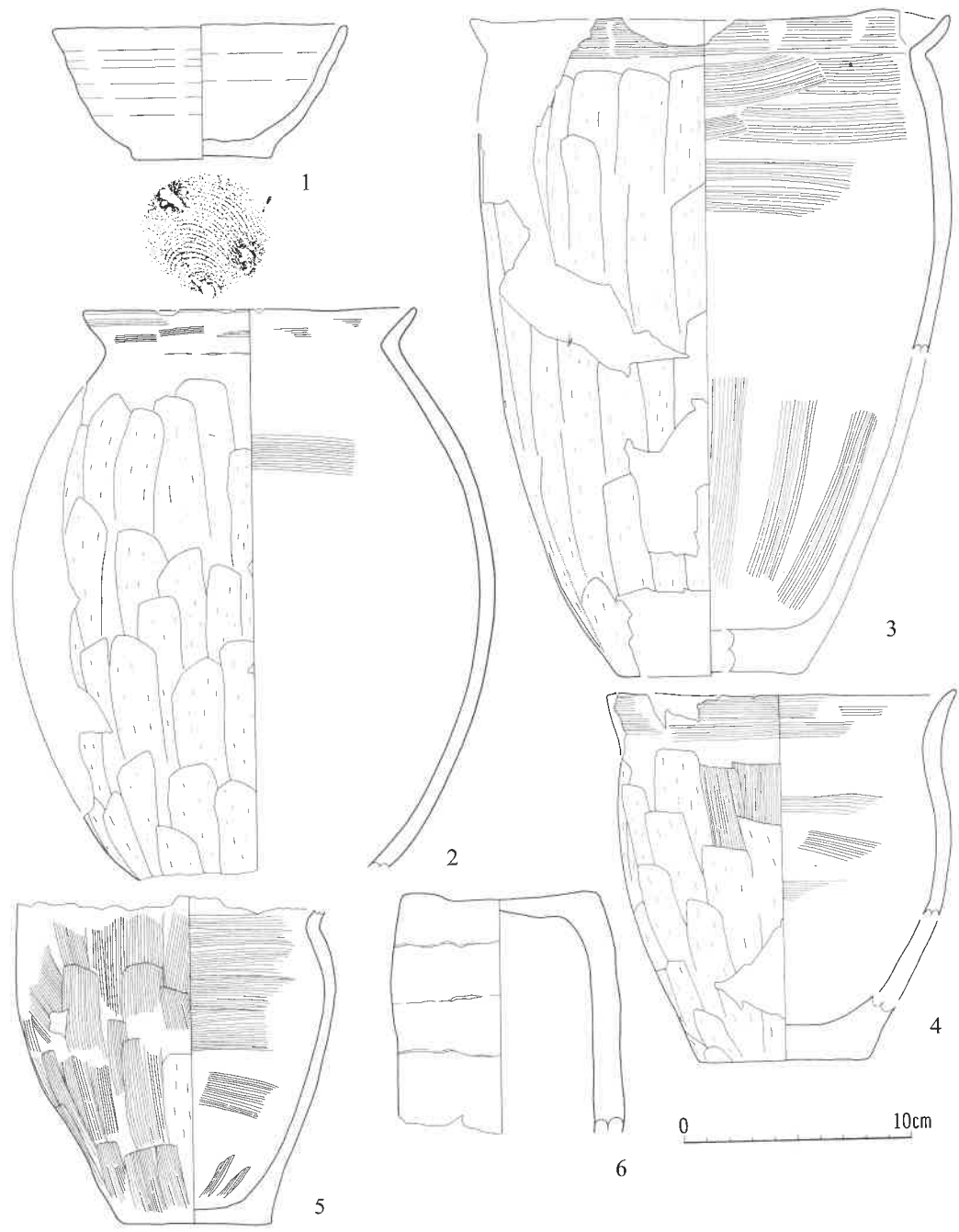
(小笠原 雅行)



第590号住居 Pit 1
 第1層
 暗褐色土 10YR3/4 白色粘土、焼土、炭化物多量混入。

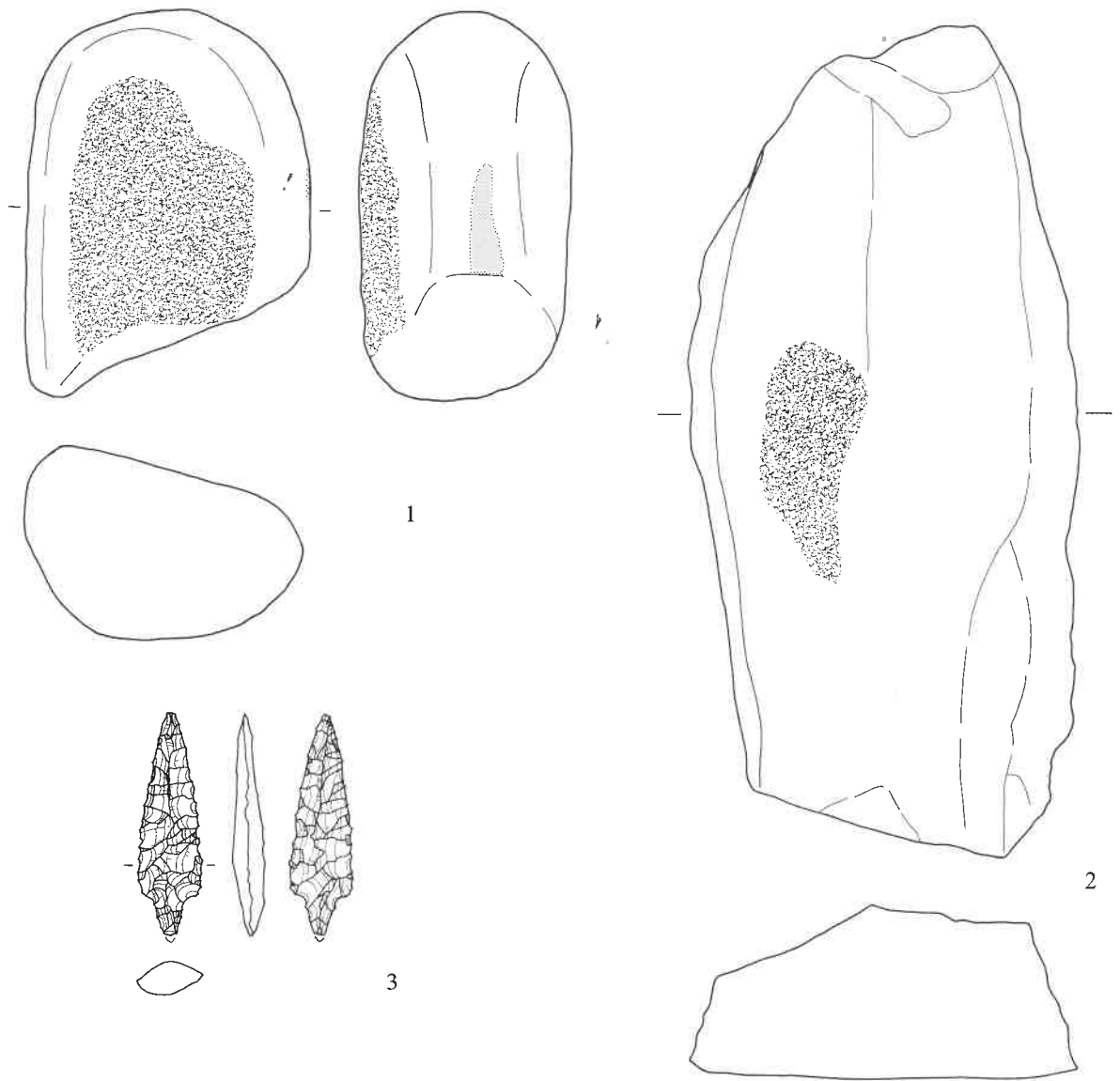


71図 第590号住居跡



番号	出土地点	種類	器種	法量 (cm)			外面調整			内面調整			底面	分類	備考
				口径	器	底径	口縁部	胴部上半	胴部下半	口縁部	胴部上半	胴部下半			
1	590住 床直	土師	坏	12.9	5.8	6.0	ロクロ		ロクロ	ロクロ		ロクロ	回糸切	VIII	P-15・16
2	〃	〃	甕	21.1	28.5	7.8	ナデ	ケズリ	ケズリ	ナデ	ナデ	ナデ		〃	P-8・10
3	〃	〃	〃	14.6	(24.2)		ナデ	ケズリ	ケズリ	ナデ	ナデ			〃	P-7
4	〃	〃	〃	15.4	15.8	7.4	ナデ	ナデ	ケズリ	ナデ	ナデ			〃	P-5
5	590住 ビット6	〃	〃		(14.2)	6.5		ナデ	ナデ		ナデ	ナデ		〃	
6	590住 床直		支脚	8.5	10.1									〃	

72図 第590号住居跡出土遺物 (1)



番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
1	590住	2層	162	114	88	2,282	安山	Ic	S-1	30,235
2	〃	床直	345	163	70	5,498	〃	L	S-3	30,236
3	〃	3層	47	14	7	4.1	珪頁	A b		30,005

73図 第590号住居跡出土遺物(2)

時期不明の遺構

第815号土坑 (74図・写真23)

- [位置と確認] IV K-98に位置する。表土除去後、黒褐色土の落ち込みを確認した。
- [重 複] 最近まで使用された道路の轍によって攪乱を受けている。
- [平面形・規模] 楕円形を呈する。長軸184cm、推定短軸90cm、確認面からの深さ15cmである。
- [壁・底面] 壁は外傾して直線的に立ち上がる。底面は若干凹凸がある。
- [堆 積 土] 黒色土を主体とし、ロームブロックが少量、炭化物が多量に混入する。
- [出土遺物] なし。
- [時 期] 遺物が出土していないが、堆積土の状況から、縄文時代の遺構より新しいと思われる。
- [そ の 他] 本土坑は堆積土の状況から、付近で検出された土坑とは時期・性格が異なるが、明らかにしえなかった。

第827号土坑 (74図・写真23)

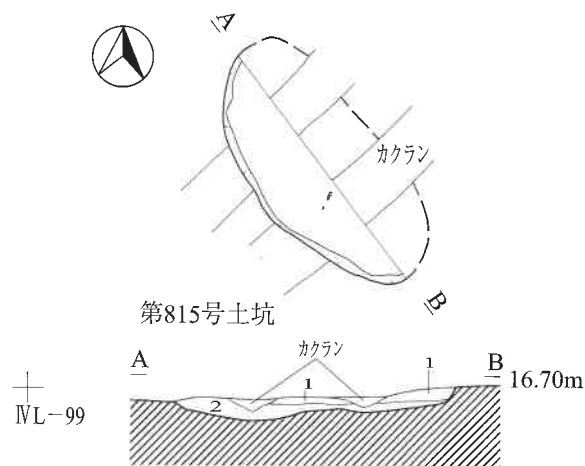
- [位置と確認] IV L-91に位置する。第V層精査中に黒色土の落ち込みを確認した。
- [重 複] なし。
- [平面形・規模] 一部調査区外へ延びるが、径315cmの円形を呈すると考えられる。確認面からの深さ11cmである。
- [壁・底面] 壁は緩く外傾して立ち上がる。底面は平坦である。
- [堆 積 土] 黒色土を主体とし、しまりが非常に強い。ローム塊が多量に混入する。
- [出土遺物] なし。
- [時 期] 調査時の所見では、堆積土の状況から、少なくとも縄文時代より新しい可能性が高い。

第828号土坑 (74図・写真23)

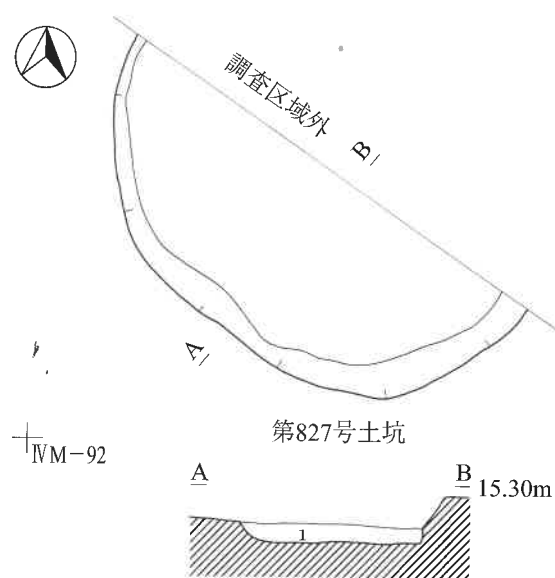
- [位置と確認] IV C-87に位置する。第V層精査中に黒色土の落ち込みを確認した。
- [重 複] 835号土坑と重複し、本土坑が新しい。
- [平面形・規模] 径58cmの円形を呈する。深さは20cmである。
- [壁・底面] 壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。
- [堆 積 土] ロームブロックが多量に混入する。
- [出土遺物] なし。
- [時 期] 堆積土の状況から、縄文時代より新しい可能性が高い。

第844号土坑 (74図)

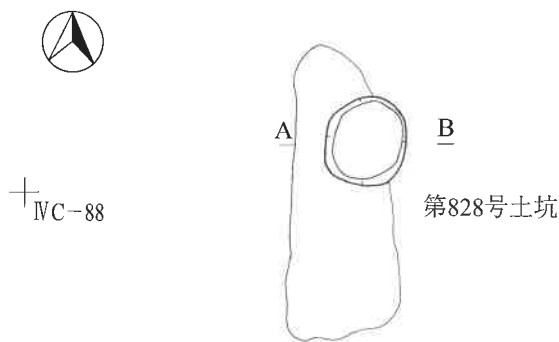
- [位置と確認] III J-82に位置する。第V層精査中に黒色土の落ち込みを確認した。
- [重 複] なし。
- [平面形・規模] 径78cmの円形を呈する。深さは24cmである。
- [壁・底面] 壁は直線的に立ち上がる。底面は平坦である。
- [堆 積 土] ロームブロックが少量混入する。



第815号土坑
 第1層 黒色土 10YR1.7/1 炭化物多量、L.B.、焼土塊微量。
 第2層 黒褐色土 10YR3/3 L.B.多量。



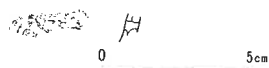
第827号土坑
 第1層 黒色土 10YR1.7/1 L.B.多量。



第828号土坑
 第1層 黒褐色土 10YR2/2 粘性・しまり無。L.B.多量。



第844号土坑
 第1層 黒褐色土 10YR2/1 L.B.微量。
 第2層 黄褐色土 10YR5/6 L.B.少量。
 黒褐色土微量。



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	828土	堆積土		縄文?					

74図 第815・827・828・844号土坑

[出土遺物] なし。

[時期] 出土遺物もなく、堆積土の状況からも判断できない。

(小笠原 雅行)

柱 穴 跡 (75図・写真25)

IVC-82~86付近にかけて、柱穴群を確認した。これらは掘立柱建物跡を構成するものと考えられるが、幅8m弱のトレンチ調査で、全容は不明である。そのため、確認した柱穴群を一括して扱うこととする。個々の計測値は、第5節の観察表を参照されたい。

ピットの掘り方は、平面形は円形ないしは不整形、規模は、上端で19cm~40cm前後、深さ9~32cmである。重複関係の見られるものもある。柱痕は、1基に確認された。出土遺物は11366ピットから縄文土器片、11372ピットから土師器片が出土した。いずれも小片で、それによる時期決定はできないと思われる。

溝 跡

第239号溝跡 (75図)

[位置と確認] IVM~K-92~94に位置する。表土除去後、黒色土の落ち込みを確認した。

[重複] なし。

[平面形] 南西から北東へ直線的に伸びる。

[壁・底面] 壁は外傾しながら直線的に立ち上がる。上端幅50cm、下端幅41cmである。底面は東側に向かって傾斜する。

[堆積土] 黒色土主体である。

[出土遺物] なし。

[時期] 堆積土の状況、平成4年からの調査所見から、中~近世のものと考えられる。

第240号溝跡 (75図)

[位置と確認] IVB~C-88~89に位置する。表土除去後、黒色土の落ち込みを確認した。

[重複] 第836・837号土坑と重複し、いずれよりも新しい。

[平面形] 南西から北東へ直線的に伸びる。

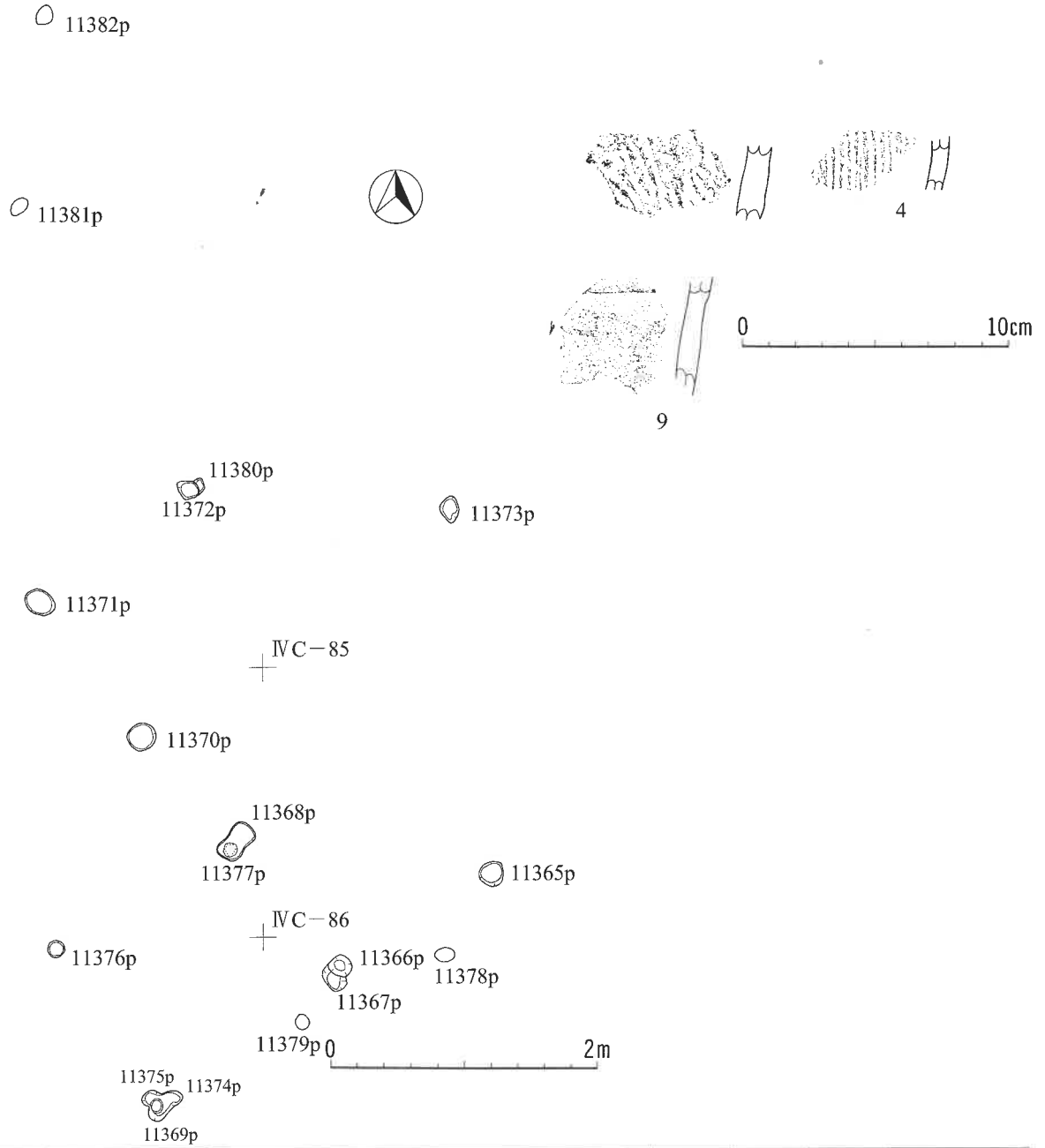
[壁・底面] 壁はほぼ垂直に立ち上がる。上端幅58cm、下端幅45cmである。底面はほぼ平坦である。

[堆積土] 黒色土主体である。

[出土遺物] なし。

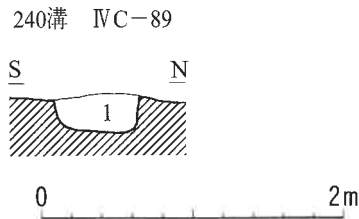
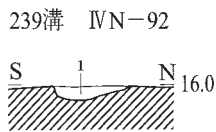
[時期] 堆積土の状況、平成4年からの調査所見から、中~近世のものと考えられる。

(小笠原 雅行)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	11366p	堆積土		RL				III	
2	〃	〃		L単絡1				II-6	

番号	出土地点	種類	器種	法量 (cm)			外面調整			内面調整			底面	分類	備考
				口径	器	底径	口縁部	胴部上半	胴部下半	口縁部	胴部上半	胴部下半			
3	11372p	土師						ロクロ			ロクロ			VIII	



75図 柱穴群・出土遺物、第239・240号溝跡セクション

第3節 検出遺構一覧

縄文時代土坑計測表

図版 番号	土坑 番号	グリッド	重複 ・ 新旧	平面形	計測値 (cm)			出土遺物				時期	備考
					開口部	底面	深さ	土器	剥片 石器	礫石器	その他		
65図	808	IVK-95	809土	楕円形	(152)×(45)	×						前～中期	確認のみ
65図	809	IVK-95	808土	〃	(96)×(60)	×						〃	〃
66図	810	IVJ-95	なし	〃	143×(71)	138×	10 ¹					〃	半截
66図	811	IVN-92	〃	隅丸長方形	140×66	132×55	26	○				〃	完掘
66図	812	IVM-92	〃	楕円形	145×(60)	136×	16			○		〃	半截
66図	813	IVM-92	〃	長楕円形	255×79	237×64	25	○	○			〃	完掘
67図	814	IVL-92	〃	〃	230×(70)	217×	24					〃	半截
67図	816	IVL-96	〃	〃	161×(116)	154×	6					〃	〃
67図	817	IVK-96	〃	隅丸長方形	160×54	152×49	17	○	○			〃	完掘
65図	818	IVM-92	〃	楕円形	(205)×(85)	×						〃	確認のみ
65図	819	IVM-92	〃	〃	(122)×(64)	×						〃	〃
69図	820	IVH-94	〃	〃	160×(85)	147×	25					〃	半截
65図	821	IVI-94	〃	〃	(110)×(55)	×						〃	確認のみ
69図	822	IVI-95	〃	〃	207×(82)	197×	15	○				〃	半截
65図	823	IVJ-95	824土	〃	(150)×(82)	×						〃	確認のみ
65図	824	IVJ-95	823土	〃	(110)×(67)	×						〃	〃
65図	825	IVI-95	823土	円形?	(75)×(75)	×						〃	〃
65図	826	IVJ-95	なし	楕円形	(178)×(80)	×						〃	〃
65図	829	IVC-88	なし?	楕円形?	×	×						〃	確認のみ、大半調査区外
65図	830	IVC-88	831土	楕円形	(181)×(92)	×						〃	確認のみ
65図	831	IVC-88	830~33	〃	(160)×(75)	×						〃	〃
65図	832	IVC-88	831土	〃	(150)×(70)	×						〃	〃
65図	833	IVC-88	〃	〃	(90)×(65)	×						〃	〃
65図	834	IVB-88	井戸	〃	(130)×(65)	×						〃	〃
70図	835	IVB-88	828土	〃	195×76	190×68	16			○		〃	完掘
65図	836	IVB-88	240ミゾ	〃	(190)×(70)	×						〃	確認のみ
65図	837	IVB-88	〃	〃	(130)×(50)	×						〃	〃
70図	838	ⅢI-81	242ミゾ	〃	(150)×(65)	×	16	○		○		中期前半	1/4精査
65図	839	ⅢI-81	〃	〃	(90)×(70)	×						前～中期	確認のみ
65図	840	ⅢH-81	〃	〃	(80)×(55)	×						〃	〃
65図	841	ⅢH-81	〃	〃	(120)×(90)	×						〃	〃
70図	842	ⅢH-81	〃	〃	(88)×(40)	×	10					〃	1/4精査
65図	843	ⅢH-81	〃	〃	(95)×	×						〃	確認のみ
65図	845	ⅢL-83	242ミゾ	〃	(90)×(65)	×						〃	〃

時期不明土坑計測表

図版 番号	土坑 番号	グリッド	重複 ・ 新旧	平面形	計測値 (cm)			出土遺物				時期	備考
					開口部	底面	深さ	土器	片 石器	礫石器	その他		
74図	815	IVK-98	攪乱	楕円形	184×(90)	175×	15					不明	確認のみ
74図	827	IVL-92	〃	(円形)	(315)×	(289)×	11					不明	半截
74図	828	IVB-88	835土	円形	58×56	53×45	20					不明	完掘
74図	844	IVN-82	なし	円形	78×66	72×	24					不明	半截

平安時代住居跡計測表

図版 番号	住居 番号	位置	重複 ・ 新旧	平面形	計測値 (cm)				壁溝	主軸 方位	主柱穴	カマド	出土遺物	備考
					開口部	床面	深さ	面積						
71図	590	IV O-92	なし	方形	375×(420)		38		北東壁		不明	南西壁	土師器・支脚・台石等	半截のみ
65図	591	IVK-99	〃											確認のみ
65図	592	IVL-97	593H											〃
65図	593	IVK-97	592H											〃
65図	594	IVJ-96	なし											〃

図版	ピット 番号	位置	平面形	計測値			柱痕	出土遺物	時期	備考
				上端径	下端径	深さ				
75図	11365	IVB-85	円形	38	30	17	無			
75図	11366	IVB-86	〃	34	17	32	無	縄文土器		
75図	11367	〃	〃	(41)	(26)	16	無			
75図	11368	IVC-85	〃	(36)	(33)	9	無			
75図	11369	IVC-86	〃	(34)	(18)	14	無			
75図	11370	IVC-85	〃	40	35	15	無			
75図	11371	IVC-84	〃	48	37	16	無			
75図	11372	〃	不整円形	34	25	7	無	土師器片		
75図	11373	IVB-84	〃	39	30	13	無			
75図	11374	IVC-86	〃	(25)	(15)	10	無			
75図	11375	〃	〃	(26)	(15)	10	無			
75図	11376	IVC-85	円形	25	21	7	無			
75図	11377	〃	不整円形	(39)	(34)	9	無			
75図	11378	IVB-86	〃	(31)			無			確認のみ
75図	11379	〃	円形	(23)			無			〃
75図	11380	IVC-84	不整円形	(19)	(12)	17	無			
75図	11381	IVC-83	〃	(30)			無			確認のみ
75図	11382	IVC-82	〃	(29)			無			〃

第4節 遺構外出土遺物

土器 (76~78図・写真26)

本試掘調査区からは、縄文時代前期から中期、古代の遺物が出土した。出土量が少ないため、分類は時期別による分類のみとし、土器型式についてはそれぞれの記述・観察表の中で触れる。

第Ⅱ群 縄文時代前期 (1~5)

1・2は口唇上面に「コ」の字状の刺突がある。2の口縁部にはRによる単軸絡条体1類の押圧が施される。3は、口縁部にワラビ状の貼付がある。これらは円筒下層d₂式と考えられる。4・5は円筒下層式の胴部片である。

第Ⅲ群 縄文時代中期 (6~29)

6~18は円筒上層式に含まれるものである。6~8は、粘土紐の貼付後、原体押圧が施される。円筒上層a~bである。9は上層c式で、口唇部に貼付、直下に刺突が施される。12・13は地文後、細隆帯が貼付される。円筒上層d式である。11・14・15は円筒上層e式である。16は口縁部片であるが、若干肥厚した口唇部に原体が押圧される。円筒上層d~e式に比定される。17・18は円筒上層式の胴部片である。

19~29は大木系に属するものである。19~22は地文と沈線が施されるものである。榎林式に比定されると思われる。22はRLの施文された折返し口縁の直下に、横位の沈線が施される。23・24は最花式である。23は無文、24は磨消縄文に沈線が施される。25・26は、大木式系の地文のみの口縁部である。27~29は大木系の胴部片である。

第Ⅳ群 縄文時代後期 (30~38)

30・31は口縁から胴部にかけて、網目状撚糸文が施される。後期初頭のものである。32は無文部に同心円状に沈線が描かれる。十腰内I式である。33は底部片であるが、平行に沈線が4条施されている。34~38は同一個体で、胴部に格子目状の沈線が施されるものである。

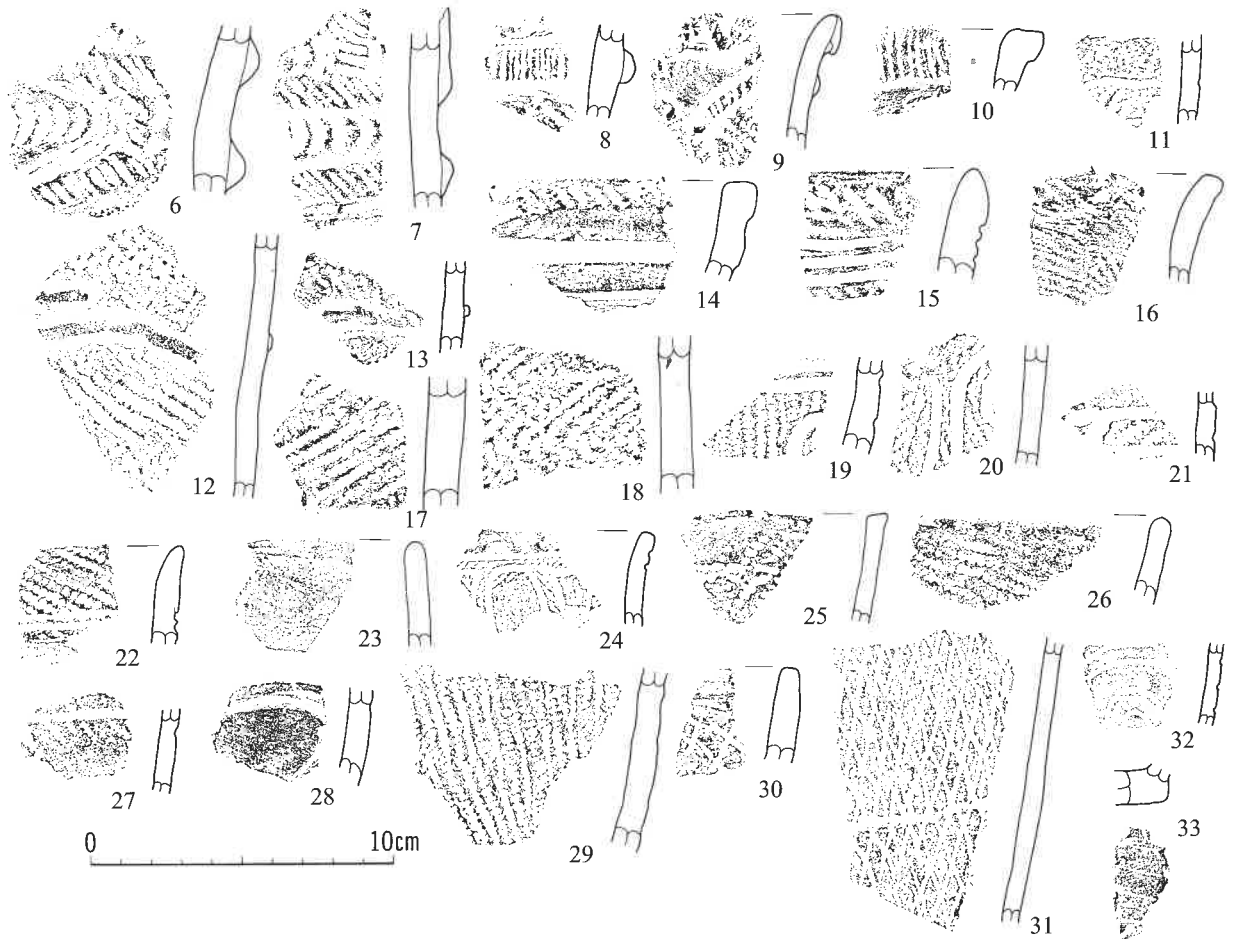
第Ⅷ群 古代 (39~53)

39~51は古代の遺物である。39~42は土師器で、39は坏、40~42は甕である。43~52は須恵器片である。43は小型壺、44・45は長頸壺である。いずれもロクロが使用されている。46~52は大甕片と考えられる。53はかわらけである。 (小笠原 雅行)



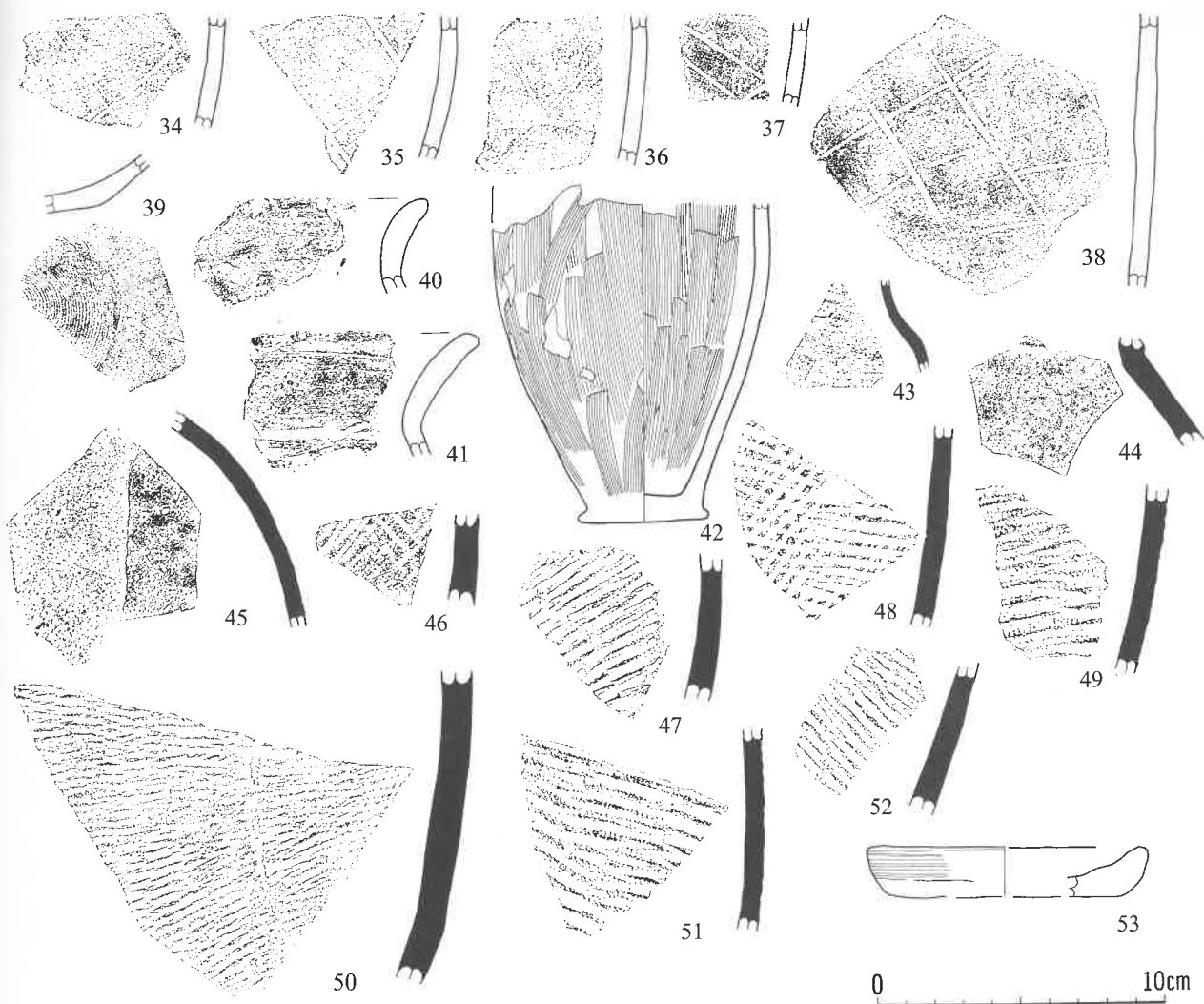
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	Ⅲ K-83		口唇上面 R押圧、刺突 LR押圧					Ⅱ-5-2	
2	Ⅳ N-93	カクラン	口唇上面 刺突、R単絡1押圧					〃	繊維微量
3	Ⅲ J-83		ワラビ状貼付、L、R押圧					〃	
4	Ⅳ J-94	カクラン		R単絡1				Ⅱ-6	繊維微量
5	Ⅲ I-82			R木目状撚糸文				〃	

76図 第4次調査区遺構外出土土器 (1)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
6	Ⅲ J-82		貼付 R押圧				Ⅲ-2		
7	Ⅲ I-82	〃	〃				〃	6と同一個体	
8	Ⅳ I-94			貼付、L押圧、RL		ミガキ	Ⅲ1~3		
9	Ⅲ I-82		貼付、刺突	結束第一種 (LR・RL)、貼付		ナデ	Ⅲ-3		
10	Ⅳ K-95	カクラン	口唇肥厚 R押圧				Ⅲ1~3		
11	Ⅲ J-82			RL?、沈線			Ⅲ-5		
12	〃	〃		結束第一種 貼付		ミガキ	Ⅲ-4		
13	Ⅳ L-96	カクラン		RL・貼付			〃		
14	Ⅳ L-97	〃	RL押圧、沈線			ミガキ	Ⅲ-5		
15	Ⅲ K-83		口唇上面RL押圧、RL、沈線			〃	〃		
16	Ⅲ I-72		L押圧、RL			〃	Ⅲ-4~5		
17	Ⅳ L-96	カクラン		結束第一種 (RL、RL)		ナデ	Ⅲ-6		
18	Ⅳ J-94	〃		〃 (LR、RL)		ミガキ	〃		
19	Ⅲ J-83		RL、沈線			〃	Ⅲ-5~8		
20	〃	〃		RL、沈線		ナデ	Ⅲ-8		
21	Ⅲ J-82	〃					〃?		
22	Ⅳ J-94	〃	折返口縁、RL、沈線				Ⅲ-8~9		
23	Ⅲ J-83	〃	無文				Ⅲ-9		
24	Ⅲ J-82	〃	磨消縄文 (RL)、沈線				〃		
25	Ⅲ K-83	〃	RL				Ⅲ-11	口唇上面平坦に面取	
26	〃	〃	LR			ナデ	〃		
27	Ⅲ I-82	〃		LR?、沈線		ミガキ	〃		
28	Ⅲ K-83	〃		沈線			〃		
29	Ⅲ I-82	〃		RL		ナデ	〃		
30	Ⅲ J-83	〃	網目状撚糸文			〃	Ⅳ		
31	Ⅲ J-82	〃		網目状撚糸文		〃	〃		
32	〃	〃		沈線		〃	〃		
33	Ⅲ K-83	〃					沈線		

77図 第4次調査区遺構外出土土器 (2)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
34	Ⅲ I - 82	I		格子目状沈線		ナデ		IV	34~38同一個体
35	〃	〃		〃		〃		〃	
36	〃	〃		〃		〃		〃	
37	〃	〃		〃		〃		〃	
38	〃	〃		〃		〃		〃	

番号	出土地点	種類	器種	法量 (cm)			外面調整			内面調整			底面	分類	備考
				口径	器	底径	口縁部	胴部上半	胴部下半	口縁部	胴部上半	胴部下半			
39	Ⅳ L - 93・カク	土師	坏						ロクロ			ミガキ	回糸切	VIII	内面黒色処理
40	Ⅳ K - 97・〃	〃	甕				ナデ			ナデ				〃	
41	Ⅲ I - 82・*	〃	〃				〃			〃				〃	
42	〃	〃	〃						ナデ			ナデ	素文	〃	
43	Ⅳ J - 94・カク	須恵器	小無壺					ロクロ			ロクロ			〃	
44	Ⅳ L - 93・I	〃	壺								〃			〃	
45	Ⅳ K - 97・カク	〃	〃								〃			〃	
46	Ⅳ J - 95・〃	〃	大甕					格子目叩						〃	
47	Ⅳ L - 97・〃	〃	〃					平行叩						〃	
48	Ⅳ J - 95・〃	〃	〃					〃						〃	
49	〃	〃	〃					格子目叩						〃	
50	〃	〃	〃					平行叩						〃	
51	Ⅳ J - 94・カク	〃	〃					格子目叩						〃	
52	Ⅳ I - 94・〃	〃	〃					平行叩						〃	
53	Ⅲ J - 82・I	かわらけ					ロクロ		ロクロ	ロクロ		ロクロ		〃	

78図 第4次調査区遺構外出土土器 (3)

石器 (54~57)

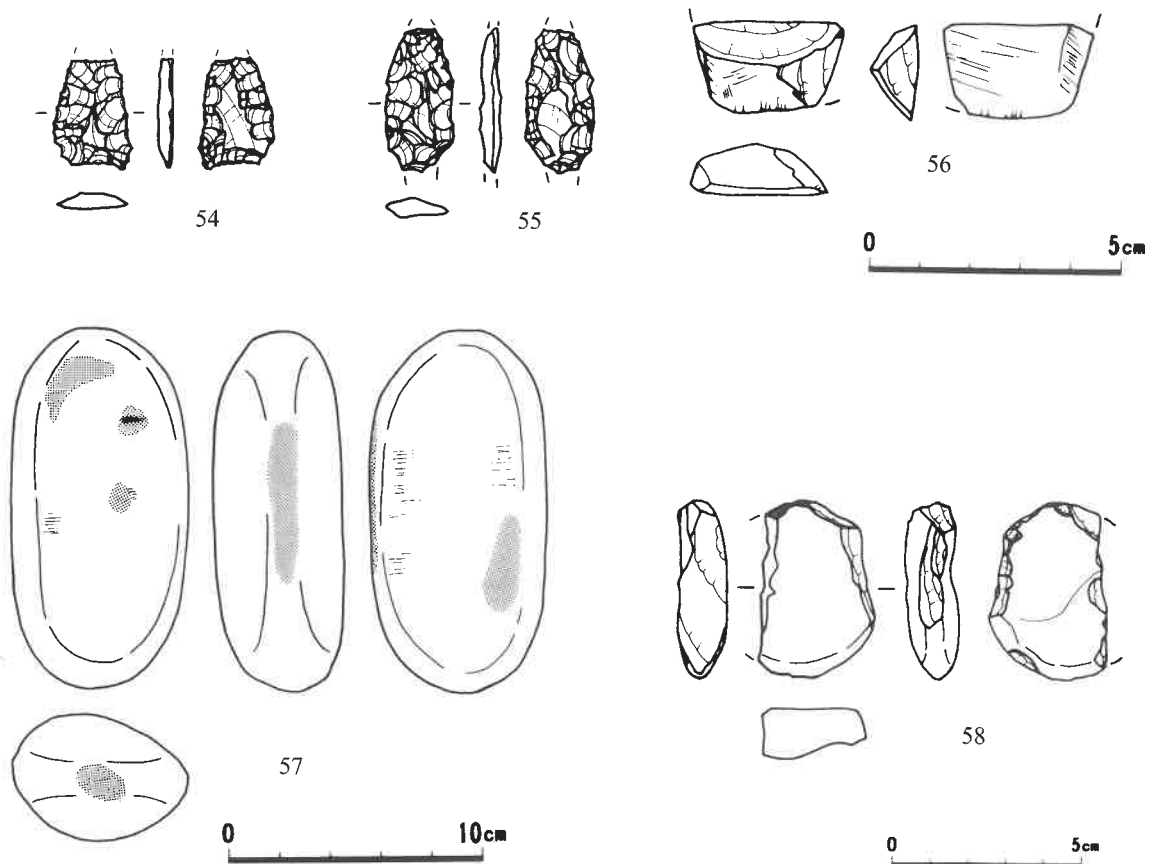
石器は石鏃が2点、不定形石器2点(スクレイパー類2点)、剥片5点(うち焼け2点) 磨製石斧1点、敲磨器類2点(敲石2点)の合計15点出土している。

石材は、剥片石器は全て珪質頁岩であり、磨製石斧は緑色細粒凝灰岩、敲磨器類は凝灰岩である。

石製品 (58)

石製品は円盤状石製品が1点出土している。

(斎藤 岳)



番号	出土地点	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	整理番号
54	IVM-90	カクラン	22	15	3	1.1	珪頁	Af		30,154
55	IVL-97	〃	29	13	4	2.0	〃	Ab		30,166
56	IIIJ-83	〃	19	30	9	6.5	緑凝	Ha	刃部線状痕	30,121
57	IVI-94	III	142	68	50	683.9	凝	Ib	敲打痕、線状痕	30,126
58	IIIK-83	I	46	31	13	23.1	流		円盤状石製品	2,592

79図 第4次調査区遺構外出土石器

第Ⅶ章 調査の成果と課題

平成7年度の調査は、国指定史跡及び整備基本計画策定にむけて集落の範囲及び全体構造を解明するため、4地点で行った。調査地点は着手順に第1～4次調査区と呼称し、調査面積は合わせて3,212㎡であり、出土遺物は縄文土器・石器、平安時代の土師器などダンボール箱で61箱であった。各調査区毎の成果と問題点は次のとおりである。

(1) 第1次調査

調査により縄文時代の住居跡8棟、土坑7基、柱穴54基と時期不明の土坑8基（うち井戸跡5基）溝跡19条、柱穴120基が検出された。

縄文時代の遺構では調査区西側における縄文中期住居跡群と柱穴群が検出された。住居跡群は重複が激しく、平面形を確認できるものはない。時期が確認できるものでは大木10式併行期のものが2棟あり、他の住居についても近接した時期のものであると考えられる。柱穴群は重複が激しく、時期が確認できるものでは、中期後半の榎林式、最花式、大木10式併行期のものがある。柱穴は掘立柱建物跡を構成する可能性が高い。

また、調査区西端で4×1.5mのトレンチを設定し調査を行った結果、遺物包含層を確認した。今年度は最上層の縄文時代中期末葉の大木10式併行期から、縄文時代前期末葉の円筒下層d₂式期まで調査した。調査は平成8年度も継続する予定である。

(2) 第2調査

調査により、縄文時代の土坑が23基、平安時代の竪穴住居跡10棟、土坑1基、焼土遺構1基、溝跡1条、時期不明の掘立柱建物跡1棟、土坑9基、溝跡3条、柱穴32基が検出された。

調査区西側の部分では、平成4年度の第7鉄塔調査区からつながる土坑群を確認した。それらの大部分は、断面がフラスコ状のものや底面の大きなものであり、貯蔵穴と考えられるものである。ただし、今回の調査ではその正確な分布域を把握するまで至らず、特に南東方向への貯蔵穴群の分布の把握については今後の課題である。

また、調査区北側の沖館川に面した崖面上でも貯蔵穴と考えられる土坑が2基検出されており、台地の縁辺にも貯蔵穴が分布する可能性が考えられる。時期及び分布範囲、調査区西側の貯蔵穴群との関連把握も今後の課題である。

一方、今回の調査においては、沖館川に面した台地崖面付近まで2本のトレンチにより調査を行ったが、崖面付近での遺物の出土は少なく、No.6鉄塔調査区におけるような遺物包含層は確認できなかった。

(3) 第3次調査

第3次調査の結果、縄文時代の掘立柱建物跡1棟、土坑5基、平安時代の住居跡4棟、溝1条、時期不明の土坑3基を検出した。これによって平成5・6年に青森市教育委員会が検出した縄文時

代中期の貯蔵穴群は台地の縁辺部に多く密集していることが判明した。今後、未調査の5・6年度調査区の南側の調査が課題となる。

(4) 第4次調査

調査の結果、34基検出した土坑墓は、旧野球場部分同様、南側・北側の2列に分かれて検出された。底面を見ると、各列の間側へ向かって傾斜する傾向にあり、2列で一単位を構成することは明らかである。

中央と東側の調査区では、土坑墓列が1列しか検出されていない。しかし、中央の調査区ではさらに北側にトレンチが延びているにも関わらず、土坑墓列が検出されないこと、東側の調査区でも同様であるが、精査した土坑墓の底面が、南側へ向かって若干傾斜していることから、双方共、北側の列である可能性が高い。

土坑墓の配列では、南列では各遺構がある程度の間隔をもって並ぶが、北列では密集する部分と、比較的分布の薄い部分がある。密集する部分は3～5基ぐらいでまとまりをもつようで、重複するものも少なくない。

土坑墓からの出土遺物は、礫石器が出土した土坑墓が3基、剥片石器が出土した土坑墓が2基である。出土状況は、土坑東壁ほぼ中央に接するように、堆積土中のかなり高い位置（確認面）から出土するものと、土坑墓ほぼ中央の堆積土下部・底面直上から出土するものがある。

土坑墓の時期は、数基から出土した土器から、縄文時代前期末葉～中期前葉の可能性が高い。昭和51年に西駐車場部分で検出された56基の土坑墓列は、出土土器から縄文時代中期中葉（円筒上層e式～榎林式）と考えられる。この時期差が、単に個々の遺構による差なのか、分布域によるものかは今後の課題である。

今回の調査により、旧野球場で検出された土坑墓列は約210m東まで延びることが確認された。最終的な範囲はまだ確認されておらず、さらに東側へ延びるものと考えられる。

(岡田康博・阿部美杉・斎藤岳・小笠原雅行・伊藤由美子)

報 告 書 抄 録

ふりがな	さんないまるやまいせき
書 名	三内丸山遺跡Ⅴ
副 書 名	第1～4次調査報告書
巻 字	
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第204集
編 著 者 名	三宅徹也・岡田康博・阿部美杉・斎藤岳・小笠原雅行・伊藤由美子
編 集 機 関	青森県教育庁文化課
所 在 地	青森市新町2丁目3番1号 TEL 0177-75-3918
発 行 年 月 日	西暦1996年3月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふ り が な 所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積(m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さんないまるやまいせき	あおもりけんあおもりし おおあごさんないあざまるやま	02201	01021	40° 48'	140° 42'	1995.7.10 ～	3,212	集落構造解明 のための学術 調査
三内丸山(2)遺跡	青森県青森市大字三内字丸山			40° 20"		1995.11.2		

所収遺跡	種別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項
三内丸山(2)遺跡	集落跡				縄文時代前・中期の巨大集落跡 4地点(第1～4次)にわたる調査
第1次調査		縄文時代 近 世 時期不明	竪穴住居跡 8棟 土 坑 7基 柱 穴 54基 遺物包含層 1 土 坑 8基 溝 跡 19条 柱 穴 120基	縄文土器(前～後期) 石 器(中期) 土 偶(中期) 土・石製品(中期) 近世陶磁器	縄文時代遺物包含層の確認 〳 中期住居跡群の確認
第2次調査		縄文時代 平安時代 時期不明	土 坑 23基 竪穴住居跡 10棟 土 坑 1基 焼土遺構 1基 溝 跡 1条 掘立柱建物跡 1棟 土 坑 9基 溝 跡 3条 柱 穴 32基	縄文土器(前～後期) 石 器 土師器(平安時代) 須恵器(〳)	縄文時代貯蔵穴群の広がり確認
第3次調査		縄文時代 平安時代 時期不明	掘立柱建物跡 1棟 土 坑 5基 竪穴住居跡 4棟 溝 跡 1条 土 坑 3基	縄文土器(前～中期) 石 器 土師器(平安時代)	縄文時代掘立柱建物跡・土坑確認
第4次調査		縄文時代 平安時代 時期不明	土 坑 34基 竪穴住居跡 5棟 掘立柱建物跡 1棟 土 坑 4基 溝 跡 4条	縄文土器(前～後期) 石 器 土師器(平安時代)	縄文時代土坑墓群の広がり確認

写 真 图 版



草刈り作業（調査区中央付近 南から）



作業風景（調査区中央～東 西から）



調査区中央～西側（東から）



基本土層（ⅧG-95 南から）



第572～579号住居跡



第573号住居跡

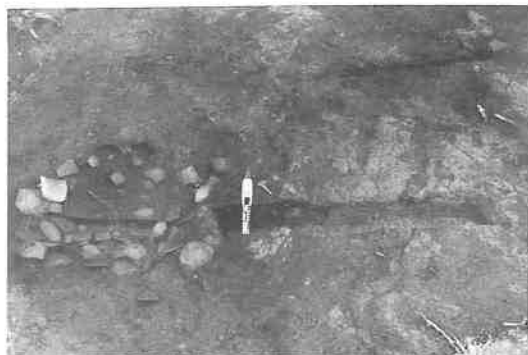


第572号住居跡



第572号住居跡

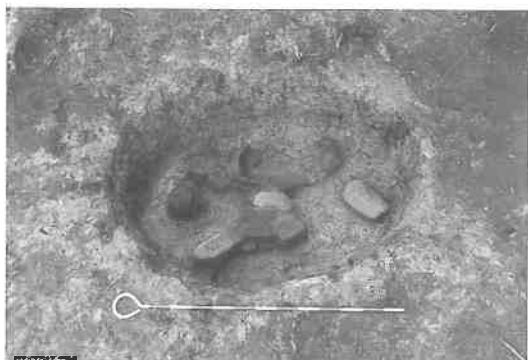
写真1 第1次調査区(1)



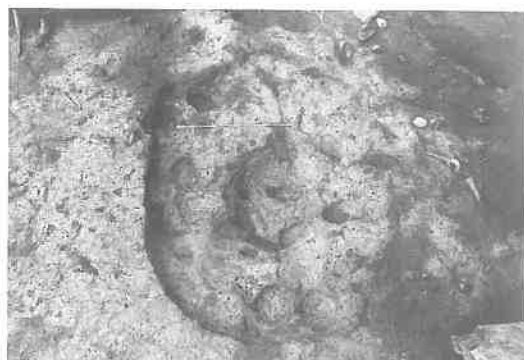
住居跡群 小トレンチセクション



第578号住居跡 (貼床)



第762号土坑遺物出土状況



第780号土坑



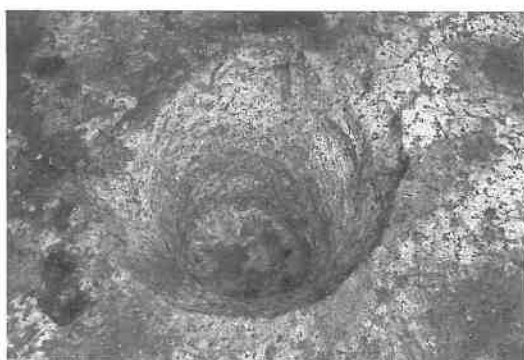
柱穴群 (Ⅲ層上面)



遺構確認状況 (ⅧJ 95~96 東から)



第787号土坑



第788号土坑

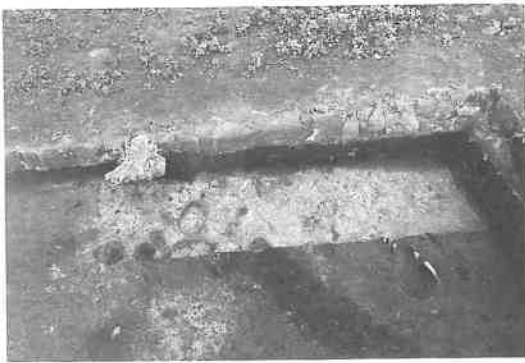
写真2 第1次調査区 (2)



第804号土坑



埋没谷Aトレンチ



Bトレンチ



Cトレンチ確認



Cトレンチ完堀



第764号土坑



遺物包含層 上面確認

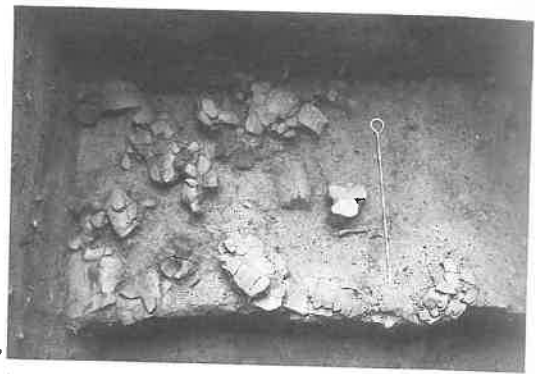


遺物包含層 III-7層遺物出土状況

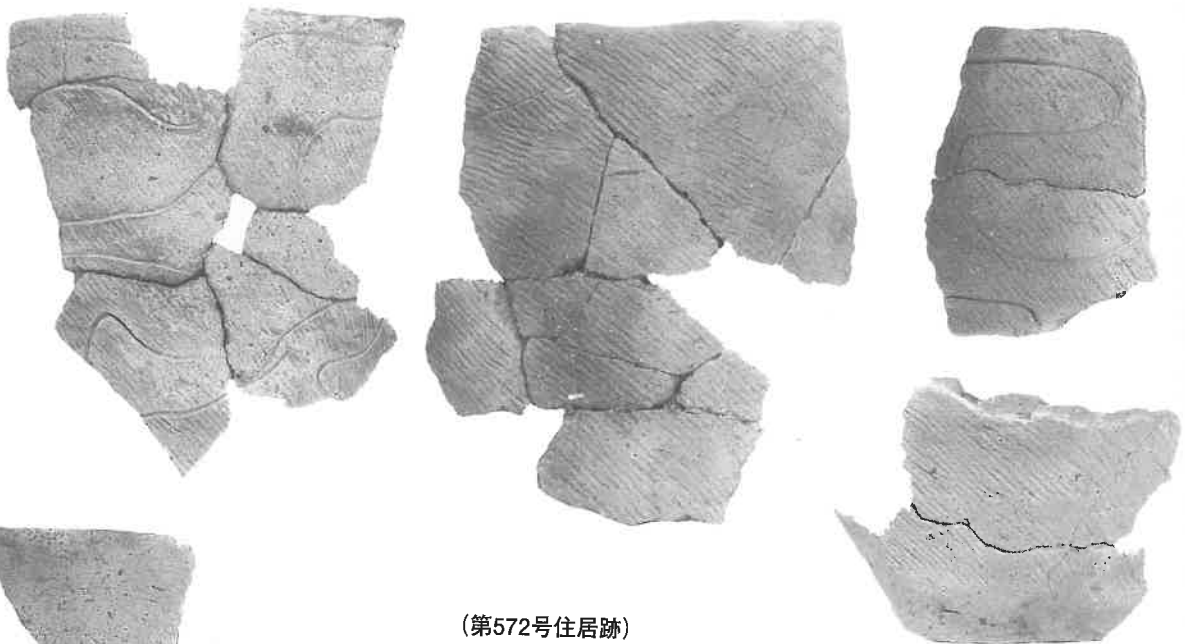
写真3 第1次調査区(3)



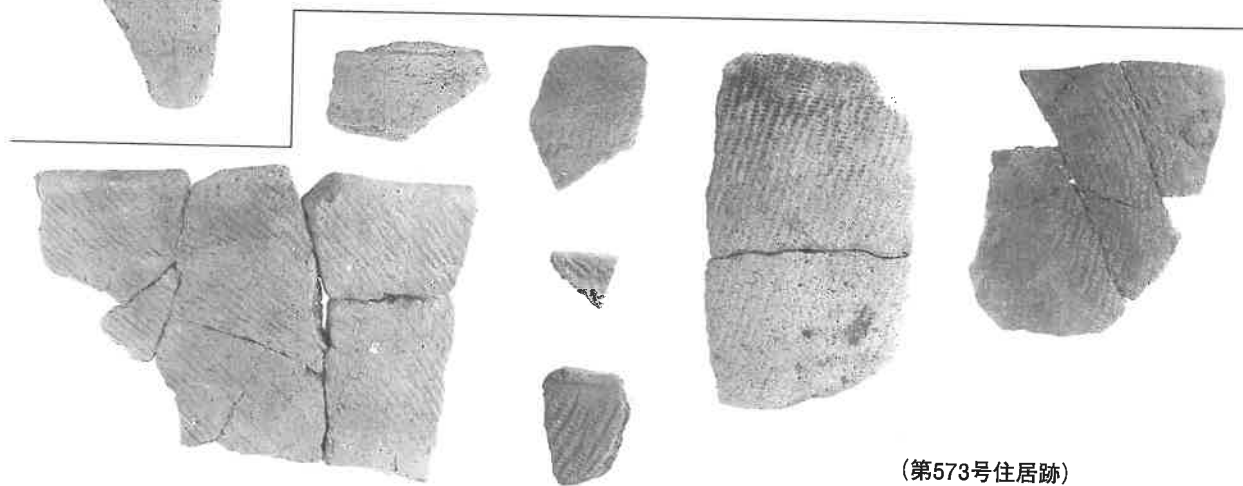
遺物包含層 III-11b層出土狀況



同左 III-8層出土狀況

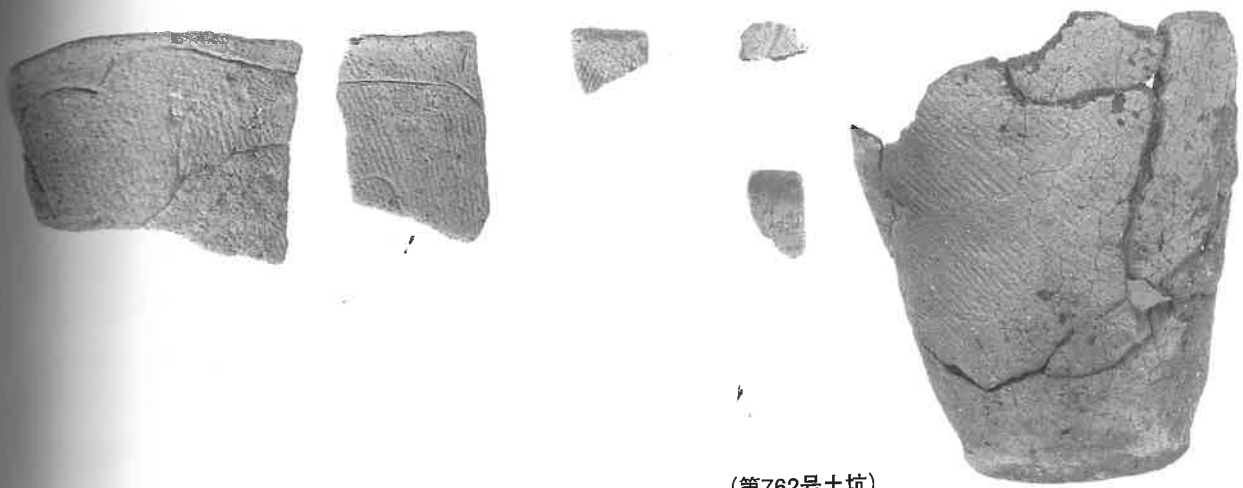


(第572号住居跡)

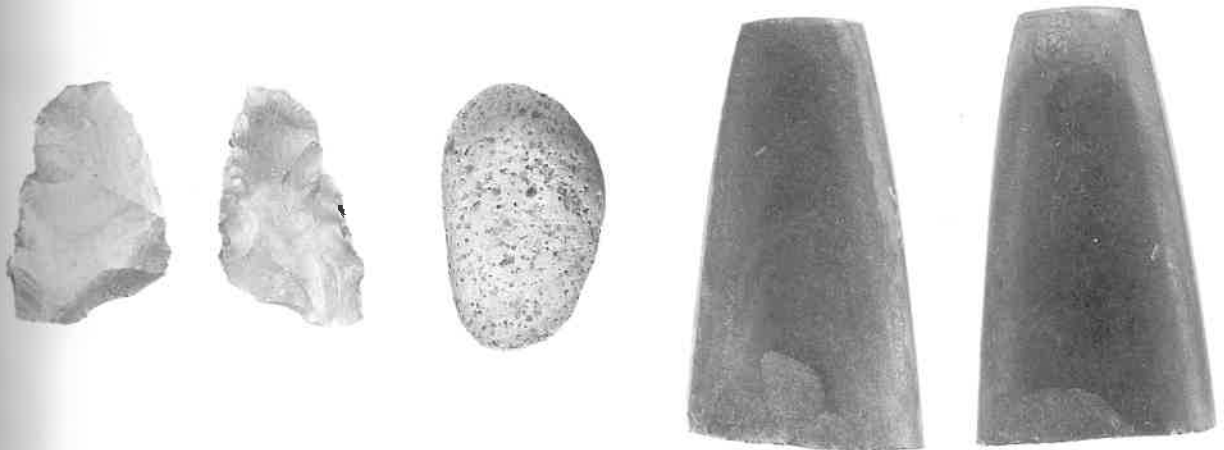


(第573号住居跡)

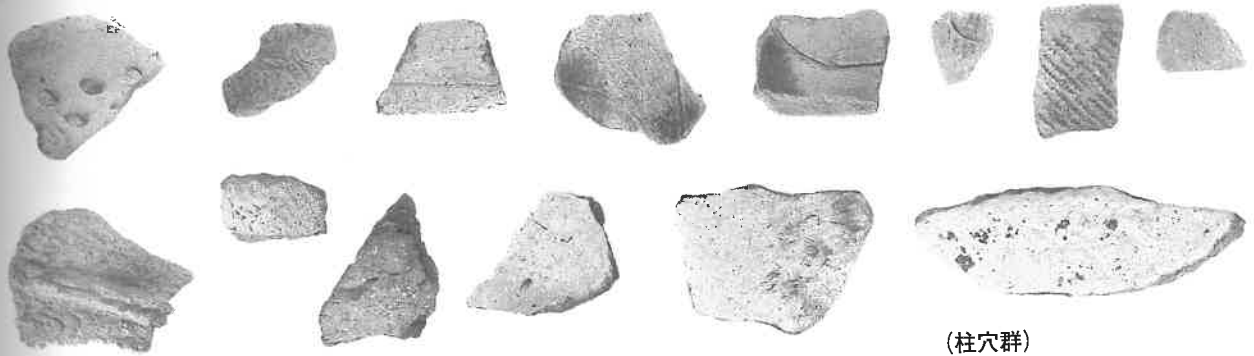
写真4 第1次調査区(4) 遺構内出土遺物(1)



(第762号土坑)

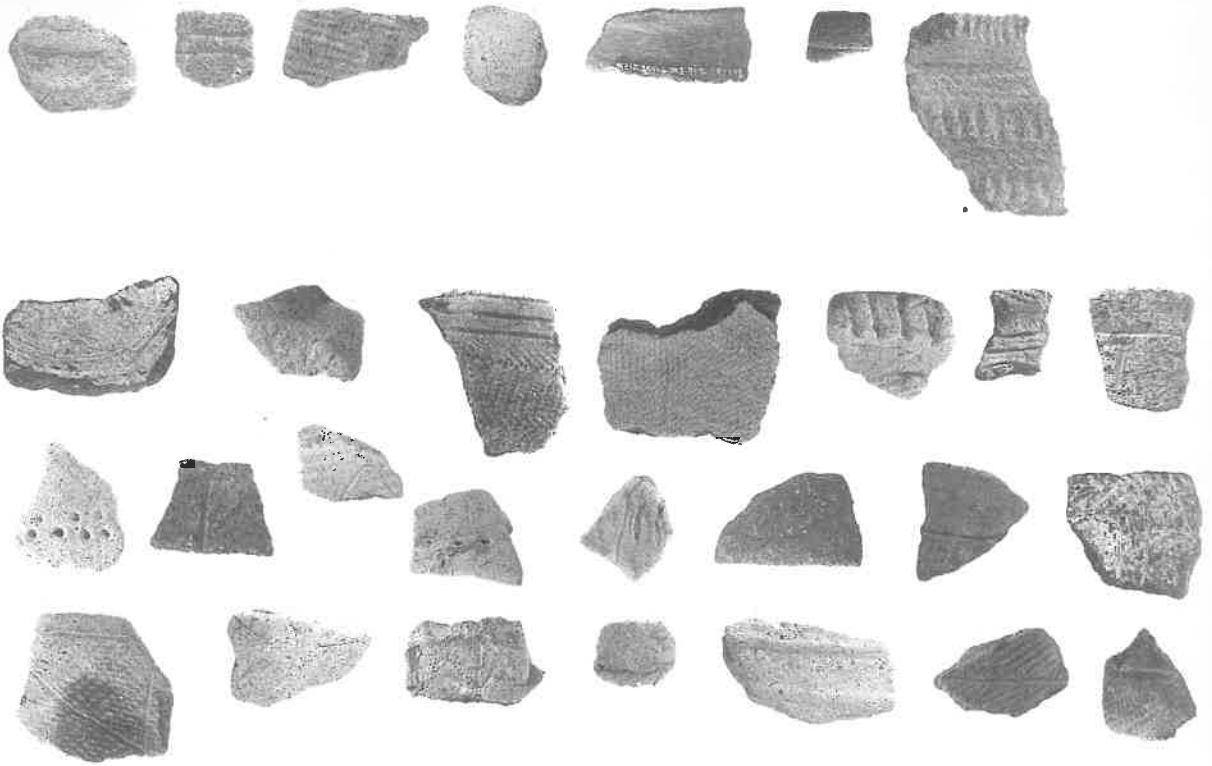


(第780号土坑)

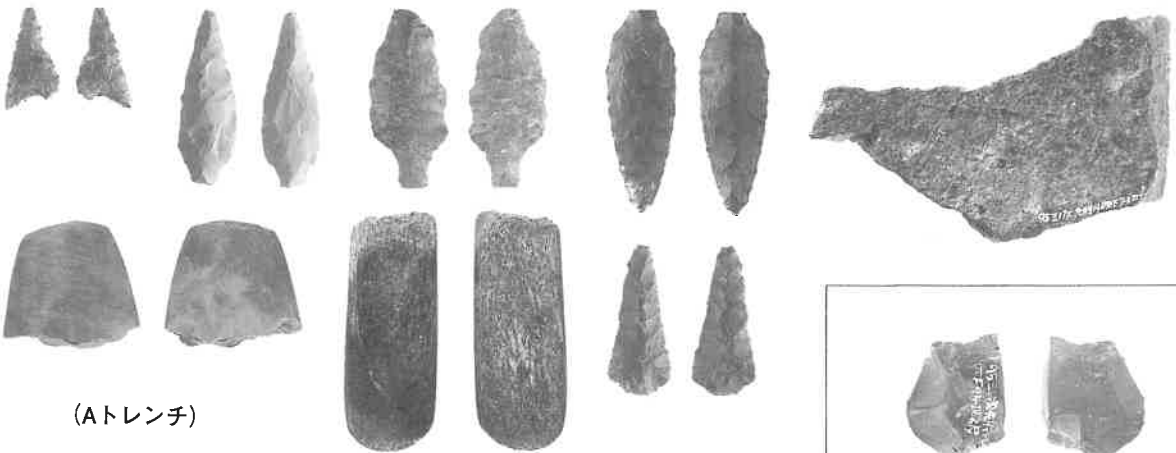


(柱穴群)

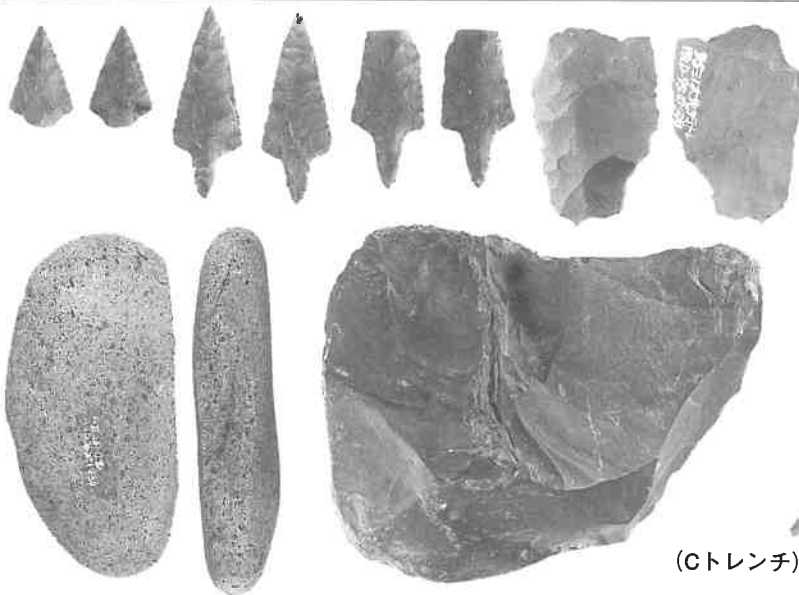
写真5 第1次調査区 遺構内出土遺物(2)



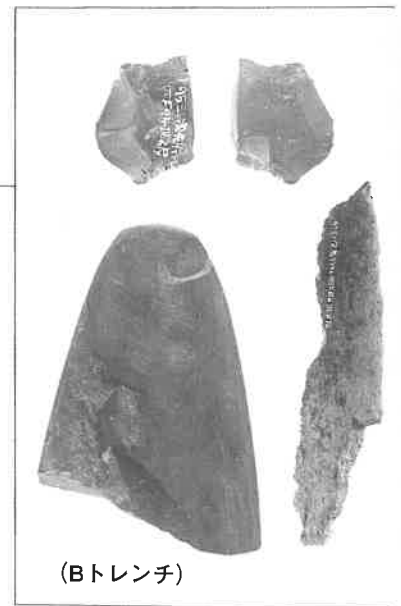
(A~Cトレンチ)



(Aトレンチ)



(Cトレンチ)



(Bトレンチ)

写真6 第1次調査区 埋没谷出土遺物

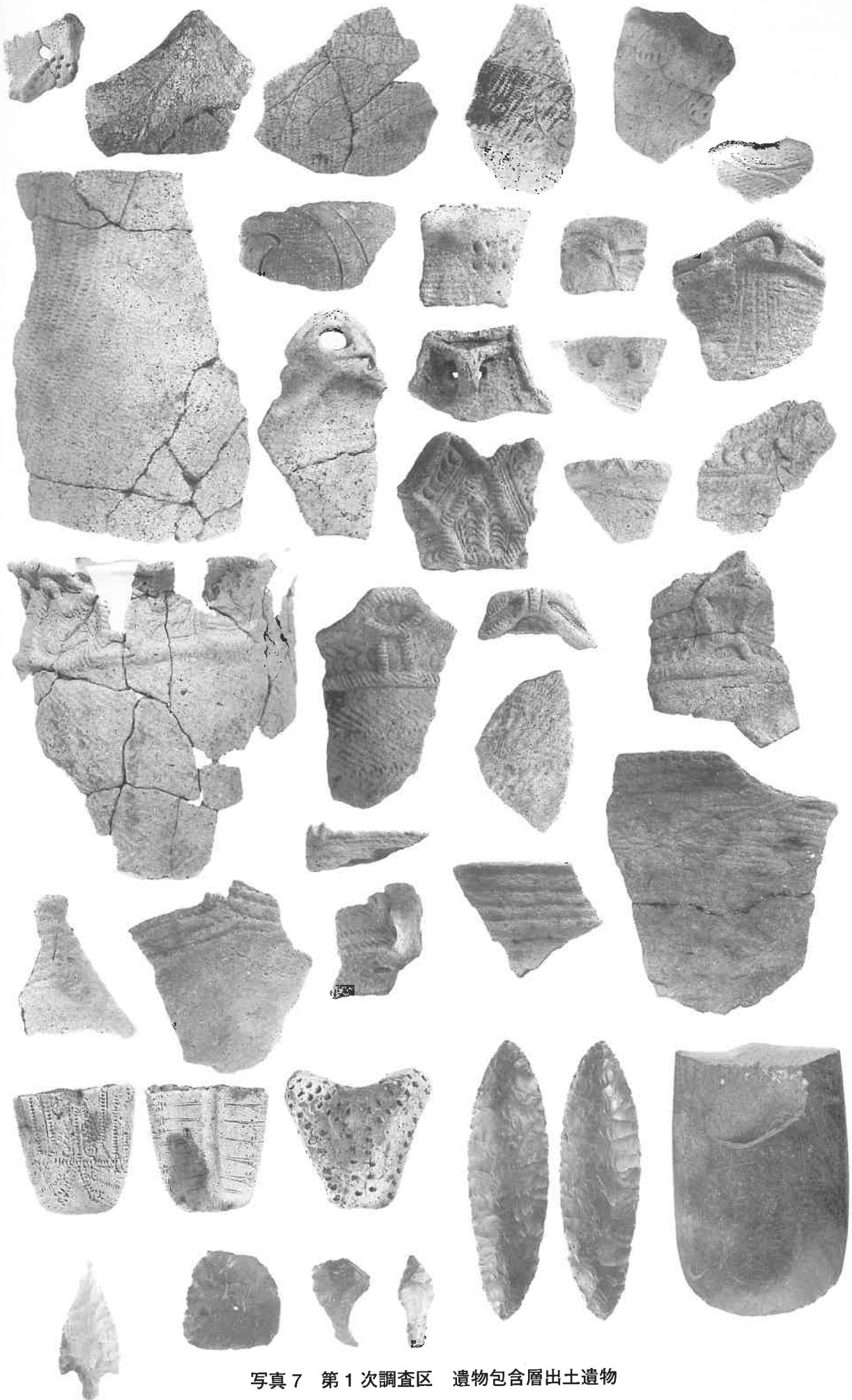


写真7 第1次調査区 遺物包含層出土遺物

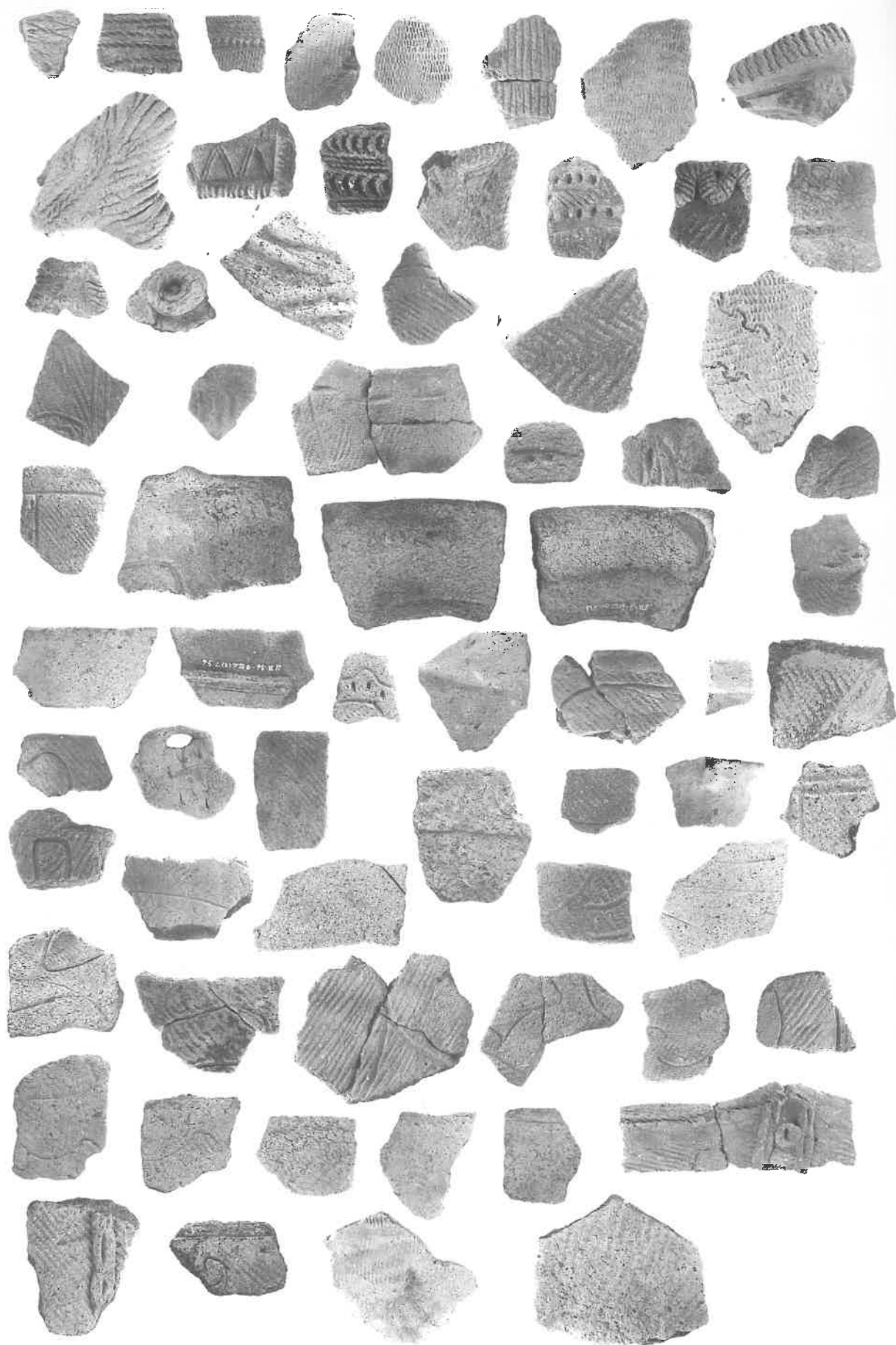


写真8 第1次調査区 遺構外出土遺物(1)

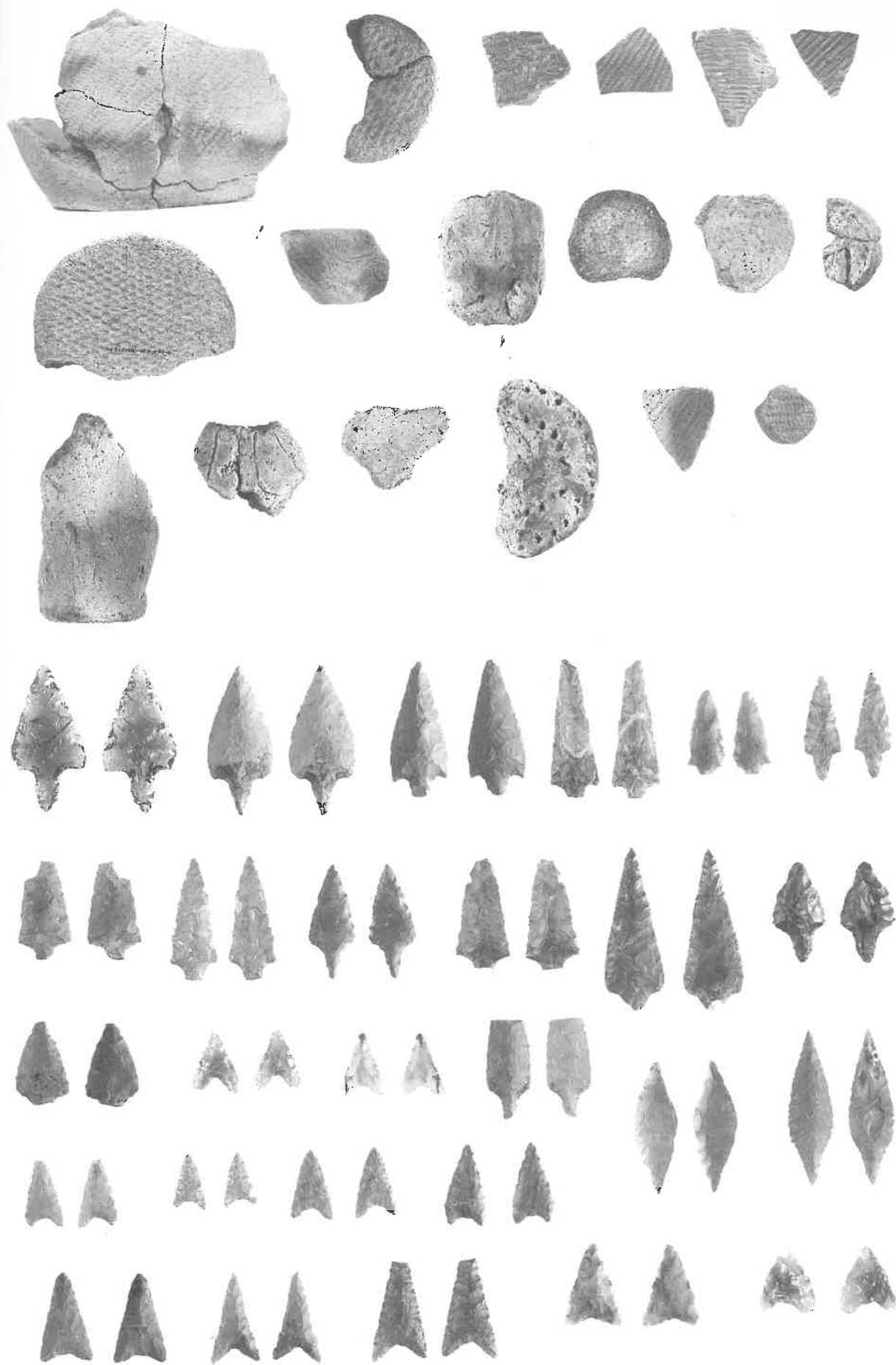


写真9 第1次調査区 遺構外出土遺物(2)

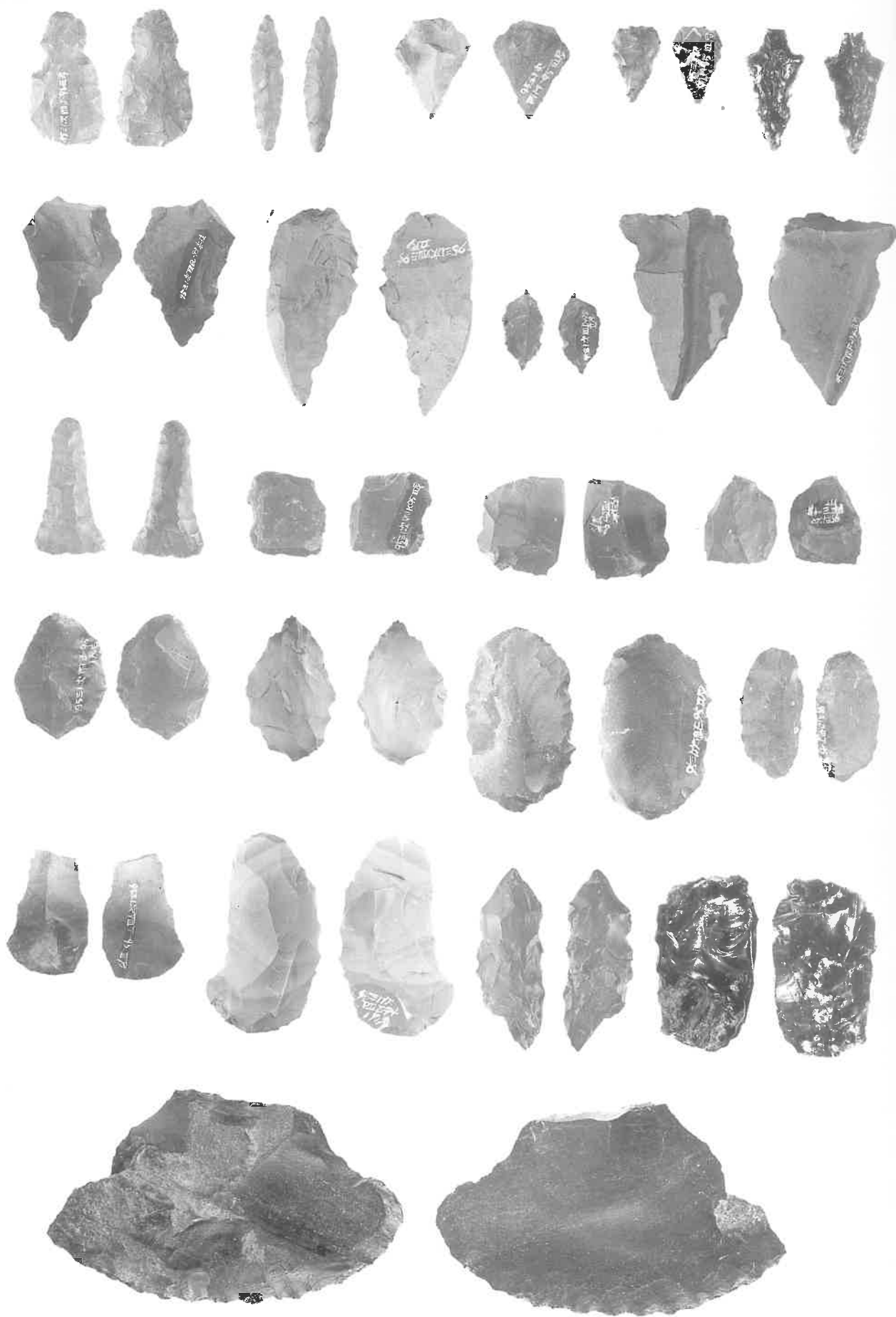


写真10 第1次調査区(10) 遺構外出土遺物(3)



写真11 第1次調査区 遺物外出土遺物(4)



(外面)



(内面)



(内面)



(内面)

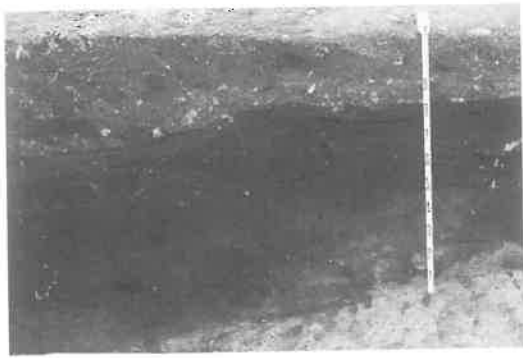


(外面)

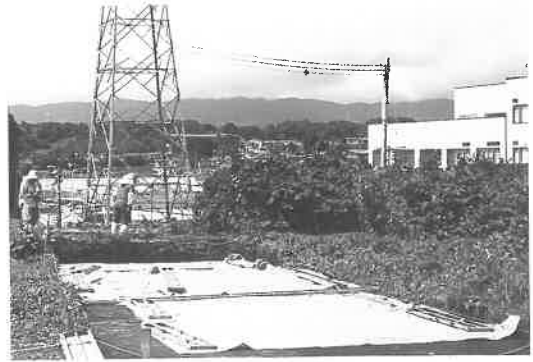


(外面)

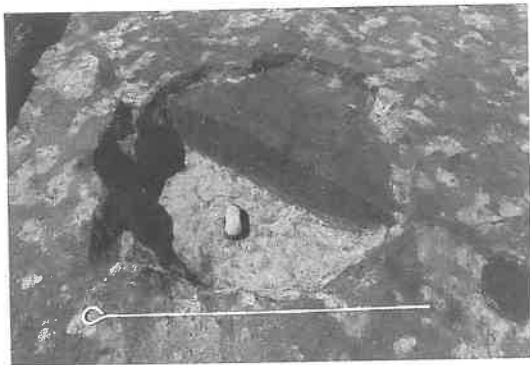
写真12 第1次調査区 遺構外出土遺物 (5)



基本土層 (IVF-66 西から)



調査区と第7鉄塔 (IVA-69付近から西を望む)



第754号土坑



第756号土坑



第757号土坑



第759号土坑



第760号土坑



第807号土坑

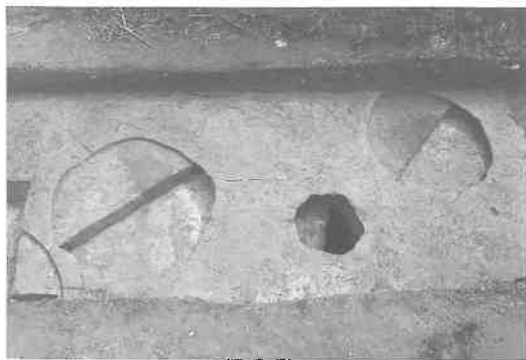
写真13 第2次調査区 (1)



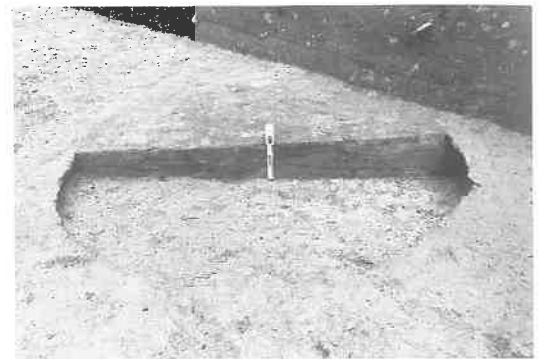
第765～769号土坑確認（南から）



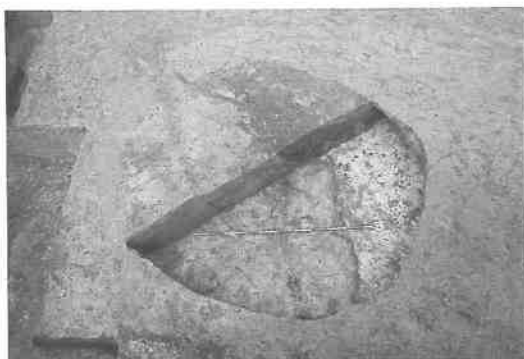
第765～769号土坑調査状況



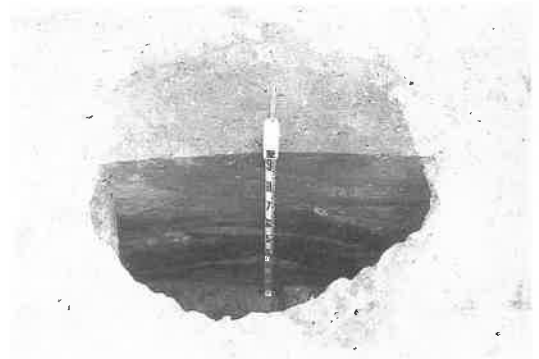
第765～767号土坑



第767号土坑



第765号土坑



第766号土坑

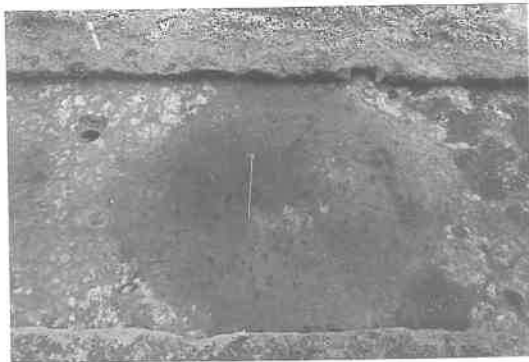
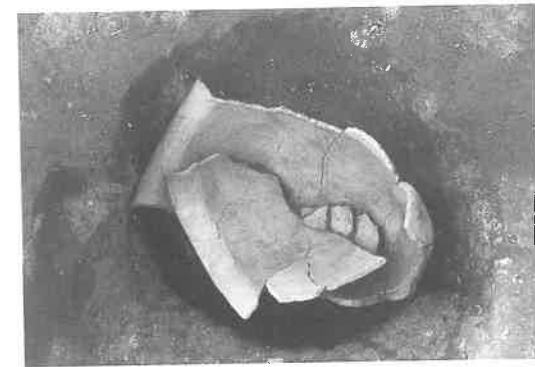
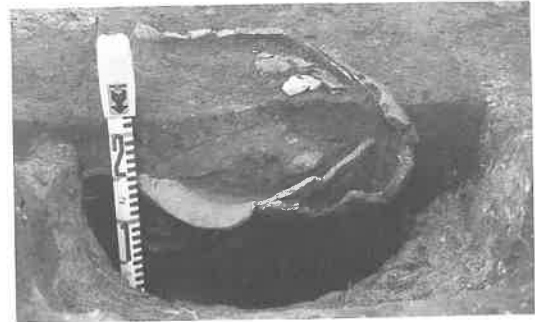


第769号土坑

写真14 第2次調査区(2)



平安時代遺構群 (手前が第586号住居跡 西から)



第580号住居跡 (左側に煙出し孔)

第580号住居跡煙出し



第758号土坑



第86号焼土確認

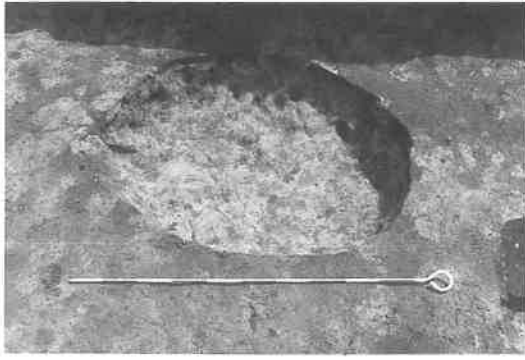


第86号焼土調査状況

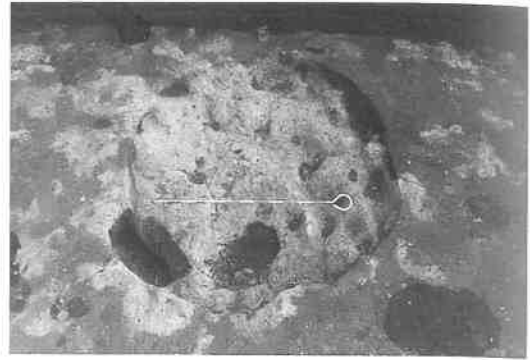


第86号焼土セクション

写真15 第2次調査区 (3)



第755号土坑



第761号土坑



第770号土坑



第217号溝

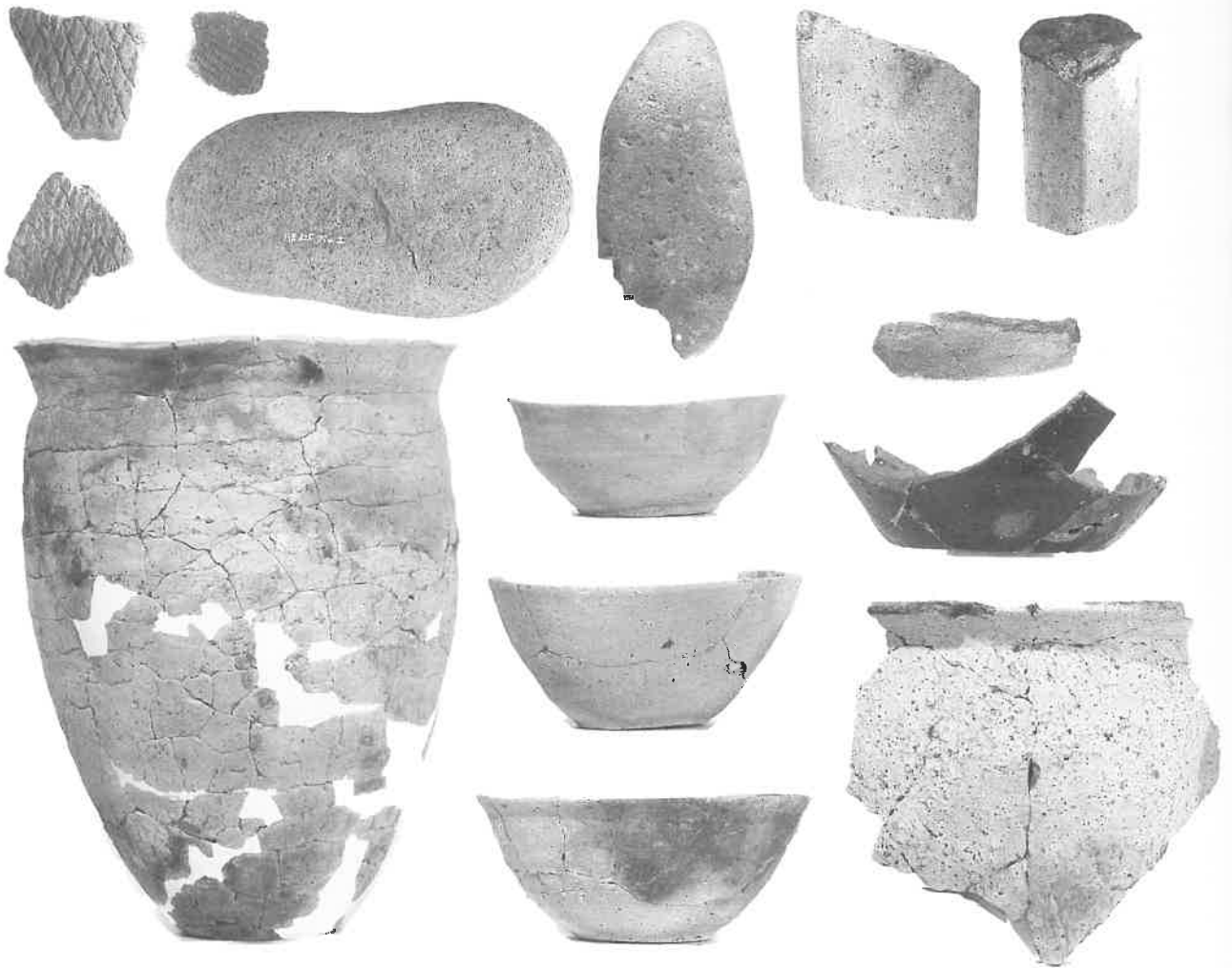


写真16 第2次調査区(4)遺構内出土遺物

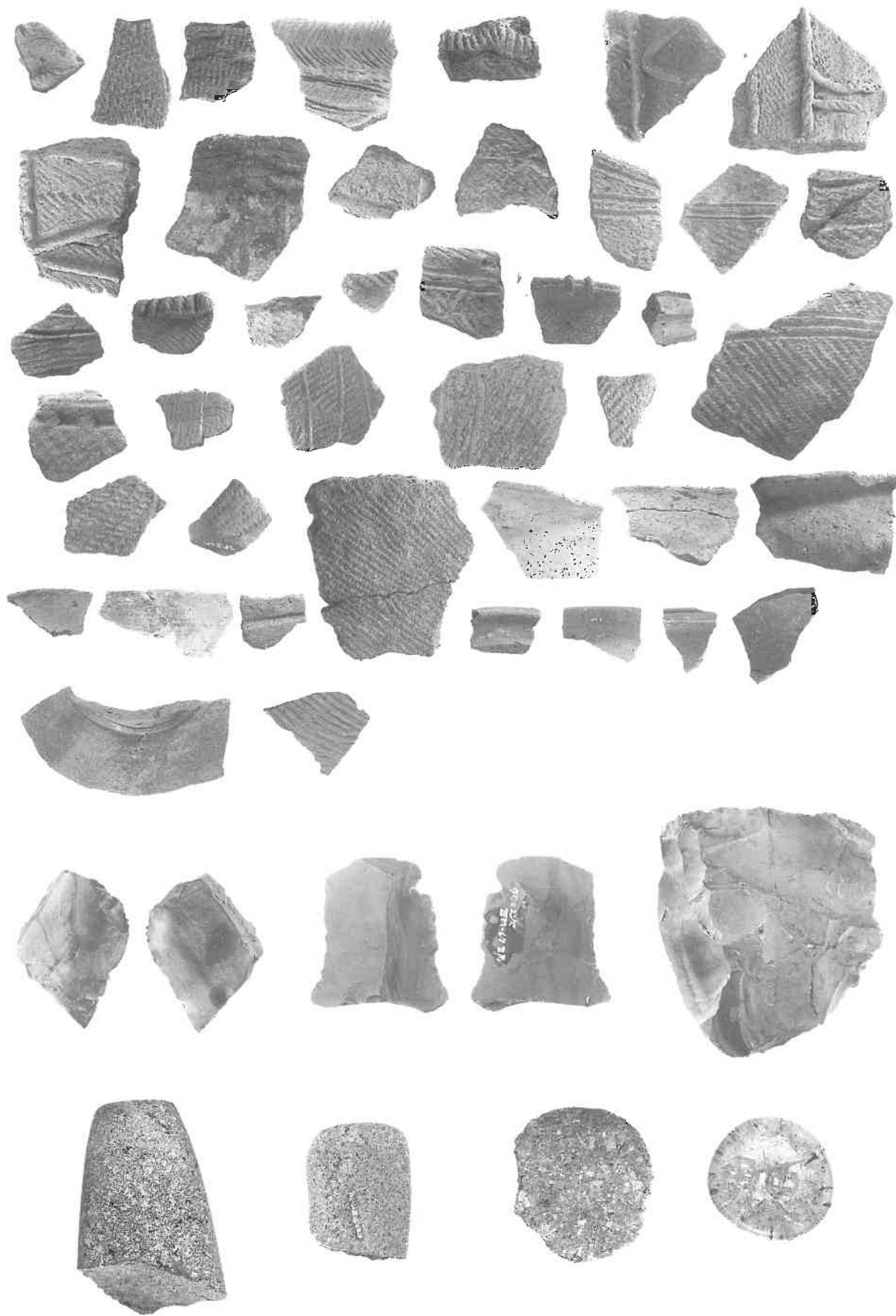
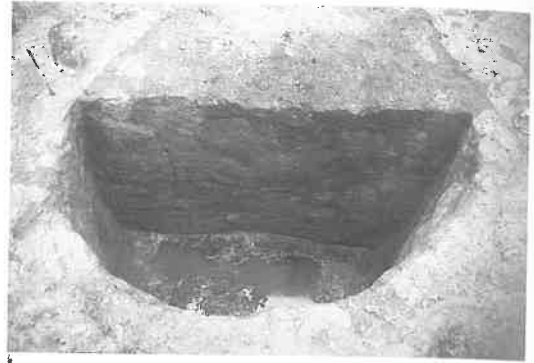


写真17 第2次調査区遺構外出土遺物



第790号土坑確認



第30号掘立柱建物跡X0Y0セクション



第30号掘立柱建物跡X0Y1セクション



第598号住居跡確認



第596号住居跡確認



第792号土坑セクション



第794号土坑セクション



調査区遠景

写真18 第3次調査区

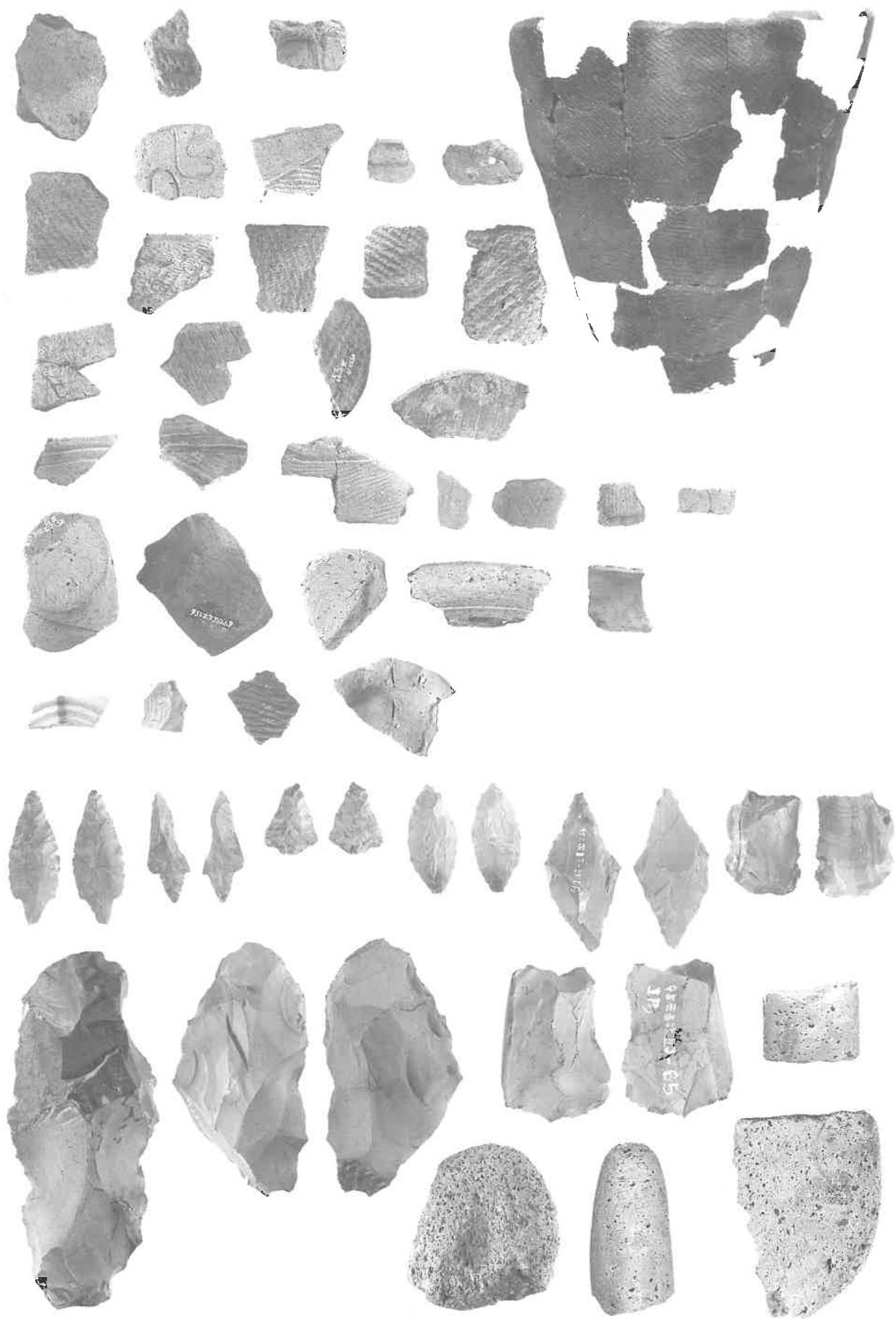
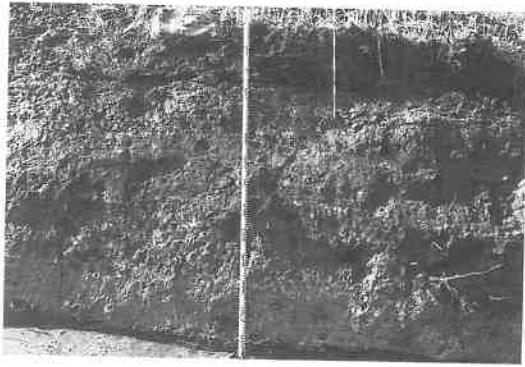


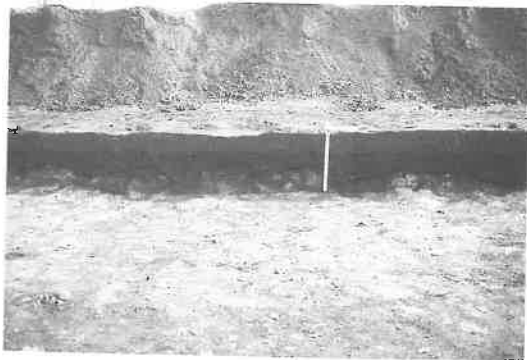
写真19 第3次調査区 遺構外出土遺物



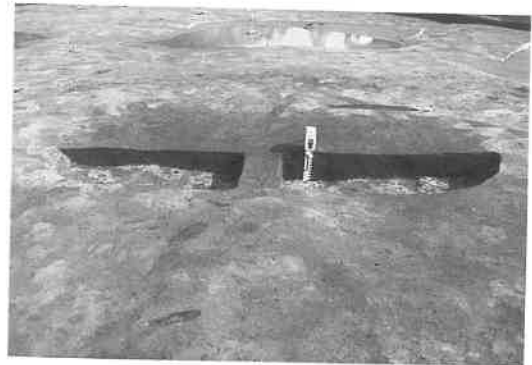
基本土層 (IVO-93)



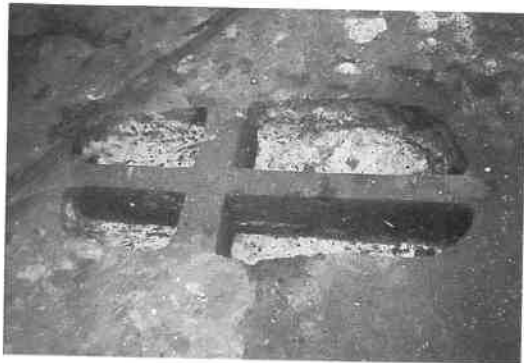
基本土層 (IVC-87)



基本土層 (III-83)



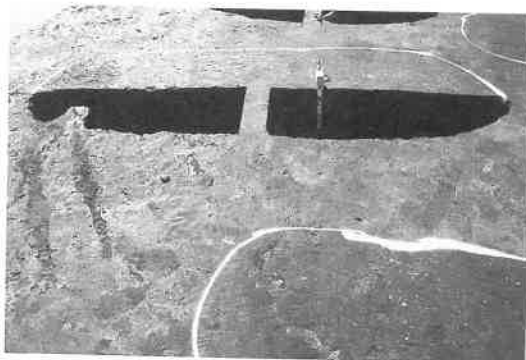
第810号土坑



第811号土坑



第812号土坑

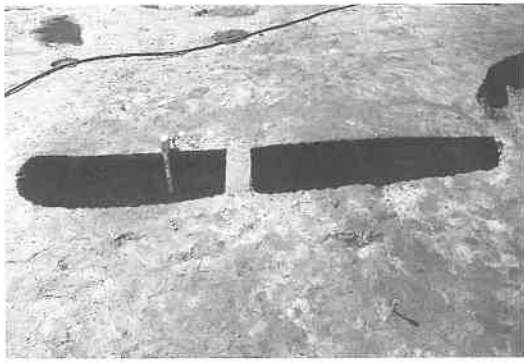


第813号土坑



第812号(左下) 第813号、第818号(右下) 第819号土坑

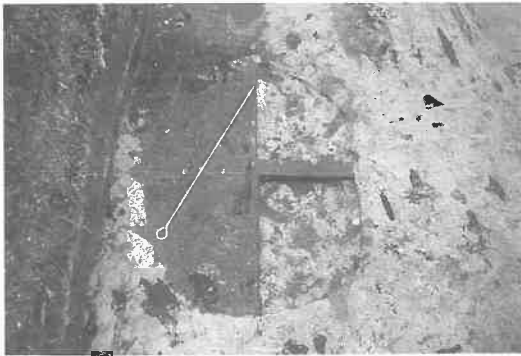
写真20 第4次調査区 (1)



第814号土坑セクション



第814号土坑



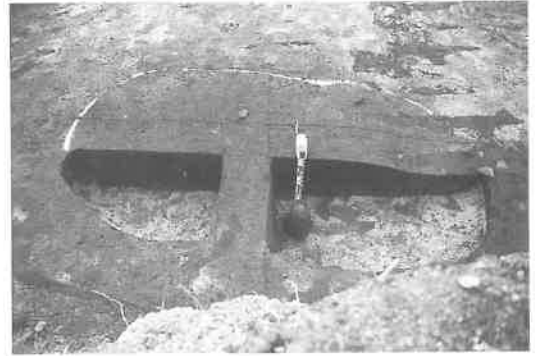
第816号土坑



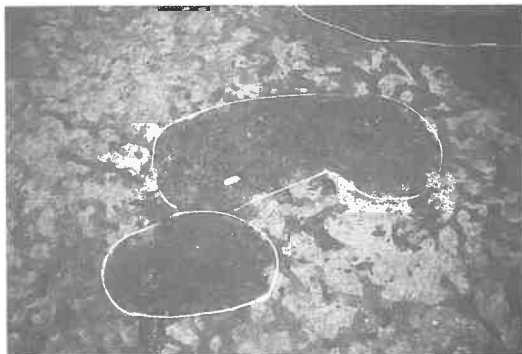
第817号土坑セクション



第817号土坑完掘



第820号土坑

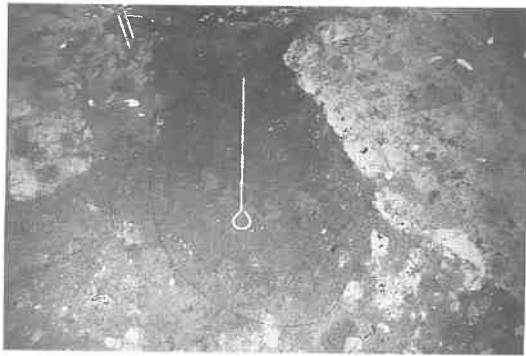


第823号、824号、825号土坑

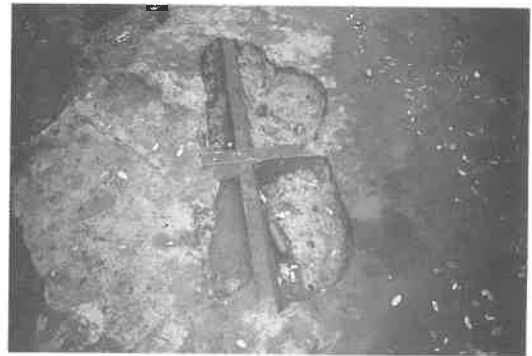


第830号、831号、832号、833号土坑

写真21 第4次調査区(2)



第829号土坑



第835号土坑調査状況



第835号土坑出土遺物



第842号土坑セクション



土坑墓列検出状況



手前から
838~843号土坑



写真22 第4次調査区 (3)



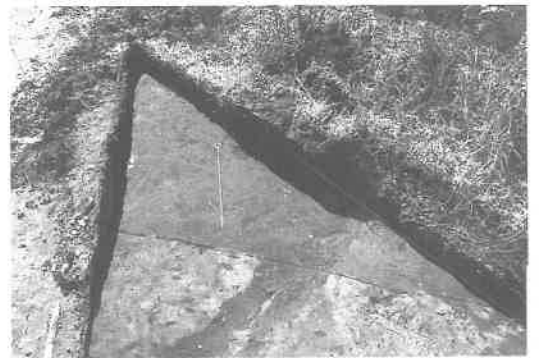
第590号住居跡確認



炭化物出土状況



床面検出状況



第591号住居跡確認



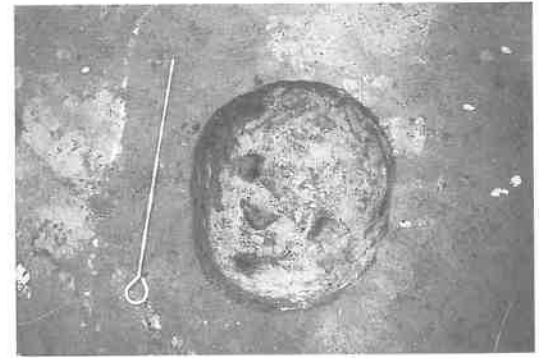
第592号、593号住居跡確認



第815号土坑



第827号土坑

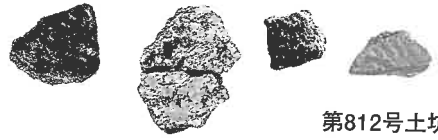


第828号土坑

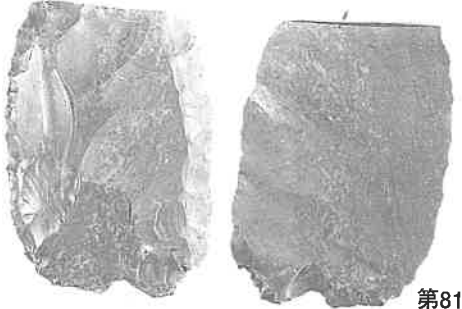
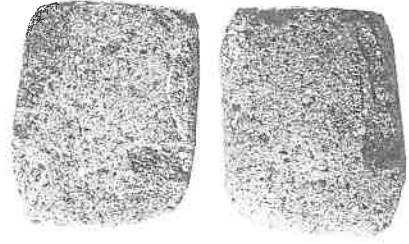
写真23 第4次調査区(4)



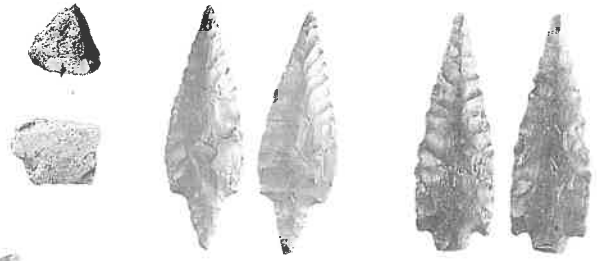
第811号土坑



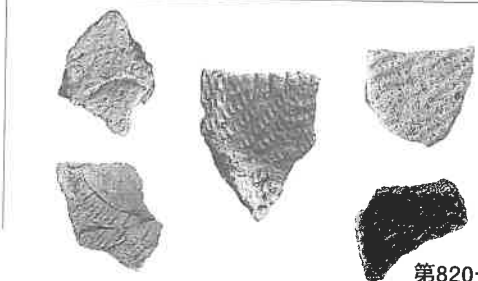
第812号土坑



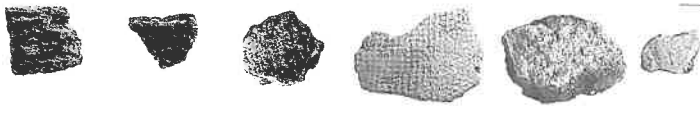
第813号土坑



第817号土坑



第820号土坑



第822号土坑



第835号土坑



第842号土坑

写真24 第4次調査区遺構内出土遺物 (1)



第590号住居跡



柱穴群

写真25 第4次調査区遺構内出土遺物(2)



写真26 第4次調査区遺構外出土遺物

青森県埋蔵文化財調査報告書第204集

三内丸山遺跡 V

—第1～4次調査報告書—

発行日 平成8年3月29日

発行 青森県教育委員会

編集 青森県教育庁文化課

〒030 青森市新町二丁目3-1

印刷所 東北印刷工業株式会社

〒030 青森市合浦一丁目2-12
